ナイトメア the GazettE Alice Nine maya(LM.C) 葵 イヴ(ViViD) 仙台貨物

平成9年12月5日第三種郵便物認可平成23年10月1日発行第224号(毎月1回1

SHOXX

10月号 Vol.224
2011 月刊 980YEN

2大特典

#001 特別付録:特大両面ポスター
ナイトメア
イヴ(ViViD)

#002 応募者全員サービス
ご希望のフォトカードをサービス!!

NIGHTMARE

Special Front 26Pages Edition

ナイトメア the GazettE Alice Nine
maya(LM.C) 葵 イヴ(ViViD) 少女-ロリヰタ-23区
AYABIE 仙台貨物 キラキラ☆サマー☆タイフーン!! Tour 2011

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

NEW SINGLE

BRAINSTORM

2011.09.21 Release

【初回限定盤 A】
1. BRAINSTORM
2. Fester

「BRAINSTORM」MUSIC CLIP

PSIM-30030 / ¥1,890 (tax-in)

【初回限定盤 B】
1. BRAINSTORM
2. Fester
3. [illegible]

24P ブックレット仕様

PSIM-30031 / ¥1,890 (tax-in)

【通常盤】
1. BRAINSTORM
2. Fester
3. L'Oiseau bleu

【BONUS TRACK】
S∞l&b

PSIM-20024 / ¥1,575 (tax-in)

【BRAINSTORM 通信販売特典】

LIVE DVD 5th Anniversary ONEMAN TOUR 2011

GO INTO HIGH GEAR

2011.08.10 Release

【初回限定盤】

【DISC 01】
1. DEEP SIX
2. DUALITY
3. Cursed Hurricane
4. JELLYFISH
5. ファム・ファタール
6. a serial killer
7. INFERIORITY COMPLEX
8. ANCIENT RAIN
9. rosary
10. [illegible]
11. Death's door
12. Thirty♂Revolver
13. KAIROS
14. M.R.T
15. TRANCE
16. Barbed wire
17. RAGING BLOOD
18. 七色

-ENCORE-
1. Dr. [illegible]
2. スカーレット
3. BABY STAR
4. VEGAS
5. [illegible] Fiction
6. S∞l&b
7. Dearest Wish

【DISC 02】
1. TOUR DIGEST
2. MULTI CLIP
3. PHOTO GALLERY

【GO INTO HIGH GEAR 通信販売特典】

ONEMAN LIVE

プラチナナイトショー ～SCREW 主義の非公式集会～ Vol.1

2011.08.23（TUE） 高田馬場 AREA

PS COMPANY PRESENTS SCREW ONEMAN TOUR 2011

BOTTOMLESS BRAINSTORM

		OPEN / START
2011.10.16（SUN）	名古屋 E.L.L	17:00 / 17:30
2011.10.17（MON）	大阪 MUSE	18:00 / 18:30
2011.10.30（SUN）	新宿 BLAZE	16:30 / 17:30

■料金：名古屋・大阪公演　前売¥3,800 / 当日¥4,300（税込） DRINK 代別
　　　新宿公演のみ　前売¥4,200 / 当日¥4,700（税込） DRINK 代別
■一般発売：2011.8.27（SAT） 全国一斉発売
■総合問合：バックステージプロジェクト 03-5786-2400

【MEDIA】

インターネットラジオ LIVECAST 第1・第3月曜日 22:00～22:30 ON AIR
SCREW 鋲 & 和己の LIVECAST『鋲殺秘和』 http://livecast.jp/

MJP TV Presents
『SCREW TV SHOW』 毎月1回生放送 http://www.musicjapanplus.jp

【OFFICIAL WEB SITE】
http://www.indie-psc.com/screw/

【TOTAL INFORMATION】
PS COMPANY Co.,Ltd. / Indie PSC.

PS COMPANY OFFICIAL MOBILE SITE
PS mobile

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

アンド

-ECCENTRIC AGENT-

「-naught of TRIGGER-Tour」FINAL 新宿BLAZE LIVE DVD発売決定!!

発売日:平成23年9月9日(金) ※アンドオフィシャル通信販売のみの販売となります

アンド・平成23〜24年度 宣戦布告8大任務発令!!

Mission.1:

9月14日(水) MAJOR 1st SINGLE「BLAZE(ブレイズ)」発売決定!!

■A-TYPE /VIZB-16 ¥1,890-(tax in) <CD収録曲>1.BLAZE 2.another face <DVD収録曲>1.「BLAZE」MUSIC CLIP 2.アンド・SECRET FILE Vol.1

■B-TYPE /VICB-35032 ¥1,575-(tax in) <CD収録曲>1.BLAZE 2.another face 3.Dear Liar

「BLAZE」タイアップ決定!

★テレ玉(テレビ埼玉)「HOT WAVE」(毎週日曜24:00〜ON AIR) 8月度オープニングテーマ ★テレ玉(テレビ埼玉)「THE BEAT TIME」(毎週水曜23:05〜ON AIR) 9月度オープニングテーマ

8/31(水)より、「BLAZE (DEATH VOICE ver.)」「BLAZE (美MELOサビver.)」の2パターンを着うた&メロディコール/待ちうたにて先行配信決定!(レコ直etc...)

着うたフル・PC配信は9/14(水)スタート!

<INSTORE EVENT>

●9月18日(日) 新宿ZEAL LINK ●10月15日(土) 池袋・ブランドX ●10月23日(日) 渋谷・タワーレコード渋谷店 ●10月29日(土) 名古屋・HMV栄
●11月5日(土) 博多・SKULL ROSE ●11月6日(日) 大阪ZEAL LINK ●11月13日(日) タワーレコード仙台パルコ店 ●11月23日(祝) 渋谷ZEAL LINK

Mission.2:

平成23年秋・六大都市単独公演巡業任務「殴り込み」TOUR決行!!

■10月8日(土)郡山#9 ■10月30日(日)名古屋E.L.L ■11月2日(水)大阪MUSE

■11月4日(金)博多Be-1 ■11月14日(月)仙台CLUB JUNKBOX

-TOUR FINAL-

■11月22日(火) 赤坂BLITZ

【一般発売日】9月3日(土)より全国各プレイガイドにて販売!!

Mission.3: 12月NEW SINGLE発売決定!!
Mission.4: 平成24年新春・単独公演巡業任務決定!!
Mission.5: 平成24年春・NEW SINGLE発売決定!!
Mission.6: 平成24年春・公演巡業任務決定!!
Mission.7: ×月NEW ALBUM発売決定!!
Mission.8: ×月×日××××決行!!

■ライブ...日(金)渋谷O-EAST●9月2日(金)目黒鹿鳴館 ●9月3日(土)仙台darwin

...d-eccentricagent.com ...[AGENT...ROOM] http://...exblog... ■Victor ENTARTAINMENT Flying Star Records

ECCENTRIC AGENT FlyingStar Records Victor

杂志®
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
zazhimi.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

CONTENTS

076 HERO
ヒーロー
078 THE KIDDIE
キディー
080 BORN
ボーン
084 凛
リン
087 樹威
ジュイ
088 DaizyStripper
デイジーストリッパー
090 ギルガメッシュ
092 「漆黒の光」
シッコクノヒカリ
094 Versailles
ヴェルサイユ
103 9GOATS BLACK OUT
ナインゴーツ・ブラックアウト
106 jealkb
ジュアルケービー
108 BREAKERZ
ブレイカーズ
140 ν[NEU]
ニュー
142 ZORO
ゾロ
144 アンド
146 DOG inTheパラレルワールドオーケストラ
ドッグ・インザパラレルワールドオーケストラ
110 SHOCK WAVEアポロ
112 SHOXX MODE
厳選してお届けする最新情報!!
LOST ASH
ロストアッシュ
犬神サーカス
イヌガミサーカスダン
ヴィデオグラマァ
MEJIBRAY
メジブレイ
NightingeiL
ナイチンゲール
アヲイ
NEGA
ネガ

125 EXPECT RUSH
FUTURISM・BOYZ
フューチャリズム・ボーイズ
Royz
ロイズ
連載
128 一筆入魂!!
ザ・ミッション
131 ARTIST'S BOX
135 大島暁美のロックンロール日記
136 プレコンWORLD
138 編集後記&次号予告
039 応募者全員プレゼント

>>マークの説明<<

●マークがついているアーティストは
携帯サイト「音楽せんか?」とリンクしています。

■アクセス方法

>>i-mode「メニューリスト」→「音楽/映画/芸能」→「音楽情報」→「音楽せんか?」
>>EZweb「トップメニュー」→「カテゴリーで探す」→「エンターテイメント」→「音楽」→「音楽せんか?」
>>vodafone「メニューリスト」→「芸能・映画・音楽」→「映画・音楽」→「音楽」→「音楽せんか?」

Editorial in chief／Yoshio Suzuki
Editors／Misako Shida, Junko Arasawa, Atsushi Takami

Art Director／Noriaki Ishimatsu
Design Stuff／Yoichirou Fujii, Maki Yoshikawa, Hitomi Ikeuchi(Bakery37.1), Nakane(amulet label), Yukako Takayama, Noriaki Ishimatsu, Youki Maenohama, T.O.MAMMOTH graphics, Asaka Yamamoto(glitter glow)

VISUAL & HARD SHOCK MAGAZINE
Vol.225は2011年9月21日(水)発売
http://www.ongakusenkasha.co.jp
発行所／株式会社音楽専科社
104-8228 東京都中央区銀座6-2-3Daiwa銀座アネックス5F
TEL／03-3574-0201(代表)
発行人／荒井敏行
編集人／鈴木佳男
製版・印刷／株式会社プロスト/凸版印刷株式会社
発行日／2011年10月1日
特別定価／980円本体933円

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX

2011
10月号
Oct Vol.224
Cover Model：ナイトメア
Photo：
SUSUMU MIYAWAKI(PROGRESS-M)
Design：
NORIAKI ISHIMATSU
(Keisyo Design)

012 **ナイトメア**
Part 1：最新ロング・パーソナル・インタビュー
Part 2：YOMI＆Ni~ya,RUKAと柩＆咲人が語る「SLEEPER」

042 **theGazettE**
ガゼット
theGazettEを解明する
5つのKEYWORD

048 **AliceNine**
アリスナイン
最新撮り下ろし&「Heart of Gold」
リリース・インタビュー

053 **葵**
アオイ
2つの心・2つの顔・2つの
想い・2つの…

056 **イヴ(ViViD)**
イヴ(ヴィヴィット)
パーソナル企画・第4弾!!
「もしもミュージシャンに
なっていなかったら…」

060 **総史(少女-ロリヰタ-23**
ソウシ(ロリータニジュウサンク)
SHOXX×少女-ロリヰタ-
特別コラボ企画、遂にスター

065 **仙台貨物**
センダイカモツ
帰ってきたHERO達の、
復活の夜をレポート!!

068 **AYABIE**
アヤビエ

072 **キラキラ☆サマー**
タイフーン!! Tour2

096 **maya(LM.C**
マァヤ(エルエムシー)
初のパーソナル、20000字
インタビュー

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

限りある時間の中で…

9月7日にNEW SINGLE「SLEEPER」をリリースするナイトメア。表題曲「SLEEPER」はジェムケリーのCMソングにも起用され、本人達が出演しているそのCMは、8月中旬よりON AIRが開始される。そんな話題作でもある今シングルは、表題曲の他にも「Star Spangled Breaker」「アイリス」と、お世辞抜きで、どれを表題曲にしてもおかしくないくらいの粒ぞろいの作品となっている。今回は、そんな「SLEEPER」を、ロング・パーソナル・インタビューとYOMI&Ni~ya・RUKA、柩&咲人の2チームに分かれてのインタビューにて紐解いていく——。

Photography:SUSUMU MIYAWAKI(PROGRESS-M)
Art Direction:NORIAKI ISHIMATSU
Interview:YUKA SUGIE(柩・咲人/RUKA・YOMI&Ni~ya/RUKA)/NAOKO TAKEICHI(YOMI・Ni~ya・柩&咲人)
Hair&Make-up:YORIKO MATSUDA/FUMIE NOZAWA

SLEEPER

NIGHT

杂志迷
zazhimi.com

〝バンドのこと意外で悩みはない〟と言い切るYOMI当人の結成当初から数年の最大の悩みは、〝ナイトメアのヴォーカルは本当に自分でいいんだろうか？〟ということだったという。

YOMIを思い浮かべるとき、まず最初に浮かんでくるのは、本当に楽しそうな声を上げ屈託のない笑顔で笑う姿だ。結成当時からその印象は変わらず、彼の口から〝ナイトメアのヴォーカルは本当に自分でいいんだろうか？〟と真剣に悩んでいたことを初めて告げられたときはかなり驚いた。しかし、その後で、その言葉に納得した自分も居た。その言葉に同意した訳ではない。YOMIがそう感じ、悩んでいたという彼の考え方の方向に対して納得したのだ。YOMIはそういうヤツなのだ。彼は出来ないことに対して言い訳をしたり、開き直ったり、他人のせいにしたり、責任転換したりするヤツではない。むしろ、すべてその逆。すべてのマイナスに対し眼を背ける事なく真正面から向き合い、そのマイナス要素が自分自身にあったのではないかと考えるのだ。当たり前のことのように思うかもしれないが、なかなか出来ることではない。バンドは個人プレイではない。集団行動の中での失敗や反省点からは、誰でも目を背けたくなってしまうものだし、出来ればその原因が自分にあるとは思いたくないものである。だが、YOMIは敢えていつも〝俺がいけなかったのかな？〟と己を見つめ直すところから入るのだ。本当にいいヤツ。ズルいところがなく、計算のない、本当にいいヤツだと思う。

そんなYOMIのことをメンバーは声を揃えて〝ほんっとに馬鹿〟と言うが、私はその言葉を最高の褒め言葉だと受けとめている。

YOMIの明るさは常に現場を明るくしているし、常に周りに気を遣っているYOMI。YOMIこそ、ナイトメアというバンドの中に無くてはならないキャラクターだと思う。

昔、RUKAとたわいもない話をしていたときに、ふいにこんな質問をされたことがあった。

「ナイトメアの中で壊れるとしたら誰だと思う？ 俺、そろそろ壊れるんじゃないかと思って心配なんだけど」

[illegible]いの質問の真意が気になったりもしたが、私はその質問に、この質問[illegible]いる当人なんじゃないかと思い[illegible]答えた。すると彼は首を横に振っ[illegible]はYOMIだと言った。正直意外だった。撮影やインタビューのとき[illegible]YOMIの近くに寄ってきては[illegible]かいをかけているRUKA。こ[illegible]インタビューのときもそうだった。そんなRUKA故に、YOMI[illegible]深い部分をなんとなく感じ取っているのかもしれないと思った。もしかしたらRUKAは、〝ナイトメアのヴォーカルは本当に自分でいいんだろうか？〟と悩んでいたYOMIの心情を当時から読んでいたのかもしれない。そう思った。

後日、YOMIにそんな話をしたことを告げると、YOMIは豆鉄砲をくらったように目をまん丸くし、こう言った。

「え!? マジ!? なんでだろ？ 不のオーラが出てるってことかな？ それじゃダメじゃんね！ なんでだろ？ なんでそう思ったんだろ？ 心配させてちゃダメじゃんね！ …でも、RUKAさんって、やっぱ優しいね」

と、嬉しそうな笑顔を浮かべながらも、またいつものように己を顧みる発言をした。ここなんだろうな。ここでも納得出来た気がした。私たち外部の人間には見えない部分をメンバー同士は互いに見るであろう。そんな中でメンバーは、YOMIの1番の理解者なのだろう。

「ナイトメアのヴォーカルはゾジーさんなんだよ。ゾジーさん意外考えられないからね。でも、ほんっと馬鹿なんだよ…」

ナイトメアというバンドを0から作り上げた柩も最高の褒め言葉を含め、YOMIこそがナイトメアのヴォーカリストだと言う。誇るべきヴォーカリストYOMI。

愛しき馬鹿野郎YOMIに話を訊いた。

＊

——移籍後2枚目となる「SLEEPER」は3曲共まったく違う色のナイトメアだね。

「そうだね。個人的にはサビで一気に開けるサビの印象の強い曲が好きだから、表題曲の「SLEEPER」がすごく好きだったりするし、サビの強さで[illegible]ごくサビにパンチがあると思うし。ナイトメアらしい、RUKAさんらしい曲だなって思うんだけど、今回結構2曲目の咲人の作った「Star Spangled Breaker」も評判いいんだよ。「Star Spangled Breaker」は、今まであんまりなかったナイトメアだったりするのもあるのかもね」

——そうだね。咲人はどうしても難しいことやトリッキーな方面にいこうとするから、どうしても曲が複雑になりやすいけど、「Star Spangled Breaker」はすごくシンプルでストレートだからね。

「そう。今回、歌詞もすごく解りやすいよね。歌詞は何回も書き直したらしいよ。何回か上がってくる度にそれで歌ったりもしたんだけど、俺的にはどれも良かった。すごく伝わりやすい歌詞だと思う」

——キーもYOMIに合ってるんじゃない？ すごく伸びやかに綺麗に出てる。

「うん。歌いやすくはない曲というか、むしろ歌うのがすごく難しい曲でもあって、調子のいいときはすごく気持ち良く歌える曲なんだけど、ちょっと調子悪いとすごく苦しいというか、伸びきれない気持ち悪さが自分の中に残る曲でもあるから、自分のバロメーターとなる1曲でもあるんだよね。この曲はライヴでも既にやってたから、ライヴではよりそのバロメーターになってたね。でも、たしかに、周りの人が言ってくれるように、こういう曲がもっと増えていったらいいなって思う」

——そうだね。

「今回「SLEEPER」がジェム・ケリーのCMソングに決まったんだけど、本当は「Star Spangled Breaker」にも何かタイアップをつける形にするとかして、両方に表題曲にして両A面にするのもありだねっていう話もあったくらいだったからね。まったく違うナイトメアの色を両A面っていう形で見せていくのも面白かったと思うけど、ま、そこは後々ということで。でも、個人的にこの曲はアルバムの中にも入れたいなって思う。俺、シングルは、表題曲だけがアルバムに入っていればいいって思うタイプなんだけど、この曲はカップリング曲だけど、アルバムの中にも入れて残したいなって思う1曲[illegible]

[illegible]と「Star Spangled Breaker」って作者が違うから角度も表現も違うけど、〝限られた時間の中で精一杯生きたい〟っていう共通の想いを感じるんだけど、YOMIは生きる意味や命ということを改めて見つめ返したことはある？

「昔も今も、生きる意味を改めて考えたりはしたことないけど、インディーズの頃はずっと〝俺がナイトメアのヴォーカルでいいのかな？〟って思ってた」

——どうしてそう思ったの？ 中傷とか？

「いや、自分の中で自分に対して思ってた。自分がキッズだった頃に憧れてたヴォーカリストって、やっぱりさすがバンドの顔って言われるだけあるよなって納得するような人ばっかだった。隆一さん（河村隆一）とか、やっぱすごいカリスマ性あるし。本当にカッコイイ存在だと思うのね。実際にカッコイイし。そういう諸先輩は生き様もカッコイイし、ステージでももちろんカッコ悪いとこなんて何一つないでしょ。なのに、俺は馬鹿だし、生き様もカッコイイ訳じゃないし、ステージ上でも馬鹿なこと言うし、下ネタも言うし、若干頼りないし、カッコつけれないし……これが自分なんだけど、ナイトメアのヴォーカリストがこれでいいのかな？って思ったんだよね。先輩たちに限らず、同期のバンドやその頃のシーンの中でも、俺みたいにステージで馬鹿言ってるヤツっていなかったのね。もちろん、ステージ降りたら馬鹿なヤツはいっぱい居るけど（笑）」

——男は本当にしょうがない生き物だからね（笑）。

「あはははは。そうそう（笑）。本能で生きてるからね（笑）」

——でも、その飾らないスタイルこそが個性となったんじゃないの？

「ん～。最初はそうは思えなかったんだよね。俺のせいでナイトメアは売れないんじゃないかな？って真剣に悩んでたからね、俺。本当に大袈裟に聞こえるかもしれないけど、生きて来た中で、それが最大の悩みだったよ。さすがに今はもうこれでいいのかな、ナイトメアのヴォーカリストは自分しかいないかなって思えるようになったけど[illegible]

——私生活での悩みはないと。

「悩みがないっていうか、ん～、そうだね、悩みはないかも。でも、今まで生きて来た中でのちっちゃな後悔は死ぬほどあるよ（笑）。ほんっと、俺って馬鹿だなぁ～。って感心しちゃうくらいいっぱいある（笑）」

——たとえば？

「たとえば!? そんなのいっぱいあり過ぎて忘れちゃって話せないくらいあるもん（笑）。ん～。そうだなぁ、たとえば、みんなで楽しく飲んでたときに自分が盛り上がり過ぎちゃって行き過ぎた行動をしてしまうだとか（笑）」

——YOMIは常に周りを見てるし、人に気を遣うタイプでもあるから、楽しませたいっていうサービス精神からそういう行動をしちゃうんじゃないの？

「あ、それね、買い被り過ぎ（笑）。褒め過ぎ、褒め過ぎ。そんないいもんじゃないから（笑）。ただ自分が気持ち良くなってやっちゃうだけだから（笑）。で、後日みんなに叱られるっていう……まさに、本当に、しょうがない生き物なんだよね、俺。ホント、日々ちっちゃい後悔だらけだよ（笑）。メンバーからもそれで叱られたことも何回もあるし。だからみんな俺のこと馬鹿って言うんだってば。あはははは」

——〝あはははは〟じゃないよ（笑）！

「ホントホント（笑）。だってすごくない？ 〝バンドのヴォーカリストとして叱られるんじゃないよ！ 私生活で1人の男として叱られるんだよ（笑）」

——いい大人がね。

「そうそう、いい大人が（笑）。あんまり大人になって叱られることってないよね～（感心）」

——〝ないよね～（感心）〟って。感心してる場合じゃないよ（笑）！

「だよね～（笑）。だけど、ここ[illegible]が挫けないんだな（笑）。でもね、叱られたときはちゃんと反省するんだよ。ちゃんと反省してるんだけど、またやっちゃうんだよね、これが（笑）」

——後ろ向きな考え方をしたことがないとか？

「ないない。「SLEEPER」の歌詞にあるように〝一度だけこの灯を消そうとした〟とか、そういう心情になったこと1回もないもん。なんでいつも俺はこうなんだろう——っていう反省はいっぱいあるけど、そこを後ろ向[illegible]

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

YOMI

今まで生きてきて、一番悩んだ事は、“ナイトメアのヴォーカルが俺でいいのか…?”って事

zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

[illegible]とか入ってたことがよくあってね。同封の手紙に"コレ使って下さい。すごく切れるので痛くないですよ"って書いてあるの」

——え？ それ確実にファンレターじゃなくない？

「いや、ファンレターなんだって」

——どうして？

「俺のことが嫌いでカミソリ入れてきてる訳じゃないんだよ、その子は。ほら、よく昔アイドルの熱愛が発覚したりすると、好きなアイドルの相手にヤキモチ焼いてカミソリ入りの手紙送るとかって話あったじゃん？ それとは違うんだよ。嫌いで入れてきてる訳じゃないの」

——え？ でも、同封の手紙に"コレ使って下さい。すごく切れるので痛くないですよ"って書いあるんでしょ？ 確実に"コレで切って"ってことじゃないの？

「そう。"コレで切って"ってことだよ」

——え？ なのにどうして？ 好きだったらそんなモノ送ってこないことない？

「違うよ、違うって。好きだからこそだよ。だからね、つまり、送ってきた子はきっと俺のことをすごく後ろ向きに物事を考えちゃう人なんじゃないかって思ってると思うんだよ。きっと、自分で自分を傷つけるような行為をしてる人に見えたんだろうね。だからだよ。切れあじの悪いモノで切ると痛いから、痛くないように、少しでも痛みが少ないようによく切れるカミソリを送ってくれたんだよ」

——…………YOMIはやっぱり馬鹿じゃないね。

「馬鹿だってば（きっぱり）」

——いや、馬鹿じゃないよ。

「馬鹿なんだってば（きっぱり）」

——……まぁそこまで言うなら馬鹿でもいいけど（笑）、すごく人の心の奥まで読める人だね。

「あれ？ なんかこれ、褒められる話じゃなかったんだけど（笑）。自分の理解者として俺を必要としてくれるのは嬉しいけど、やっぱりカミソリとか送られて来るのは気持ちのいいモノじゃないし、そういうことをするんじゃなく、俺の歌を支えにしてくれたら嬉しいと思う」

ね[illegible]だったら嫌われてると思って落ち込むもんなぁ。やっぱ馬鹿じゃないよ。

「馬鹿だって（笑）。でも、ホント、カミソリは入っていなくてもそういう内容の手紙多かったよ。"思い詰めないで下さいね"っていう。ステージの上とちょっと違うからかな、普段が。普段の方がちょっとだけおとなしいから。たぶんそういう人に見えるんだろうね、俺」

——ん〜。それか、今YOMIが言ったみたいに、そういう子たちは、YOMIはちゃんと受けとめてくれるって解るのかもしれないね。

「そうかもね。そこまで理解はしてあげられないけど、俺、普段いろんな人と接してて思うんだけど、根が暗い人って明るく振る舞っててもすごく解るんだよね。人間って同じ匂いのする人同士が集まってたり、同じ匂いのする人を敏感に嗅ぎ分けたりする能力があるって言うじゃん。そういうのかもしれないね。それとか、やっぱ"解ってくれるんじゃないか"っていう匂いのする人が解るというか。この人になら素直になれるとか、そういうの匂いで感じるのかも」

——ああ、それはあるかもね。そういう意味で言ったら、私も自分はそうじゃないけど、周りに集まってくるかも。

「でしょ。きっとそういう感じじゃないけど匂いってどこかにあるんだろうね。俺も昔は人見知りがすごく酷かったんだけど、バンド始めてからは人見知りだとか言ってたら仕事になんないから、頑張ってたら人見知りじゃなくなった。ま、これは大人になったってことなのかもしれないけどね。インディーズ時代まではすごく人見知りだったから。やっぱヴォーカリストだから人見知りしてる訳にはいかないし。いろんな葛藤にも自分が真正面からぶつかっていかないとなんともなんないし」

——そうだね。昔、"YOMIは自分の言葉で歌いたいと思わない？"っていう質問をしたの覚えてる？

「覚えてるよ。昔はそこにもひとつの葛藤はあったからね。でも、俺も昔は歌詞を書いてたし、今も書いているには書いているんだけど、やっぱり自分的にも曲を書いた人が歌詞を書く方が、

たよね。それは自分が歌っていて感じることでもあって。やっぱり自分の作品は最後まで自分で仕上げたかったりするでしょ？」

——そうだね。YOMIもよくプライベートでガンダムを作っていたりするけど、"え!? そこその色にするの!?"っていう色でペイントしてたりするもんね。

「そう。作り手にしか解らないこだわりの部分って絶対にあると思うから、そこをヴォーカリストだからって無理矢理歌詞を書かなくちゃって思わなくなったというか。作者が思い描いた世界観を自分が歌い手として表現していけたらいいなと思うようになったんだよね」

——そういえば、「Star [K] night」はYOMIがRUKAの曲に歌詞をつけけんだよね。前シングル「VERMILION」はRUKAの作詞作曲だけど、"前向きじゃない「Star [K] night」を書きたくて書いた曲と歌詞だった"って言ってた。

「そう。それ俺も聞いた。それ聞いたとき、ああ、なるほどねって納得して。それを聞いてからそういう気持ちが歌にも入るようになったしね」

——YOMIは「Star [K] night」にどんな想いを込めて書いたの？

「『Star [K] night』はね、歌詞を書いたときのこと、今でもすごくよく覚えてるよ。『Star[K]night』を書いた当時、ナイトメアがいつかなくなるときのことを思って書いたの」

——「Star [K] night」って前向きな歌詞じゃなかったっけ？

「そうだよ。やっぱり始まりのあるモノには終わりがあるでしょ。だからナイトメアにもいつか終わりはくるんだろうなって思っていて、それがすごく嫌だったの。でももし、その最後が来るとしたら、そこで歌える歌詞があったらいいなと思って書いた歌詞なの。解散ライヴの1番最後に歌いたい曲の歌詞を書こうっていう気持ちでね。後ろ向きにはしたくなかったの。解散って、バンドにとっても、ずっとそのバンドを応援してきた子たちにとっても、すごく辛いことだと思うのね。だから、1番辛い最後の時は後ろ向きじゃなく、前向きにしてあげたいって想いながら書いたの。自分がファンだったら悲し

から、[illegible]終わっちゃうけど、またきっと羽ばたけるし、一緒に飛べたらいいなって」

——心の奥に住みついた思い出と共にね。

「そう。やっぱり最後悲しいのは嫌じゃん。やっぱ笑ってたいし」

——そうだね。でも、「Star [K] night」作ったのっていつ頃？

「ん〜。そうだな、俺たちが19とかハタチの頃かな？」

——そんな時期にもう解散のこと考えてたの？

「そう。やっぱ1番不安な時期でもあったと思う。今、つい最近30歳になって思うけど、当時も10代から20代になる節目の年でもあったから、バンドももちろん自分の人生を考えた最初だったと思うんだよね。周りの友達はみんな就職しだしたり、早いヤツだと結婚して子供が出来たりして、ちゃんと安定した将来が見えだす頃なのに、俺たちはまだメジャーデビューもしてなかったし、先がまったく見えてなくて。いつまでナイトメアを続けられるんだろう？っていう不安を最初に感じてた時期だったと思う」

——でも、その頃だから前向きな気持ちで歌詞を書けたのかも。まだ夢が現実になっていなかったこともあって、夢への希望の方が強かっただろうし。

「たしかにそれはあっただろうね。不安ももちろんありながら、夢への期待もそれ以上に大きかったからこそバンドをやってた訳だからね。そうだね、本当にそうかもしれない。（ここで変顔をしてYOMIに近づいてきたRUKA。それを必死で無視して話し続けるYOMI）リアルに最期を目の前にして歌詞を書いたら、また違ってくるだろうから」

——そうだろうね。痛みでも、想像する痛みと現実の痛みは違うからね。

「そう。よりリアルな想いがそこには描かれるような気がする。限りある時間を精一杯生きたいって思っていても、やっぱり限りある時間の終わりが本当に見えていたら、そんなに精一杯生きられるか解らないもんね。本当にそうかもしれない。（再びRUKA登場。今度は衣装の帽子を被ってまたまた変顔をしての登場）RUKAさん！ その帽子被って変顔するとあの漫画み

[illegible]

だ………」」

RUKA「『がきデカ』だろ。この帽子被るとみんなそうなる。遊ぼ。暇だ[illegible]」

「ちょっと待ってて、俺今インタビュー中だから（笑）！」

——「Star [K] night」って最初の方ライヴのラストでやることが多かったけど、最近やらないのはどうして？

「そこまで大きな意味はないけど、大事な曲だからこそでもあるし、その当時はその歌詞の想いに近い感情がそこにあったからだったんだろうね。でも今はまたそうじゃないというか、その気持ちがなくなった訳じゃないけど、その時々の自分たちのモードもあるからね」

——なるほどね。でも、歌詞って本当に書く人によって違うよね。

「そうだね。同じことでもここまで角度を違えて書けるんだなって思う。感じ方も違うんだなって。「SLEEPER」の中に出て来る歌詞の中に、"大好きなメロディーも忘れて思い出せない"ってのも、RUKAさん的には、中学生くらいの頃、好きだった子が居たときによく聴いてた曲も、今は思い出せないってことみたいなんだけど、俺はすごく覚えてるんだよね。その曲を聴くと鮮明に記憶が蘇ってくるし」

——解る解る。なんだった？

「俺はSPEEDのアルバム！ かなり聴いたなぁ。俺は匂いでも記憶が鮮明に蘇るタイプだからね」

——記憶を遡るといえば「アイリス」の歌詞は昔の記憶を振り返った歌詞だけど。

「混沌とした曲の雰囲気だから後ろ向きに過去を振り返ってるみたいに聞こえるけど、これは作詞者のRUKAさんによるとキラキラしてた頃の過去を思い出して書いた歌詞らしい。曲としては暗いところと明るいところの差がすごく激しかったりもするから、その落差を楽しんでもらえたらと思います。俺はこの先もずっと同じ感情で歌を歌うんじゃなく、その時々の感情が歌に現れるようなそんな歌い手でありたいなと思う。ウチらのいいところってもがいてるところでもあると思うから、そんなもがいてる感覚を失わないように、これからも前に進んでいけたらいいなと思ってます」

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

杂志迷
zazhimi.com
柩蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

どんなときもポジティヴ。そう心がけるだけで自分が変わり、周りも変わることを、栩は教えてくれる。しかも、現状に甘んじることなく、自分にもバンドにも、真っ正面から向き合う彼の意志は強く、洞察力は鋭い。とにかく、気付かされることばかりだ。

＊

——まずは、近況からお聞きしたいわけです。

「なんか…落ち込んでるわけじゃないけど、テンションが上がんない」

——それは、いつごろから?

「ここ一か月ぐらいかな。ハジけたいっていう気持ちになれないっていうか」

——6月の国際フォーラムのライヴのときも、そういう状態でした?

「いや、終わったぐらいじゃないかな。ま、そういう状態だったとしても、ライヴでは出さないようにするけどね。でも…何ていうのかな。短気になったとかではないんだけど、ちょっと冷めた感じ、かな」

——何に対して、なんでしょうね。

「バンドに対してとか、音楽に対してではないけど、自分に対してなのかな。自分でもなんでそうなってるのかは、わからないんだけど」

——そうなると、時間の使い方が変わったりしそうですよね。以前なら外に出ていた時間、家にいるようになるとか。

「うん、変わった。ライヴの後ぐらいしか、外に出ないからね。普段、外に出て、飲みに行くかっていう展開にあんまりならない。だから、家で映画観るとか、本を読むとか…もちろん、ギターを触ったり、音楽の作業をしたりもするし。でも、それぐらいかな。全然アクティヴじゃない、今」

——一時は、外に出て、気の合う仲間としょっちゅう会って、だいぶアクティヴだったのに…親しい人から、最近どうした?って心配されたりもして?

「それはないんだよね。落ち込んでいるわけではないから。自分から言わなかったらわからないみたい。冗談も言うしね。でも…落ちてるっていうか、冷めてる。ただ、何年かに一度、絶対そういうのってあるからね」

——周期的に回帰する彗星のような。

「そうそう。そうなっちゃったら、誰にも逢いたくなし。鏡で自分の顔を見るのさえも、イヤになるんだよね。唯一、ココアとゼラ（ペット）たちはいいんだけど…人はイヤだから、テレビも観たくないし。心境が、いつもとは全然違う感じになるんだよね」

——前回、そういう状態になってしまったときは、どうやって脱したんですか?

「考えたらダメだから…無視。治さなきゃっていうことを考え出したら、もっと悪くなっちゃうからね」

——なるほど。では、レーベル移籍を経たバンドの状況は、栩さんの目にはどう映っています?

「そこは、変化がないんだよね」

——というのは、ペース乱されることなく、あくまで自分たちらしく進めている証でしょうね。

「うん、そうだといいけどね。ただ…最近は、物事とか物事の運び方や運ばれ方、時間の流れ方、出来事…何もかも、パッとしない」

——それってやっぱり、3・11の影響が色濃いということなんですかね。

「どうなんだろうね…。ま、日が経って、あらためて精神的にキてるのかもしれないけど。実際に被災地にいたわけではないけど、傷にはなってるだろうから」

——家族・友人は無事だったとしても、地元の街並みが壊され、流され…原発の問題もあるし、いまだ復興には程遠いですもんね。言い知れぬ不安感のようなものが、のしかかっているのかもしれません。

「うん。無力感もあるかもしれないし。時間が経ったことで、そういうものが最初よりも表面化しているのかもしれないしね」

——PTSDも、時間をおいて症状が表われたりすると言いますからね。

「そうそう。震災で感じたことが今の自分に作用してるっていうのは、なきにしもあらずだと思う」

——そういう中でも、バンドのメンバーと顔を合わせて、音を出すのは、楽しいですか。

「うん。そういうときは、何も考えずに楽しめてるんじゃないかな。でも…最近は、家のソファーにいるときが一番幸せ。落ち着くっていうか」

——ベッドではないんですね。

「そう、ベッドじゃなくて、ソファー」

——これまでも、そこが落ち着きポイントではあったんですか。

「いや、特にそう思ったことはなかった。でも、今はソファーに座ってボーっとしてるのが、一番良い」

——そのソファー、今日、是非持って来たかったですね。

「それはさすがにムリでしょっ（笑）。でもね、物事を楽しもうとはしてる。ひとつひとつね。撮影も取材も、もちろんそうだし…何でも、楽しまなきゃね。イライラしちゃダメとか、怒っちゃダメとか、常に思ってるし。それこそ、物事によっては苛立ちや焦燥感が生む良い結果っていうのもあるとは思うし、そういうときは、感情のままに従っても良いけどね。でも、基本的には、表に出さずに、自分の中だけで処理できるようにしていたい」

——ポジティヴ志向っていうことですかね。

「たぶん。ただ、もともとの本質は弱いから、それで楽しもうとして、急にガクっとバランスが崩れると、一気にネガティヴになっちゃうのかもしれない」

——でも、仕事であれライヴであれ、外に出なければいけないことで、救われている部分もあったりして?

「うん、それはある。結局、家のソファーにいれば落ち着くけど、外に出たい願望はあるし。ホントだったら、バーベキューとか、アウトドアなこと、みんなでしたいからね。犬連れて、大きい公園に行くのも良いし。それはできないけど、ライヴとか取材とか、外に出ることでリフレッシュできてたりはするのかなって」

——ならば、良かったです。さて、音源の話に移りたいわけですが…シングル「SLEEPER」の曲たち、栩さんはどう見ていますか?

「難しいけど、よく言われる、バリエーションに富んだ作品、ではないと思う。曲のタイプは確かにそれぞれなんだけど、もし、バリエーションに富んだ作品ですね、って言われたら、ちゃんと聴いてないのかな、って思っちゃうかも。曲調は違っても、根底にあるものは一緒というか…一人の人間にあり得る3つのパターンっていう感じがする」

——ポジティヴでアッパーとだけ解釈されそうな「Star Spangled Breaker」の中にも、翳の部分というか…儚さがあったりしますしね。

「うん、暗い部分があるからね。逆に、暗い曲っていう解釈をされそうな「SLEEPER」も、俺はポジティヴな曲だと思うし」

——その見解、詳しくお聞きしたいですね。

「主人公にとっての、そういう時間があった。っていう思い出話なんじゃないかなって。でも、今はもう、そういう気持ちじゃないと思う。ポジティヴになれているからこそ、過去を振り返ってそういうことを言えるんじゃないかなって。RUKAさんがどういうつもりで書いたかわからないけど、俺はそういう解釈かな。希望がなかったら、言えない言葉もあると思うし」

——そういう捉え方をできる栩さん自身、やっぱりポジティヴな人だなと思いました、今。

「でしょ?何でも楽しみたいって言ったけど、そういうことなのかなって思う。誰でもそうだけどさ、つまらないことって嫌いじゃない?それでも、やらきゃいけないことってたくさんあって。だったら、自分の中でポジティヴ変換していけばいいんじゃないかなって思うからさ。とはいえ、ひとつの物事に対してそう思うのさえ、大変だったりするんだけど、はは。でも、楽しいことばっかりだったら、きっと楽しさの価値とか意味ってわからないだろうから。イジメっ子とかと一緒で、痛みを知らないとね」

——前から思っていましたが、栩さんって、心の優しい人でもありますよね。

「いやぁ、それはどうだろう」

——痛みを知ってなきゃいけないと思えるのは、優しさの証だと思いますよ。

「痛みを与えるだけの人は、逆にホントの痛みを与えられないと思うし。その逆で、痛みを与えない人は痛みを知らないのかなって。それは、自分の友達とか、育った環境のおかげだと思うけどね」

——震災のとき、地元の友達や先輩が代わる代わる栩さんの実家の様子を見に行ってくれたという話を聞いたとき、驚いたし、感動しましたからね。

「俺もビックリしたもん（笑）。ホント、俺は周りの人に助けてもらってるんだなって。みんなのおかげだよ」

——6月の国際フォーラムのライヴでも、ファンの愛を感じましたね。日程変更とかありましたけど、待ってた感もすごかったし。

「ね。延期になったりとか、スケジュールが変わっちゃったからさ、ツアーなのに他の日程と日が開いちゃったりして。それでも、待っててくれて、楽しんでくれてたからさ。嬉しかった。手紙でもツイッターでも、そういうみんなの想いはひしひし感じますよ」

——ちなみに、「アイリス」は暗いトーンから一転、突き抜けるサビに力のある曲ですが、栩さんはどうとらえました?

「俺的には、Aメロが新鮮だったんだよね、この曲。あそこまでどよーんとした感じが、今までなかったから。あの部分って、歌詞によってはかなり暗くなるじゃん」

——まさに暗い歌詞が乗っかって、ますます重くなっちゃいましたけど（笑）。

「そうそう、重いよね。でも、それがなんか、インパクトがあった。そういうAメロとサビで、影と光を感じることができるし。ギター的には、サビとかは、俺の中でオトナな感じにしようと思って。いつもの流れだと、いろいろフレーズを入れたくなるんだけど…そこは、敢えてあれこれ入れずに。白玉だけでジャーンって弾いたりしたんだけど、そういうのってこれまであんまりなかったなって」

——なんと潔い

「うん。シンプルとはまた違うんだけど…弾かない勇気、みたいな」

——いつも弾いてる場所で弾かないって、不安になりそうですもんね。

「そうそう、不安になるの。あれこれ

杂志迷
zazhimi.com

入れておかないと、自分のキャラが出せないんじゃないか、って。でも、やれて良かったなって思う」

―これまで、ものすごくたくさんの曲を生み出してきているわけじゃないですか。その上で、新しいチャレンジをしようと思えたり、実際に踏み出せるというのは、スゴイことだなと思います。

「それを言ったら、俺たちよりもっと長くやってる先輩方なんか、断然すごいよね」

―確かに、20年、30年って一線で活躍されている先人たちは、もう神がかってるような気がしますが…ナイトメアにしたって、10年ですからね。リリースペースも、早いじゃないですか。そういう中で、楽しみたいとか、新しいことをしようという気持ちが途切れないのは、なぜなんでしょう。

「俺の場合は、途切れさせない。そこに一番、神経を遣うかもしれない」

―咲人さんも同じことを言っていましたけど、自分の好きなこと、得意なことをやるほうが断然ラクだけど、それに甘んじないということですよね。

「そうそう。昔は、それこそ好きなことだけをやればそれで良かったけど…最近、ラクしていこうみたいな気持ちは、まったくない」

―歳を重ねると、惰性になったり、ラクな道に逃げたくなりがちですけど、真逆ですね。

「そうかもね。忙しかったら忙しかったで良いし。ただ、何事に関しても後悔しないようにしよう、って思うようになったのは…オトナになったからかもしれない。物事ひとつひとつに対しての自分の価値観みたいなものが、大きくなってきたっていうか」

―最終的に〝やらなきゃ良かった〟と思ったとしても、やらないよりはずっと良いし、〝やっておこう〟みたいな。

「そうだね。〝要らなかったな〟って思うだけだし」

―そういうモードだったら、たとえ失敗したとしても、それを肥やしにできそうですしね。

アイデアが生まれるかもしれないしね。歳を重ねていったその先には、絶対に死があるじゃん。しかも、これから60年、70年ナイトメアやっていったら、それって現実問題としては難しいと思うしね。それを考えると、どんどん冒険したり、挑戦したりしたいなって思う。今までも冒険したかもしれないけど、じゃあこれからは安定を選ぶっていうのは、俺的にはなんか違うかなって」

―まだまだ、やってないこと、やれることはあるハズだと。

「うん。かといって、急な路線変更をしたいっていうことではないけどね。メンタルの部分でもそうだし、みんなには目に見えないようなことでも、気持ちを入れ替えるだけで変化は生まれるし」

―咲人さんも〝攻めな姿勢でいたい〟と言っていまし[illegible]に[illegible]いうことでもありま[illegible]

「あ、咲人も言って[illegible]実際「Star Spangled Breaker」も攻めな曲だと思うし。そういえば[illegible]に聴いたとき、西海岸みたいな[illegible]んだよね。行ったことは[illegible]けど（笑）」

―確かに、カラッとした曲ですよね。

「そうそう。太陽が[illegible]くて、地面は土じゃなく[illegible]スケーターパンツ履いたスケ[illegible]がい[illegible]みたいな」

―言われてみれば[illegible]ピッタリです。

「でしょ？ で[illegible]初の[illegible]にギターノイズが入って[illegible]じゃん。そこで、地面を映してたカメラがずっと回って太陽を映した瞬間、男の子がそのカメラを飛び越えるみたいな、ストリートなイメージなんだよね。デモの段階でそういう印象があったんだけど、咲人の録りが終わった後で言ったら、〝それ言ってくれたら良かったのに〟って言われた（苦笑）。PVは撮り終わっちゃってたんだけど。〝そのイメージ合うかもね〟って。いつも、作曲者がPVの打ち合わせをすることが多いし、ちょっと遠慮してた部分はあったんだけど…そういうの、言っていいんだっていうことがわかった」

ではあるんでしょうけど…相手も、言われて目からウロコが落ちる、っていうこともありますからね。

「うんうん。だから、もっともっと、お互いにそういう伝え合いができたらいいんだろうなって」

―しかし、そういうストリートなイメージ、やっぱりナイトメアにとっては新鮮ですよね。

「だよね。いつも、夜っぽいとか、部屋の中っぽいイメージが多いから」

―YOMIさんも、ライヴのMCで〝俺たちは暗い曲が多いから〟って言うことがありますけど…やってみれば、すごくナイトメアに合いますしね。

「だったら良かったっ。個人的には、もともとそういう音楽、好きだからね。ギターを始めたきっかけもhideさんだし。MCとかで〝青空がキライ〟とは言ってたけど、曲調はポップですし。洋楽にしても、メタルとかハードロックはあんまり聴かずに、イエローカード（ポップパンクバンド）とか、ゼブラヘッド（ミクスチャーバンド）とか、そういう系を聴いてるし」

―でも、モロそのまんまではなく、どこかしらナイトメアらしいのは、さっきも話に出た歌詞なり、メロディなり、アレンジなりの影響なんでしょうね。

「やっぱり、どこかマニアックなんだよね。メロディの乗せ方なのか、コードのつなぎ方なのか、わからないけど。だから、そうなるんじゃないかな」

―曲の種はいろいろあっても、水をかけるのがこの5人だから、ということもあるのかもしれません。

「そうなってれば嬉しいよね、うん。ま、ツアーで何回かやって、まだやり慣れてない部分はあるから…ちゃんと育てていかないといかないけどね。ま、俺的には、すごく好きな曲だよ」

―こういった曲が入ってくることによって、ライヴにも新風が吹き込まれますしね。

「そうそう。バンドを長く続けてると、どうしてもライヴが同じ印象になってきちゃったりするじゃん」

―そこは難しいところですよね。バ

でしょうけど、ファン的には聴きたい定番曲があるだろうし。

「しかも、人によってその聴きたい曲も違うしね。バンドって2通りあってさ、進化し続けていくバンドと、ひとつのことを突き詰めていくバンドがいると思うのね」

―変わらない美学と、進化し続ける美学、ですよね。

「そう。で、俺は、進化し続けていきたいって思う。聴き手とバンドが、一緒に成長していきたいっていうか。やってる音楽にしろ、発言にしろ、若いころからオトナなバンドと違って、俺らはいまだにちゃんとしたオトナじゃないからね（苦笑）。だから、少しずつでも進化していかないと、人としてダメになっていっちゃうんじゃないかなって。さっきの話じゃないけど、〝あのころ何でこんなことしてたんだろ〟とか、そういう後悔もしたくない。時間は取り戻せないわけだしね」

―何だか…自分とかバンドに、真っ直ぐ向き合ってますね。

「最近、前にも増して向き合うようにしてる。5年後、10年後の自分が、今のままだと終わってる、人として」

―そこまでシビアに見てるんですか!?

「うん。このままいったら、ただの30代になっちゃうと思うし、それはイヤだなって」

―以前は、そんなこと考えなかったんじゃないですか？

「そうだね。ここ1年ぐらいかな。ナイトメアが終わった後にも、〝あの人スゴイよね〟とか、〝魅力的だよね〟って言われる人でいたいもん。今は、〝ナイトメアがあるから〟好きでいてくれる人も絶対いるだろうけど…ちゃんと人として磨いていかないと、いつまでも続かないかなって」

―…何があって、そう思い至ったんでしょうね。

「年齢的に、妥当なんじゃない？ かといって、〝ちゃんとしたオトナ〟になりたいわけじゃないんだけどね。エラい人を目指してるわけでもないし。だけど、〝自分にはそういうことでき

なりたいよね。せっかくそうなれるチャンスを掴めるかもしれないところにいるんだから、人間として努力したい。ここ何年かすごく仲良くさせてもらってる先輩方のステージを観たり、曲を聴いたりすると、やっぱりすげぇなって思うからね。仲良くなっても、やっぱり自分とはまだ距離があるなぁって。そういう先輩方を見て、余計に〝今が安泰だからいいや〟っていう気持ちにはなれないなって思う。道はものすごく長いけどね」

―でも、きっとそういう人になりたいと思っている人が、そういう人になるんでしょうね。

「たぶんね。実際、諸先輩方もそうだったみたいだし。そういう人になれるように、自分を日々、磨きますよ」

―ますます意欲的な柩さんを、9月のゼップツアーでも観ることができそうですね。

「9月のツアーではね、気持ちで笑ってると思うよ。周りに何と言われても、カッチリはやらない。SEで出てった最初から、笑顔でもいいもん」

―めちゃくちゃハッピーじゃないですか。

「うん、ハッピーな感じでいい。ただカッコつけるのは、もう飽きてきたからさ」

―実際、ここ最近のライヴでは、キメるところはキメてるんでしょうけど、ステージとか音を心から楽しんでいるように見えますしね。

「そう、そのサジ加減なんだけどね、大事なのは。[illegible]から見て、9カッコつけて1崩し[illegible]ら、俺的には足りな[illegible]ふざけ[illegible]違うんだけど…」

―気張り[illegible]いってことですよね。

「うんうん。[illegible]カッコイイなって。[illegible]ティストはみんな、[illegible]そういう方向[illegible]も行ったい。おどろおどろし[illegible]けで、そういうシー[illegible]もんだろうけど、それ中心になるのはもう違うのかなって思うしね。肩の力を抜いて、

蝴蝶网 hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

同じコンポーザーであるRUKAに、「俺と違ってメロディにいろんな種類があるから、そこはすごく羨ましい」と言わしめる咲人。いつでも貪欲、挑むことを忘れない彼が、またひとつ、新しい扉を開けた。

*

——現在は曲作り期間のようですが…できてきている曲たちに対して、どんな手応えを感じていますか？

「最近、自分の傾向がポップ寄りになってきた気がしてて。といっても、一般的なポップではなくて、あくまで自分の中でのポップさなんだけど。自分の作りたいように作っちゃうと、どうしても小難しい方向に行っちゃうから、そこを避けて、ほとんどの人が拒絶反応なく聴けるものを模索してるし、ポップサイドに寄ったものを作りたい気分でもある」

——そう思うに至ったのは、何かきっかけがあって？

「特に何があったっていうわけではないんだけど…自分からそっちに歩み寄りたくなったというか。ま、普段接する人の影響とか、年齢的なこともあるんだろうなとは思う。音楽に関しては万能でありたいっていうか、どんなジャンルもいけるようになりたいんですよ。ただ、ホントにそうなるのって相当難しいことだと思うし、やっぱり好き嫌いもあるし。だけど、食わず嫌いしてたものって絶対に自分の中にはないものだから、新しいエッセンスを採り入れたいときなのかな、とは思う」

——オトナになると、腰が重くなるというか、なかなか新しいことにチャレンジできなくなったりしますけど…見習いたいっ。

「そう、そうやってチャレンジできなくなるのがイヤだし、面倒くさくなっちゃいそうな自分もいるからね」

——自分の得意なこと、好きなことだけをやってるほうが、絶対ラクですもんね。

「うんうん。それはそれで、良い意味でラフに、気張らずにできるっていう側面はあるんだけど。そこから新しいものは、なかなか生まれないのかなって。一番怖いのは、"昔は第一線で活躍してたんだけど、今はもう第一線からちょっと引いたところで、自分の好きな音を、ライヴバーとかで気の合う仲間とセッションする"っていう、自分の未来だったりもして」

——人がどうこうではなく、自分の美学、在り方ではないと。

「そう。もちろん、そういう道を楽しんでいる人もいるけど、俺自身は、きっと過去と今を比べて見ちゃうだろうなって。仮に、第一線にいることができなくなって、でも、どうにかこうにか音楽にしがみついてる自分を想像すると、イヤだなって思う」

——ということを考えるようになったのは、最近のこと？

「うん、最近特に、そう思う。最初から遊びでバンドをやってるならいいんだけど、一度仕事にしてしまった手前、燃え尽きて終わりたいかな、というか。細く長くっていうのが、俺自身はあんまり好きじゃないから」

——それは昔から思っていたことでもあるんでしょうか。

「いや、もともとは俺の性質って、細く長くっていうタイプだと思うんだよね。長いものに巻かれるタイプだし。でも、そういう自分があんまり好きじゃなかったりするし…」

——これと決めた音楽のことに関しては、覚悟しているわけですね。

「そうなるかな。ムダにアグレッシヴにいきたい、って思う。攻めの姿勢でいたい気持ちが、最近は強い」

——攻めの姿勢を保ち続けるためには、自らの中に絶えない力が必要ですけど…何が源になっているんでしょうか。

「何だろう…悔しさみたいなものかな」

——それは、自分に対して？　それとも、他者に対して？

「どっちもなのかな。たとえば、どんどん下の世代が出てくるわけじゃないですか。コイツらの曲すごいなとか思うと、なんて自分はちっぽけなんだ、とかって思っちゃって」

——でも、勇気がありますよね。後ろからどんな追手がくるのか、見ない、知らないほうが、心穏やかにいられますもん。

「確かにね。でも、そういうふうになったら、ジジイになってるってことだから。その気持ち[illegible]理解できるけどね。さっきの[illegible]けど、新しいものに対しては[illegible]も拒んじゃう気持ちもあるけど、[illegible]そのままだと自分の世界が[illegible]感があって。だから、無理して[illegible]新しい音楽を聴いて、知っ[illegible]。ヤバい、こんなんじゃダメだ、[illegible]なったほうが、たぶん自分にプ[illegible]と思ってる。それが正しいことかどうかは、わかんないけどね」

——まぁ…ヘコむことはありそうですよね。

「うん、ヘコむ。俗に言う天才って、世の中にいっぱいいるんだなって。ホント、立ち位置脅かされるような危機感は感じるよ。"老いてなお盛ん"っていう言葉が好きなんだけど、そういう年の重ね方をしたいなって思う、ホントに。あ、変な意味じゃなくてね」

——わかってます（笑）。ま、相当な決意であることは、よくわかります。

「こういう仕事を選んだ時点で、腹括るしかないからね」

——という現在の咲人さんから、他のメンバーはどう見えているんでしょうか。

「一緒に呑んでるときは、みんなテンション高いなと思うけど（笑）。…どうなんだろう。どうなんだろうね？」

——…迷宮入り!?

「ま、他のメンバーのことをあれこれ言う前に、自分がその資格があるのかって思っちゃうから、俺」

——そういえば、同じことを以前も言っていましたよね。それは、謙虚の表われ？

「謙虚っていうか、ホントに自分に自信がない人間だからね。それだけに、損もするし」

——ステージでの堂々として魅せる咲人さんからすると、意外なんですけどね。

「そうかもね。でも、厚かましい人のほうが、絶対得をすると思うし、そういう人を見てると、つい引いちゃうんだよね」

——アーティストって、他者を押しのけて花開くところもあるはずですけど…苦労しそうです。

「うん、そう。でも、だったら俺は、逆うところで花開かせたり、勝ちに行くよって思っちゃう。そうやって、攻めでいきたいんだよね」

——とりあえず…どうしても苦労を買っちゃうタイプですね、やっぱり。

「絶対そうだと思うよ」

——それでも、楽しいからバンドを続けているんでしょうけど、一番楽しいのは、ステージ？

「ステージもそうだし、曲作りが終わった瞬間とか、聴いてくれた人から良い反応があったときには、報われた！って思う」

——RUKAさんは、"俺には曲に対してのファンのみんなのリアクションがない"って言ってましたけど、咲人さんには、いろいろ返ってきているわけですね。

「RUKAさん、そうなんだ。でも、俺は昔から言ってるからじゃないかな。曲を作り終わってもずっと不安で、ファンのみんなの声でやっとホッとできるって。俺は面倒くさい人間だってわかってると思うからね（笑）。気を遣ってもらってるのかもしれない。ま、本心はどうであれ、そういう言葉を俺に伝えてくれたっていう時点で、俺はありがたいから」

——愛ですよ、愛。この間の国際フォーラムでのライヴでは、日程変更があったりしただけに、ファンのみなさんの待ってた感、たっぷりの愛を感じたことでしょう。

「うん。ホント、嬉しいことだよね。音楽の場合、ひとつのアーティストだけをずっと聴き続けるなんて、かなり稀だと思うし。他にもいろいろ好きな音楽がある中で、それでも自分たちのライヴに来てくれるっていうのは…とてもありがたいことだなと。俺自身、ライヴってほとんど行かないし、ホントに好きなアーティストじゃないと行かないからさ。その重みがよくわかるし、応えていきたいなって。それが責任だと思うからね」

——そういう意味では、曲そのものでも応えていますよね。メーカー移籍以降も、先の「VERMILION」然り、今回の「SLEEPER」然り。

「なんかね、俺個人的には、「VERMILION」も好きだけど、「SLEEPER」はさらに好き」

——それ、RUKAさんに言ってあげてほしいっ。

「お互いシャイ同士だから、そういうのは…言えない」

——どんなにバンド歴を重ねても、そのシャイな感じとか距離感とか、変わらないわけですよね。

「うん、変わらない」

——それってある意味スゴイと思うし…なぜそうなのか、気になります。

「あのね、メンバーそれぞれに言えるんだけど、バンドっていう友達でもないようなものって、距離感が一番大事なんだよね」

——近づきすぎても、遠すぎても、成り立たないわけですね。

「うん、そう。俺がそうしてほしいっていうのもあるんだけど。メンバーだからって踏み込んでほしくないなって思うときもあるし、でも離れすぎても寂しいし。歴史が長くなればなるほど、その間合いって大事だと思う。ま、RUKAさんに関しては、基本的な性質は、たぶん俺と一緒なんじゃないかな。ただ、方向性は違うけど」

——アウトプットの仕方とか、確かに違いますもんね。

「そうそう。でも、根本的に言えば、バンドの中で一番似てる2人だとは思う」

——根っこは、実は隣同士だったりして。

「そういうノリ。何を養分にして育ったかは違うけどね。そういう意味では、ゾジーとNi～yaも似てるなって思うときがあるし。俺は、4人の真ん中にいるみたいな感じかな」

——だから、バランスも絶妙なんでしょうね。で、話を戻しますと…「SLEEPER」の歌とギターによる出だし、インパクトあるなと思いました。

「展開としてはベタだけど…ナイトメアはイントロ、Aメロ、Bメロっていう王道的なパターンが多いから[illegible]」

——ギターの音そのものにもパンチがありますけど、何か秘策はあったんで

蝴蝶网 hudie.com

杂志迷 zazhimi.com

しょうか。

「チューニングがいつもと違うのね。基本は半音下げなんだけど、この曲は1音下げで。だから、太さが出たのかな」

——あと、メロディの後ろのオブリっぽいギターフレーズとか…いつにも増して、細かく彩られているなと。

「この曲では、装飾係にまわってるからね。放っておくとどんどん音を入れたくなっちゃうんだけど、そこは良いバランスに落ち着いたのかなとは思う」

——疾走感のままに聴けちゃうけど、よく聴くとキッズが好きそうな仕掛けがあって。

「うん、そうだといいんだけどね」

——さらに、咲人さん作詞・作曲の「Star Spangled Breaker」なんですが…これ、タイトル曲にもなり得る、強い曲ですよね。

「俺も、それは思った。だからさ、仕事にしてると、必ず望んでる結果にならないこともあるんだよ(苦笑)。昔から言ってることだけど、好きなことって仕事にしちゃいけないって思うよ。絶対、イヤな曲って見えてきちゃうから、ホントにずっと好きでいたいなら、やめた[illegible]いいなって。ま、そういうとこ[illegible]何くそっていう気持ちが生まれ[illegible]それが原動力にもなってるんだよ[illegible]」

——なるほど。で、冒頭で言っ[illegible]"ポップ"を意識した曲でもある[illegible]すか。

「うん。ポップな方向性に向か[illegible]掛かりでもあるかもしれない。ど[illegible]調にしても、自分たちがやったら[illegible]ちの色にできるっていうのを、証明した[illegible]い気持ちがあるんだけど、その表れ[illegible]もあるかな」

——まさに、だと思います。[illegible]ライに、"攻めの姿勢でいたい"と[illegible]想いも、くっきりと滲んでいますしね。

「そうだといいんだけどね。ホントは、不思議な世界観を持ってたりだとか、暗いものが好きなんだけど…聴くのが好きなものとやるのが好きなものって、違うんだなと思ったりもする」

——ここまで突き抜けていると、清々しいですよ。

「実際、やってても楽しいしね」

——サビ入りが、一度目はギターノイズで、二度目はベースのグリスだったりするところも、バンドならではだなぁと思います。

「俺、同じことを繰り返すのがどうも好きじゃないからね。その昔、高田馬場エリアのブースでレコーディングしてたときに、エンジニアの人に"何で一度目のAメロと二度目のAメロでギターのフレーズ変えるの?"って言われたことがあって。そのとき、逆に"何で変えちゃダメなの?"って思ったし。同じことやってたら、飽きちゃうからね」

——引いては、それがリスナーを飽きさせないことにもなるでしょうし。

「だといいよね。ウチらの曲どれも、サビは一定のテンション感で聴かせたいから、ほぼ同じフレーズで構成してるんだけど、Aメロのアレンジに関しては、同じ曲の中で全部、一度目と二度目では違うと思う。曲を分解したら、サビは掴みにいってるんだけど、AメロとかBメロは、遊べる感じというか。たとえるなら、サビはシングル曲で、AメロとかBメロはアルバム曲とかカップリングっていう印象なんだよね。だから、変えちゃうんだと思う。あと、ギターに関しては、SUGIZOさんの影響がものすご[illegible]大きいんだよね。LUNA SEAの「[illegible]ONIGHT」っていう曲があるんだけど、それにも同じようなアプローチがあ[illegible]し、その一度目のサビ前のところは、[illegible]ごくSUGIZOさん的なんじゃないかな」

——そういうキッズがワクワクするようなアプローチもありつつ…RUKAさ[illegible]作の2曲が基本的に暗いだけに、明る[illegible]く希望的な「Star Spangled Breaker」との両極なコントラストも面白いですし。

「RUKAさんが好む曲調っていうのも、ある程度わかるからね。バンドのいろんな可能性の扉を開いていくのは自分の役割なのかなって思ってはいるし、そういう意味で、俺はアルバムとかカップリング向きの人間なのかなとは思ってるよ」

——いみじくも、RUKAさんも同じことを言っていましたよ。"咲人のメロディっていろんな種類があるし、新しい可能性を感じさせるから、そこはすごく羨ましい"って。

「お……(照笑)。でも、そこはないものねだりなんじゃないかな」

——きっと、お互いにそうなんでしょうね。

「そうそう。俺は、歌詞に関して自分が未熟だっていうことを自覚してるから。俺、本を読むから文章書くのは好きなんだけど…歌詞ってまた違って。そういう意味では、歌メロに言葉を当てはめるのが、RUKAさんは、ウマいと思う。歌詞はホント、悩む。ギターやパソコンを使う作曲も良いんだけど、作詞のものすごくコンパクトな道具だけで作業をできるっていうところとか、好きなんだけどね。紙とペンがあればいいじゃん」

——ごくシンプルな作業だし、やろうと思えば誰でもできることだけに、奥深さがあるんでしょうね。

「うんうん。ホントね、好きなものと得意なものって違うんだなぁって実感する」

——でも、「Star Spangled Breaker」の"歴史と呼ばれる時間軸で どうせ一瞬で消える運命 光り尽くす星の様に"というくだりなど、すごく響くなと思いましたよ。

「そこ、実は一度書き直したんだけど、元に戻したの。ゾジーさんも、元の歌詞が好きだって言ってて。俺自身は、ベタかなって思っちゃったんだよね。みんなが受け取りやすくて、響く言葉なんだけど、使い古されてる言葉ってあるじゃん。"愛してる"とか"逢いたい"とか。そういう言葉に、嫌悪感を持っちゃう人間だからさ」

——あ、その感覚はわかりますよ。そんなお花畑じゃないだろって。

「でも、作り手としては毛嫌いしてても、ダメだし、っていうのがあって。だから、言ってもらった部分も含めて、俺のことを知らない人から見たら、"普通"な歌詞かもしれないけど、知ってる人間からしたら、これまでとの違いがわかりやすいかもね」

——それに、さっきのくだりにしても、ただ前を向いているとか、背中を押すという種類のものではなく、そこに儚さがありますからね。そういう意味では、咲人さんらしいなと思いますよ。

「まぁ…基本的に、暗い人間だからね。そこに出ちゃったのかも(笑)。何も考えないで歌詞書いてると、ホント、暗い言葉しか出てこないからね」

——メインコンポーザー2人が、どちらも暗いとは。

「そうなんだよね(苦笑)」

——でも、今回「Star Spangled Breaker」のような歌詞を書いたことで、新たな扉を開けられたわけですし。

「そうそう。だから、これからは暗い曲ばっかりじゃなくて、こっち方面でも曲を書いていきたいなって」

——咲人さんの手にかかれば、ポップであっても、いかにも狙ったようなイヤらしさは感じない、ということもわかりましたから。

「そこ、一番嫌うところだから…良かった」

——そして、そこには"希望"が描かれていますが…咲人さん自身、どんな希望を描いていますか。

「それを希望と言うのかどうかはわからないけど…ポジティヴではいるかな。もちろん、浮き沈みはあるし、気分屋だから毎日のテンションも違うんだけどね。でも、どこかしらポジティヴさはあって。それが"攻めの姿勢でいたい"っていうことにも通じるんじゃないかな。モチベーションは、すごく保っていられてるよ」

——RUKAさん作の「アイリス」に関しては、咲人さんはどう見ていますか?

「できたのはすごく前のことなのね。で、今回シングルに入ることになって、改めて聴いてみたら…すごく面白いアレンジをしてる曲だなと。イントロ、3拍目だと思ってたところが小節のアタマだったりして。そういう、変拍子ではないんだけどトリッキーなアプローチってDEAD ENDの曲に多いんだけど、個人的にすごく好きで。今回、RUKAさんにそれをやりたいって言われて、フレーズを考えてたのを憶えてる。音楽的な面白さ、引っかけもあるし、引っかかる曲になったんじゃないかな」

——まさに、なっております。作曲者それぞれの色や表現、バンドとしてのアプローチの幅。ナイトメアは面白いなと、改めて思いました。

「そう思ってもらえたら、嬉しいな。俺とRUKAさん、お互いに、昔ほどまったく別々の方向性ではないと思うし。それは数年前から感じてることだけど、ライヴでお互いの曲をやってるうちに、それぞれのエッセンスがメンバーそれぞれにしっかり行き渡ってきてると思うし。共有できる部分が、歳を重ねることに増えてきてるんじゃないかな」

——そう聞くと、バンドも夫婦みたいなもののようにも思いますね。

「まぁ、これが結婚生活だったら…やってられないけどね(笑)。別居だよ、別居って(笑)。どんな好きな人でも、毎日一緒に居たら疲れるでしょ。だから、一人の時間が必要なんだよね。俺、絶対ムリだもん」

——さっき、寂しがり屋のRUKAさんがまったく逆のことを言っていましたよ。"まったく噛み合わない生活をしてでも、人がいるほうがいい"。"一人の時間が欲しいっていう人がいると、ひっぱたきたくなる"って。

「え……ホントに!? 俺も寂しがり屋ではあるんだけど、四六時中誰かと一緒は…やっぱムリだね。ひっぱたかれるかなぁ(笑)」

——危ない危ないっ(笑)。でも、今回のシングルを[illegible]ナイトメアはお互いの距離感を[illegible]さを失うことなく、[illegible]るということもわかり[illegible]す。

「ま、10年経っ[illegible]んとやってるっていうのは、[illegible]は思う」

——であれば[illegible]ているアルバムも楽し[illegible]す。

「今作って[illegible]Spangled Breaker」を[illegible]ちょっと明るめな曲[illegible]どんなことになるか、自分でも楽しみにしてるし、みんなにも楽しみにしててほしいな」

蝴蝶网 hudie.com

杂志迷 zazhimi.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

Ni~ya

ただ空気を吸って吐いている事が、生きているという事じゃない

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

過ぎ、ふと振り返ったとき、過ぎ去った時間の早さに思わず戸惑うものだ。
　Ni~yaと出逢ってから約10年。付き合いが長くなると、普段改まってこれまでの付き合いや、出逢った当時をわざわざ振り返ることもないが、こうしてパーソナルなインタビューをしてじっくりと向き合うと、10年分成長し、ちゃんと歳を取ったNi~yaを感じることが出来る。他のメンバーに対しても同じく感じることなのだが、性格も違えば成長具合も違うし、その感じ方は各メンバーによって様々だ。
　そんな中、いつ頃からだろう？ Ni~yaに大きな包容力を感じるようになった。
　Ni~yaという奴は、出逢った頃から〝自分が自分が〟という自分を中心に行動するタイプではなく、常に一歩引いた立場からメンバーを見つめているタイプではあったが、ここ最近の彼は、より周りのことを考え支える側に立とうとしているのを感じる。
　しかし。決して人の影に身を潜め、存在を消そうとしている訳ではない。ちゃんと全体を見つつ、サウンド面でもナイトメアの低音をしっかりと守り、縁の下の力になりながらも、無くてはならない存在観を強く放っているのだ。そんなNi~yaには、人としてはもちろん、サウンド面でも同じ立ち位置を感じるのだ。
「正直、音楽を聴くときにまずベースを聴きますっていう人、少ないと思うんだよね。え？ ベースって何？ あぁ、ギターとドラムの間でボンボン言ってるやつ？ って思う人の方が多いと思うんだよ。けどね、俺はそのベースの音が大好きなんだよ。バンドは、どの音や[illegible]トが1番重要ってもんじゃなく、[illegible]音が必要不可欠な存在なんだけど[illegible]ベースの音が1番好きだし、だからこそベースやってる訳だし、バンドに[illegible]カッコイイベーシストで居たい[illegible]ね」
　今回のインタビューの中でNi~yaはそう言った。
　彼のその言葉は、彼の人間性を[illegible]した今の彼の生き方そのもののよう[illegible]がしてならなかった。
　単に〝カッコイイベーシストで居たい[illegible]と言わず、彼は〝バンドにとっ[illegible]ベーシストで居たい〟と[illegible]を着飾ることや単に目立つことは簡単なことだ。しかし、彼はそこを目指す訳でもなく、そこは望んでいない。我が我がの精神ではなく、あくまでも周りの調和を第一に、そこでいかに自分の力を最高に活かせるかを考えるのである。
　人間の根本的な性格は子供の頃に養われるとされるが、果たして現在のNi~yaを作り上げたのも子供の頃だったのだろうか？
　そんなことを探るべく、今回は彼の幼かった頃の話もしてみた。
　父親との関係性。親しかった先輩の死。表現者となった今の自分。東北地方太平洋沖地震。現在の自分。
　憧れる側から憧れられる側へ——。
　2011年現在のNi~ya。
　9月7日にリリースされるニューシングル「SLEEPER」のベースプレイには、そんな現在のNi~yaの生き様が反映されていると言っても過言では無い。
　現在の彼が弾くベースに込めた想いとは？

＊

——ツアー「the time rewind to ZERO」も無事終わって落ち着いた？
「そうだね。『the time rewind to ZERO』は、いつもとは違ういろんなことを考えさせられたツアーだった。チケット買ってたのに来れなかったっていう人が多かったみたいで、実際に売れてたチケットの枚数よりも集まった人の数が全然少なかったからね。これない理由があるんだろうし……それを考えると、頭では解っていたつもりだったけど、本当に地震の大きさを目の当たりにしたというか、改めて来れなかった人たちの安否や気持[illegible]現状を心配した。もちろん、大変な[illegible]にあっても頑張って来てくれた人も[illegible]だろうから、ここに居る時間だけは絶対に辛いことを忘れさせて、楽しかったって思える時間を作ってあげたいって思ったんだよね。音楽を通して、ナイトメアとしてそれが出来るのであれば、それをやるべきだと思った。逆にすごく大[illegible]なモノを貰ったし、自分がバンドを[illegible]っている意味を改めて考え直せた時間[illegible]もあったと思う」
——前号のSHOXXの表紙の時も地震直後だったこともあって、Ni~yaはそういう気持ちを熱く語ってくれてた[illegible]今回のシングル「SLEEPER」は時期的にいつ頃作られたモノだったの？
「『SLEEPER』は随分前にあった曲で、レコーディングしたのは2月頃くらいかな。『Star Spangled Breaker』は去年の夏くらいにレコーディングしてたし、『アイリス』も去年の夏頃にはあったし、レコーディングもしてた。今回の3曲は特にシングルを意識して作ったりしてた訳ではなくて、去年まったくシングルがリリース出来てなかったこともあって、いろいろと楽曲を作り溜めてレコーディングしてたんだよね。そんな中で生まれた曲たちでもあったんだよ。中でも『SLEEPER』に至っては今年に入ってRUKAさんが持って来た『VERMILION』のカップリング候補だったし。でも、いろんな人の意見もあって急遽『SLEEPER』から『Bye Bye』に切り替わったんだよね。そういう意味では今回のシングルは、シングルのために作った1枚というよりは、去年から現在にかけてのウチらが出したモノの中から選んだ3曲で」
——じゃぁちょっと余裕を持って〝選べた〟って感じだった？
「うん。移籍したこともあっていろんな人の意見も聞きつつ選んだ感じ」
——作曲者であるRUKA的に「SLEEPER」は自分の中でカップリング曲という立ち位置でもあったから、表題曲としてはなかなか自分の中での違和感が拭えないって言ってたけど。
「そうなんだよね。RUKAさんは曲を作るとき、表題曲とカップリング曲ってのを自分の中で分けて考えて作ってるみたいだから、違和感が拭いきれないみたいだけど、決して『SLEEPER』を否定してる訳ではないと思うんだよね。実際に俺も『SLEEPER』自体はナイトメアらしい曲だなって思うし、〝らしさ〟で言ったら絶対3曲の中では1番ナイトメアらしいと思う。俺は個人的にラストのナイトメアらしい展開が好きだったりもするしね。いろんな意見があるからね。ぶっちゃけて言うのであれば、俺はエイベックスっていう新たなフィールドで放つシングルっていうことも考えて、カップリングの『Star Spangled Breaker』を表題曲にしてもいいんじゃないかなって思ったくらいだったの。それは『SLEEPER』[illegible]ってことじゃなく、カップリングにしておくのはもったいない曲だと思ったから、今回のシングルから『Star Spangled Breaker』を外して、次の表題曲にしたいっていうことまで言ったんだよね」
——Ni~yaがそこまで言うの珍しい。
「そうなんだよ。咲人が『Star Spangled Breaker』を持ってきたとき、すごくいいと思ったからね」
——私もそう思った。極端な言い方をすると、こういう曲こそナイトメアに足りなかったところなんじゃないかって。
「そう。今までのナイトメアにはなかった色だよね。歌詞もすごく解りやすいし、ゾジーさんの声にもすごくキーがあってるし。移籍したってことで、ここまで振り切るのもアリなんじゃない？って。新しいと言ってもいいままでナイトメアを好きで居てくれた人が聴いても、〝ナイトメア、変わっちゃったね。〟って思う曲じゃないんだよね。絶対に〝こういうのもいいじゃん！〟って言ってくれると思ったというか。すごくシンプルでストレートな曲だと思うけど、ちゃんとロックしてるし」
——そう。シンプルだからこそ、ギターソロとかサビが抜けて聴こえるっていう。
「ホントにそう。グッとくるんだよ、ギターソロとか。サビもそう。俺、こんなにYOMIの声がストレートに胸に響いたことないなって感じた」
——でも、そのNi~yaの意見は結局通らず？
「今回はね。やっぱ『SLEEPER』がすごくナイトメアらしい曲でもあるから、カップリングでバランスを取りたいってことになって」
——なるほどね。いろいろな意見の中で、移籍後2枚目のシングルでもあるからザッツ・ナイトメアな曲を表題曲にしたいっていう思いも強かったのかもね。
「かもね。でも、また咲人が『Star Spangled Breaker』みたいな曲を作ってくれたらいい訳だし。今回こうして1枚のシングルの中で並べてみてハッキリと解ったことだし、ひとつナイトメアとしての振り幅が広がったと思ってる」
——最近Ni~yaは曲作ってないの？
「作ってるよ。選曲会にも出して形にも[illegible]中って感じ。最近曲作りでこだわる部分も変わってきたりしてさ」
——どういうふうに？
「昔は自分がカッコイイと思ったモノを曲にしたかったのね。とにかく自分が好きなジャンルを自分の曲に落とし込みたかったっていうか。もちろん、ナイトメアらしさってのは考えてたけど、RUKAさんと咲人の作る曲もやっぱりナイトメア色としてあるから、結構自分は自由にやらせてもらってたところもあって、自分的にもやりたいことを追求しちゃってたし、ゾジーさんのキーなんてあんまり気にしたことなかったんだよね。レコーディング前のプリプロの段階で多少の微調整は出来るから、ヴォーカルのキーはそんときに合わせたらいいかな、ぐらいにしか思ってなかった。けど、最近は逆に最初にゾジーさんのキーに合わせたところから始めるようにしてる」
——RUKAは逆に、今もそこは考えずに作ってるって言ってたな。
「きっとRUKAさんや咲人は、ずっとメインコンポーザーとして曲を作ってるから、最初からそこに縛られちゃうと世界が狭くなっちゃうんだと思う。実際に俺もそう思ってたから、最初のうちはゾジーさんの出やすいキーを無視して作っていたからね。けど、やっぱり『Star Spangled Breaker』もゾジーさんの声に合ってるから、曲がより良く聴こえるんだろうなって思ったんだよね。だから最近は、自分のやりたい曲、カッコイイと思った曲を形にするところから始めるんじゃなく、ゾジーさんが歌ったら様になるだろうなっていう曲を作れたらいいなと思って向き合うようにしてるんだよね。そういう作り方に変えたというか」
——いいバランスかもね。
「そう。RUKAさんと咲人とのね。それでみんながそれぞれの個性が活きたカッコイイことが出来たら最高だよね。俺、ホント単純だから[illegible]。音楽ってカッコイイかカッコ悪いか[illegible]けだと思って[illegible]で頭使って聴かなく[illegible]てホントに若干で[illegible]てカッコイイって思え[illegible]よね。俺の音楽の好み[illegible]自分がやる音楽も[illegible]て思ってる。人が[illegible]

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

、それがカッコ良けりゃそれでいいじゃんっていう。俺ね、あんまり映画とか見る方じゃないんだけど、映画でもそうだし、ドラマとか本とかもそうなんだけど、自分が面白いなって思うかどうかなのね。そんで面白いなって思ったモノに関してはとことん調べまくるの。で、その原作者とか監督とかのこだわりとか知って、なるほどなぁって納得したりするのも好きで。けど、そんなに広く好きにならないっていうか。すごく狭いんだよね。自分から広げようとしてないのもあるんだけど、とにかく新しモノ好きじゃないから、世間知らずで（笑）。だから、とにかく新しいモノが出たら飛びつく、新しモノ好きのRUKAさんとかすげぇなって思うからね。絶対に真似出来ねぇもん。ホント、そこは音楽に限らず、普段の生活からしてそうだね。服も趣味も全部そう。服なんて、ほとんどレザーとデニムだからね（笑）。あんまりそれ以外興味がない。すべてのことに対して食わず嫌いだからね、俺。ある意味長年の悩みでもある（笑）」

――悩んでるの？

「そう（笑）。“カッコ良けりゃそれでいいんだ！　おもしろけりゃそれでいいんだ！”でいいんだけど、なかなか新しい扉を開けないっていうとこは悩みどころだね（笑）」

――飽きることないの？

「ないね。いいと思ったことはなかなか冷めない」

――昔から？

「そう、昔から。自分から興味を持たないと絶対にのめり込めない性格だから。ベースに関してもそうなんだよね」

――ベーシストとしては、「SLEEPER」と「Star Spangled Breaker」とではまったく違ったベースプレイを見せてくれてるけど。

「そうだね。「SLEEPER」ではほとんど動いてないし、「Star Spangled Breaker」では動きまくってるしね。「SLEEPER」みたいなベースは、ベースを始めてからずっと自分がカッコイイなと思ったベースプレイでもあったんだよ。でも、「Star Spangled Breaker」の方は、IKUOさんのベースプレイに

ね」

――すごくいいベースだよね。最高にカッコイイベースだと思う。

「ベースってセンスだと思うから。本当に。俺は基本あんまり動かないベースが好きなんだけど、IKUOさんと会って実際に間近でプレイを見て、あのフレーズは半端じゃないなって思って自分もやってみたいって思ったんだけど、つい最近BOØWYのDVDを見てて松井さんのプレイにも感動して、“ダウンのルート弾きもカッコイイわ！”って改めて両方の良さを実感したんだよね。改めてダウンピッキングの素晴らしさを知った。それもあって「SLEEPER」のPVではダウンピックで弾いてんだよね。RUKAさんから、“「SLEEPER」ってダウンで弾いてるんだ!?”って言われたんだけど、実はレコーディングではオルタネイトなんだけどね（笑）、ライヴではダウンで弾くつもり。「Star Spangled Breaker」のベースも自分的にすごく気に入ってるからね。食わず嫌いではあるけど、ベースに関してはもっと貪欲になっていきたいなって思った」

――今回「SLEEPER」と「Star Spangled Breaker」の歌詞はすごく共通する部分があるなって思ったのね。“限られた時間の中でどう生きるか”が、ひとつの共通点であるように感じたんだけど。

「そうだね。今回の地震でも命の尊さを感じたし、本当に人間の命ってもろいものだなって。すごく弱くて儚いモノだなって思う。俺が命っていうモノに対して考えるようになったのは中学生の頃だったのね。中学生の時に、すごく可愛がってもらってた仲のいい先輩がバイク事故で亡くなって。なんとも言えない喪失感を味わったというか。昨日まで元気で話をしてた人が次の日には姿形もなくなっちゃって存在すらも残ってないっていう……なんなんだろう？って思った。人間ってこんなに簡単に死んじゃうんだ。存在がなくなっちゃうんだ…って。すごく怖かった。失う怖さも感じたし、自分が居なくなったら周りの日はこんなに悲しくて辛い想いをするんだって思ったね。まだ子供だったから衝撃がデカくて」

た一度だけこの灯を消そうとした”っていう言葉が出て来るけど。

「うん。きっといろいろと悩む時期も子供の頃にはあるだろうからね。今過ぎ去って振り返ったら、なんでそんなちっちゃなことでそこまで悩んでたんだろ？って思うことっていっぱいあると思うけど、俺は一度も自分の灯を消したいっていう考えはしなかったな。やっぱりそれは、先輩が亡くなったことが大きかったんだと思う。周りの人を悲しませちゃいけないっていう気持ちの方が強かったし…」

――ん？　なに？

「こことかこことか（根性焼きの跡）」

――根性焼き!?

「そう」

――誰かにやられたの？

「いや。自分でやった（笑）」

――どうして？

「気合。馬鹿だよね（笑）。でも、やっぱ生きてたら挫けそうになることとなんていっぱいあるんだよ。だから、そんなときにやってた。どんだけ自分が強い人間か試すために。自分に喝を入れるためにね。“おりゃ！　これでもいけるぞ…”。みたいな。馬鹿だよね（笑）。ホント、馬鹿だと思う。わざわざ痛いことしなくてもいいんだけど、やっぱ痛みを知れば辛い事も我慢出来るし、生きてるってことを実感出来るからね。生き抜くことこそ辛いことなのかもしれないけど、やっぱそこを乗り越えなくちゃ」

――人にやったことはないの？

「ないね。それはずっと父親から言われてきたことでもあるんだけど、自分がやられて嫌なことは絶対に人にはするなって教えられてきたから。オヤジは俺にとって絶対の存在だからね。オヤジの言うことには逆らえない。それは今もだね」

――そういう親子関係ってすごくいいね。

「うん。それは思うね。俺ね、地震とかいろんなことがあって、本当に生きるってことをまじまじと考えるようになったんだよ。ただ空気吸って吐いてるのが生きてることじゃない。目標持って、しっかりと自分に与えられた道を歩いていってこそ生きてるってことだよなって。な

――え？

「なんでもいいんだよ。頭でどうこう考えるより、どんな形でもいいから人の役に立てたらそれでいい。本当にそう思う。今、こうやって自分が一生懸命に音楽やってることで、誰かの役に立ててるならそれでいい。本当にそう思うんだよ」

――投げやりな“なんでもいいや”じゃなくてね。

「そう。とにかく、自分が生きてる限り、何かの役に立てたらいい。そう思う。俺、すごくショックだったんだよ……」

――TAIJIさんの死？

「そう……」

――面識はあったの？

「うん。何度か会わせてもらったし、話もさせてもらったし、何度もステージも見せてもらったし。本当にいまだに尊敬するベーシストだし、俺をこの道に導いてくれた人でもあったから…」

――Ni～yaは亡くなったことを何処で知ったの？

「俺、使ってる楽器のメーカーが同じだから、そっちから連絡あって。本当にショックだった。本当に俺の中では永遠に憧れの人でもあるからね、本当に……。俺が言うのもおこがましいけど、本当に真面目な人だったんだと思う。本当に尊敬に値する素晴しい人だったと思うよ」

――ステージに上がる表現者と呼ばれる人は、普通に生きてる私たちよりも辛い事や納得いかないことと日々戦っているんだろうし、人から見られる自分と本当の自分との間に葛藤を覚えることもあるだろうし、本当に想像を絶することがそこにはあると思う。もちろん、TAIJIさんに憧れていたNi～yaも、今は憧れてた側から憧れられる側に立場が変わっている訳だし。

「そうだね。俺なんてまだまだだけど、俺、オヤジからいつも、自分がやられて嫌なことは絶対にするなって言われてたってさっき言ったでしょ。その言葉を思い出したんだよね、今回。俺、本当にショックだったし、すごく悲しかったから……。俺なんてTAIJIさんに比べたらそんなに人の役にも立ててないし、人の人生変えられるような影響力を持っ

応援してくれるファンの人たちを悲しませるようなことはしたくないって思ったんだよね。TAIJIさんが俺の人生を変えてくれたように、俺も誰かの役に立って、人生変えられるような人になれたらいいなって思うからね、いつか」

――そうだね。Ni～yaは強いね。

「いや、そうかな（笑）？　でも、俺、打たれ強い方だとは思うよ。それは昔から己に勝つことを教えてくれたオヤジのおかげでもあると思うし」

――ベーシストっていう立場もかな？

「どうなんだろうね、でも、そこもあるのかもね。ベーシストって支える側であり、時には攻める立ち位置でもあると思うから。そこもあるのかな？　自分では解らないけどね」

――やっぱそこはプレイにも出てると思うよ。ダウンピックとか（笑）。

「ダウンピック!?　どうして（笑）？」

――いやぁ、ダウンピックって相当大変だと思うもん。まさに己との闘いだって。

「たしかにずっとダウンで弾くのは大変だけど、そこ関係なくない（笑）？」

――いや、関係あるでしょ。

「じゃあ、これからダウンピックで弾く時は己との闘いだと思って弾く事にするよ（笑）。でもホント、今は周りに先輩が多いし、まだまだ教えてもらったり可愛がってもらえてるけど、そのうちだんだん後輩だらけになっちゃうんだろうな」

――そうだよ、ホントに。私だって昔は周りはみんな年上だったのに、もう自分の子供みたいな年齢の人たちと仕事してるからね。年上[illegible]方が大変なんだから。

「あははは[illegible]（笑）。でも、ホントその[illegible]になっちゃうんだろうな」

――そうだよ。“ナイトメアのNi～yaさんに憧れてベース始めました”っていう子がね、たくさん出て来るようになる。

「なるといいね。その[illegible]にも頑張らないと。日々[illegible]って死ぬ気で頑張る[illegible]思われる温かい人になれるように。プレイヤーとしては、人の人生を変えられるようなベース

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

彼ほど正直な人はそうそういないだろうと、いつも思う。今回のインタヴューにしても、そうだ。今のモードのこと、「SLEEPER」のこと、好きなものに対しては盲目的になってしまうこと…RUKAのRUKAたるゆえんが、そこかしこに溢れている。

*

―現在、アルバムに向けての曲作り期間ということですが…今のところ、何曲ぐらい書いたんですか?

「録ってるものだけでも1何曲以上あるから、今回は選び放題っていうか。ま、アルバムかシングルかっていう分け方をしないで曲を作ってて、そこからシングル曲をきってるから、余りもので構成してる感じではあるんですけど。だから、今は足りないものを書いてるっていう感じかな」

―そうした中、自分的な手応えは?

「…それが、ぱっとしないないんですよ、正直。だから、困ってる（苦笑）。でも、これから出す曲で、補えればなって」

―〝ぱっとしない〟理由がどこにあるのか…察しはついているんでしょうか。

「いや、それはわかんないけど…とにかく、ただ暗い。うん、暗い」

―今のRUKAさんのモードが反映されているから、だったりして?

「いや、そういうことでもないんだろうけど。この間のシングルに入ってた「Bye Bye」とか、今回の「アイリス」とか「Star Spangled Breaker」と同じぐらいの時期にアルバムに向けての曲作りに入ってて。そうしたら、自然と暗い曲ばっかりになったんです。歌詞も、暗い歌詞かイライラしてる歌詞しかないし」

―そこに関しては、これまでも同じような傾向があったような気がしますけど。

「あ、そうか。でもね、震災は大きかったかも。精神的に。あれで思いっ切りやられた気分はしてますよ」

―今回の「SLEEPER」を見ても、そうなのかなと思わさるを得なかったりはします。

しては、あんまり意識はしてないんだけど」

―じゃあ、自然と出てしまっただけなんでしょうか。

「そうかもしれない。出ちゃってるっていうか…。ちなみに、「SLEEPER」のほうが新しくて、「アイリス」は古い曲なんだけど、やっぱり、どっちも暗いですね（苦笑）」

―音楽を離れてみれば、最近ハマっていること、楽しめていることがあったりするんでしょうか。

「最近、あるゲームにハマってて。そのストーリーが恐ろしくよくできてるから、それ関連をすべて網羅してるところで」

―そのゲームのタイトル、教えてもらえますか?

「『SteinsGate』（シュタインズ・ゲート）。友達に勧められて、PSPのソフトを買ったんだけど、凄まじく面白いんですよ」

―RUKAさん的にどういう部分にトリコになっているのか、詳しく教えてもらいたいところです。

「秋葉原にタイムマシンが落ちてくるっていう、そこにまず食いついたんだけど…」

―まさにRUKAさんにピッタリな導入じゃないですか。

「でしょ? しかも、内容がホントに面白くて。これまで僕が読んだどんな小説も、越えてるんですよ。ゲームが原作で、アニメも小説も出てるんだけど、全部、目が取れるぐらい観てるし、読んでる」

―メディアミックスされると、ハズれがあるときもありますけど、だいぶのめり込んでいるわけですね。

「僕、好きになると全肯定派なんですよ。石田衣良さんも、全部読んで全部好きだし。その中でも好きの順位はあるけど、好きになったらとにかく、全部好き」

―否定はせず、盲目的に好きになるタイプですか。

「うん、なかなか好きにならない代わりに、好きになったらまずそうなるんですよね」

「ああ…好きになるものによって、変わってはくるかな。たとえば車が好きだったら、好きで買った車種でも、気に入らないところってあったりするし。そうすると、改造しちゃうから。でも…人間的なもの、ジャンルに関しては、そうかもしれないですね。たとえば、アーティストでもそうだし」

―ファン心理としては、盲目的なパターンと、移り気なパターンがあると思いますけど。

「移り気か。それ、僕には理解できないんですよね。好きじゃねぇじゃん、って思っちゃうというか」

―万が一、〝それはやらないでほしかった〟みたいな展開があったとしても、RUKAさんの心が揺れるときはないんですか。

「うん、ない。それも含めて、全部好きなんですよ。もちろん、飽きることはあるけど、好きな間は、ずっと好き」

―飽きたら、スパッと絶つぐらいの感じですか。

「そうそう。一切興味が湧かなくなりますからね」

―ハッキリした、わかりやすい人ですね。対人関係も、まさにそんな感じですか。

「うん、まさに。飽きたら早いですよ。一切興味がなくなる」

―そうなるときって、そろそろ飽きたなぁみたいな予感が、前もってあるわけですか。

「どうなんだろう…考えてみたら、予感はないかも。朝起きたら突然、っていうか」

―場合によっては、相手はなぜ関係が途切れたのか、さっぱりわからないままのこともありそうですよね。

「あるある。っていうか、そういうの多いと思う」

―もし、説明を求められたらどうするんですか。

「その場合は、ちゃんと説明しますよ。でも、相手から聞かれない限り、説明はしない」

―という感じだと…説明したとしても、なかなか先方に理解や納得をしてもらえないでしょうね。

うがないんですよ。それが僕だし、自分にも人にも、嘘をつけないですからね」

―ある意味、誠実ってことなんでしょうね。というのが個人の話として、バンド単位では、昨今、何か感じることはありますか?

「いやぁ…何せ、不景気ですからね。あと、素人プロみたいのが多くて困る、最近」

―たとえば、ニコ動の歌い手さん的なことですか?

「そうそう。ビックリするぐらいウマいもん（笑）」

―結構、チェックしてますか。

「あんまりしてないですね。勧められたら聴くぐらい。あと、プロでも気になる人はいて。アニメ『SteinsGate』のオープニングテーマを歌ってるいとうかなこさんの曲は、ずっと聴いてるんですよ」

―リスナーとしてというよりは、ミュージシャンとして聴いているわけですか?

「いや、僕はリスナーの立場で聴くんです。むしろ、メロディしか聴かない。ドラムの音も耳には入ってくるけど…いとうかなこさんの曲は、打ち込みだし。そういえば最近、打ち込みモノ、好きですね。インストとか、ハウスとか…家でも、車の中でも、結構聴いてますよ」

―RUKAさんはコンポーザーでもありますけど、いろいろ聴く中から、新たな曲作りのヒントをもらったりもするんでしょうか。

「どうだろう…あるのかなぁ。あるんだろうなぁ。ドラムのフィルとか、特に」

―そうやって外部から刺激や情報を入れていかないと、曲作りを続けていくことって難しそうですよね。

「うん、確かに。creature creatureのShinobuさんと、ソロ（The LEGENDARY SIXNINE）のときぐらいから交流があるんですけど、最近、僕の作るメロディのクセとか、いろいろ教えてもらってて。だいたいこういう始まり

が始まることが多いね、とか。改めて、そうやって人から自分の曲に関して言ってもらえると、面白いなって思いますね。それが最近、すごく楽しい」

―あ、〝楽しい〟という感覚なんですか。

「うん。曲ができたら、まず聴いてもらって、ダメ出しもホメ言葉ももらったりするし。〝コードはこっちのほうがいいよ〟って教えてもらったりとかもして」

―そういうの、素直に聴ける人なんですね。

「意外とね（笑）。さっきの話じゃないけど、好きな人の言葉だったら、素直に聞けるんですよ」

―ずっと自分のやってきたことに関しては、どうしてもプライドが先に立ってしまうシーンもありそうですけど…えらいっ。

「僕の場合、自分のやってることに対して、そこまでポリシーがないっていうか…別に、いつでも変えられるんですよ。たとえば打ち込みオンリーのバンドになったとしても、自分的にそこまで違和感はないかなって。ソロであれば、女性ヴォーカルで、一切生楽器の入っていない曲とかもやってみたいし。逆に、ものすごいメタルバンドでもいいし」

―発想が柔軟であり、自由度があるわけですね。ただ、好きじゃない人の意見は、聞けないですか。

「うん、聞かないですね、一切」

―自分の好きな人と好きじゃない人が同じことを言っていたとしても、好きじゃない人の意見は聞けない?

「もちろん！　絶対聞かな[illegible]

―好きな人、信頼してる人に、[illegible]なことをズバッと言われたら?

「あ、そうなんだ[illegible]のもあって[illegible]ちゃんと受け止めますよ。[illegible]近は曲作りが少し変わ[illegible]たかな[illegible]ま、指摘されたところは、直そうとして[illegible]るんだけど…なかなか難しいですね。クセがついちゃってるみたいで、無意識にまた同じことをやっちゃ[illegible]またやってるね、って言われて…[illegible]じことの繰り返しをしてる（苦笑

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

―それはそれで、すごいことなんですけどね。今回の「SLEEPER」の曲にしても、RUKAさんの曲ってすぐわかりますもん。

「それが、良くも悪くも、になっちゃうんだろうけど。咲人のメロディっていろんな種類があるから、そこはすごく羨ましいんですよ。たくさん出てくるし、新しい可能性を感じさせるから。咲人とそういう話をしたことはないから、推測なんだけど…たぶん、3曲あったら、咲人は全部良さを見つけられるんじゃないかなって思うんですよ。僕は、感覚のみで1曲ぐらいしか良いと思えないだろうから…そこが、2人の違いっていうか」

―そういう意味では、それぞれ、右脳派と左脳派なんでしょうね。2人がメインコンポーザーであるって、運命感じます。

「あとは、期待の新人・Ni～yaくんが、どっちに転ぶか、ですよね」

―楽しみですよね。にしても、同じコンポーザーとして、咲人さんのことをちゃんと認めているんですね。それは、お互い様なんでしょうけど。

「オトナになったんだと思いますよ。昔は、そこまで考えたこともなかった。自分の曲がどうのとか、人の曲がどうのとか、考える余裕がなかったっていうか。ひたすら、曲を作ってましたからね」

―周りが見えるようになってみれば、バンドに対しても、"なかなか良いバンドだな"って、今、自分で思えていたりもしますか？ 自分がキッズだったら、きっと好きになるな、とか。

「お……どうだろう。それは考えたことなかったですね、今まで。でも…好きじゃないかもしれない。…好きになってるかなぁ。今の自分の性格とまったく同じ少年だったら。自分が好きな曲を作ってますからね」

―好きなメンバーは、誰でしょうね。

「ドラムは絶対好きにならないから…やっぱり咲人じゃないですかね。客観的に見て、ステージ映えするし。そんな気がするな」

―実際、最近のライヴでは、熱心に観る男の子が増えましたしね。

「あと、最近はね、年上の人も多いんですよ。子どもと一緒に、お母さんも来てたりとかするし」

―以前、"音楽を作っている側は聴く層を限定して作っているわけではない"と言っていましたけど、そういう意味では、理想的な歩みなのではないですか？

「そうだといいんですけどね。でも、もっと広がっていってほしい」

―その更なるきっかけとなるのが、「SLEEPER」ではないかなと思うわけです。前回の取材で、RUKAさん自身は「VERMILION.」を超えていないと言っていましたけど…ドラマがあるし、ガシっと掴める曲ですよ。

「正直、そこまで思えないんですよね。メロディに対しての直感で。アルバム用に作ってる曲で、もっとタイトル曲向きな曲もあったように思うし…カップリングっぽいっていうか」

―歌始まりで、グッと惹き込む力があるじゃないですか。作った曲は自分の子どものようなものでもあると思いますし、ゼヒ良いところを見つけてみましょうよ。

「良いところか。っていうか、この曲のホントの意味って、誰もわからないような気がするんですよ」

―といいますと!?

「ま、それは言わないですけどね。あくまで、聴く人それぞれの感じ方、受け止め方で良いと思うので」

―そうきましたか。とりあえず、"限りなく深い海の"から始まるブロック、そこがあまりにも現状と重なりすぎてて、怖ささえありましたけど。

「これ……最後に、"なーんちゃって"が付くんですよ。冒頭の"たとえば"から下は、実は全部仮定の話だから」

―え!? その間の言葉たち、想いたちは!?

「だから、"SLEEPER"なんですよ。つまり、夢オチ。『SteinsGate』って、ストーリー展開は全然違うんだけど、最初の1話で実は終わりが見えてて、もう一度見直すとそれがわかるんですよ。まさに、そういう感じです」

―たとすれば…"たとえば"の話を、よくぞここまで膨らませましたよね。

「そういうのは得意なんですよ。何の意味もないことを、ダラダラ書き続けるっていうのは」

―それでいて、何の意味もないようには読めないのがスゴイ。

「そこはプロなんで（笑）」

―ただ、"流れる日々の中　流されないように"とか、"永遠　忘れないように"とか、ところどころに見られる願いは、RUKAさん自身の中にある、リアルなもの？

「うん、まあ。忘れっぽいのは、ちょっとなぁって思ったりしますからね。まぁでも、最初の4行と最後の6行で、完結してる曲ではあるかな、やっぱり。その最初と最後が人間で、他は人間を飾る服っていうか」

―最後の6行にある、"さようなら"と"ありがとう"は繰り返されますが、RUKAさんが誰かに対してとか、何かに対して、心の中で持ち続けている言葉だったりするんでしょうか？

「あぁ…極度の寂しがり屋なんですよ、僕。たとえばひとつの部屋があったとして、もう一人はテレビを見続けてて、僕はずっとマンガを読み続けて、二人の間に会話がなくても、全然良くて。もう一人が起きてるときに僕が寝て、もう一人が寝てから僕が起きるっていう、まったく噛み合わない生活をしてても、人がいるほうがいい。逆に、人がいなくなることのほうが恐怖なんです。一人の時間なんて一生要らないし、求めてもいない。そこが、一般の人との違いだと思う。"一人の時間が欲しい"っていう人がいると、ひっぱたきたくなりますからね」

―でも、[illegible]は、そういう人多いんじゃな[illegible]うか。

「そうそう。[illegible]悪さしてんの？ [illegible]って感じ。別に、自分の[illegible]飯を作るとか、そういうこと[illegible]くていいけど、ただ存在してほしい。そういう性格から、[illegible]葉たちが出るんじゃな[illegible]」

―おそら[illegible]RUKAさんってギャップ萌えさせるタイプですよね。

「そうなのかなぁ。自分ではよくわかんないですけど。手紙とかでも、曲に対することとかってあんまりみんな書いてこないですからね」

―曲に対してのリアクション、欲しいですか。

「うん、欲しい欲しい。ネガティヴなものは要らないけど、ポジティヴな声はもっと欲しい。これ、声を大にして言いたいですね」

―ファンのみなさん、曲に関しての前向きな声、RUKAさんがお待ちしているそうです。もう1曲、Type Cに収録される「アイリス」は、暗いトーンと突き抜けるサビのコントラストが新鮮だなと思うわけです。

「もともと、全部暗い曲だったんですよ。でも、それだとあまりにも普通すぎちゃって」

―意表を突かれるというか、そのことですごく印象強い曲になりましたよね。"アイリス"と題した、そのこころは？

「タイトルがなかなか浮かばなくて、"消える"っていう意味でいろいろ言葉を調べてたら、アイリスの花言葉を見つけて。仮タイトルは、実家の地名だったんですけど。ちなみに、「SLEEPER」の仮タイトルは、「死んじゃえ」」

―なんて物騒な。

「たぶん…ムカついてたのかな。曲作ろうと思って、最初にフォルダ名をつけるときの気分が、仮タイトルには表われてるんですよ（笑）」

―実家に帰りたかったっていうこと!? 「アイリス」も、サビ以外は絶望感だったりしますけどねぇ。

「根暗だからですかね。うん、暗いっ」

―「SLEEPER」が過程の話なら、「アイリス」はどう説明します？

「ハングリー精神が足りないって思って、書いた気はします」

―"それでもまだ　諦めきれない"というフレーズは、自分自身の気持ちともリンクしていたりするんでしょうか。

「うん、それはありますね。ホント簡単なことで、同じ景色でも、子どものころと今とでは、全然違って見えるし。それが哀しいっていうことかな。去年、実家に帰ったときに、母校の中学に行ったとき、そういうのを感じて」

―基本的に、感傷的な人なんですかね。

「あぁ…そうかもしれない。夜寝る前とか、特にそうですね。寝付けないとダメなんですよ。"僕もうダメだな"って思って寝て、朝起きると忘れてるんですけど。だから…ファンのみんな、マイナスな意見はぶつけないでほしい」

―念を押しましたね!? そういうRUKAさんから見て、咲人さんの書いた、アッパーな「Star Spangled Breaker」は、どう映ります？

「…僕には荷が重すぎる歌詞なんですよ。こういう人に影響を与えられる歌詞は、僕には絶対に書けない」

―確かに、背中を押してくれる言葉たちですもんね。でも、普段の人間関係の中では、悩んでいる人の背中を押してあげること、あるんですよね。

「押さないかもしれない。最悪の状況を考えて、そうならなきゃいいんじゃない、っていうぐらいというか。良いこと言って、期待を持たせるのがイヤなんですよ」

―ホントは、それが一番相手を想っていることになるんですけどね。女の子同士の場合、誰がどう見ても終わってる恋愛に対して、"大丈夫だよ"って言っちゃったりもするんですけど。

「それね、犯罪ですよ。いやぁ、ヒドい、ヒドすぎる。好かれてる相手とか、二次被害、三次被害を呼ぶから。みんな、絶対にやめてっ（笑）」

―呼びかけ!? ともあれ、このシングルがナイトメアをここからさらにどう進ませてほしいと思ってますか？

「わからない。[illegible]流れてくれれば何でもいいと[illegible]CMとかコンビニと[illegible]流れれば、若干洗脳され[illegible]良く聴こえるようになるんじ[illegible]と思うので。そういう効果[illegible]くれればいいなって思いま[illegible]」

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶國 hudie.com

Interview ×咲人

—今シングルの「SLEEPER」は、まったく毛並みの違った3曲になったね。

楓：そうだね。表題曲の「SLEEPER」は解りやすくナイトメアな曲だと思うんだけど、「Star Spangled Breaker」の方はあんまりなかったナイトメアな感じだと思うし。「アイリス」もテンポ感も世界観も2曲とはまったく違うしね。でも、3曲とも、根本にあるものは同じだと思うんだよね、俺は。

咲人：うん、それぞれだと思う。

—「Star Spangled Breaker」は咲人の曲だけど。

咲人：なんか今回、みんながこの曲のことすごく褒めてくれるんだよね。

—今、まさに私も褒めようとしてた(笑)。この曲はナイトメアに足りなかったモノだったんじゃないかなと思うほど、新しい扉を開いた気がしたよ。

楓：俺も、咲人がこの曲持ってきたときから、ずっと表題曲にしたいって言ってたんだよね。こういう曲をおもいきってシングルの表曲として出していくのもいいんじゃないかなと思って。こういうストレートな曲って、歌詞の中に込めた想いが伝わるよね。なんかね、「Star Spangled Breaker」は俺の中で"いい曲"っていうより"カッコイイ曲"なんだよね。ちょっとストリートを感じるし。

—歌があるところのギターが控えめでもあるからギターソロがすごく胸にくる。

楓：そう。本当にいろんな意味でそういうバランスも最高だしね。個人的には今現在で好きな曲ナンバー3に入るからね。

咲人：おぉ。そんなに？　なんかここまで褒められると報われるね(笑)。

—2本のギターの絡みがすごく綺麗だしね。2番のAメロのギターとか最高。

咲人：そこは意識したとこだった。いつもにないツインギターの感じが出したかったから。2番のAメロのギターは歌詞に"歯車"って出て来るんだけど、歯車をイメージして作ったんだよね。いままでにないツインギターのアプローチが出来た面白い部分だと思う。

—咲人がこういう曲をこれからもたくさん作っていったら、またナイトメアの振り幅が増えるんじゃないかな。

咲人：頑張る。

—ということで、ここからは、3曲の歌詞の中から、いくつかワード

るとき夏ってすごく思い出が深いと思うのね。

楓：かもね。なんでだろね？

—なんでだろね？ってなことで、"理想の夏"は？

咲人：浴衣着て花火大会に出かけて。

楓：それはデートだね。

咲人：デートだね。俺、そいうのやったことないから、そういうの見るとちょっと羨ましいんだよ。

楓：俺も、そういうデートしたことないからしてみたいね。あと、みんなで川とか行っちゃって、バーベキューしちゃって。川でスイカ冷やしちゃったりなんかして。

咲人：いいね。川でニジマスとか釣っちゃったりして？

楓：釣っちゃったりして！

—いいね。では次は、"今、大切なモノ"。

咲人：年齢的に節目を迎えたときの気持ち的なモノかな。2日前くらいに、

—随分と最近の話だね！

咲人：そう(笑)。自分のこの先の人生を考えて、ノートにいろいろと今後どうしていくべきかを書き出してみた。

楓：人生設計だ！

咲人：いや、人生設計まではいかないんだけど、"今後俺はどうしていくべきか"ってのを1人で黙々とノートに書き出した。歳を重ねるごとに攻めの姿勢で生きていきたいなって思ったね。

楓：いっぱいあるな、大事なモノ。親とか犬とか猫とかファンのみんなとかメンバーとか。でもそれは今に限ったことじゃないしね。今となると…晴れた日大事。

—洗濯ものがよく渇くから？

楓：違うわ！　なんでそんな家庭的なの！　晴れだと元気になるんだよね。やる気になる。やっぱ太陽の光浴びると違うね。すごいよ太陽の光って。

—楓は葉っぱのような人だね。

楓：葉っぱと一緒にすんな(笑)！

咲人：太陽の光を浴びないと体内時計がリセットされないらしいよ。第3の目って言われてる松果体ってのが眉毛と眉毛の間にあるらしく、そこに太陽を浴びさせることで体内時計がリセットされるらしい。1日って24時間じゃん。だけど、体内時計は25時間周期らしくてちょっとずつズレて行くんだって。

楓：なるほど。ちゃんと太陽の光を浴びることでリセットされる訳だね（納得）！

ご飯食べるのが面倒くさくなっちゃって食べないから、そこはちゃんと食べるように習慣づけたいね。

楓：歯で唇とか噛んじゃう癖がある。ピアスとかあるから、アニアニ(口をパクパクするような仕種をして見せる)しちゃうんだよね。その癖を止めたいのと、無意識にプレステのスイッチを入れてしまうこと！　そこは閉じ込めたいね！

—"たった一度だけ"っていう言葉から。やっちまった告白をしてみて。

楓：すっげぇ酔っぱらって帰って、玄関を入ったとこでおもいっきりコケて、トイレのドアノブに頭ぶつけて青あざ出来たの…。その一部始終をウチの犬2匹が"何してんの？"っていう目でジーッと見ててめちゃめちゃ恥ずかしかったんだよね。1週間くらいアザ消えなかったもん。実は国際フォーラムのライヴのときもまだアザがうっすらと残ってたからファンデーションで隠してもらったんだよ(笑)。

咲人：この前久々のオフの日に、夕方突然お寺に行きたくなって車で出かけた訳。でも、お寺って閉まるの早いじゃん。だからかなり慌てて行ったんだけど、ナビがすごく遠回りな道を教えてきたから、遠回りしちゃって間に合わなくて閉まってたっていう。で、結局近くで蕎麦を食って帰ってきた……。

—ま、蕎麦食べにいったと思えばね。

咲人：そこまで美味しい蕎麦じゃなかったんだよね。

—どんまい(笑)！　それぞれが思い描く"御伽の国"は？

咲人：過剰な装飾が一切無い真っ白な国。

楓：「ナルニア」みたいな国がいい。人間だけじゃなく、動物とも会話出来る国で、文明のために都会もあるんだけど、自然もいっぱいあるっていう。

—動物が喋れたら、酔っぱらって玄関で転んでトイレのドアノブを頭にぶつけてたら、おもいっきりココアとセラに"アンタ、アホちゃう？"って言われるよ。

楓：間違いない(笑)！　でも、ほら、そしたら相談できたり同意を求めたり出来るじゃん。"ね～、なんでこんなとこで転んだのかね？　俺って馬鹿だね"って！

—"口ずさむ"っていうワードから。ナイトメアの曲でよく口ずさむ曲は？

楓：よく口笛で吹くのは「FANTASIA」。

—"ありがとう"というワードから。お互いにありがとう言ってみて。

咲人：そういうの照れくさいよね。でも、いろんな意味で、毎回笑いを提供してくれてありがとう。楓が居てくれると張り詰めた空気感がなくなるというか。昨日も結構ピリピリした現場だった中で突然"なめこ育てようかな～"って楓が気の抜けたような声でボソッとつぶやいたから場が和んだっていう(笑)。

楓：そうだったね(笑)。あんのよ、アプリでなめこ育てるのが！　かなり地味だけど、楽しいんだよ。今育て中。

—気持ち悪くない？　なまこって。

楓：なまこじゃないから！　なめこ！

—あぁキノコか。地味だなそれ(笑)。楓から咲人へのありがとうは？

楓：RUKAさんにももちろんだけど、咲人は曲を作ってくれる大切な役割をしてくれている人だし、本当に音楽面に関してもバンドを統括してくれている現状にしても感謝してる。咲人がこうやって舵を取ってくれたからこそ今のナイトメアがあると思うしね。

—"愛しい"から。メンバーの愛しいところを言って。まずはYOMI！

咲人：善くも悪くも馬鹿なとこ。わざと馬鹿を演じてくれているところもあるのかとも思うけど、いや、やっぱあれは本物の馬鹿だね(笑)。

楓：同感。一緒にラジオやってるけど、ボン・ジョヴィのことジョヴィって言ったからね、ラジオで。"外人だから名字と名前逆さまでしょ？　え？　ジョヴィじゃないの!?"って……これ素だから。ま、そんなとこが愛しいね。Ni～yaはゾジー（YOMI）とRUKAさんがじゃれあってたり馬鹿な話してるのを遠くからニヤニヤして聞いてるとことか。

咲人：Ni～yaは裏表がまったくないところが愛しいところだと思う。

楓：RUKAさんは寂しがり屋なとこが可愛らしいとこかな。でも、たまに究極のかまってちゃんのときがあるから、そういうときは対処に困るね(笑)。よく変顔してるし(笑)。俺のiPadにRUKAさんの変顔画像が保存してあるんだけど、それ見て"FACTみてぇだな"って言ってみたり(笑)。

—いや、それFACTに失礼だし(笑)、それ以前にFACTは能面だし……。

楓：そうなんだよ(笑)。でも本当に

な。表情筋の何処に力入れてるんだろ？ってまじまじと見ちゃう。

—楓は？

咲人：ありがとうの下りでも言ったけど、面白いことを提供してくれているつもりはないんだけど、結果面白いことをしてみんなを笑わせてくれてるとこかな。

楓：この前Ni～yaに、"楓の是見てるだけで笑える"って言われたからね！　え？　なんでだよ！　普通だろっていう。

—幸せを運んでるね楓は(笑)。じゃあ、咲人の愛しいところは？

楓：オンラインゲームの中で、敢えてアニメの言葉でチャットしてきたりするところは愛しい(笑)。ネット系の言葉でチャットすると、ちゃんとネット系の言葉で返してくるからね！

咲人：俺、ネチズンだからね。

—今一番"希望"するのはどんなこと？

咲人：1番でもないけど、海外でライヴしてみたいとは思う。

—行きたいんだ！　行かないのかと思ってた。

咲人：日本を疎かにしてまで行こうとは思わないけど、勉強になると思うしね。

—そうだね。そうだ、ナイトメアには約1名大の飛行機嫌いが居ますからね。

楓：そう(笑)。ウチのノッポさんが大の飛行機嫌いだし行きたがらないんで。

—まったく困ったヤツだねRUKAは。では、"教えてくれないか"から。メンバーに聞いてみたいと思っていることは？

咲人：ゾシーさんがどうしてあんなに馬鹿なのか？っていうことを聞いてみたいな。でも、天才と馬鹿は紙一重っていうし……そうなのかな？　リアルバカボンのパパなのか？

楓：そこが一番の謎だよね。しかし……ラジオで長谷川を"はちょやがわ"って読むのと[illegible]馴染みを"ようくそめ"って読むのだけは勘弁してほしいかな…。

—ナイトメアのこれからの"歴史"、絶やしたくないことは？

咲人：メンバー同士が仲悪くならないことかな。[illegible]最低限守りたいね。

楓：でもケンカしたことないよね。ファンとの距離かな。ずっと近い距離でいてあげられたらいいなと思

杂志迷 zazhimi.com

interview

YOMI×Ni~ya×RUKA

―せっかくの組み合わせなので、まずはシングル「SLEEPER」でのお互いのホメどころを語り合ってもらいたいなと。

RUKA：…いいぞっ。

Ni~ya：“ホメさせてやってもいいぞ”ってことだ(笑)。まず、デモが上がってきたときから、何となく今みたいなニュアンスのベースが入ってて、俺はそれをヒントにアレンジしたんだけど、大元があるとイメージしやすいし、RUKAさんはもともとベースをやっていただけあって、すごくやりやすかった。あと、リズム隊としてただ合わせやすいっていうことじゃなくて、自分がフレーズを生み出すときにヒントとなるドラムを叩いてくれるから。やっぱり、ドラムあってのベースだし…。

RUKA：俺あってのNi~yaだしな。

Ni~ya：うん(笑)。だから、ホメるっていうか、すごく助かってる。

―お、好発進じゃないですか。

YOMI：…ホメるの⁉ ホメるの苦手なんだけど…フレーズがどうこうっていうより、リズム隊はすごく音が良いと思う。

RUKA：ちょ…待てよっ。

YOMI：え、そういうことじゃなくて？

RUKA：その前に、一番お前が俺をホメなきゃいけないところ、あるだろっ。俺の曲のおかげで、お前は良い思いができてるんだぞ⁉

YOMI：いやいや、曲はもちろん良いって。とりあえず、スランプ抜けてくれたようで安心しました。

RUKA：お前に安心されるような人生、俺、送ってない。っていうか、なんで上からなんだよっ。しかも、ホメられてないんだけど⁉

―あれですかね、ホメられない理由があるとか、ホメたくないとか、そういうことなんですかね。

YOMI：そんなそんな！ じゃあ、Ni~yaをホメよう！

―まさかの強制終了…。

RUKA：そういう人間だよ、ゾジーさんは。Ni~yaはあれだよね、最近、ベース録りが早い気がする。

YOMI：自主練習の成果ですかね。

RUKA：1日かけて1曲録るやつは、発言するな。

Ni~ya：あなたに時間をいっぱい使ってもらうために、俺はパッパと終えてるんだよ。

YOMI：もう、サンキューサンキュー。

―愛ですねっ。

YOMI：やっぱり、そういうのに甘えてるところ、あるかもねぇ。

RUKA：…自分で言うのか⁉ ゾジーさんに対して“かわいかったです”“カッコよかったです”っていうファンレターを送ってくる人たち、みんなビンタしたいもん。

―目を覚ませと⁉ ま、どうやっても愛されキャラなんでしょうね。

Ni~ya：うん。ズルいよねぇ。

YOMI：ま、Ni~yaはさ、俺とは違って、毎回ちゃんとフレーズ考えてたりするから、見習うところがいっぱいありますよ。

RUKA：…っていうかさ、ゾジーさん以外はみんな考えてるのに、何で俺のときにはそういう話が出ないわけ⁉ もう、矛盾だらけだよ。メロディが良いとか、歌詞の言い回しがどうとか、そういうの、ないわけ⁉

YOMI：あ、そういうことか！ あるある。「SLEEPER」の最後、あそこはグッドジョブだね、RUKAさん。

RUKA：だから、なんで上からなの⁉ ま、ゾジーさんはさ、政治家みたいなヤツだね。とりあえずやるっていうんだけど、やらない。

―やるやる詐欺的な⁉

RUKA：そうそう。

Ni~ya：ゾジーのスゴイところは、何を言っても“大丈夫！”って言い切れるところだよね。実際は大丈夫じゃないのに(笑)。そこは、ホメるっていうか、マネできない。

YOMI：…だって、そう聞かれたら“大丈夫”って言うに決まってるじゃんっ。

RUKA：それもスゴイ話だろ。一時ゾジーさんが総理大臣になったら変わるかなと思ったけど、やっぱダメだな。ちょっと面白くなって終わるだけだ。ま、歌録りのとき、こっちとしてはいつノドが壊れるかわからないから、まずサビから録ってほしいんだけど…前は、アホみたいに頭から通してずっと歌ってて。それがホメるに値するかどうかはわかんないけど、よくずっと歌えるなとは思ってた。牛みたいだよね。赤いものにしか向かえないっていうか。

―でも、ノド的にも精神的にも、相当ガッツがありますよね。

YOMI：ま、根性だけでやってきたところはあるからねぇ。

RUKA：…っていうほど、根性ないけどな。根性ある人は、ギター捨てないでしょ。

YOMI：…ロックンロール！(笑)。

Ni~ya：ロックンロールは“ド”がわかるから。

RUKA：ホントだよ。まったく、変な下ネタばっか覚えてさぁ。

―もう収拾つかないので、ここまで。「SLEEPER」の3曲の歌詞から、いくつかフレーズをピックアップして聞いていきます。それぞれが思い描く“御伽の国”は？

YOMI：ねずみの国。

Ni~ya：俺、地元。

RUKA：秋葉原。

―三者三様ですね。“閉じ込めた”という言葉から、それぞれの封印したいクセや弱点があるとしたら？

YOMI：性欲っ。

―そんなに⁉

RUKA：お盛んだよ、ゾジーさんは。

Ni~ya：スゴいよなぁ。

YOMI：やっぱ、抑えきれないところがあるから…自分で制御できるようにしたい。Ni~yaくんも、性欲でいいですか。

―道連れにしてはいけません。

Ni~ya：そうだよ、俺は違うって！ どうだろう…最近、酒飲んでもブッ壊れないしなぁ。

YOMI：確かにね。

Ni~ya：あ、だらしないところかな。部屋掃除はまだ好きなんだけど、洗濯、食器洗いが嫌い。料理するのは好きだけど、洗うっていうのが嫌いなんだな。

RUKA：俺、人嫌いを直したい。打ち上げとかさ、人のいるところに行くのが、ホントに嫌いで。だから、友達がびっくりするぐらい増えないの。

―寂しがり屋なんだったら、友達はたくさんいたほうが良いのに。

RUKA：そうそう。昔はそうじゃなかったんだけどね。

YOMI：大丈夫だよ、俺がいるって！

RUKA：……。

―次。“たった一度だけ”の後に、言葉を続けて文章を作ってください。

Ni~ya：“たった一度だけ”ではないけど…今年の頭に、ファンクラブライヴでパートチェンジをしたのね。あれ、またやりたい。

YOMI：わりと俺も頑張ったよ、ギター。

RUKA：俺、ベース。

Ni~ya：俺はギターだったんだけど、すげぇ新鮮だったよね。

―ファン的にも、是非また観たいところでしょう。ナイトメアの曲で、気付いたら“口ずさむ”曲といえば？

Ni~ya：俺…ないかもしれない。

RUKA：「VERMILION」のイントロのギター。

YOMI：「Lost in Blue」。♪消えたい〜消えない〜♪って、ちょっと明るい感じで口ずさんじゃうんだよね。

Ni~ya：明るい気持ちでって…どういうことなの⁉

YOMI：たぶん、自分的にゴキゲンなときに歌いたくなるんだと思う。

RUKA：選曲間違えてるだろ。

―確かに(笑)。今一番“希望”するのは、どんなことですか。

RUKA：金持ちっ。

Ni~ya：確かに。

YOMI：あと、彼女。

Ni~ya：っていうかさ、ゾジーはずっと彼女要らないって言ってたじゃん。

YOMI：それは、自分に言い聞かせてるから。でも、心の底では欲してるんだよ。彼女ができたら、ちょっとはちゃんとするかなって。

Ni~ya：それは、彼女がいてもいなくても関係ないでしょ。自分自身の問題だから。

YOMI：あ、そっか。じゃあダメだ。はははは！

―Ni~yaさん、鋭い(笑)。では、“教えてくれないか”と思っていることは？

RUKA：モテ方。ま、モテ方はわかってるんだけど。外に出さえすれば、いきなり付き合うことにならなくても、友達にはなれるわけじゃん。

YOMI：RUKAさんはそこさえクリアすれば、俺とNi~yaより女性の気持ちをわかっていそうだもんね。

RUKA：Ni~ya、ゾジーさんに女心がわからない人扱いされてるよ？

YOMI：え、わかるの⁉

Ni~ya：…うん、たぶん。

YOMI：ホント⁉ 俺、全っ然わかんない。ちょっと、教えてよ。

―続きは後でやってください(笑)。今一番“大切”なものは？

YOMI：俺は…友達も大事だけど、メンバーとどっち取るかっていったら、メンバーだと思う。

RUKA：とかいって、俺が溺れてたら絶対助けないよ、ゾジーさんは。

YOMI：助けるって。

RUKA：俺は…家族かな。

Ni~ya：俺も。

RUKA：今持ってる力で、バンドか家族、どっちか救わなきゃいけないんだったら、やっぱり家族だよ。血の繋がりだからね。

Ni~ya：うん。同意。

―では、ナイトメアのこれからの“歴史”を、どう導いていこうと考えていますか？

YOMI：ガツンと売れるのとさ、今の状況を保ちつつカッコイイことをやるの、どっちが良いと思う？

Ni~ya：ドカンと売れてめっちゃ稼いでも、続かなかったら意味ないしね。それに、田舎者はお金持ったらダメだと思う。

RUKA：ゾジーさんなんて、絶対ダメだよね。絶対、良くないことに金使うよ。それに、スゲェ売れても、惰性になっちゃうなら他のことやったほうがいいって思うし。

―どうなっても、自分たちらしい音楽を作り続けて、自分たちらしく在られなければ意味がない、ということですよね。

Ni~ya：もちろん。

RUKA：この人たちのファンってどこにいるの？って思われたらイヤだしね。“この人たちが好きなのもわかるわ”って言われたい。

YOMI：そうだね、うん。そういう歴史になるように、俺も頑張ります!!

(問)「伊達漢」〒162-0831東京都新宿区横寺町32 TR神楽坂Bld.　TEL 03-3268-7213(受付時間・平日12:00〜18:00)　http://www.nightmare-web.com/

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

http://xxxrecords.jp/speeddisk/

華乱舞

(木) 高田馬場AREA

-Vertex- / キッド / THE VELVET
rick break / 他

TART 17:00 ADV ¥ 3,000 / DAY ¥ 3,500
チケット Lコード(77245)

(金) 高田馬場AREA

OY / Crazy☆Shampoo / SWEET MADONNA
NOCTURNAL BLOODLUST / VURNY / VOICE

TART 17:00 ADV ¥ 3,000 / DAY ¥ 3,500
チケット Lコード(77245)

(木) 名古屋ell.FITS ALL

AT YOU ALIVE / ダウナー / DecoLa Hopping
OWDS / Vanish / BAELSCOPE

TART 17:00 ADV ¥ 3,000 / DAY ¥ 3,500
ぴあ Pコード(147-196) ローソンチケット Lコード(43940)

(金) 大阪FANJ twice

ヴ / EAT YOU ALIVE / Called≠Plan
ecoLa Hopping / NOISY CROWDS

TART 17:00 ADV ¥ 3,000 / DAY ¥ 3,500
チケット Lコード(52368)

Ap(r)il

ヴェルテクス-Vertex-

キッド

THE VELVET

SPUN!

brick break

ASTRO BOY

Crazy☆Shampoo

SWEET MADONNA

ダウナー

NOCTURNAL BLOODLUST

VURNY

VOICE

EAT YOU ALIVE

DecoLa Hopping

NOISY CROWDS

Vanish

BAELSCOPE

イヴ

Called≠Plan

DEAR

蝴蝶网 hudie.com

SHOXXスペシャル企画

オリジナル・フォトカード 応募者全員サービス!!

ご希望のフォトカードを1枚、
応募者全員にサービスしちゃいます
全部で21パターン。
応募券1枚でご希望のフォトカードを
1枚あなたのお手元に!!

ナイトメア

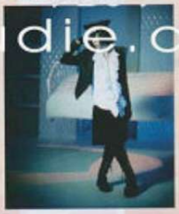
A-1:YOMI

A-2:柩

A-3:咲人

A-4:Ni~ya

A-5:RUKA



hudie.com

Alice Nine

B-1:将

B-2:ヒロト

B-3:虎

B-4:沙我

B-5:Nao

イヴ(ViViD)

C-1

C-2

総史(少女-ロリヰタ-23区)

D-1

D-2

maya(LM.C)

E-1

E-2

DOG inTheパラレルワールドオーケストラ

F-1:春

F-2:準々

F-3:ミズキ

F-4:メイ

F-5:緩菜

●応募に必要なもの(応募方法が少し変わりました。よく読んでご応募願います。)
- 80円切手2枚(お客様が編集部に送信する封筒に貼るもの&返信用封筒に貼るもの)
- 定形封筒2枚
- 応募券(このページの左下にあり)

【応募方法】
①フォトカード(9cm×13cm)が入る大きさの定形封筒(定形外の封筒での応募は無効になります。ご注意下さい)2通と、80円切手を2枚用意します。
②1通の封筒に80円切手を貼り、表にあなたの住所、氏名を記入。封筒の裏には希望のフォトカードのナンバー(例えばナイトメアのYOMIであればA-1)のいずれか1つを大きく書いてください。この封筒は、編集部から応募者に写真をお送りする返信用封筒になります。
③②の返信用封筒をもう一通の封筒に入れ、あて先のヨコに応募券がはがれないようにしっかり貼って、右記の住所まで送ってください。

zazhimi.com

【あて先】
〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックス5F 株式会社 音楽社 SHOXX編集部 文月のフォトコーナー●係(●の中には返信用封筒に書いた希望フォトカードナンバーを必ず書いてください。例えばナイトメアのYOMIであればA-1)。

【締め切り】
2011年9月21日(当日消印有効)

【発送】
2011年11月下旬からになります。12月10日になっても届かない場合は12月31日にご連絡ください。※12月31日以降のお問い合わせは、対応できない場合がありま
(03-3574-0205/月~金 11:00~18:00)。

【お願い】
- 希望のフォトカードナンバーが未記入の場合はこちらで選んだパターンを送らせていただき
- 応募券のコピーは不可です。コピーの場合は無効になります。
- 応募券1枚につき一通のご応募でお願いします。複数お申し込みのお客様はその数応募でお願いします。
- 発送は日本国内のみになります。海外への発送は出来ません。
- We do not ship outside of Japan.

SHOXX VOL.224
長月のフォト
応募券

SHOXX

これからは送料０円

新刊のSHOXXを発売前に予約して、

送料無料で自宅のポストにお届けします!!

パソコン・携帯電話・スマートフォンで予約

↓

コンビニでお支払い

↓

自宅のポストにお届け

詳細は、■パソコン

http://www.ongakusenkasha.co.jp/

■モバイル【音楽せんか？】

http://mobile.ongakusenka.com/

【INFORMATION】制作 / 発行（株）音楽専科社
〒104-8228 東京都中央区銀座 6-2-3 Daiwa 銀座アネックスビル 5F
TEL:03-3574-0201 FAX:03-3574-8548

【お問い合わせ】音楽専科社 :03-3574-0201 (平日 月～金 10:30 ～ 19:00)
hanbai@ongakusenkasha.co.jp
©2011 ONGAKUSENKASHA | All Rights Reserved.

Y-YARD

YOSHIMOTO CREATIVE AGENCY Y-YARD

V-ROCK AUDITION

YOSHIMOTO CREATIVE AGENCY,音楽マネジメントセクションによるVISUAL ROCK
専属マネジメントチーム「Y-YARD」が今秋、活動をスタート!! シーンを目指す新たな才能を求めていきます!!

ヴィジュアルROCKアーティストを長年メジャーレーベルや、マネジメントとして手掛けてきたスタッフによるプロフェッショナルなアーティスト育成を行っていきます。オーディション実施に伴い、ROCKシーンにおけるメジャー音専誌やメディアへのプロモーションの活路が開かれます。 さらに「Y-YARD」より各メジャーレーベルへのプレゼンテーションを行います。

募集要項

一次選考 応募方法は２通り!!

1 **郵送の場合**

■音源：ご自身のバンドで演奏された楽曲1～２曲入りのCD-Rをご用意ください。
■写真：バンド全体の写真、各メンバーの写真(バストサイズ、全身サイズ)をご用意ください。
■ライブ映像：生演奏されたLIVE映像入りのDVDをご用意ください。
※ただし、YOUTUBE等にライブ映像をアップされている場合は、そのURLを記載した書類をご用意いただいても可。
■プロフィール：バンド名、メンバー名、H.P URL等、バンドについて分かる資料をご用意ください。
上記を同封して以下の住所までお送りください。

株式会社YOSHIMOTO CREATIVE AGENCY CO.,LTD.
エージェント本部　マネジメントセンター　音楽担当　宛
〒160-0022　東京都新宿区新宿5丁目18-21　TEL：03-3209-8205

2 **データ転送の場合**

専用ホームページからデータでお送りください。 http://www.y-yard.jp/ をアクセス

参加資格：応募にあたり、現在レコード会社・音楽出版社・プロダクション等と契約していないこと。
締め切り：郵送の場合、2011.10.31消印有効　データの場合、2011.10.31中にアップロード完了してください。

※お送りいただいた書類並びに音源等ご返却は行いません。予めご了承ください。 選考の結果は、原則として通過者のみへの連絡となります。

そして 最終選考に残ったバンドは…

2012.3月都内ライブハウスにてプレゼンテーションライブ開催!!

最終選考を通過したバンドは…
YOSHIMOTO CREATIVE AGENCY VISUAL ROCK マネジメントチーム「Y-YARD」にて専属契約。

お問い合わせ　株式会社YOSHIMOTO CREATIVE AGENCY CO.,LTD.　エージェント本部　マネジメントセンター　音楽担当　宛
〒160-0022　東京都新宿区新宿5丁目18-21　TEL：03-3209-8205

YOSHIMOTO STAR GAT

杂志迷 zazhimi.com
hudie.com

the GazettE

the GazettEを解明する5つのKEYWORD

8月31日にドロップする「REMEMBER THE URGE」。今回は「REMEMBER THE URGE」の詞世界や、歌詞から連想されるキーワードで彼らのパーソナルな一面に迫りつつ、10月5日にリリースされる最新アルバム『TOXIC』、そしてその後のツアー[LIVE TOUR 11 VENOMOUS CELL]についてもヒントとなるものを探るべく話を訊いた、最新キーワード・インタビューをお届けする。

Interview: YUKI SUGIE

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

REMEMBER THE URG

にさそらえ、バンド活動を始めたころの自分と比べ、音楽的な面で今の自分が変わったと思う部分、また変わらないと感じている部分について教えてください。

RUKI：変わったのは、曲の作り方かな。昔はあんまり、ライヴを想定しないで作ることも多かったですからね。生で歌ったときにブレスがどうなるかとか、そういうことも無視して曲を平気で作ってました。自分の中で変わってないのは……コード感のような気がします。好きな音の響きとかコード感っていうのは、ほんとに昔から変わらないですね。

——では、麗くんはいかがでしょう。

麗：音楽に対しての基本的な姿勢とか、思いとかは多分あんまり変わってないですね。純粋に、まず楽しむっていうのが自分の中では大事なことなんですよ。変わった部分があるとすれば、ここまでずっとやってきた中で、いろいろ学んだことでノウハウを得られたことなんじゃないかと思います。

戒：俺も、ドラムが好きっていう根本の部分は全然変わってないなぁ。ただ、聴く音楽の幅に関してはすごく広がりましたね。そこは[illegible]の影響が大きいんですよ。このドラ[illegible]良いから聴いてみれば[illegible]みたいなことが、けっこうあるというか。

RUKI：そこは、半ば強制的に聴かせてるっていうところもあるけど（笑）。

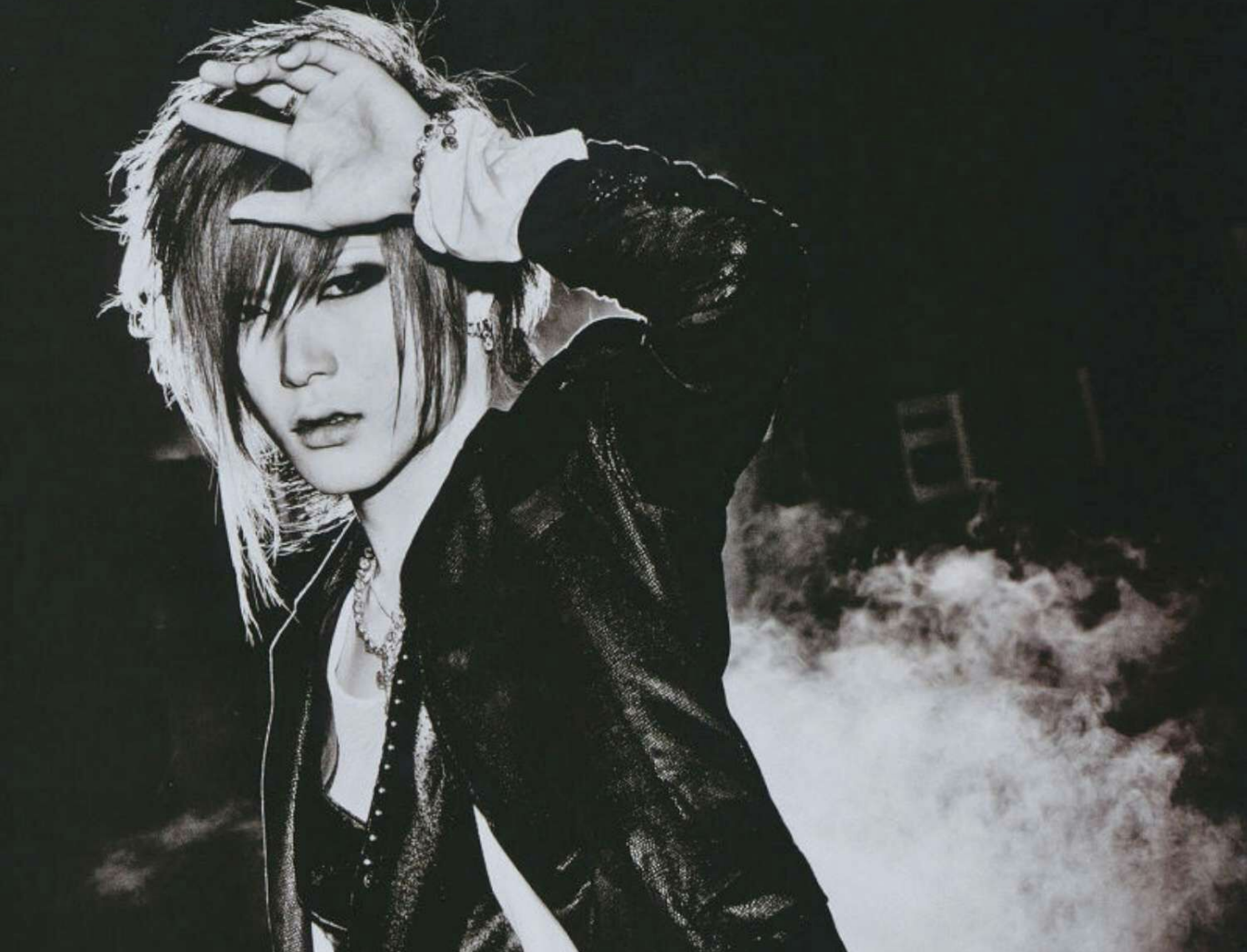
戒：だけど、おかげで自分にとってはそういうのがすごく良い勉強になってます。

れいた：影響か……。そういう意味じゃ、昔の自分には全くそういうところって無かったな。音楽も面白いからやってきて、っていうだけの話でしたもん。ちゃんとした目的意識が出てきたのは、人前でライヴをやるようになってからだと思います。だけど、それでも昔は過度な期待とかってしてなかったですけどね。特に、周りのメンバー[illegible]

れいた[illegible]（笑）。それはこのバ[illegible]て、昔やってたバンド[illegible]校生の頃は、誰と自分た[illegible]デオを観ながら、他のメ[illegible]「コイツのここが気にな[illegible]」よくそんな話をしてた[illegible]

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com



想像」に身を投げる君へ 「REMEMBER THE URGE」の歌詞より

麗：あったね、そういえば（笑）。

れいた：今思えば、自分だって別に人のことをどうこう言えるほどのレベルじゃなかったんですけどね（笑）。だから、音楽に対してちゃんとした意識を持ってやるようになったのは、やっぱりこのバンドを始めてからだろうなぁ。

葵：俺も、わりとそうですね。最初はみんなで音を出すのが楽しいっていうだけで始まってて、まさかその頃は自分が本当に"こっちの世界"に来ることになるなんて、全く思ってもみなかったですね。なんなら、the GazettEを始めてからも最初の頃は絶対プロになりたいとか、そこまでは思ってなかったくらい。今の事務所入ってからですよ、ちゃんとしたヴィジョンを持つようになったのなんて。

――葵くんは、ある意味で慎重派だったのかもしれませんね。

葵：ううん、多分怠けてただけ（笑）。麗の家でみんなで曲作りやってんのに、俺だけバイト行ったりして、そっちのほうがバンドより優先になってたんですよ。

麗：でも、そもそもウチで作った曲って1曲しか無くない？

RUKI：そっか、「別れ道」だけか。

戒：「BEST FRIENDS☆」もでしょ？

麗：あれは、RUKIの家。

RUKI：あー、気が付いたらみんなが寝ちゃってたときね。

れいた：次の日レコーディングだっていうのに、みんな寝ちゃって起きたらRUKIだけが作業を続けてたんだっけ（苦笑）。

RUKI：みんな、最悪でしょ。コイツら、全然ベストフレンドじゃねーやーって思いましたけどね、アレ（笑）。

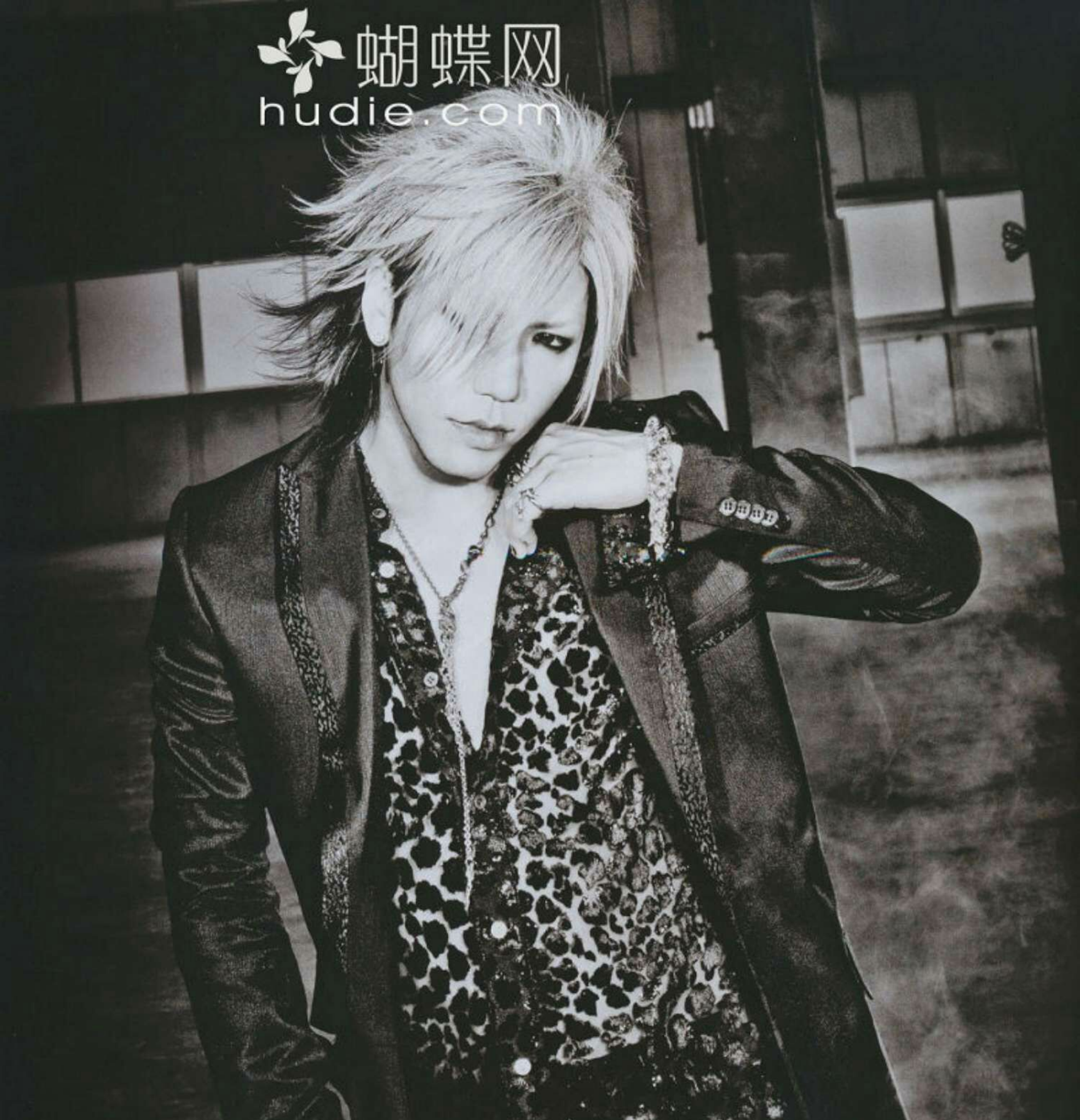
――バンドを始めた頃の自分に向けて、今の自分から何かアドバイスを。

れいた：アドバイスはしたくないです。だって、ちょっとでも過去が変わっちゃって、今のthe GazettEが無くなっちゃったら困るから。

――なるほど、タイムマシーン理論的なお話ですね。

れいた：でもまぁ、要するに好きなことを好きなようにやればそれでいいんじゃ

杂志迷
zazhimi.com


蝴蝶网
hudie.com

3 此処は暗くて何も見えない「REMEMBER THE URGE」の歌詞より

――バンドの中で壁にぶつかった際、みなさんは[illegible]してきましたか？ RUKI[illegible]の面で壁にぶつかる[illegible]ありますけど、バンドの[illegible]たことってほとんどない[illegible]。仮にぶつかった

人生もバンドも、なるようにしかならないじゃないですか。

戒：でもなー。俺なんかは、〝もっと練習しとけよ〟って言えるんなら言いたいよ。当時はヘンなこだわりがあって、自分に必要ないと思う叩き方は、特に練習しなくて良いと思ってたんです。友達とサッカーしてるヒマはあったんだから、〝ナメたこと言ってんじゃねー。黙って練習しとけ！〟って、アイツにはキツく言っておきたい。

葵：ただ、結局そういうことっていつか自分で気付くしかないんだよね。仮に、人に何か言われてそのときは〝ふーん〟って思ったとしても、それって単に分かった気になってるだけのことも多いでしょ。何事も、自分で経験して発見していくのがいちばんですよ。

麗：その感覚はすごく分かる。誰に何を教わることもなく、自分なりにここまで考えながらやってきた中での今があるから、過去の自分にかける言葉っていうのは特に無いんですよ。今でも、知りたいことは人に訊かずに自分でまず調べることが多いです。

RUKI：難しいねぇ。過去があるからこそ今があるっていうのも事実だし、でもやっぱ言えるならこのバンドを始めた頃の自分には、とりあえず言っておきたかったこともあるんですよね。〝おい、ちょっと自由過ぎるぞ！〟って。

れいた：あれはほんと、いろいろすごかったからなー（笑）。

葵：今でもちょいちょい、ネタになるくらいにね（笑）。

RUKI：ドラムからヴォーカルに転向して、あれこれ模索してたあのハングリー精神は今でも評価できるんですよ。でも、当時やってたことのクオリティーは完全に否定したいですね。髪型もヘンだったし。動画サイトにあがってる映像とか、全部抹消したい（苦笑）。

杂志迷
zazhimi.com

OXIC

としても、そういうときこそ攻撃的になって障害を力づくでも排除しようとするんじゃないかなぁ。

葵：最終的には、"やるしかない"ってなるよね。[illegible]っていうもの自体、自分に[illegible]があってできちゃってる[illegible]し、あと、曲作り[illegible]詰まったときなんかは[illegible]ダラダラ悩んでるくらいなら、思い切って「明日はモードが切り替ってるといいな！」って[illegible]ちゃうのもアリだと思う。

麗：自分にとって過去いちばんの壁は、『NIL』（アルバム）を出す前後で、the GazettEっていうブランドがどんどん加速していった時期で、動員とかバンドの勢いはどんどん増していくんだけど、それに対して自分たちの力量がちゃんと伴ってないんじゃないか？っていう不安があったんです。音楽的な部分ではその頃は特に[illegible]もされてなかったと思うんで、でも具体的にどうしたらいいのか、あの頃はまだ自分じゃよく分かってなくて、それは、相当精神的に[illegible]かった[illegible]

——その壁は、結果どうやってブレイクスルーしたのですか？

麗：とにかく、バンドの音を良くするしか先に進む方法は無いなって、そこは覚悟しましたね。俺がミュージシャンとして本当の意味でのスタートを切ったのは、きっとあの時期でした。

れいた：俺からすると、その[illegible]て実は大きな壁ってそんなに無かったんじゃないかな、っていう印象[illegible]そのときはいろいろ大変[illegible]しれないけど、どんなときも[illegible]乗り越[illegible]たし、今と[illegible]うよ[illegible]です。

戒：[illegible]れ[illegible]俺もよ[illegible]いること[illegible]音楽[illegible]んだし[illegible]プライ[illegible]曲作[illegible]んかも[illegible]に[illegible]ったり[illegible]るんで[illegible]ことで[illegible]だけに[illegible]いっ[illegible]すよ。

——来月号では、待望のアルバム取材を予定しております。それに先駆け、予告

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

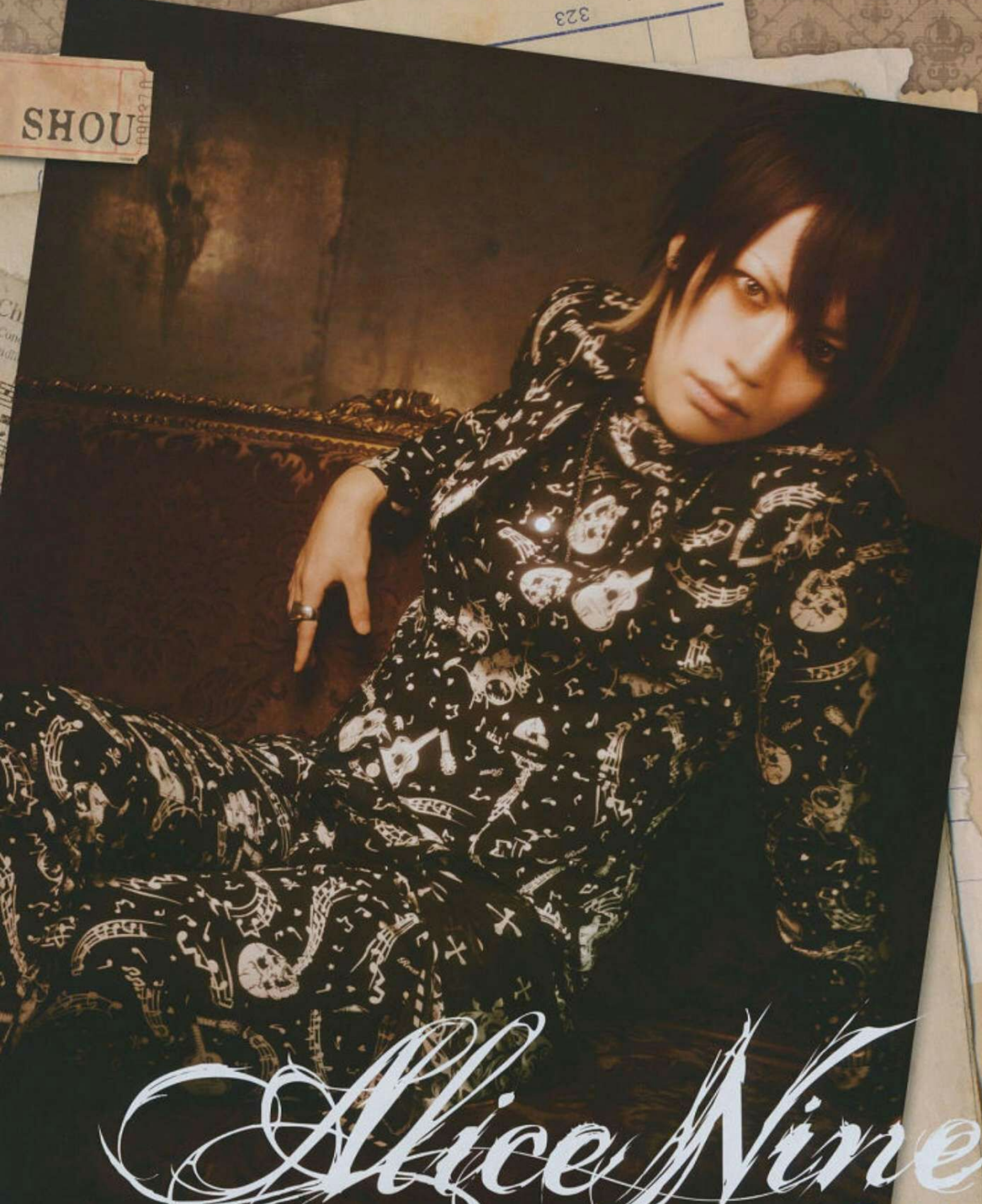
蝴蝶网
hudie.com

てる曲たちがあるじゃないですか。今回のアルバムには、それに取って代わるような曲たちが入りました。
葵：しかも、いわゆる暴れ曲たちが進化してるんだよね。単にガチャガチャしてるわけじゃなく、音源として聴いたときにも面白いことになってるんです。中毒性のある音になってます。
れいた：ヤミツキ、ってやつでしょ。それって音楽には絶対必要だよね。
麗：今回は、音がすごく濃いんですよ。聴いてるうちに、その濃い音が毒として皆の全身に廻っていったら理想です。
戒：みんなからすると、"いつアルバム出すんだよ！"ってかなり待ってたと思うんですよ（苦笑）。でも、その期待と思いには充分に応えられる作品が出来たんで、あともう少しだけ待っててください。
RUKI：このタイトル通り、有毒というか、むしろ邪悪で有害と言っていいくらいのヤバい音になってるんでね。the GazettEとしての、意思表示になってることは間違いないです。

LIVE TOUR 11 VENOMOUS CELL

――アルバムを引っ提げてのツアーについても、一言頂けると嬉しいです。
葵：まだアルバムも出てないのに、気が早いな（笑）。今年はほら、夏にイベントもあるでしょ。だから、そこで得た刺激なんかも踏まえて、自分でもまた何処まで行けるか楽しみです。
麗：相当気合い入ってますよ。アルバムのクオリティーが上がった分、ライヴでのプレイもよりシビアになってきますけど、ツアーが始まるまでには仕上げて臨みたいと思ってます。
戒：やるからには、アルバム・ツアーならではの深い世界を皆にしっかり堪能させられるように頑張ります。
れいた：ツアーでやって、初めて曲が動[illegible]り立[illegible]ってであります[illegible]ね。[illegible]曲も一本一本大事にし[illegible]ます。
RUKI：[illegible]やってみないと……っていうと[illegible]けど、今想像してる段階[illegible]なすごいことになっていく[illegible]イカツイところ、見せつ[illegible]

杂志迷
zazhimi.com



Alice Nine

Heart of Gold

止まらず、走り抜ける様な疾走感

現時点での最高傑作『GEMINI』で生み出したAlice Nineの景色。そこへと向かう道のりの中で見つけ出した新たなるAlice Nineの個性は、美しくメロディアスな旋律と、激しいロックサウンドの融合であった。更なる一歩への幕開けと呼べるこの変化は、この先、どんな形(作品)となって私たちに届けられるのだろう？アルバムの流れとは別ベクトルと言ってもいい「Heart of Gold」は、シングルを意識した1枚

Hair&Make-up ASANUMA (Deep-End, Ltd)

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

HIROTO

はない、キラキラしたロックチューンだね。例えるならば、昔のAlice Nineのポップ要素の強いロックに近い。

虎：疾走感のある感じの曲が欲しかったんですよね。もともと最初の段階では、カップリング曲の「Ray」を表題曲でいこうって話だったんですよ。改めて選曲会をやったときに「Heart of Gold」をちゃんとした形にして持って行ったら、みんなにこれで行こう！って言われて。でも、自分的には表題曲を狙って書いた曲でもなく、ただそのときに自分がこういう曲やりたいなって思ったことを素直にやった曲だったんで、みんながそう言ってくれるならそれは嬉しいし、じゃあぜひ表題曲で！って感じでしたね。そこから表題曲としてより立つように、みんなで揉んで行ったって感じです。「Ray」は、みんな的にもこういう曲をシングルで出したいねって話になっていたので、そのままカップリングとして残したんです。

ヒロト：ハードロックな気分じゃなくなったとか、バンド的に方向転換するとかそういうことではなく、この時期に出すシングルだったらっていう流れからこの2曲に決まった感じというか。タイミングだったりするんですよね。

――あ、"ハードロックはモテない。"って誰かに言われたからなのでは（笑）？

虎：そんなこと「BLUE FLAME」の取材のときの余談で話したね（笑）。

沙我：言ってた言ってた（笑）。"ハードロックはモテへんで"って言われたけど、ホント？って誰か聞いてたよね（笑）。

ヒロト：僕だ（笑）。「BLUE FLAME」なんてハードロックを意識した曲作りの中で生まれていった曲だったし、まさにハードロックな気分なときでもあったから、"え!? そうなの!?"って（笑）。

Nao：モテないよりモテたいからね！

将：メタルならモテるんですかね？

――私にはモテるけど、一般的にはハードロック以上にモテないと思うな（笑）。

一同：（爆笑）

――でも、Alice Nineのハードロックはコアに突進んでいるだけじゃなく、大衆性もある新しい世界観だと思ったから、突進んで大丈夫だと思うけとね。

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

沙我：そう言ってもらえると嬉しいですけどね。やっぱモテたいし、夏だし、今回は疾走感のあるストレートなロックでっていう心境だったんですね、きっと（笑）。

Nao：花火も行きたいしね！ 夏っぽい曲いいなって。

ヒロト：（笑）。たしかに、最近のシングルの流れとは少し毛並みが違うかもしれないけど、「Heart of Gold」の原曲は結構前からあったんですよ。

虎：原曲を作ったのは今から1年くらい前で。俺的にはこの曲のイントロがすごく気に入ってて、このイントロの感じを使ってなんとかカッコイイ曲に出来ないかなって思ってたんで、イントロは変えずに、曲調を変えた曲を何パターンも作って選曲会に持っていってみたんです。

——あのイントロこそ疾走感そのものだもんね。全力で走っているとこをバーン（いきなり抜いてフィーチャーして写す感じ）するみたいなドラムで。

虎：あの感じが好きだったんです（笑）。

将：「Stargazer」の頃からこの曲も「Rax」も原曲はあったんですよ。だから、ここに来ていきなりの方向転換って感じではなく、もともとAlice Nineが持っていた個性のひとつを打ち出したって感じなんですよね。

ヒロト：「Heart of Gold」は、「GEMINI」の中に入れようかって話も出たくらいでしたからね。でも、「GEMINI」の中に入れるのは違うかなってことで引っ込めたんですよ。

虎：この曲の代わりに入ったのが「KING&QUEEN」でしたからね。

Nao：曲調が全く違うっていう（笑）ってことは、つまりそういうことだったと。

——なるほど。前に沙我様が"アルバムの流れを期待してほしい"って言ってたもんね。

沙我：そうなんですよ。俺的に、アルバムって、そのときのバンドの方向性が色濃く出るモノでもあると思うんですよ。その中にシングルも入る訳なんで、この曲たちが次のアルバムの中でどういう進化を示してくれるのかがすごく楽しみでもありますね

杂志铺
zazhipu.com

蝴蝶网
hudie.com

ディーがいいロックというか、バンドサウンドとしてカッコイイ、キャッチーでメロディーのいいロックっていうのがやりたかったんですよね。イントロが鳴っただけでお客さんのテンションが上がる曲を、シングルでもっと増やしていきたいなっていうとこでもありましたね。自分が子供の頃に行ってたライヴって、シングル曲が聴きたくて行ってたし。そういうシングルを増やしていきたかったんです。

虎：「Heart of Gold」は、聴いてる間中ずっとワクワクしていられるような曲にしたかったので、今回はギターソロもないし、シンセも入っていないんです。抑揚をつけるんじゃなく、1曲を通して止まらないでずっと走ってる感じにしたかったんで。

ヒロト：ここ最近は、より個性を立たせる感じの掛け合いのギターフレーズが多かったんだけど、今回は久しぶりにユニゾン系のギターでしたからね。息ピッタリでしたよ、気持ち悪いくらい（笑）。

Nao：案外ドラム簡単なんです！ そこがいいんですよね、この曲。今回腕をクロスしていないですからね！ 今回のDVDすごいんですよ！ 初回盤のBタイプには、マルチアングル映像が入っているんで、各メンバーのプレーがまじまじと見れるんです！ ドラムなんて、普段客席からは見えないアングルばっかりが詰め込まれてますからね。きっと、あ、Naoさんドラム叩いてる！って思ってもらえるはずです！

ヒロト：初回盤Aの方にはPVが入るんだけど、そこでは虎氏が初のギター回しプレイをしてるので、そこも必見です！

将：タイトルの"Heart of Gold"って"美しい心を持ちなさい"っていうことわざというか言いつけみたいな意味なんですけど、いろいろ[illegible]くことが多かったり荒んだ考えにな[illegible]の頃だったので、そういうときこそ自分の美学をしっかりと持って、周りに感化されないように生きなくちゃいけないなと思って書いたんです。

虎：「Ray」の方は、とにかくバンドでやる曲というとこより、まずはいいメロっていうことを意識して作った曲だっ

杂志迷
zazhimi.com

NAO

たんで、自分の中では完全に歌モ[illegible]
――でも、こっちの方が個々の音が[illegible]たせてあるバンドサウンドだよね。
ヒロト：それぞれの音が粒になっ[illegible]えてくる感じもあるし、フィー[illegible]れてる部分もあるし。ギタリスト[illegible]りたいことを詰め込んである[illegible]フレーズ自体は簡単なんだけど、[illegible]作り方だったり、サビのタイム感[illegible]りっていう細かいこだわりが[illegible]歌メロを立たせるためにどういう[illegible]を弾いたらいいかを考えて弾きま[illegible]
沙我：サビを8分にするか16分のノリにするかどうかを悩んだ曲でもありましたね。もっとアメリカンな感じにな[illegible]思ったんですけど、面白くなりましたね。AメロからBメロにかけてのノリとサビのノリが違う印象なので、そこが面白いと思いますね。
Nao：細かいハイハットを炸裂させたかったのをグッと我慢した曲でした！ 特にDメロの間が好きです。あのアクセントを合わせるのがなかなか難しいんですよ。でも、ピタリと合ったときの気持ちよさが最高なんです！ そういう意味では緊張が走る1曲ですね（笑）。
将：この曲の歌詞は記憶の中の温かい気持ちに焦点を当てた内容です。優しいや温かい記憶が光に包まれてる感じを表現したくて「Ray」っていうタイトルにしたんです。
Nao：今回3曲目には、今回「ハイカラなる輪舞曲」が入る訳ですが、ぜひ昔の「ハイカラなる輪舞曲」と聴き比べて頂きたい！ってことは、昔のこの曲も買ってほしいっていう（笑）。ライヴの定番曲としてやってきた曲だったこともあってかなり息が合ってるし、最高のグルーヴ感が出てるんじゃないかなと。
将：前シングルには「[illegible]（G3）」を入れてたんですけど、今回は3曲目に昔の曲を現[illegible]形で収録し直して入れていこうと思ってるんです。この曲も7年前の曲ですよね。
――昔の曲を今の[illegible]再現するのってすごく成長が解るから[illegible]
将：そう。随分7年前とは違うというか、『劇的ビフォーアフター』みたいなことになってます（笑）。現在のAlice

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

葵 Aoi

symmetry

Photography: TAKAHIRO YAMA
Interview: NAOKO TAKE
Hair&Make up: FUMIE NOZA
Styling: YUSUKE MINEGISHI (ro

1月19日に1stアルバム『ONE』をリリース
シングルでは見せきれなかったヴォーカリス
葵の魅力を存分に届けてくれた葵が、早くもミ
アルバムを届けてくれるという。そのタイトル
『symmetry』。白と黒という対照的な出で立ちの
が意味するモノとは？　葵、初となるコンセプト
ニアルバム。『symmetry』という言葉と6曲（通常
のみ7曲）に込められたその想いを訊いた。

蝴蝶网 hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

2つの想い・2つの心・2つの顔・2つの…

―9月14日にリリースされるミニアルバム『symmetry』はデジタル色の強いロックがオープニングを飾っているよね。1曲目の「symmetry」、2曲目の「beauty girl」も、すごくデジタル色の強いロックだなと。

「そうですね。たしかに頭の2曲はデジタルロックになってます。今回は、初のコンセプト・ミニアルバムでもあるんですけど、楽曲的にデジタルロックに寄せたっていうつもりはないんです。アレンジとマニュピレーターをex.FEELのIPPEIさんにお願いしていることもあって、ロックっぽい楽曲は、デジタル色が強くなっている感じなんです。IPPEIさんは今までも「MI DA RA」や「Surrender Love」のアレンジもやって頂いたりしてるんですが、作曲者や編曲者によって随分曲が違った印象になるんだと思うんですよね」

―なるほど。そこも面白さではあるよね。ソロの自由さというか。

「そうですね。なので、今回も本当にいろんな曲調があるんですよ。たしかに、今言ってもらった頭の2曲はデジタルロックっぽいですし、他には和っぽい曲も、ミディアムバラードもあるので、すごく幅広いと思いますね」

―しかし、今ちょっと葵くんの発言の中で驚きがあったんだけど、初のコンセプト・ミニアルバム？ コンセプトを立てて作品を作るのが初ってこと？

「そうなんです。ここまでコンセプトを決め込んで作るのは初なんですよ。意外ですか（笑）？」

―うん。葵くんの曲は1曲1曲がコンセプチュアルでもあるから、意外に思うのかな？

「あ、そうかもしれないですね。たしかにそれはあるかも！ 1曲1曲はコンセプチュアルですからね（笑）。シングルを作るときも、アルバムを作るときも、最初からコンセプトをここまでガッチリ決めこんで作るっていうことが、今までなかったんですよね。今回はジャケットの写真も含めすべて、トータルコーディネートしてあるので。SHOXXのオリジナル写

んです。本当にここまでガッチリコンセプチュアルにまとめたのは初なので、そこも含め、楽曲を楽しんでもらえたらと思いますね。楽曲としても激しいモノと静かなモノの差が激しいので、そういう意味では対極にあるモノだと思うので。タイトルも、1枚目のアルバムが『ONE』だったこともあって、今回は2をテーマに「symmetry」にしたんです。『ONE』というタイトルは、初心に返るとか、最初の一歩という意味の1だったんで、今回は2枚目ということもあり、2をテーマにしたんです。そこで思いついたのが対極性で。だからこその「symmetry」なんです。タイトル曲でもある1曲目の「symmetry」の歌詞も、まさにsymmetryをコンセプトに書いたモノで。誰にでも迷うことってあると思うんです。たとえば、どっちの道に進むべきか、どっちを選ぶべきかって。そのとき、どっちを選んだにしても、選んだのは自分だし、後悔してほしくないなって思ったんです。その道を選んだからこその現在な訳だし。って、こんな偉そうなこと言ってる僕自身も、後悔することだってあるし。けど、今の自分を作ったのは今の道を選んだからだって、それを前向きに思える力を持ってほしいなと思って書いた歌詞なんです。迷うことは当たり前で」

―なるほどね。この曲ではラップも入ってたことも新鮮だったよ。

「そこは死ぬほど大変でした（笑）。やっぱりチャレンジでもあったので。またひとつ出来ることが広がりましたね」

―「beauty girl」は、キャッチーながらもマイナー感のあるサウンドで。

「そうですね、そこがちょっとポイントというか。この曲は珍しく振り付けがあるんですが、テンポが早いんでかなり難しいですね。実はこの曲と「Break out」と「pray」は配信でリリースしていたモノなんですが、盤にしてほしいというリクエストが多かったこともあって今回入れたんです。「beauty girl」の歌詞は、後悔する前にためらって先に進まないのは違うと思う、っていう人生観を歌ってます。例え進んだ先が自分が思い描くモノじゃなかった

いを書きました」

―「愛は陽炎」はいきなり和テイストな楽曲だよね。

「はい。和メロは元々好きだったので、和を基調としてみたんです。この曲は、実は別の曲とシンメトリーになっているんです。Jリーグ・モンテディオ山形のチーム初の年間公式テーマソングだった「夢の彼方へ」がこのミニアルバムと同日に全国流通することになったんですが、そのシングルのカップリングの「涙リフレイン」っていう曲とシンメトリーになっているんです。「涙リフレイン」の歌詞は、そこに出て来る男女の男性側の目線から書いた歌詞で、今回の「愛は陽炎」は女性目線で書いた歌詞になっているんです。そこで2面性を出してみました」

―なるほどね。「ふたり」は？

「今、文化放送でレギュラー番組をやらせて頂いているんですけど、担当してくれている方がご結婚されることになって。その人に向けて、僕なりに曲を作らせてもらったんです。これは、結婚＝ふたりというところでのシンメトリーが出来ているんです。一個人に対して曲を作ったのは、ソロになってから今回が始めてなんです。僕は結婚していないので、結婚というものがどういうものなのか、結婚生活がどういうものなのかは解らないんですが、ただただありふれたおめでとうの歌は作りたくなかったので、僕なりのメッセージを込めたんです。なので、ちょこっと"結婚ってよく解らないけど"みたいな後ろ向きな表現もあるんですけど、ふたりが幸せになって僕に結婚の意味、幸せの意味をいつか教えて下さいっていう想いだったりするんです。それに、きっとその人も初めての経験で、戸惑ったりつまづいたりすることもあるだろうから、そういうときに聞き返してもらえる歌になってくれたらいいなと思って書きました」

―不思議と、こういうパーソナルなメッセージも、多くの人の心に深く刺さるモノだったりするからね。これも新しい挑戦だったってことだね。「Break out」は疾走感のある激しい曲だね。

ないかな。この曲と「beauty girl」は、春ツアーの前にライヴで盛り上がれる曲が欲しくて作った曲だったんです。この頃から、自分の中で葛藤してる人たちにメッセージを贈れたらいいなっていう気持ちが強くなり始めたんです。「Break out」は付き合っている彼女に対して、自分を大きく見せようとする彼氏のことを歌っているんです。自分以上の自分を演じることで人を愛するより、ありのままの自分で愛する方がいいっていうことを書いたんです。自分を着飾っているモノすべてを壊していこうぜ！っていう強い歌です」

―なるほど。「pray」は「Break out」の激しさとは対極だね。

「この曲は3月11日の東日本大震災を受けて、想いを綴らせて頂いた曲です。配信での収益は全額支援金として寄付させてもらったんですけど、どうしても歌詞を見ながらじっくりと聴いてもらいたい1曲でもあったので、今回入れることにしたんです。この歌を歌うと、改めて自分が歌えている幸せを感じますね。このアルバムを引っさげてのツアーもあるので、全国にこの曲に込めた想いを届けていきたいと思いますね」

―この曲のイントロのギターって、12弦っぽいすごく綺麗な音だね。

「そうですね、すごくクリアな音ですね。シンセの音も被っているので、より透明感を感じるのかもしれないですね。イントロだけを聴くと、すごくスローな曲に思うと思うんですが、意外とテンポ感があって。いろんな葛藤の中で歌った曲だけど、しんみりするんじゃなく、光に向かう強さも感じてもらえたらいいなと思います」

―「かけがえのない君へ」は通常盤のみに収録されるんだよね。

「はい。これは葵という自分自身の対極であるファンの人へのメッセージソングでもあるんです。僕が存在していられるのもファンのみなさんの存在があってのことなので、そこをシンメトリーと考えてこの曲を書いたんです。まさに、"かけがえのない君"はファンの人たちのことですね。今、何も包み隠さずに書いた素直な僕の想いです。」

1st Mini Album『symmetry』2011年9月14日ON SALE

〈初回プレミアム盤〉
全6曲　CD＋DVD
[Nini Album「symmetry」Making Off Shot＋葵の"素"]
¥2,800（税込）

〈通常盤〉
全7曲　CDのみ
通常盤のみボーナストラック1曲収録
[初回生産限定：着せ替えジャケット（3Typeランダム封入）]
¥2,200（税込）

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

Presonal Series Part.4
If I do not become a musician…

IV from ViViD
イヴ

fighter

大好評をいただいている、ViViDパーソナル・企画。毎回、『もし、ミュージシャンになっていなかったら…』をテーマに、メンバーそれぞれがミュージシャンになっていなかったら就きたかった職業を体験――。第四弾となる今回は、Ba.イヴが満を持しての登場です。日々、己の肉体と精神を鍛え上げる事を常としている彼が、その鍛え抜かれた肉体美を惜しげもなく披露してくれたグラビアは必見。また、インタビューでは"あまのじゃく"だと言う自分の性格や、"本当の自分"について…などなど、じっくりと語ってくれています。イヴの知られざる一面を目にする事ができるかも…。

Photography:HIROE YAMAUCHI (PROGRESS-M)
Interview:YUKA

杂志尚
zazhipic.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

「こういう写真、ずっと撮りたかったんで…ありがとうございます!!」
——ホント、驚きの肉体美ですが…ミュージシャンじゃなかったら、やっぱり格闘系の道に進みたかったですか?
「夢はボクサーでしたね。小学生のころやってた『ガチンコ・ファイトクラブ』っていうプロボクサーを養成する番組に影響されて、中学生になってからボクシングを始めたんですよ」
——男の子ってそういう傾向はあると思いますけど、強い人への憧れがあったということですかね。
「そうですね。兄貴も自衛隊高校に行ってたし、父はプロのキックボクサーだったし。俺が産まれたときには引退してましたけど、父の昔の話を聞いて、カッコイイなって。そういう身近な人に限らず、強い人はカッコイイなと思ってましたね」
——であれば、戦隊モノなんかも好きだったんじゃないですか?
「好きでしたねぇ」
——中でも、好きなカラーは?
「俺、なぜか緑だったんですよ」
——強い人に憧れてるなら、わかりやすい赤かと思いますけど…意外なものですね。
「そういう誰も選ばないようなものが、昔から好きなんですよね」
——もしかして、あまのじゃく?
「そうそう、めっちゃあまのじゃくです。いまだにそうですね」
——今、あまのじゃくな自分が発動するのは、どういうときですか。
「たとえば、金髪にするじゃないですか。〝金髪いいですね〟って言われると、なんか変えたくなっちゃうんですよ。〝こっちのほうが似合ってるよ〟って言われるのも、なんかイヤだし」
——ファンから多くの声をもらうだろうし、多様な意見もあると思うんですけど、そういう中で、イヴさん的にはどうバランスを取っているんでしょう。
「そこは、自分の好きなこと、やりたいことを、人の意見を受け容れずに貫くっていうのが大事ですね。たまに、〝昔のほうが良かった〟って言う人もいるんです

のほうが良いのかな〟と思って、ガリガリになろうともしたし、かわいい感じのキャラを作ってたんですけど…素の俺を出してみたら、案外受け入れてもらえて。今の俺は、何も作ってないし、ホントの俺です」
——なんと潔い。
「それでも、〝かわいい〟って言われることはあるけど、性格もヒネくれてるし、あまのじゃくだし…ホント、まったくかわい気はないですからね」
——とはいえ、童顔ですし…やっぱり、ジレンマはあります?
「ありますよ。カッコよく見せようと頑張るけど、顔はどうしようもないし。写真のイメージでライヴを観に来た人に、〝怒ってたんですか?〟って言われたりもするんですけど…」
——あ、アグレッシヴな動きを観て。
「そうそう。でも、それが俺ですからね。かわいいっていうのは、勘違いです(笑)。なので、そこはギャップと思っていただきたいですね」
——それなら、良かった。迷いはないですね。
「俺、あんまり迷わないんですよ。基本的に、自分が良いと思ったら、すぐ行動に移すし」
——ということは、音楽を始めるときも、すぐ行動に移しましたか。
「早かったですね、切り替えが。高校のとき、諸事情でボクシングを続けられなくなっちゃったから、中学のころからなんとなくやってた音楽を本気でやり始めて。自分的には、プロの格闘家になれると本気で信じてたんで、すごくショックではありましたけどね」
——挫折感はあったけど、そこで助けてくれたのが、音楽なわけですね。
「そうそう。もともと好きだったものだし、どんどんのめり込んでいきましたね。軽音楽部にも入って」
——最初からベースですか?
「中学のときはドラムでした。そこしか空いてなくて(笑)。ま、ドラムもカッコイイなとは思ってましたけど…ふと、〝なんで俺、陰に隠れてるなんだろう〟って。で、高校からベースを始めたんです」

ターですじゃないですか?
「あ、ホントはギターがやりたかったんですよ。っていうか、最初はギターとベースの差がわからなくて。でも、一緒にバンドをやろうとした仲間がギターをやりたいって言ってから、〝じゃあ俺、ベースでいいや〟って。安易なノリです(笑)。ヴォーカリストになりたいっていう考えは、なかったんですけどね」
——一番目立つのに?
「え…歌、ヘタだから(苦笑)。自分の声が好きになれてたら、ヴォーカリストになってたかもしれない」
——元来、目立ちたい人なんですかね。
「〝目立ちたがり屋だね〟って、昔からよく言われます。先陣切って何かやるとかじゃないんですけど。中学のときも、絶対に勝てるっていうことを見越して、いろんな競技の中から足の速さを活かせる1000メートル走を選んだりして。ちょっと腹黒い感じな目立ちたがり屋っていうか(笑)」
——さりげなく目立つっていうのも、オイシイですからね。ちなみに、今、イヴさんが思うベースの楽しさとは?
「俺の場合、ViViDが楽しいから、その延長線上でベースが楽しいっていうか。ViViDになるまでは、自分を成長させるためにバンドをやってたから、逆にベースのほうが楽しかったかもしれないけど。今は、バンドがあるからベースを弾いてるし、もしViViDがなくなったら、ベースをやらないかもしれない」
——それほど、ViViDの存在は自分の中で大きいわけですね。
「うん。それに、信じてましたからね、売れるって。22歳までに芽が出なかったらやめようと思ってたんですけど」
——一般的に大学卒業をする歳までには、ということですよね。
「そう。Ko-kiと俺でViViDをやろうっていう話になったのが、高校卒業ぐらいのタイミングで。俺は大学行かないでバンドを続けるんだから、じゃあ22歳を区切りにしようと。そこまでにAXできなかったら、やめるつもりでした」
——有言実行!! しかも、AXどころ

人たちを見れば、俺ぐらいの年で武道館に立ってる人も多いし…ヴィジュアル系の枠で考えたら若いのかもしれないけど、芸能界で考えたら若くないんですけどね。本気でバンドをやろうと思って、親の反対を振り切って16歳のときに家を飛び出したんですけど、結果的には良かったなって」
——飛び出したとき、不安はなかったんですか。
「なかったですね。そこも、あまのじゃくなんですよ。人と違ったことをしたいから、それもまあいいかって。昔から、どうせ死ぬんだから楽しく生きなきゃって思ってますからね。だから、サラリーマンになるぐらいなら、経営者側になりたいし」
——すごく野心家なんですかね。
「あ、めっちゃ野心家ですよ、俺。持ってないものを欲しくなるし。お金をいっぱい手に入れて、親孝行もしたいですからね」

んじゃないですか?
「そういうところ、あるかもしれないですね。これまで、すごく濃かったですよ。ま、失敗もありましたけど、ひとつひとつ好きなようにやってきたこととか、ひとつひとつの行動力が、繋がって今になってると思います」
——行動力や挑戦欲、向上心が絶えない人だからこそ、体もここまで鍛えられるわけですね。
「すぐ成果が出るわけはないし、日々の積み重ねですからね。男として憧れられるのがすごく嬉しいし、ファンの男の子に、〝イヴさんみたいになりたいから筋トレや楽器を頑張ってます〟とか言われると、俺も頑張んなきゃ、って思いますよ」
——そこは、あまのじゃくじゃないですね。
「うん、そこは素直です。っていうか、プレッシャーですけど(笑)。ま、何かにストイックになるっていうのは、肉体にしろ、音楽にしろ、繋がってますから

COMPANY Co.,Ltd.
-0064 東京都杉並区永福4-19-17 1F
www.pscompany.co.jp/vivid/

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

SHOXX × 少女-ロリヰタ-23区 lolita 23q 特別コラボ企画

私立23q学園物語 ～Birth～

Photography:TAKAHIRO SUGANUMA
Interview:ERI MIZUTANI
Hair&Make-up:SHUKO OHDAIRA
協力:ESPミュージカルアカデミー

今号より始まった、本誌と少女-ロリヰタ-23区との特別企画！　全4回となる予定のこのシリーズは、【私立23q学園】に通う5人の少年が、バンドを結成し、学園祭の舞台へ立つまでを追った、青春ストーリー(?)。第一話では、放課後一人で弾き語りを行っていた総史(23q学園・2年A組)が、バンドをやりたいと思い立ち、メンバー探しを始める決意をするところから始まる——。果たして、メンバーは無事見つかるのか？　乞うご期待!!　そして、インタビューでは、学生時代の"部活動"の想い出話を語って貰いました。

第一話
始まりの瞬間(トキ)
～総史編～

蝴蝶网 hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

都内某所に存在する【私立23q学園】。
そこに通う総史(2年A組在籍)は、軽音部に所属し、放課後は学園近くの公園や駅前で弾き語りを行っていた。
歌う事が大好きで、大好きな歌を一人で歌っているだけで満足だった彼。
が、たまたま訪れたライヴ・ハウスで、とあるロック・バンドのライヴを目にし、バンドの魅力にハマってしまう。
『バンドがやりたい!』と、メンバー探しに立ち上がるのだが…。
ほぼ帰宅部と化している軽音部には、目ぼしい生徒は一人もいない…。
あとは情報を頼りに、楽器の演奏が出来る生徒を、他の部活から引き抜いてくるしかない…。
果たして、総史は無事メンバーを見つけ、バンドを結成する事が出来るのだろうか?

蝴蝶网 hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

――総史さんは学生時代、何の部活に入られていたのです？

「元々、親から勧められて地元のサッカークラブに入っていたということもあり、小・中・高、ずっとサッカー部でした」

――てっきり、テニス部かと。

「えっ、そうですか？」

――テニスの王子様っぽい感じなので。

「あはは（笑）。親としては、僕を健康児に育てたかったみたいで。それでサッカークラブへの入部を勧められたんです。けど、入ったときは大変だったんですよ。どうしてもリフティングができなくて。続けたところで、本当にうまくなるものなのかなって疑問に思いましたからね」

――そう思ってしまうのも無理ないです。

「しかも、小3から始めたので、もっと前からやっているメンバーと比べても断然劣っていて。それもあって、ずっと試合にも出られなくて。当時はそれがすごくイヤでしたね。せめて練習試合には出させてくれよって」

――やはり、レギュラーメンバーというものは、よほどのことがない限り変わらないものですか。

「そうですね。だから、何で自分はサッカーを続けているんだろうって考えたりもしたし」

――ちなみに、ポジションは？

「キーパーです。とはいえ、最初からキーパーというわけではなく。守りにしても攻めにしてもあまりにも起用されないものだから、だったらキーパーでお願いしますって自ら名乗りあげて。ところが、これが功を奏して。そこからレギュラーにもなれて試合にも出れたんですよね。で、小学校卒業と同時にサッカークラブは辞めて、中学校で普通にサッカー部に入りました」

――サッカークラブを続けていこうとは思わなかったんですか？

「うまい奴は続けていったんですけどね。僕はそこまでうまくもなかったので、それなら普通に部活動としてサッカーを楽しむ方が向いているかなと思い、サッカー部を選びました」

――ポジションは相変わらず、キーパー？

「それが、違うんですよ。ここでは何と、フォワードです（笑）」

――ずいぶんと変えてきましたね。でも、

蝴蝶
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

キーパーで慣れてしまっているだけに、なかなかうまくいかなかったのでは？
「ところが、最初に出た試合で、3点も入れたんですよ、僕」
――おぉ～、今、さりげなく自慢しましたね（笑）
「ふふふ（得意気）。そこから、サッカーの面白さに目覚めました」
――さぞかし、女子にもモテたのでは？
「それはもう～（またも得意げ）」
――ちょっとは否定しましょうよ（笑）。
「いや、ほんとにモテたんで（笑）。でも、何より嬉しかったのは、仲間がたくさんできたことですね。今振り返ってみても、楽しかった思い出ばっかりです。けど、楽しんでやれた中学校時代とは違い、高校は完全にプロ指向で。そこで、上には上がいるなぁって実感しました。その頃、音楽にも興味を持ち初めたんですよね。結局は、音楽の楽しさが勝ってしまい、サッカー部は途中で辞めることになるんですけど……」
――結果オーライだと思いますよ。もしも、サッカーを選んでいたら、今の総史さんはいないわけですし。では、最終的に、部活を通して、総史さんが学んだことって何でしょう？

蝴蝶网
hudie.com

「バンドをやっている今にも通じるところはあるんですけど、何かの目標に向かって突き進むこと、誰かと協力して1つのことに向かう姿勢っていうのは、サッカーをやっていなければ学べなかったことだと思います」
――もう一度学生時代を過ごすとしたら、またサッカー部に入りたいですか？
「やりたいです。でも、軽音部に入って思い切り歌いたいかな。僕、文化祭のカラオケ大会で優勝したことあるんですよ。それまでドヤ顔で歌っていた出場者が真っ青になるぐらい盛り上がって（笑）。だから、もう一度、文化祭で歌ってみたい！」
――それいいですね。ところで、何の曲を歌って優勝したんです？
「ドラゴンボール！」
――あ、そっち（笑）？
「僕、何気にアニソンうまいんですよ」
――ぜひ聴きたいです。
「いいですよ、機会があれば（笑）」

zazhimi.com

SHOXX×少女-ロリヰタ-23区・特別コラボ企画【私立23q学園物語～Birth～】

都内某所にて行われる、私立23q学園・学園祭に、SHOXX読者様をご招待!

今号を第1回目とし、計4回のシリーズ作となる予定の「SHOXX×少女-ロリヰタ-23区・特別コラボ企画～【私立23q学園物語-Birth-】～」。この、シリーズのページ内に付いている応募券を4号分全て集めると…。なんと！来春、都内某所にて開催予定の、「私立23q学園・学園祭（LIVEメイン）」に、ご招待いたします！（応募多数の場合は抽選とさせていただきます。惜しくも抽選に漏れてしまった読者の皆様にも、素敵なプレゼントをお送りさせていただきます）。諸々の詳細は、順次発表して行きますので、毎号、お見逃しありませんように♪

★シリーズ掲載予定号
第1回：SHOXX Vol.224（2011年8月20日/今号）
第2回：SHOXX Vol.227（2011年11月21日）
第3回：SHOXX Vol.229（2012年1月21日）
第4回：SHOXX Vol.231（2012年3月21日）
※掲載号は諸事情により、変更になる場合がございます。その場合は、音楽専科社HPまたは少女-ロリヰタ-23区HP内でお知らせいたします。

★文化祭予定時期
2012年5月中旬～末
※開催時期は若干の変更があるかもしれません。ご了承下さい。

★文化祭予定場所
都内某所

●「-NEO TOKYO EMPIRE-」9月23日赤坂BLITZ　（問）Twenty Three Tribe　東京都港区高輪3-4-13　レフォルマ高輪5階　http://www.lolita-23q.com

OXX・アリーナ37℃に掲載された全記事をまるごとパッケージ!!

仙台貨物FILE

永久保存版

絶賛受付中!!
締切間近

着5,000名様に
リアルナンバーカード封入
両面ポスター付き!!

“の宅配便”仙台貨物の
”が分かってしまう(!?)
ンプリートファイルがここに誕生!!

し込み方法】

替かPCもしくは携帯電話(一部対応していない機種
ます)からのお申し込みになります。

便振替をご利用のお客様

くの郵便局に備え付けの郵便振替用紙に必要事項を
の上、定価に送料を加えた金額(1セットの場合は
00円)をお振込みください。
振替口座番号:00170−6−190906
者名:株式会社　音楽専科社
欄:「仙台貨物FILE」と「希望部数」をご記入ください。注意)振込人住所氏名:あなたの住所・氏名
話番号を忘れずに、ていねいに記入してください

、携帯電話をご利用のお客様

ホームページにアクセスしてお申し込みください。お支払いはお近くのセブンイレブン、
ソン、ファミリーマートの各店でお支払いできます。

帯からは>
p://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/shoxx_file_
ndai/index_mob.html

PCからは>
p://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/shoxx_file_sendai/index.html

】1セット:4,100円=3,500円(本体税込)+600円送料
*)発送は1セットにつき600円ずつかかります。
】仕様:A4ワイド・全210ページ
期間及び商品の発送】●2011年7月19日正午12時より受け付け開始
~2011年9月5日消印分にて予約〆切り
発送】2011年9月下旬

払込取扱票

00170-6-190906　4100
㈱音楽専科社
仙台貨物FILE　○部
あなたの住所、氏名、
電話番号

zazhimi.com

/発行:(株)音楽専科社　〒104-8228　東京都中央区銀座6-2-3　Daiwa銀座アネックス5F　TEL:03-3574-0201　FAX:03-3574-8548

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Live at パシフィコ横浜 国立大ホール 2011.7.9

遂に！ 遂に!! 遂にっっ!!! この日がやって来た。そう、我らがヒーロー・癒しの宅配便【仙台貨物】の復活の瞬間――。東日本大震災により、笑顔が少なくなってしまった日本に、少しでも"笑顔"と言うなの"元気"を届けるべく、イガグリ・千葉の呼びかけに、バラバラとなってしまっていた仙台貨物のメンバー、フルフェイス・サティ・王珍々・ギガフレア・KURIHARAが集結し、実現した奇跡の復活ライヴ。……結論から言ってしまうが、この日は会場いっぱいに笑顔の花が咲きみだれていた。そして、仙台貨物の大きくて深い愛は、会場に集まった全てのオーディエンスの心 に刻み込まれたのだった。

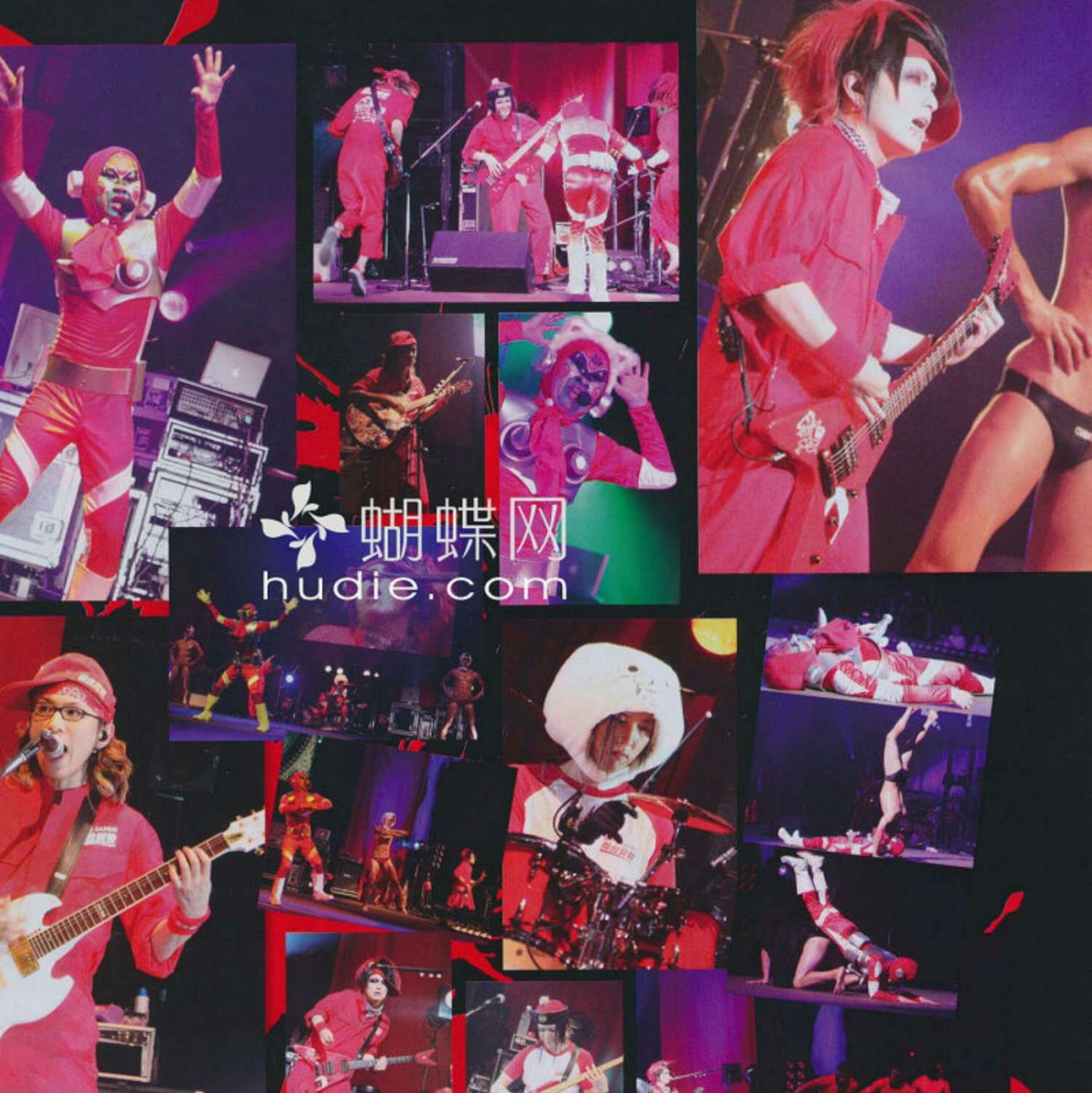
Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)
Report:YUKA SUGIE
協力：COSPA 衣装協力：COSPATIO

仙台貨物

トゥアー2011 HERO

～帰ってきた癒しの宅配便～

杂志迷
zazhimi.com



蝴蝶网
hudie.com

哀しき倒産から、約1年半。癒しの宅配業者が、なんとヒーローになって帰ってきた。

その経緯を極めて端的に、実にドラマティックにまとめたのが、オープニングムービー。実にバカバカしくも、思いの外⁉ ハイレベルな仕上がりで、しょっぱなから腹筋が痛くなるほど笑ってしまった。いや、ホントに。

まず、某映画会社のオープニングロゴのライオンよろしく、"ニャ〜オ〜"と鳴いたのは千葉。続けて、勇壮な『スター・○ォーズ』のテーマに乗せ、3・11以降、国難を憂えていた彼が、日本に勇気と元気、そして笑顔を取り戻すべく、立ち上がったくだりがつらつら。だが、一人ではいかんせん、力が及ばない。かといって、フライデーはこりごり…そこにタイミング良く流れてきたのは、『アル○ゲドン』の感動的な主題歌。そうだ、仲間がいるではないか！ バイク屋にいたフルフェイス。メガネ屋にいたサティ。竹やぶにいた王珍々。秋葉原のおもちゃ屋にいたギガフレア。所在を掴んでいたKURIHARA。奇跡的に、6人が再集結したのだ。そうなれば、出入り禁止なんて怖くない！ この星は俺たちが守る！ ワンモア日本！ ワンモアゲイ！

というわけで、遂に姿を表わそうとする6人。紗幕の向こうで、ちゃっかり戦隊ポーズをキメているではないか。

当然、1曲目は「HERO〜帰ってきた赤いジャスティス〜」。なぜかフルフェイスが光線銃で千葉の股間を狙い撃ち、撃たれた千葉は大喜びというあらなシーンはあったものの、めちゃヒロイックな曲は、今の彼らに相応しい。ちなみに、一人だけ新衣装をあつらえた千葉の出で立ちはといえば、ヒロイックでエロティック。お母さん、子どもに見せられないから。

とにもかくにも、ゲイダンサー8人を加えゲイまみれになった「サタデーナイトゲイバー」。千葉がマイクスタンドを使ってエモーショナルにハジけた「トリ

杂志迷
zazhimi.com

いたことが判明。愛おしそうに再装着する千葉が妙に愛しく思えた筆者は、相当毒されているだろうか。「うまなみで。」の、もしや人類初!? かもしれない台車に寝そべったサティのギターソロに目を見張ったりしていると、悪の秘密結社・ゲイダーが登場。その逞しすぎる体つきがどうもゲイダンサーに見えてしょうがないが、どうやら似ても似つかない、幸せや笑顔を嫌う悪党な様子だ。しかしながら、闘い方は意外にも心理戦。キングゲイダーがバツイチであることを暴露したものの、飲んだ際に王珍々の前でリアル泣きしたことをバラされた千葉、ムダ毛の処理を怠っていることを突かれたサティと、変態戦隊、だいぶ分が悪い。

なんとか立ち直り、オーディエンスを一際沸かせたのは、メンバーがドラムの前に集まり、EX○LE顔負けの[illegible]ルダンスを披露した「キムチ」。[illegible]レアも一番後ろで腕を高々と突き上げて[illegible]いたが、きっと偶然ではないだろう。[illegible]年バンドやってるけど、あんなぬ[illegible]ヴ感ずたの、初めて♥。と、千葉[illegible]悦であった。「カントリーボーイ[illegible]3名のオーディエンスがステージ[illegible]れ、千葉と楽しくダンス。男子も[illegible]千葉の前ではなんて楽しそうなんだ![illegible]ゲイダーとの再対決では、フルフ[illegible]スがハリセンで、サティが卑猥[illegible]葉やマラカスで立ち向かった末、よ[illegible]く仲直り。この間のいろいろなやり[illegible]含め、千葉の面白さは、もはや神がかっていたように思う。

アンコールでは、ねこふんじゃったをモチーフにしたサティのギターソロ、王珍々のスラップが効いた新曲「ネコのTAMAちゃん」も披露。やっぱり、彼らのセンスは相変わらず面白い。

「東北がひどいことになったけど、みんないろいろ協力すてくれて嬉すかったですっ。このご恩は、音楽でみんなぬ返すていきます!!」と千葉は決意表明もした。誰だって笑顔になれて、時には一緒に歌える仙台貨物。実際、今こそ彼らの時代なのかもしれない。

(問)http://www.sendaikamotsu.net/

杂志之
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

AYABIE 流星

0年。夢人、タケヒト、インテツ、KENZOが新たにスタートさせたAYABIEは、この夏メジャーデビューを果たす。メジャーデビュー第1弾として世に送り出すのは「流星」。インテツが生み出した美しいメロと、夢人がそこに乗せた美しい言葉を、夢人、タケヒト、インテツ、KENZOの4人が、エキゾチックな景色に変化させ、切なく聴き手の胸に送り込む。今。AYABIE・始まりの時———。

Report&Interview:NAOKO TAKEICHI

—今回8月24日にメジャーデビューをするＡＹＡＢＩＥに、インテツの故郷でもある台湾からインタビューをお届けしたいと思います。

インテツ：今回ＳＨＯＸＸさんはライヴスとワンマンの取材で台湾まで来てくれているので、音源インタビューも台湾でしちゃいます！

—インテツは昨日おばあちゃんの家に行ってたけど、どうだった？

インテツ：すごく久しぶりだったので、やっぱり懐かしいです。本当に台湾の古いお家なので、すごく風情があるんですよ。やっぱりいいなって思いますね。

—ちゃんと言葉話せるもんね、インテツ。タクシーに乗ったときもちゃんと行き先説明してくれて感動したし。

インテツ：いや、簡単な日常会話くらいしか出来ないですけどね。発音が難しいので大変です。

ＫＥＮＺＯ：インテツは今回台湾に来るとき、みんなと逆だからね。国籍が中国だから、台湾を出るとき出国だったからね。だからインテツ的には今回故郷に帰ってきた感じだった訳で。

—ＡＹＡＢＩＥって国際的（笑）！

夢人：カッコイイよね、メンバーの中に日本人じゃない人が居るって（笑）。

タケヒト：あははは。そうだね（笑）。

—すごく不思議だったんだけど、今回初めて、ライヴで生の「流星」を聴いたとき、音源では和っぽく聴こえたのに、すごくエキゾチックな雰囲気が増して聴こえたんだよね。ストリングスの部分が二胡でも合うんじゃないかって。

インテツ：そうなんですよ。音階がエキゾチックというかオリエンタルな感じなんで、そう聴こえるんだと思います。たしかに音源だと和っぽい印象が強いと思うんですけど、ライヴだと特にそう聴こえるかもしれないですね。この曲は、ＡＹＡＢＩＥのバンド感を出したいなと思って作った曲です。ギターリードが印象的だったりとか、ギターがメロをなぞってる部分だったりとか、全体の構成面だったりとか、ロックバンドだっていうのが音を聴いて思い浮かべられるようなモノにした

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

タケヒト：今回、音色にはかなりこだわりましたね。プレイ面としては、間奏のギターソロ以外はあまり前に出るフレーズを弾かないようにしましたし。
夢人：タケヒトはギターのフレーズで目立つというよりも、バンド全体の中でどういうギターを弾くかにすごくこだわっていたようにも思うし、ギタリストとしてはすごく羨ましいこだわりをしてましたね。完全に一歩踏み込んだギタリストになってるなって、今回改めて思った。
――さっきインテツも言ってたけど、歌メロをギターでなぞっているのもすごく印象的だもんね。
タケヒト：そうですね。フレーズをごちゃごちゃと入れていくより、コード感を出すということが重要だなって最近思っているところでもあって。
夢人：みんながすごくバンドサウンドにこだわった1曲でもあったと思うんですよ。KENZOにしても、今回すごく音色にこだわっていたから、スタジオまで指定してましたからね。
KENZO：最近は機械でなんとでもなっちゃうけど、スタジオで音って全然違うからね。今回の曲ってデジタルな同期で全面を被って裏打ちしてっていう曲でもなかったし、インテツがバンド感を出したいって言ってたのもあったんで、んじゃとことん音色にこだわってバンド感出して行こうよってとこでもあったんだよね。
――なるほどね。ストーリー性のある流れと、生のバンドサウンドに乗った歌詞はすごく叙情的でもあるよね。そもいい。
夢人：うん。ちゃんとメロと曲の流れを考えて、お話っぽくなるように書いたんですよ。日本の夏――。みたいな。タイトルを付けるときも、インテツに相談したんだけど、なんか自分的にインテツくんがこの歌詞を読んでくれて思い浮かべてくれるのは、ド頭に出て来る「流れる星」っていうとこなんじゃないかなと思って言ってみたら、"僕もそう思ってた！"って言ってくれたんで、「流星」にしたんです。そういう気持ちの一致ってすごく嬉しいですよね。
――それ凄く解る。そこってセンスだし、お互いの気持ちが1番繋がってることを示すモノでもあるからね。
夢人：そう。やっぱバンドってそういうモノだと思うからね。1人でやってる訳じゃないから。
インテツ：夢人くんとタイトルの話したあの瞬間はすごく嬉しかったです。楽曲でストーリー性を感じさせるのは、今回一番こだわった構成でもありました。頭にサビがあって、その後ストリングスでの展開があった後にバンドインするっていうところが1番のこだわりでした。ピアノとストリングスで世界観に引き込んだ後でバンドで聴かせていくというのをやりたかったんです。
――「Lilia」はKENZO曲ですが。曲のイメージはちょっとマイナーなのに、歌詞はすごく幸せを感じるよね。
KENZO：歌詞は胸がキュンってなる、切なくて淡い系の恋って感じだよね。これね、曲自体は3年前くらいからあったんだよ。でも、今回ちゃんと夢人が歌詞を付けて完成させたの。イメージとしてはアルバムの最後とか、ライヴの最後にやりたいなっていう想いで作った曲だった。サビで一気に開けるとかじゃなく、ぶわ～んって感じで進んでいくような曲にしたかったんだよね。紙飛行機みたいに飛ぶ感じを出したかった。ベースが軸にあって、ギターが同期と一緒に泳いでる感じにしたくて。
タケヒト：この曲も音作りにこだわりましたね。KENZOから透明感のあるギターの音がいいっていうリクエストがあったんで、そこをいかに薄っぺらい音にならずに作れるかを考えながら作りましたね。
インテツ：ギターとベースの分離がすごくバランスのいい曲になったと思います。ベースの音色に関してもKENZOくんがすごくこだわっていて、録り終わった後に歪ませたんです。
夢人：マイナー系の曲って何故か心地いいよね。この曲はそこに、馴れ合いになってない恋の歌詞が乗るってとこがいいと思うんですよね。幸せ感いっぱいのメロにこの歌詞が乗っても愛し過ぎて切ない感じが出ないと思うから。こういう恋、してみたいな（笑）。
――恋していて1番いい時期だよね（笑）。「Lilia」っていうタイトルは？
KENZO：歌詞の内容もあって、人の名前にしたかったんだよ。最初、夢人がカタカナで「リリア」にしてたんだけど、なんか字面があんま良くないなって話になってこっちにしたの。百合って意味もあるから、そこから日本人の女性の名前も連想させられるしいいかなと思って。
――なるほどね。こういう曲ってパーソナルな感じが出れば出るほど聴き手の心に深く入るものだったりもするからね。そして3曲目。夢人作曲の「MARBLE」ですが。
夢人：これも3年前くらいに原曲あったの。ドラムもベースもギターもヴォーカルも何も要らない"音楽"をバンドでやりましたって感じの曲にしたかったの。

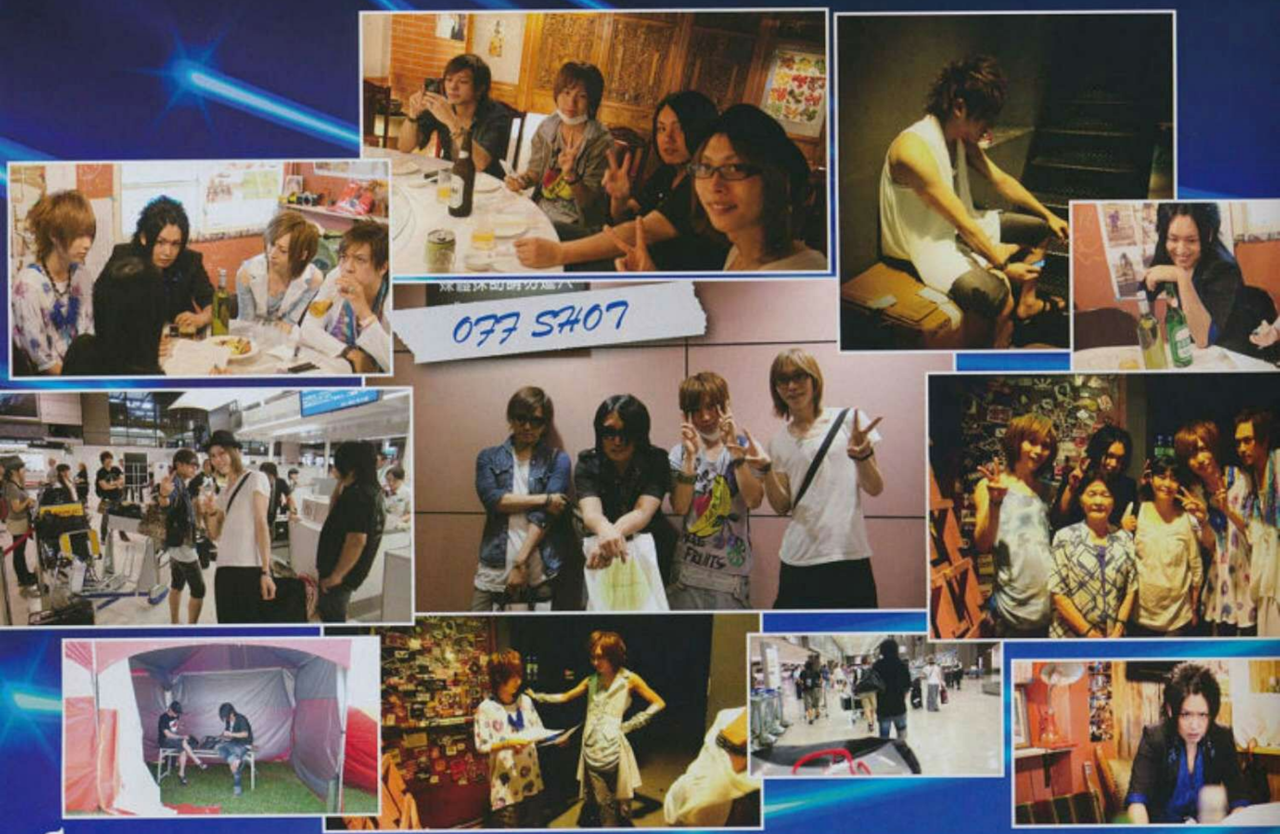
タケヒト：この曲はシンセだけで成立するような1曲でもあったから、ギターがなくてもいいんじゃないかなって思ったとこもあって、敢えてギターはシンプルにしましたね。ずっとオブリガードっぽい感じで遊んでますね。
――ギターで合いの手入れてるみたいな。
タケヒト：そう（笑）。どれだけ歌の合間にギターを入れるかみたいなね。サビでは唯一コード感出してるんだけど、そこまで前に出て来てないし。
夢人：サビ前のキメですら弾いてないからね（笑）。俺が息継ぎしてるときにタケヒトがくる！　みたいな（笑）。
インテツ：そこがポイントの曲でもありましたね。
KENZO：ハットとスネアとキックとシンバル1枚しか使ってないからね。完全に昔の音にしたくてスネアとかなんて裏からガムテープ貼って完全に響かないようにしたからね。
――歌詞は前の2曲に対して無機質な歌詞になってるね。
夢人：そう。これはほとんど単語で構成した感じ。何を歌ってるか解らない感じにしたかったんだけど、最後の"愛してる君に贈る、マーブル模様・メッセージ"っていう1行に集約してあるんですよね。そこがこの歌詞のポイント。こっちはカラフルな感じのワードにしたくてMARBLEっていうワードを選んで、そこをタイトルにしてそっから歌詞を広げていった感じでしたね。ツアーではガンガンやっていこうと思いますので、ぜひ聴いてみて下さい！

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

『野台同學會 FORMOZ Friends Party』&『SUMMER DIVER』 in Taiwan

Live at 關渡水岸公園 /TheWALL 2011.7.16/17

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com



7月16日[illegible]なわれたロックフェス『野台同學會』へと向かった。このフェスは、RIZE・くるり・土屋アンナ・LM.Cなど日本人アーティストも多く参加してきた台湾最大規模のロックフェス『FORMOZ FESTIVAL』が2012年に再開することを祝し、フェスを盛り上げるために行なわれたモノだった(『FORMOZ FESTIVAL』は2008年に会場の都合で一度開催が打ち切られたのだが、2012年に再開されることになった)。今回はROCK STAGEに8バンド、SUMMER STAGEに7バンド&1DJ、RIVER STAGEに9DJという構成で行なわれ、日本からはROCK STAGEにAYABIEとTHE BACK HORNが参加した。彼らは7月16日に行なわれる今回のフェスに向かうため、前日の夜に台湾入りしたのだが、現地に到着すると多くのファンたちが彼らの到着を出迎え熱い歓迎を受けた。なんと、そこには、初の海外野外ライヴを見届けるためと、翌日に行なわれるワンマンライヴに参戦するために、日本からも多くのファンが台湾入りし、台湾に着いた彼らを出迎えたのだった。日本を夜の6時過ぎに立ったとあって、台湾に到着し落ち着けたのは結構遅い時間であったが、まず、そのチェックインのとき、メンバー全員とスタッフの部屋番号が書かれた一覧表をホテルの人から手渡されたのだが、そこにはメンバーの名前の欄に〝インテツ先生〟と書かれてあったのだ! それを見て一同大爆笑。どうやら台湾では男性に敬意の念を用いて名前の後ろに〝先生〟を付けるのだとか。みんなが大爆笑する中、それを自分で説明するインテツといったら……なんとも気の毒な図であった(笑)。しかし……インテツ先生って……やっぱり笑ってしまうのはなんでだろう……(笑)。

チェックイン後、そこから翌日のフェスの打ち合わせを兼ねて遅い食事を取り、その後、夢人とKENZOは現地スタッフとともに、台湾のクラブミュージックシーンを探索するため、クラブに市場調査に出かけ、インテツはお婆ちゃんの家を訪れ、タケヒトは翌日に使う音の最終調整をするため、[illegible]クさんと部屋での作業に入った。

フェス当日は台風の関係もあり、あ[illegible]AYABIEの出番は17時と遅い時間でもあったことから、15時に会場入りし、現地の音楽雑誌の取材を受けた後、会場でCDを購入してくれた人たちを対象とした握手会[illegible]せなかったこともあり、雨の中長い時間ずぶぬれになって彼らを待っていたファンたち。4人は冷えきったファン1人1人の手をしっかりと握ると時間の許す限り彼女たちの言葉に耳を傾けていた。

その後彼らは、自分たちの次に出演するTHE BACK HORNのテントに挨拶に向かうと、ライヴをオンタイムでスタートさせた。SEが流れると集まった多くのファンが歓声を上げた。雨は少しおさまり、まだ日が落ちきらない遠くの空からうっすらと太陽の光が差し込んでいるのが見えた。薄紫とオレンジ色が混ざり、その色が雲に反射した景色がとても幻想的だった。この日は「スモークスマイルキーパー」を1曲目に全8曲を届けたのだが、KENZOがアドリブでツーバスを差し込むなど、フェスならではの高揚感が音となって放たれていた。

前向きな想いを歌いながらも、少しの迷いを含む切ない光を感じさせる「STAR PLAYER」の途中、再び雨が強く降り出したが、この曲が放つ光は多くのオーディエンスを笑顔にし、4人の音にも更なる力を与えていた。

〝みんな! 手を上げて!〟(夢人)

日本語で叫ぶ夢人の声を受け、オーディエンスは両手を高く掲げ彼らの音に応えたのだった。そして「流星」。和を思わすこの曲が、こんなにもこの地に似合うとは――。この曲を生み出したインテツが故郷とする国・台湾。彼の先天的な力がこの曲には自然と宿ったのかもしれない。そんなことを思った。

彼らからバトンを受け取ったTHE BACK HORNも5年ぶりの台湾公演ということで、その5年間の時間を埋めるかのような新旧の楽曲が混在した魂のこもったセットリストで多くのファンを魅了した。聴く度に生きる意味を教えられる彼らのサウンドと唄。日本ではなかなか同じステージに立つことのないAYABIEとTHE BACK HORNとの共演は、実に興味深いモノだった。

そして。この日は台湾で1番有名だという小籠包のお店で夕食を済ませ、台湾最大の夜市にくり出したメンバー。特に何を買うでもなくフラフラ(笑)。フラフラした後は翌日のワンマンライヴに備えてマッサージに行ったのでした。

7月17日。彼らは台北市内にあるライヴハウスThe WALLへと向かった。

この日のワンマンは、7月24日の10カ所をまわる夏ツアー『AYABIE TOUR'11 [SUMMER DIVER]』の特別追加公演として加えられた1本であり、事実上『AYABIE TOUR'11 [SUMMER DIVER]』の初日となったのだ。この日は予定を少し早めて会場入りしたのだが、ライヴハウスの前には既に多くのファンが入り待ちをし、彼らを出迎えたのだった。ライヴの開始時刻が刻々と迫る中、緊張具合を訊いてみると、もうどんな状況下でも自分たちらしいライヴが出来るようになったとのこと。なんとも頼もしくなったものである。たしかに、最近では夢人がギタリストであったことを忘れてしまうほど、彼はセンターが似合う男になった。いくつもの逆境を乗り越えてきたとあって、彼らは誰よりも強いバンドになったのかもしれない。

ライヴ直前に、ステージ裏で〝今日はインテツくんの第二の故郷である台湾でのライヴだから特別気合い入れて行くぞ!〟と4人で手を重ね、彼らはステージへと向かった。

この日は「善悪の彼岸」からのスタート。彼らは言葉どおり1曲目から全力のAYABIEを届けてくれた。ド頭の方で早くも激しい「0010101.0」や「浸食」「Reflector」を届け会場の温度をマックスに押し上げたのだが、これらの曲では夢人もギターを持って届けたこともあり、より音に厚みのある違った見せ方になっていたことも、彼らならではのスタイルであると実感させられた。

この日は、インテツが現地の言葉でMCをしファンを喜ばせた。

〝夢人は台湾の女の子が可愛いと言ってましたし、KENZOも台湾の女の子を好きだと言ってましたし、タケヒトに至っては台湾の女の子と結婚したいと言ってました!〟(インテツ)

どうやらこの内容は他3人には秘密だったらしく、ファンたちが黄色い声を上げる中、3人はキョトンとした表情をしていたのだった(笑)。

この日は、フェスではやらなかったシングルのカップリング曲の「Lilia」と「MARBLE」も届けた。「MARBLE」ではAYABIEならではのダンスチューンを彼ららしく届け、「Lilia」ではタケヒトの泣きのギターが炸裂していた。最初からラストまで、とにかく息継ぎする間もないほどに盛り上がっていたこの日。充分過ぎるツアー初日となったのではないだろうか。

ツアーファイナルとなる8月30日の赤阪BLITZでは、この日以上の景色を見せてくれることを期待したい。

(問)http://www.d-n-l.jp/

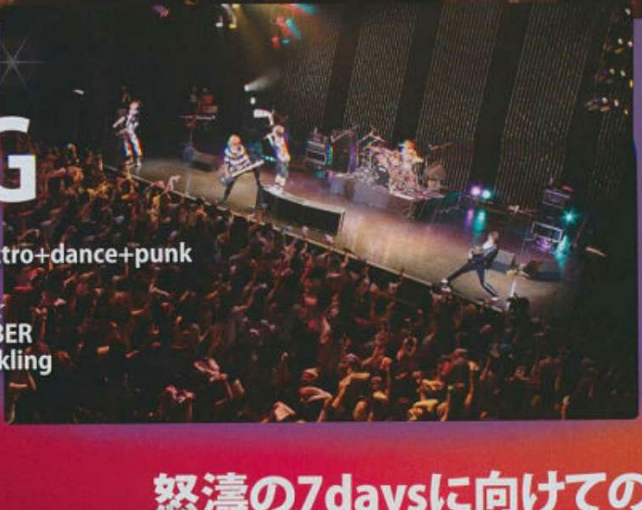
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

キラキラ☆サマー☆タイフーン!! Tour 2011 FINAL

2011.7.28 Zepp Tokyo

uG
st】
vy+electro+dance+punk
d $ hip
ギミギミ☆
L NUMBER
魔Sparkling
alaxyZ



怒濤の7daysに向けての前哨戦!!

SuG、ViViD、ダウトをメインに、全国8ヶ所で行なわれたZeppサーキット『キラキラ☆サマー☆タイフーン!! Tour 2011』が、7月28日・Zepp Tokyoで華々しく幕を閉じた。この日限定でKraも参加し、オープニング・アクトはBORNが務め、さらには突如2つのセッション・バンドも登場するという、ファイナルにして最大級に成長した"台風"の一夜。その模様をレポートする。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI（SHOXX） Report:YUKA SUGIE

杂志迷

蝴蝶网
hudie.com

Kra

【set list】
1.LOST NUMBER
2.雨の告白
3.不思議な世界からの招待状
4.Cab.D
5.ショータイム

ダウト

【set list】
1.青天ノ霹靂
2.太刀風横丁
3.刺青-tattoo-
4.ROMAN REVOLUTION
5.DANCE NUMBER
6.フェンダー

ViViD

【set list】
1.「夢」～ムゲンノカナタ～
2.risk
3.PRECIOUS
4.BLUE
5.Re:Load
6.キミコイ

うのは、[illegible]ン‼」をおいて他にはないだろう。個の色はそれぞれに冴え渡っていたし、8月の渋谷C.C.Lemonホール・7デイズの面白さが予測できるセッションもあったし…一粒で何度もオイシすぎるのではないだろうか、と思うほど。

まず意表を突いたのは、トップバッター。なんとthe GazettEの葵がヴォーカルとギターを務め、Alice NineのヒロトSCREWの和己とジン、SuGのChiyuがガッチリ脇を固める、“aoi with bon:cra-z”のお出ましである。hideの名曲を披露したわけだが、一体感ある演奏はもちろん、葵の歌が…hideをめちゃくちゃ彷彿とさせるのだ。歌声は初披露とあって、『全然、東京ドームより緊張するわ（笑）』と言っていたが、ヴォーカリストとしての才能も秘めていたとは。いやはや、驚かされた。

続くはオープニング・アクト＝BORN。“キラキラ”なんておかまいなし、相変わらずの黒衣装で登場するや否や、『カモンベイビー！』と挑発する猟牙。今にも噛みつきそうな気概が、頼もしいではないか。その激音も、フロント4人が一気にステージ前まで攻めたり、頭を振り倒したりするパフォーマンスも、オーディエンスを無条件に昂ぶらせるのだ。かと思えば、「涙彩の花」では歌心に美しさや儚さを滲ませたり。存在を鋭く刻んだ。

成熟度の高い音像、パフォーマンスで唸らせたのは、Kra。タイゾを加えた4人のバランスが、どんどん良くなっているようにも思う。「雨の告白」でタイゾのギター・ソロ、結良のスラップが双璧をなせば、「Cab.D」では靖乃の見せ場からタイゾのソロへの流れが惹き付け、その中で景夕の声が伸びやかに響く。最新曲「不思議な世界からの招待状」では、タイゾと結良が向かい合ったりして、気張らずに楽しんで、楽しませる様はさすがだなとも思った。

シンが「ブチ上げていこうぜ！」と扇動し、一気に場内の熱を上昇させたのはViViD。ロックバンドの王道を突き進む彼らならでは、骨っぽいだけでは

杂志迷
zazhimi.com

キラキラ☆サマー☆タイフーン!!
Tour 2011 FINAL
2011.7.28 Zepp Tokyo

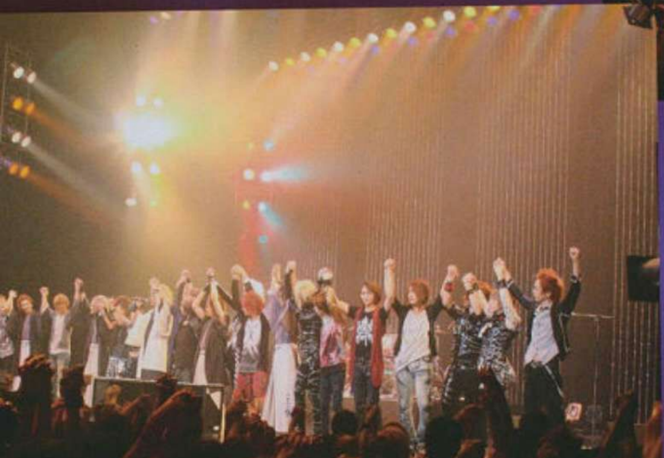
BORN

【set list】
1.Vermin's cry
2.RADICAL HYSTERIA
3.涙彩の花
4.乱刺℃
5.ケミカルロマンス

下座組合
〜candydive pinkyheaven〜

セ異端芸者

樹 Gt.零乃 Gt.和己 Ba.玲夏 Dr.ジン)



"新デコボココンビ"誕生!!

なくて華のある曲、そしてパフォ[illegible]ンスときたら、イベントだろうとオーディエンスを夢中にさせないわけ[illegible]い。「PRECIOUS」を胸の奥深くに届[illegible]と思ったら、「Re:load」でメタル[illegible]切ってみたり、短い中でも、V[illegible]のミクスチャー感覚は端的に示さ[illegible]たではないだろうか。

1曲目の「青天ノ霹靂」で、いきなりフロアをモッシュ状態に持っていってしまったのは、ダウト。『トラブ[illegible]し（ツアー）』出発当初から全然キラ[illegible]ていなかった』とは幸樹の弁だが、メンバー同士の呼吸、オーディエンスの反応は、えらく正直にバンドの好状況を映していたようにも思う。サオ隊の動きがエモすぎな「DANCE NUMBER」祭り、いつでも、どこでも、どうであれ、自分たちらしさをいかんなく発揮できる彼らは、やっぱり強者だ。

ドラム台に5人が集った冒頭からして、ジャンクでポップなパワー感でゴリ押したのはSuG。クラップ、コブシ、コール、ジャンプと、フロアの反応もひたすらアツい。今回のハードスケジュールをこなしたおかげで、来年のツアー・タイトルが"ギラギラ☆サマー☆タイヘーン!!"まで考案してしまった武瑠は、『ちょっとだけの遠慮をブッ壊したらもっと楽しいから。俺たちがブッ壊してやるっ』と、人を巻き込むのもウマい。ほとほと、感心させられた。

そしてトリを務めたのは、"エセ異端芸者"。ダウトの幸樹、ViViDの零乃、ダウトの玲夏、SCREWの和己&ジンが、2年前に日本武道館で行なわれた"Peace & Smile Carnival"にてtheGazettEのメンバーが着用した羽織袴姿で、先輩のナンバーに挑んだわけだが…[illegible]に、エセすぎるっ、と言わしめた5人のエセ異端芸者ぶり、あまりにもアリすぎる!! 出演者総出で盛り上がった「LINDA〜candydive Pinky heven〜」は、きっと忘れられない。

それぞれのスタイルは違えど、音楽で自らを表現し、楽しむことにとことん貪欲な彼ら。8月の渋谷C.C.Lemonホール・7デイズは、景夕&幸樹によ

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

25億秒の使い方。
HERO

HERO、珠玉の一曲

6月8日にSINGLE「ソプラノ」をリリースしたばかりのHEROが、早くもNEW SINGLEをリリースする。そのタイトルは「25億秒の使い方。」(8月24日リリース)。人間の平均寿命だという25億秒——。今、彼らが歌う、その意味とは？　そして、9月10日仙台HooKを皮切りに、全国6カ所で行われる「HERO ONEMAN TOUR 2011「25億秒の43200秒」」(ファイナルは、9月25日恵比寿LIQUIDROOM)も、各地ソールド・アウトが続出しているという。2011年下半期。そんなHEROから、ますます目が離せなくなった!!

Interview:YUKA SUGIE

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

ルはインパクトありますよね。
yu-ta：ホント、パンチあるなって思いましたよ。
Yusuke：なるほどねぇーってね。
yu-ta：意味深いですよね。人生だな、って。僕は特に短命だと思うので…。
JIN：あと3600秒くらいだよね、yu-taは（笑）。ま、飼ってた犬の死をきっかけに、「Life」（アルバム「Life」に収録）でも"生と死"っていう同じテーマで歌詞を書いたんですけど…正直、メロディを優先したために、歌詞を詰め込むことができなかったんですよ。もちろん、決められた文字内では良いことを書けたんですけど、もっと細かく砕いて書くことで、区切りをつけたいなと。それが、今回のタイトル曲の歌詞なんです。
SARSHI：犬だけでなく、人に対する想い方、感じ方としても、すごく共感できる歌詞ですよ。
Yusuke：25億秒って、平均年齢なんだよね。秒換算することで、人生をどう生きたらいいのかっていうことをよりリアルに考えられるので。あらためて、JINくんの発想はすごいと思いました。
——曲自体、すごく良い曲ですしね。
JIN：ホントね、頑張った!! 実はサビは4年前ぐらいにできてて、ここぞという勝負のときに使おうと思ってたんですよ。これでアニメのタイアップとか獲れたら、最高なんですけどね（笑）。
——以前から、HEROとして一番表現したい曲があると言っていましたが…それが、「25億秒の使い方。」だったりして？
JIN：そうですね。これが一番好きなラインなので、もっと伸ばしていきたいなとは思ってるんですけど…。繊細な曲だし、少しでも間違うと全部壊れちゃうから。こういう曲は、しばらく作れないかなって感じですけどね（苦笑）。
——楽器陣としても、相当注ぎ込んだハズですよね。
SARSHI：うん、楽器陣も繊細なので。気持ちも込められた曲やし、音符や休符を置く位置とか、これまでで一番話し合って作りましたね。かなり凝った作りでもあります。
——それでいて、あくまでさらっと聴けるし。

大変だったんですよ。
yu-ta：音の抜き差し、いろいろ考えましたからね。
Yusuke：楽器陣で、細かい絡み具合までかなり話し合いましたもん。
yu-ta：たぶん、今までで一番時間がかかったよね。PV（初回限定盤AのDVDに収録）を観ると、俺たちが描きたかった世界がより、ダイレクトに伝わると思いますよ。
——あの映像は、ズルイとさえ思います。犬と少年の思い出が綴られるアニメーション、泣かされるに決まってますもん。
JIN：でしょ？ 俺が思い描いた通りの映像になって、良かったなって思ってますよ。ま、PVの映像はわかりやすくはあるんですけど、詞の内容としてはポジティヴでもあるので、詞を細かく読んでもらえたら、またいろいろ感じてもらえるのではないかなと。
——ともあれ、後々振り返ったとき、大きなターニングポイントとなりそうです。
SARSHI：うん、そうなったらいいなって。4年前に聴いたときから良いと思ってた曲だし、ちゃんと全員が自分たちの良さを最大限に発揮できんじゃないかなと。これがダメならムリじゃないか、っていうぐらいに思ってますよ。
JIN：確かにそれはあるね。
——ちなみに…、自分たち自身の"25億秒の使い方"を再考したりもしました？
SARSHI：僕は、バンドとかギターに対する考えが、より深まりましたね。これまでももちろん頑張ってはきたけど、発信する側としては、みんなの想いに応えられるように、ギターも曲ももっと頑張っていきたいなと。最近は、前にも増して、ギターを弾くようになりましたよ。
Yusuke：限られた時間の中で、自分自身が後悔しないように、今できることを精一杯やらなアカンなと。僕も、あらためて気持ちが引き締まりました。
yu-ta：俺、一時期は"今死んでもいいや"って思ってたんですよ。あ、ネガティヴな感じではなくて。でも、自分の人生の時間が秒数で提示されてみると、自分の好きなことって何だろうって、あらためて考えたりして。やっぱり、楽器弾いたり、音楽作るのが好

いっぱいあるなと。演奏にしろ、曲にしろ、もっといろんなことを追求して、全部満足してから死にたいなって思います。
JIN：たぶん、25億秒の中で、勝負の時間って1億秒もないと思うんですよ。そこでいかに努力するかで、25億秒が大きく左右されるんじゃないかなと。だから、僕も曲作りに関しては絶対妥協はしないし。ま、どう転んでも、自分が"幸せ"を感じられるならそれで良いと思うけど、今、自分たちが描く幸せは、努力しないと実現しないものなので。
——という中で、4人の結束感も、より強まっていたりして？
SARSHI：そうですね。前より、バンドに関して話す時間も増えたし。すごく深まっているような気はします。
——それは、「存在証明」のバンド感にも表われているような気がしますね。
JIN：これねぇ…大変だった（苦笑）。最初、ライヴを想定していろいろアレンジしてたんですけど、どうにもウマく収まらなくて。そこに鍵盤を入れてみたら、途端にカッコよくなって。
yu-ta：あれは運が良かったね。そこにピアノがあって良かった、みたいな。
SARSHI：ま、メンバー的には、「CRACKER」のほうがより、バンド感を感じるんですけどね。
yu-ta：あ、そうだね。
——ギターロック、ギターポップなあの感じも、確かに素敵です。
SARSHI：HEROのお得意系な感じで。こういうの、好きなんですよね。
yu-ta：「存在証明」は、どっちかっていうと聴きたい曲で…。
Yusuke：あ、それわかるわ。
yu-ta：で、「CRACKER」は演奏したい曲、みたいな。「CRACKER」は、きっと想像しやすいんでしょうね。サビで"草原にいるんだ"って。でも、「存在証明」は想像するヒマがないのかも。
Yusuke：そういうことなん!?
JIN：じゃあさ、ヒマがあったら想像してるの？
yu-ta：うん。たぶん…"俺、檻の中におるわ"って。
——…斬新な解釈、いかがですか。
JIN：いやもう…バカって怖いなって（笑）。
——さらに、気になったのは「存在証

る歌詞なんです[illegible]せて…"のくだり、ドキっとさせられました。
JIN：あ、言われてみればそうですね。ただ、あんまり直球な表現はないなと思って…"一晩中共にしたって"にしました。この歌詞は"三角形四角形…"っていうフレーズから広がっていったんですけど、全曲に数字や数学に関する言葉を入れたくて。結果、「めっちゃ好き」に壊されちゃったんですけどね（苦笑）。
——「めっちゃ好き」は、どうして今回、リテイクされることになったんでしょう。
JIN：「めっちゃ好き」と「プレゼント」どっちが良いかを聞いたら、みんな「めっちゃ好き」を選んだからですよ。
yu-ta：完全にノリですね。ま、ライヴではよくやるけど、今、CDを持ってない人もいるかもしれないし。何より…自分たちが楽しんで、息抜き[illegible]できるって大事だなって思います[illegible]は。
SARSHI：僕は、前との違いを出したくて。ギターアレンジを結構変えたんですけど、気に入ってますよ。
——Yusukeさんは、「めっちゃ好き」を初めてレコーディングしてみて、何を感じました？
Yusuke：テンポが速いので[illegible]ピード感を出せるか不安だったんですけど、思った以上にパワフルにできて良かったなと。あらためて、楽しい[illegible]だと思いました。
——9月にはワンマンツアーがありますが、どう成功に導くのか、今想うことは？
yu-ta：全か所、1発目のつもりでいきますっ。とにかく、全力で自分なりの表現をしますよ。
Yusuke：最近、今まで以上にみんなの意識が高まってるんですよ。なので、もっと楽しめて、もっと聴ける、クオリティの高いライヴにしますっ。
SARSHI：前回の赤坂ブリッツワンマンで、自分の進みたい道が見えたので。今回のツアーのファイナルでも、また次に進む道を見つけていきたいですね。
JIN：今回、ライヴハウスの順番が良いので、テンションを下げずにいけそうだなと。個を出す前にがっつりバンド力を出して、圧倒しますよ！

（問）〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目7番3号 株式会社 PCI MUSIC内 http://hero-izm.com/

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

THE KIDDIE

Sun'z up

夏全開のキラーチューン

"Happy Spring Tour 2011「kidd's now」も無事終了。そんな中、嬉しいお知らせが。何と、赤坂BLITZで行われたファイナル公演を収録したライヴDVDが9月7日にリリースされるというのだ。当日参加した人も、彼らのライヴを観たことがないという人も、思い切り楽しめる内容となっている。今回のインタヴューでは、今ツアーを振り返るとともに、新作についても語ってもらった。

Interview:ERI MIZUTANI

—【Happy Spring Tour 2011「kidd's now」】ファイナル公演の様子が、この度、DVD化されるとのことで。

揺紗：THE KIDDIE、活動4年目にして、初めてライヴDVDを出すんですよ。やりたいことがはっきりとしてきた今、こういうライヴをするバンドなんだよっていうのが自分たちでも見えてきたので、今ここで作品として出せるというのは嬉しいですね。kidd's（ファンの愛称）の中には、ライヴになかなか行けないという子もいるので。

—そもそも、「kidd's now」は、どういうテーマを掲げて廻られたツアーだったのでしょう？

揺紗：タイトルからもわかるように（"kidd's now"と"絆"がかかっている）、ファンと俺らの絆をより強くしようという目標の下、全国を廻っていきました。今回は震災後のツアーということもあり、俺たちの元気な姿をみんなに見せたくて。とはいえ、無理やり元気を与えにいくことはしたくなかったので、いつもと変わらずというとこを出していきました。

ユウダイ：ただ最初は、ツアーそのものをやれるかどうかわからなかったんです。周りのバンドさんたちがライヴの中止を決める中、俺らだけ続行してもいいのだろうかとも悩んだし…。でも、スタッフとも話し合った結果、無事にやれることになって。そうして迎えた初日は、さすがに感慨深いものがありましたね。

そらお：札幌公演から始まったんですけど、震災の影響もあり、自分の中では不安な面が大きくて。久しぶりのライヴだったっていうのもあるんですけど、お客さんは待っていてくれるんだろうかとか、ライヴってどうやって作るんだっけとか、細かいところまで考えてしまったんです。けど、廻っていくうちに、新曲の「Nutty Nasty」も育っていって。何か、ライヴが完成されていくのが手に取るようにわかるんですよ。言葉にはしなくても意思の疎通ってできるんだなって思いました。

ユウダイ：純粋に、ステージに立つことができて良かったって。

そらお：ほんと、みんなで作り上げてい

杂志迷
zazhimi.com

[illegible]してほしい」っていう要望をみんなに出していたんですね。そうしたら、大阪ではスタンプを用意して押してくれたり、岡山は桃を描いてくれたり（笑）。何気に、その土地ならではの特色が出ていて面白かったです。

淳：どこも、お客さんが一丸となって楽しもうっていうのがわかるんですよ。名古屋では、ラジオ番組の企画で、タイトルコールをみんなで叫ぼうっていうのがあったんですけど、それがかなり面白くて（笑）。

——フラッグにしても、タイトルコールにしても、ずいぶんとお客さん参加型ですね。

淳：そうなんですよね。また、それをちゃんとやってくれたのが嬉しかったです。こっちが何を言っても反応してくれるんですよ。

——そんな中、淳さんが思い出に残っ

淳：やっぱり「Nutty Nasty」ですね。この曲、ツアーが始まった頃ってリリース前だったこともあり、本当に盛り上がってくれるかなって心配なところもあったんですけど、実際にやってみると全員がノッてくれて。しかも、本数を重ねる度に、盛り上がり度が増していくんです。そうやって、新曲だからって構えることなく楽しんでくれたのは良かったですね。自分としても、レコーディングしているときから、この曲はハッチャケるイメージしかなかったので、良い感じでお互いのテンションが合っていたのは嬉しかったですし、そんな光景を見ることができて、改めて曲の良さを実感したというか。

——大事ですよね、一体感って。では、佑聖さんが印象に残っている土地は？

佑聖：横浜です。何か、熱がすごかったんですよ。

——あら、具合悪かったんですか？

佑聖：いや、そっちの熱じゃなくて（笑）。その日って、会場の熱気がとにかくすごかったんですよ。ステージに出ていった瞬間から体に感じる熱っていうんですか、空気も雰囲気もほんとにすごくて。久しぶりのライヴっていうこともあり、みんなハングリー[illegible]ですよ[illegible]目の[illegible]から、アンコ[illegible]ルかと思[illegible]いに盛り[illegible]てくれて[illegible]このとき、全[illegible]い顔して[illegible]

揺紗：そ[illegible]ば、ライヴ当日、[illegible]熱があった[illegible]て俺だね（笑）。

佑聖：そうそう（笑）。だから、その分も俺たち楽器陣が率先して盛り上げていかないとなって。

——こうしてお話を聞いていると、どの場所も今までにないぐらい、すごく手応えのあるライヴができたようですね。

ユウダイ：今回、何より嬉しかったのは、全国からたくさんのファンが集まってくれたことなんです。仙台でライヴをやったときって、行ったその日が震災後初めて新幹線が通った日でもあって。それだけに、どんな感じでライヴをやればいいんだろうとか、見に来てくれる人いるのかなとか、変に考えてしまったりしたんですね。けど、実際にライヴが始まってみたら、そんな心配が吹き飛ぶぐらい盛り上がってくれて。今までと同じように、いや、それ以上のライヴができたと思うし、そこにファンとの絆を感じましたね。

——だからこそ、ファイナルもあれだけ盛り上がったのでしょうね。初となるライヴDVDにはその様子がたっぷりと収められていますが、こちらの見所もぜひ。

揺紗：ツアーでやってきたことが集約さ[illegible]いるので、全体を通して見てもらい[illegible]たいですね。個人的にはアンコールが良[illegible]かったと思ってるので（笑）、そこは特[illegible]目してもらいたいかな。あと、初回盤には撮り下ろしを含む100Pのブッ[illegible]ットも付いているので、そちらもぜひ。

[illegible]そして、DVD発売前には、何と！新曲「Sun'z up」が出ます。こちらは配信限定でのリリースになるそうで。

ユウダイ：夏っぽさをイメージして作ったので、出すなら今かなと。どうしても早く世に届けたいという想いから、配信リリースという形をとりました。

——となると、制作も急ピッチだったのでは？

揺紗：ツアーに行くちょっと前に作ったので、停電に見舞われる中、制作していたんですよ。

ユウダイ：プロデューサー・恩田さんのプライベートスタジオでレコーディングしていたんですけど、そこがちょうど、計画停電の地域に入っていまして。

——そうなると、けっこう長い間、作業がストップしてしまいますよね。

ユウダイ：ところが、そのスタジオ、ソーラーパネルがあって。

揺紗：発電器もあったしね。なので、制作自体に影響は全くなく。

——素晴らしい！

揺紗：改めて思いましたよ、太陽って大事だなって。それで、タイトルを「Sun'z up」として、希望を持てる曲を書いたんです。

佑聖：最初に聴いたときから夏っぽさを感じたので、とにかく夏っぽさが出せたらいいなって。あとは、サンサンと降り注ぐ太陽のように、元気なギターをイメージして弾いていきました。ソロの部分でも、みんなが元気になれるような音をイメージして弾いていったので、そこも聴きどころですね。

揺紗：ねぇ、サンサンと降り注ぐ太陽をイメージしたから、自分もそんなに焼けちゃったの？

佑聖：え、ほんと？（←前日、海に行ってきたため若干こんがり）ほんとに焼けてる？ あ！ たぶん俺、ソーラーパネル搭載してるんだよ。

淳：（笑）佑聖くんが夏っぽいギターを弾いてくれたんで、俺はそこに疾走感を足せるように意識して弾いていきました。もちろん、作曲者であるユウダイくんの意見も取り入れつつですけど、そこまで小難しいことはしていません。敢えてそうしたことで、曲の持つ元気さが活かせたんじゃないかなと。

そらお：ギター2人が良い音を出してくれたので、ベースは割とシンプルに弾いていって。そうした方が、キャッチーさだったり、ポップさだったりが引き立つと思ったんですね。そこを意識してレコーディングしたので、メロの良さや途中で入ってくるリフもすごく耳に残るものになったと思います。

——どこまでも爽やかで、聴いていると本当に元気をもらえます。

揺紗：この曲のみずみずしさを感じてもらいたいですね。フレッシュな気持ちで歌ったので（笑）。あと、9月にはニューシングルが出るんですけど、そこにはツアーファイナルで披露したあの曲も入っているので、楽しみに待っていて下さい！

蝴蝶网
hudie.com

杂志迷
zazhimi.com

（問）C-block 〒162-0831東京都新宿区横寺町32 TR神楽坂Bld.
TEL：03-3268-8804（平日12～18時） E-MAIL：info@kiddie.jp

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

[illegible]曲が揃っていますね。

猟牙：ありがとうございます。前シングルの「DEMONS」をリリースする時に、（タイトル曲を）「Psycho Diva」でいこうかという話もあったんです。結局は「DOGMA」からの流れを踏まえて「DEMONS」を選びましたけど、「Psycho Diva」も早くリリースしたかった自信作です。それに、カップリングの「DAMNED」と「DIRTY STACKER」も同時期に出来た曲で、どれもタイトル曲でいけるだろう…というのがあって。すごく迷った結果、「Psycho Diva」をタイトル曲にしました。だから、自分たちの中ではまさにトリプルA面という感覚がありますね。

Ray：「Psycho Diva」を作った時は、シングル曲ということと、疾走感を意識しました。曲はスンナリ出来たけど、構成が二転三転して、かなり悩みましたね。俺って、余計なものを付け足し気味なんです（笑）。いつも、みんなに聴いてもらっていらない部分を削ったり、逆に必要なものを加えたりするんです。今回もそういう過程を経て、いい形にまとまって良かったです。

猟牙：歌詞に関しては、仮メロの段階でAメロが出来ていて、"無限を駆ける獣者（けもの）"というフレーズが入っているところから、この曲は"獣者"と呼ばれていたんです（笑）。そこから、どんどんイメージが拡がっていって、"生きていると、いろんな逆境や困難があるけど、負けずに突き進んでいこう"というテーマに辿り着きました。ちょうどこの曲の歌詞を書いていた時期に震災が起こったこともあって、いつ何があるか分からないから、自分で思い描いたとおりに進んでいきたい…という自分の願望を込めた曲になっています。

TOMO：ドラムに関しては、「DOGMA」辺りからリズム隊の打ち合わせが減ってきた印象があって。それは、作曲者が狙っているものや、"これぞBORNだ"というテイストが分かってきたからだと思います。「Psycho Diva」もBORNの持ち味であるヘヴィネスとメロディアスを融合させた曲で、それを際立たせればいいんだなと理解できて。

K-FUMI：俺は、基本的にどの曲でも"俺が俺が"とベースで前に出ようとする傾向があるんですけど、「Psycho Diva」は疾走感のある中で起承転結を出したいなと思って。抑えるところは抑えて、サビ・パートでようやく動き出す形にしました。そのほうがドラマチックさを増すな…というのがあったので。あとは、BORNはリズム隊がカッチリしすぎるとつまらないんじゃないか…というのがあって、いつもと同じように、この曲もベースでヤンチャな部分を出すことを意識して弾いています。

K：今回は、「DEMONS」とは真逆な感じでしたね。「DEMONS」は自分でギター・パートを作り込んでRayに細かく指定したんですけど、「Psycho Diva」はRayが考えたものを再現したので。Rayが作ったフレーズを、いかに自分らしく弾くかということがテーマでした。ただ、Rayが作るフレーズは、俺にはない指癖とかが入ってて難しいんですよ（笑）。イントロのリフにしても、"何でこんなにいっぱい音を使ってるんだ？"と思って。ここはライヴで頭を振るから、もうちょっと簡単なリフのほうがいいんだけどな、みたいな（笑）。

K-FUMI：そう！　俺も、この曲のリフには苦労した（笑）。

Ray：スミマセンね（苦笑）。自分で作るリフ物は勢いでガシャガシャ弾くパターンばかりだったので、単音で動くフレーズのものをやりたくて。この曲は思考錯誤しつつフレーズを固めていったから、ちょっと難しかったかもしれない。イメージが明確にあったから、KとK-FUMIには細かいリクエストを出したし。でも2人は、いい鍛錬になったと思ってくれているみたいで良かったです（笑）。

K&K-FUMI：はいはい、ありがとうございます（笑）。

猟牙：この曲のメロディは、かなり悩みました。俺にしてみれば、すごくストレートなメロなんですよね。でも、Rayの曲はオケが緻密に計算されているからメロはストレートでいいのかなと思って、ここに落とし込みました。メロがストレートな分、それぞれのセクションに

Like a Psycho Beast

思い描いた先に突き進め

**前作『DEMONS』から約3ヶ月、早くもBORNのニュー・アイテムが到着!!　9月14日にシングル『Psycho Diva』がリリースされる
BORNならではの、孤高の熱き想いが込められた新作は、これからの彼らをより高みに導くものとなるだろう。
10月8日には新宿BLAZEにてワンマン・ライヴ『URGE OF DEMONS』も決行!!**

Interview:TAKAYUKI MURAKAMI

の中で、表情に富んだ歌が歌えたんじゃないかなと思っています。

——同感です。カップリングの「DAMNED」と「DIRTY STACKER」についても教えていただけますか。

K：2011年のリリースに向けて曲を書き溜めていた時期があって。その時にマネージャーから、"シングル曲とはどういうものかを、強く意識してみたらいいんじゃないか"とアドバイスをもらって分析してみることにしたんです。そうしたら、J-POPとかでシングルになっている曲は、アコギ1本で歌えるものが多いんですよね。そこから曲を作る時はパソコンに向かうんじゃなくて、アコギを弾くようにしたんです。そうしたら、「DAMNED」の最初のラテンっぽいパートが出てきて、そこから拡げていきました。どんどん展開していく構成も含めて、新しいところに行けた手応えを感じています。「DIRTY STACKER」は、もうノリノリで、サビ・パートが覚えやすい曲です。この曲はライヴをやった後に作ったんですけど、ライヴをすると曲が出てきやすいんです。ファンからもらったものを曲に反映しやすいからでしょうね。そういうところで、最近は前とは違う意味でもファンに感謝しています。

猟牙：「DAMNED」は、この曲の歌詞を書いていた頃に殺人事件がニュースになってて。"なぜそんな犯罪を犯してしまったんだろう？"と考えていくうちに、自分も含めて誰もが一歩間違えれば殺人者になる素質は持っているんじゃないかな？と思ったんです。そういう人間の危うさや哀しさを考えながら書いていきました。「DIRTY STACKER」は、曲を聴いて、とにかくライヴで盛り上がりそうだなと思ったので、みんなで騒ぐことをテーマにして歌詞も書きました。BORNのライヴを観たことがない人も、この曲を聴けばBORNのライヴがイメージしやすいと思います。

TOMO：「DAMNED」は苦戦しました。レコーディング当日になって、アコギに対してのドラムとのバランスがすごく難しいことに気づいたんです。いつもと同じ感覚で叩くとうるさいけど、単純

良かったです。「DIRTY STACKER」はハイハットの裏打ちにこだわ[illegible]すごくハットが心地好いと思う[illegible]いて気持ちよくなってください[illegible]

K-FUMI：俺も「DAMNED」[illegible]ちばん苦労しました。自分の中[illegible]ンの引き出しがないので、そう[illegible]ストを採り入れているアーティストをいろいろ聴いて、自分なりの解釈[illegible]を考えました。この曲は展開も激[illegible]しかも一気に表情が変わるので、[illegible]は馴染むまで、ホントに苦労しま[illegible]ね（笑）。「DIRTY STACKER」は、[illegible]イケの曲なので苦戦とかは一[illegible]し、録りも楽しかったです（笑）。

Ray：俺はいつも細かいことをやりがちなんですけど、「DAMNED」はアコギが入っていたり、Kのリード・フレーズが結構動いていたりするので、自分は曲を支えることに徹しました。

K：最初、"俺、弾くとこないでしょ"って言ってたよね（笑）。

Ray：いや、最初はホントにそう思ったんだ（笑）。でも、支える方向に頭を切り替えることで、いつもとはこだわるポイントが違うプレイを楽しみながら録っていきました。「DIRTY STACKER」は、自分たちが楽しんでいることをリスナーにも伝えたいなと思って。もうノリ一発で"ガッ！"と弾いています。

——今回のシングル・リリースに続いて、10月8日に新宿BLAZEで行なわれるワンマン・ライヴにも期待しています。

猟牙：4月以来のワンマンですけど、4月のワンマンは"ファン感謝祭"的なライヴだったので、正式なワンマンは去年の11月にやった渋谷O-WEST以来になるんですが、その間に「DOGMA」や「DEMONS」「Psycho Diva」という新しい武器が増えているから、今まで以上に見応えのあるライヴになると思います。ただ、バンドの成長を披露することも大事ですけど、今も変わらずBORNはアグレッシヴなバンドなんだというところは絶対に見せたい。BORNの全てを見せつける最高のライヴにするという意識で臨みます！

杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网 hudie.com

凜

8月31日 発売 イベントあり

Full Album

Independent "MAZE"

TYPE A ¥3,675
(ボーナスディスク「Paranoia Disturb」「Fall...」「Hitlor.」収録)付き)

TYPE B ¥3,675
(ボーナスディスク「Ashes Melodies」「Replicant Blue」「The ins and outs」収録)付き)

★オリジナル特典：タイプ別アーティストフォト5枚組&コメントDVD

8/24 Maxi Single
#

※メーカー特典：W購入でポスター

黒夢

8/24 Maxi Single
heavenly
DVD付き ¥1,890
CDのみ TYPE-A・B ¥1,260

ゴールデンボンバー イベントあり

8/24 Maxi Single
女々しくて/眠たくて
初回限定盤A・B ¥1,500
通常盤 ¥1,000

砂月

8/24 Maxi Single
SYMPATHY ¥1,575
MOON SPIRAL ¥2,500

ngeiL

Vord ¥1,575

HERO イベントあり

8/24 Maxi Single
25億秒の使い方。
初回限定盤A・B ¥1,890
通常盤 ¥1,260

MEJIBRAY

8/24 Maxi Single
KILLING ME ¥1,575

the GazettE

8/31 Maxi Single
REMEMBER THE URGE
初回限定盤 ¥1,785 通常盤 ¥1,260

10/5 Full Album
TOXIC

己龍

8/31 LIVE DVD ¥4,980
己龍全国単独巡業「夢幻鳳影」～千秋楽～赤坂BLITZ

ACHINGUNS

DOG inThe パラレルワールドオーケストラ イベントあり

8/31 Maxi Single SPEED TO NIGHT
初回限定盤 ¥1,890 通常盤 ¥1,260

9/21 Maxi Single CHULIP HOLIC
初回限定盤 ¥1,890 通常盤 ¥1,260

AGE of PUNK イベントあり

9/7 Full Album
Purple Banana ¥3,150

イロクイ。

9/7 LIVE DVD
鋼鉄の空と涙と夢とプライドと君 ¥4,500

THE KIDDIE

9/7 LIVE DVD
THE KIDDIE Happy Spring Tour 2011 TOUR FINAL AKASAKA BLITZ

9/28 Maxi Single
美しき REDRUM

tripper

ナイトメア

9/7 Maxi Single
SLEEPER
TYPE A・B ¥1,890
TYPE C ¥1,260

※オリジナル特典：2タイプ購入で6枚組フォト／メーカー特典：ポスター

Plastic Tree

9/7 LIVE DVD ¥6,500
「ゆくプラくるプラ」振替公演「ゆくプラきたプラ」

※オリジナル特典：クリアファイル

葵 イベントあり

9/14 Mini Album
Symmetry
初回プレミアム盤 ¥2,800 通常盤 ¥2,200

オムニバス

9/28 Maxi Single
ひとつだけ ～We Are The One～ ¥1,680

Lustknot. イベントあり

9/21 Maxi Single
A BRUTAL FACT ¥1,575

the LEM イベントあり

9/21 Maxi Single
restart
プラナリア

人格ラヂオ

9/28 Maxi Single
タイトル未定 ¥1,890

花少年バディーズ

9/28 LIVE DVD ¥5,200
電撃ボンジュール -アタリハズレ江戸ハマヤマン-

SM・BOYZ イベントあり

Mix Speaker's Inc. イベントあり

9/28 LIVE DVD ¥6,090
RAINBOW CIRCUS
～6匹のピエロとモノクロサーカス団～
2011.04.22@SHIBUYA CLUB QUATTRO

OZ

10/5 Maxi Single
爪牙
初回限定盤 ¥1,980 通常盤 ¥1,260

Called≠Plan イベントあり

10/5 Maxi Single
Crazy Cat
TYPE A・B ¥1,890
TYPE C ¥1,575

LM.C

10/12 Best Album
☆★Best the LM.C★☆ 2006-2011 SINGLES

ルピクチャーズ

Alice Nine

9/7 Maxi Single Heart of Gold

Cu[be]

9/7 Maxi Single ¥1,575 Twilight ST★R

JILLS BLUE ROSES

9/7 Maxi Single 華恋/ブラックローズ

オムニバス

9/7 Full Album V-ROCK Disney

SCAPEGOAT

9/14 Maxi Single ¥1,890 EVERGREEN

NOISY CROWDS

9/14 Maxi Single ¥1,575 土砂降りの中で、僕は踊る

Acid Black Cherry

9/21 Maxi Single ピストル

D'ERLANGER

9/28 LIVE DVD タイトル未定

イベント情報

	8/27(月)	PM6:00～トーク&握手&撮影会
バー	8/24(水)	PM6:00～トーク&握手会
	8/27(土)	PM6:00～トーク&握手会
	8/27(土)	PM3:00～トーク&サイン会(2タイプご購入でさらに6ショット撮影会)
	8/28(日)	
ーズ	9/3(土)	PM5:00～トーク&握手&6ショット撮影会
MAN	9/4(日)	PM6:00～トーク&5ショット撮影会
	9/9(火)	PM3:00～1時間店員
	9/10(土)	PM4:00～1時間店員
	9/10(土)	PM6:00～トーク&握手&サイン会
	9/11(日)	PM5:00～トーク&6ショット撮影会
レルワールドオーケストラ	9/11(日)	PM6:30～トーク&6ショット撮影会
	9/14(水)	PM7:00～トーク&握手&2ショット撮影会
	9/23(金)	PM2:00～トーク&握手&サイン会
	9/24(土)	PM4:00～トーク&握手&サイン会
	9/25(日)	PM3:00～トーク&握手&じゃんけん勝負(じゃんけんに勝った方は撮影会)
	9/25(日)	PM5:00～トーク&握手&サイン会
	10/1(土)	【1部】PM3:00～【2部】PM5:30～トーク&撮影会
Inc.	10/2(日)	PM3:00～トーク&握手&サイン会
YZ	10/2(日)	PM3:00～内容未定
レルワールドオーケストラ	10/2(日)	PM6:00～トーク&6ショット撮影会
	10/7(金)	PM3:00～1時間店員
	10/9(日)	PM7:00～トーク&サイン会
	10/16(日)	PM6:00～ゲーム&トーク&サイン会

名古屋店イベント情報

AYABIE	8/22(月)	PM1:00～トーク&握手&サイン会
シンディケイト	8/26(金)	PM5:00～トーク&握手&サイン会
ケミカルピクチャーズ	8/26(金)	PM6:30～トーク&握手&6ショット撮影会
EAT YOU ALIVE	8/28(日)	PM3:00～1時間店員
MILKY EMILY-みるえみ-	8/30(火)	PM3:00～1時間店員
Lycaon	8/31(水)	時間未定 1時間店員
DOG inTheパラレルワールドオーケストラ	9/2(金)	時間未定 トーク&6ショット撮影会
愛狂います。	9/4(日)	PM2:00～トーク&5ショット撮影会(2タイプご購入でさらに2ショット撮影)
CreatureCreature	9/11(日)	PM12:00～トーク&握手&サイン会
凜	9/11(日)	PM5:00～トーク&サイン会
葵	9/16(金)	PM7:00～トーク&握手&2ショット撮影会
EAT YOU ALIVE	9/18(日)	PM1:00～トーク&6ショット撮影会
Jackman	9/18(日)	PM5:00～1時間店員
DOG inTheパラレルワールドオーケストラ	9/22(木)	PM6:00～トーク&6ショット撮影会
2nd Dyz	9/23(金)	PM1:30～1時間店員
Lustknot.	9/23(金)	PM3:00～1時間店員
yuina	9/24(土)	PM6:00～トーク&サイン会
HERO	10/9(日)	【1部】PM1:00～【2部】PM3:00～トーク&撮影会
ワン★スター	10/12(水)	時間未定 1時間店員
the LEM	10/14(金)	PM3:00～トーク&アコースティックライブ&握手会
Called≠Plan	10/15(土)	PM4:00～トーク&握手&サイン会+α
ワン★スター	10/15(土)	時間・内容未定
Lycaon	10/23(日)	PM4:00～トーク&握手&サイン会
FUTURISM-BOYZ	11/5(土)	PM2:00～内容未定

大阪店イベント情報

Royz	8/25(木)	PM1:00～トーク&握手&サイン会
ケミカルピクチャーズ	8/25(木)	PM3:00～トーク&握手&6ショット撮影会
AYABIE	8/26(金)	PM6:00～トーク&握手&サイン会
EAT YOU ALIVE	8/27(土)	PM3:00～1時間店員
シンディケイト	8/28(日)	AM11:30～トーク&握手&サイン会
C4	8/28(日)	PM1:00～トーク&握手会
Jackman	8/30(火)	PM6:00～1時間店員
DOG intheパラレルワールドオーケストラ	9/1(木)	時間未定 トーク&6ショット撮影会
愛狂います。	9/3(土)	PM2:00～トーク&5ショット撮影会(2タイプご購入でさらに2ショット撮影)
CreatureCreature	9/16(金)	PM7:00～トーク&握手&サイン会
AGE of PUNK	9/17(土)	時間未定 トーク&サイン会
HERO	9/18(日)	【1部】3:00～【2部】5:30～トーク&撮影会
葵	9/19(月)	PM6:00～トーク&握手&2ショット撮影会
yuina	9/24(土)	PM1:00～トーク&サイン会
DOG intheパラレルワールドオーケストラ	9/25(日)	PM1:00～トーク&6ショット撮影会
凜	10/1(土)	PM6:00～トーク&サイン会
Called≠Plan	10/5(土)	PM5:00～1時間店員
the LEM	10/12(水)	PM5:00～トーク&握手&6ショット撮影会
Lycaon	10/22(土)	PM6:00～トーク&握手&サイン会
FUTURISM-BOYZ	10/30(日)	PM2:00～1時間店員
EAT YOU ALIVE	10/未定	時間未定 トーク&6ショット撮影会

蝴蝶网 hudie.com

Like an Edison Release Information

mobile site

official blog
★東京店、原宿店、名古屋店、大阪店の日常や情報が満載の「スタッフブログ」 ▶ http://ameblo.jp/like-an-edison-blog/
★全スタッフより音源の聴き所などをお伝えする「ヴィジュアル・ソムリエ」 ▶ http://ameblo.jp/like-an-edison-sommelier/

AUBE

9月28日 発売
Maxi single
我、泡沫夢幻の華になり
『我、泡沫夢幻の華になり…』／River of Destiny～蒼き
Aタイプ（CDのみ：『PLASTIC INSPIRE』収録）¥1
Bタイプ（CDのみ：『カーテンコール』収録）¥1
Cタイプ（DVD付き：『百花繚乱』MV収録）¥1

Like en Edison Distribution Monthly Recommendation

＊価格はすべて税

Lycaon

8月31日 発売　イベントあり
Mini Album【全国流通盤】¥3,000
嘘と女と『　　　』
★オリジナル特典：SPECIAL DVD【メンバードッキリ企画】＆5枚組フォト

Creature Creature

9月10日 発売　イベントあり
LIVE DVD ¥6,300
EXORCISING ORPHEUS -PARADISE TOUR FINAL-
★オリジナル特典：コメントDVD＋フォトカード5枚セット

EAT YOU ALIVE
イベントあり

8月24日 発売
Full Album
The world is mine
初回限定盤 ¥3,675／通常盤 ¥3,200

SOMATIC GUARDIAN
イベントあり

8月24日 発売
Maxi Single
LOVE&PEACE
Aタイプ・Bタイプ ¥1,575

ASTRO BOY

9月28日 発売
Mini Album
Technologic
¥2,625

横山和俊
イベントあり

8月24日 発売
Sound Track ¥3,150
『愛在る領域』
オリジナル・サウンドトラック
★オリジナル特典：横山和俊コメント・告知用イメージビデオDVD

MILKY EMILY-みるえみ-
イベントあり

8月31日 発売
Maxi Single
夢色 galaxy
¥1,575

ワン★スター

10月12日 発売　イベントあり
Full Album ¥2,500
TETRASCROLL
-テトラスクロール-

DOPES.

8月31日 発売
Maxi Single ¥1,260
NAKED

TAFUCA

8月31日 発売
Full Album ¥2,500
NIGELLA

VizeL

9月7日 発売
Mini Album ¥2,100
Vanish

グリム

9月9日 発売
Concept Album ¥2,415
seven

蝴蝶网 huadie.com

ライカエジソン東京店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-15-14 坂本ビル1F／2F
☎(1F)03-3369-3119／(2F)03-3369-3708

ライカエジソン名古屋店
〒460-0011
愛知県名古屋市中区大須2-1-15 伏見ヨックスビル2F
☎052-229-8211

ライカエジソン大阪店
〒542-0086
大阪府大阪市中央区西心斎橋1-6-8 トムズハウスビルディング2F
☎06-6252-6262

ライカエジソンドットコム ラフォーレ原宿店
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿B1F
☎03-3746-6002

通信販売も受付中！
送料一律 400円
0120-624-999
携帯からは 03-3369-3119（ライカエジソン東京店）

通信販売をご利用で、名古屋・大阪店のインストアイベントへご参加希望のお客様へ
通信販売でもイベントにご参加いただけます（ただし枚数制限がございます）＊一部、対象外のイベントもございます。
通信販売はライカエジソン東京店で受付しております（名古屋・大阪店では通信販売を受付しておりません）
イベント参加希望のお客様の通信販売の受付は現金書留のみとなります。

ライカエジソン WEBショップ
www.like-an-edison.com
＊パソコンからご利用いただけます。

ライカエジソンドットコム **ラフォーレ原宿店 イベン**

ギルド 8/22

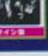
HERO 8/23 6:00

トーク&サイン会
ユナイト 8/24 6:00
横山和俊 8/26 8:30

boogieman 8/27 6:00

SOMATIC GUARDIAN 9/4 4:00
9/4 6:00

9/11 12:00

DOG inThe パラレル 9/11 2:30
Creature Creature 9/18

yuina 9/25 1:00

DOG inThe パラレル 10/2 1:00

凛

-the end of corruption world-

待望の1st Full Album『Independent "MAZE"』完成!!

バンドの方向性を試行錯誤しながらの制作って、迷宮みたいなもの

8月31日に、凛が1stフルアルバム『Independent "MAZE"』をリリースする。10曲入りに加え、プ各々に2曲入りの異なるスペシャルシングルCD（Aタイプには『Paranoia Disturb』、Bタイプには『Ashes Melodies』）を付け、全14曲に彼らの魅力をぎっしりと詰め込んだ。10月には東京と大阪で発売記念ワンマンも決定。その後は一時地下活動に入り、さらなる展開を図るという。現在の彼らの姿をここでしっかり確認しておきたい。

Interview：MIYUKI MURAYAMA

―アルバム制作にあたって、何かコンセプトは考えたんですか。

KISAKI：特には立ててないですね。結成から常にレコーディングはやってきたんで、それを一旦全部出し切ろうと。だから、結成初期に録って、音源化してなかったものもありますし、最近に録ったものもありますね。

―1曲目の「Cold Sabbat」、「From the End…」と聴くとひとつの流れが感じられて、アルバムらしい始まり方ですよね。

KISAKI：「Cold Sabbat」は、ライヴのオープニングSEにしようと思って、結成当時に制作していた曲ですね。結局まだ一回も使ってないんですけど。

一同：（苦笑）

KISAKI：それをオープニングに収録し、「From the End…」の流れに美しく自然に流れるようにしようと思って、オープニングなどはこだわって制作しました。

―「From the End…」は、世界観のある感じからライヴのノリになって。

KISAKI：もともとライヴを意識した曲なんですけど、サビのメロディーはきっちり聴かせようと思ってリズムを落として、きっちり歌ってもらった感じですね。

RIKU：凛の曲には必ず聴かせる部分があるので、そこを意識して歌いました。Cメロのところはもっとそうなんですよね。勢いのままいって、心の底から思ってる気持ちはCメロで出してみました。

―4曲目の「Royal Blood」は、KANATA君の曲ですね。

KANATA：結成から半年過ぎたところで、凛のコンセプトをまた見返して作りました。シンセもすごく綺麗で勢いがあって、バックではギターが引っ張って。タイトルどおりなんですけど、王族というか、どっしりと優雅に穏やかさがあるイメージですね。

KISAKI：KANATAの作ってくる曲は熱い曲が多いんです。

KANATA：僕、熱いのが好きです。

REIYA：最近、みんなで暑苦しい男って言ってるんで。

一同：（笑）

―歌詞はRIKUさんですね。

RIKU：[illegible]

ですね。

―7曲目の「Continuation of dream」は、いちばん意外性がありました。

KISAKI：これはアクセントですね。10曲のバランスを考えたときに、今までの自分が打ち出したことのないテイストの曲をやりたくて。ちょっと大人っぽく仕上げたいと思ったら、意外にハマったんですよね。

RIKU：シャッフルの曲はやったことがあったんですけど、ここまでジャズっぽい曲はなかったんで、難しかったですね。でも、楽しみながらやりました。

MIZUKI：僕はリズムにノって弾くという時点で、KANATAさんにすごい怒られて。"跳ねとらんやん"って。

一同：（笑）

MIZUKI：練習しまくりました。

REIYA：僕もすごく苦労した曲です。ドラムを一発目に録るじゃないですか。まずKISAKIさんに、"跳ねてないよ"って言われて。

一同：（笑）

―歌詞も他の曲と違って、ちょっとリアルな世界ですよね。

RIKU：大人びた感じであえてって言われたんで、恋愛かなと。

KISAKI：ただ激しいだけ、美しいだけではなくて、妖艶な雰囲気も出していきたいんですね。

―次が「Mind confusion」ですね。

MIZUKI：（苦笑）

―何ですか、その笑いは[illegible]

REIYA：始めがギター[illegible]レーズで、途中から同期が[illegible]すけど、そのギターのフレ[illegible]きの2人のやりとりがすご[illegible]です。

KANATA：アドリブで[illegible]次にMIZUKIが弾いた[illegible]スがアダルト[illegible]（苦笑）。

KISAKI：ミックスのときに[illegible]いたフレーズは[illegible]と消し[illegible]

MIZUKI：（苦笑）

―そして、「World in Ha[illegible]」で、[illegible]ルバムの最後らしく締めくくり[illegible]すね。

KISAKI：大切なものをなくしてしまった[illegible]

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

KANATA：これは凛らしさがすごく出てるんで、一瞬で美しいと思えるようなギターのフレーズを意識して、とにかく綺麗に、綺麗さを追求した曲ですね。

KISAKI：でも、ただ綺麗なだけじゃなくて浮遊感もほしくて。

MIZUKI：弾くときの緊張感がすごかったです。優しいけど弱くなく、ピッキングにすごく気を遣った曲ですね。

RIKU：歌は、切なさをちゃんと出しつつ抑揚をつけたり、Aメロとか弱い中にも気持ちを入れたりするのが難しかったですね。KISAKIさんも異常に厳しかったし（苦笑）。

——サビに鐘の音が入っていて、「Cold Sabbat」と呼応するのかなと思いました

KISAKI：凛が出す世界観の王道なんですかね。心に残りやすいし、世界観をいちばん出しやすい音色かなと思ってるんですよね。この曲で、アルバムの締めくくり感はすごく出たと思います。

——「Independent "MAZE"」というタイトルは、どういう意味を込めたんですか。

KISAKI：自分たちのバンドの方向性を試行錯誤しながら制作していくのって、迷宮（MAZE）みたいなものだと思うんですね。自分たちが悩み抜いて作った曲たちを、自分たちの力だけで出すというところから、つけました。

——さらに、2タイプ各々に違うボーナスディスクがつきますね。Aタイプの2曲は、かなりライヴノリの曲ですね。

KISAKI：攻撃的な2曲ですね。

——「A Hitler」に、ヒトラーという題材を持ってきたのが新鮮でした。

KISAKI：戦争とか戦いをテーマに作った曲で、それをRIKUに投げたんです。

RIKU：僕の中で戦争と言うと、ガンダムとヒトラーしかないんです。

一同：（笑）

——Bタイプの「Replicant Blue」は、爽やかで透明感のある世界観が新鮮です。

KISAKI：凛にはない感じの曲ですね。歌詞もストレートで。この曲がいちばんキャッチーだと思うんですね。

——それをあえて本編に入れなかった？

KISAKI：本編のどこに入れても浮いくらい、すごい思い入れのある曲です。

REIYA：僕もこの曲はいちばん可愛いぐらいですね。

KISAKI：マジで？　それだけの名曲がボーナスディスクに入ってます。

——全14曲で、この曲でこそ自分が出せたなと思う曲はどれですか。

MIZUKI：僕のギターはカットされましたけど、「Mind Confusion」ですね。いつもはKANATAさんが先にギターを作るんですけど、この曲は僕が先にやったのもあって思い入れが強いんです。あとは、「A Hitler」のギターソロは、メチャクチャ具合が僕っぽいと思います。

KANATA：初めてのギターソロやな僕は、「The ins and outs」ですね。MIZUKIと会って一年経って、息がこんなに合うギタリストだったんだなと思うぐらいの曲でしたね。12弦ギターを使ったギターソロがあそこまで美しく作れて、すごく気に入ってます。

REIYA：僕は「Mind Confusion」ですね。KISAKIさんがこれは好きに、トリッキーな感じにやってみてって言った曲で、素直に自分らしさを出せました。

RIKU：僕も「Mind Confusion」ですね。それと「Flowers Bloom」。それがいちばん自分に合ってるかなって。単にそんなに苦戦しなかったということですけど。

一同：（笑）

KISAKI：このアルバムは、全14曲中13曲は僕の曲なんですが、「The ins and outs」と「World In Flames」は特に苦しんだ記憶があります。全曲思い入れは強いんですけど、特に「World In Flames」は、歌詞もちゃんと見ながら聴き込んでほしいと思いますね。

——アルバムが発売された後、10月に東京と大阪でワンマンライヴがありますね。

KISAKI：それが終わったら、ライヴ活動を少しだけ止めて地下活動に入ります。客観的に見ることでまたバンドに還元できるものもあるんじゃないかなと思って。もう一段とより新たな楽曲を引っさげて、新たなヴィジュアルコンセプトも作って、また帰ってきたいと思ってます。その間には、KISAKI PROJECTもあるので、そちらも期待してほしいです。

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

www.facemusic.jp
http://www.sadie-web.com

Sadie

New Maxi Single 2011.10.5 Release!

Rosario -ロザリオ-

NEW MAXI SINGLE「Rosario-ロザリオ-」RELEASE
ONEMAN TOUR 2011 AUTUMN

Gather, the Pain of Rosario

10/14 fri 札幌 PENNY LANE 24
OPEN18:30 / START19:00

10/21 fri 新横浜 SUNPHONIX HALL
OPEN18:30 / START19:00

10/28 fri KYOTO MUSE
OPEN18:30 / START19:00

11/02 wed HEAVEN'S ROCK さいたま VJ-3
OPEN18:30 / START19:00

11/08 tue HEAVEN'S ROCK 熊谷 VJ-1
OPEN18:30 / START19:00

11/13 sun 高松 DIME
OPEN17:30 / START18:00

11/18 fri 広島 NAMIKI JUNCTION
OPEN18:30 / START19:00

11/22 tue 新潟 Live Hall GOLDEN PIGS RED STAGE
OPEN18:30 / START19:00

11/25 fri 仙台 darwin
OPEN18:30 / START19:00

11/27 sun 厚木 Thunder Snake
OPEN17:30 / START18:00

12/02 fri 名古屋 BOTTOM LINE
OPEN18:30 / START19:00

12/09 fri 博多 DRUM Be-1
OPEN18:30 / START19:00

12/17 sat 大阪 BIG CAT
OPEN17:00 / START18:00

※上記の公演前売りチケット ¥4.000-(D別)
※上記公演の一般発売日：9/10(土)

12.29 thu 東京 SHIBUYA C.C.Lemon HALL

OPEN17:30 / START18:00 前売りチケット¥4.500-
一般発売日：10/29(土)

【チケットWEB先行発売決定!】

抽選エントリー受付日程:8月13日(土)13:00〜8月21日(日)23:00

受付URL：http://l-tike.com/sadielivehp/

詳しくはオフィシャルHPまで!

FACE MUSIC Majestic Records Lord Camelot. ARIA FERNANDES

©Sadieオフィシャルファンクラブ「UNDEAD」では、随時新規入会者を募集中です! 詳しくは→【@ファンクラブぴあ】まで http://www.pia.co.jp/fanclub/

杂志迷
zazhimi.com

樹威

1st Live Tour“11th finger
2011.7.22 SHIBUYA CLUB QUATTRO

初のソロ・ツアー、ファイナル!!

ソロとして活動を始めた樹威が、アルバム発売に続き、初めてのツアーを行なった。そのファイナルとなったの7月22日・渋谷クラブクアトロ。アルバム収録曲に加え、新曲やカヴァーなど、盛り沢山な内容で、ソロ活動への意欲をおおいに示した。ソロとしてはスタートを切ったばかりの彼だけに、これからどんなアーティストに成長を遂げていくのか、その可能性ははかりしれない。

蝴蝶网
hudie.com

Report:MIYUKI MURAYAMA

【set list】
～OPENING SE～
1.夢のない時
2.イン ザ ブルースープ
3.未完成の楽譜
4.Amanda～嘆きの後～
5.4,888秒間の溜息（新曲
6.Stockholm Syndrome
7.ICE MY LIFE（cover）
8.JAM（cover）
9.Veltair（cover）
10.Eternity
11.招待状
12.-1
13.嘘の毒針（新曲）
14.Bang girl
15.I'll always be wiz you
<encore Ⅰ>
16.プレイバックpart2（co
17.My first kiss（cover）
<encore Ⅱ>
18.3D storm（新曲）
19.I love you（新曲）
<encore Ⅲ>
20.最大公約愛

杂志迷
zazhimi.com

から、その歌唱力には定評のあった彼だけに、アルバムでもより幅広いアプローチで、ヴォーカリストとしての魅力をいかんなく発揮していた。

けれどもライヴとなれば、どんな姿を見せてくれるのか、まだまだ未知な面もある。ソロとしてのライヴを観るのは初めてという人も多かったであろう会場には、期待と不安、そして緊張感が漂っているようだった。

第一声を丁寧に発し、「夢のない時」でライヴはスタート。観客は若干様子をうかがうように、じっと見つめている。その会場が暖まるまで、樹威自身も若干の緊張を滲ませていたが、それはこれからソロとしての活動を重ねていくにつれて変わってくることだろう。

まだ手探りの感はあったが、ソロならではの魅力を楽しませる場面も多々あった。「Amanda~嘆きの後~」や新曲「4888秒間の溜息」では、ムーディに大人の雰囲気で観客を酔わせた。そしてカヴァータイムでは、THE YELLOW MONKEYや黒夢といったバンドからMUSEまで、様々なタイプの曲のカヴァーで歌唱力の高さをストレートに見せる。出身地・仙台を中心に活動していた自身のバンド・Luinspearの曲をセルフカ

ンコールで聴かせた「プレイバックpart2」の少し芝居がかった歌が意外にハマり、ロックよりも歌謡曲を面白く聴かせられそうな、新たな可能性を感じさせた。ぜひとも、もっと幅広い曲にも挑戦してほしい。また、「嘘の毒針」「Bang girl」といったノリのいい曲では、樹威が激しくあおると、観客もおなじみのノリで会場全体が盛り上がり、ロックバンド然とした空気感がいっぱいに広がった。

決してMCが得意とは言えない樹威だが、サポート・メンバーの助けもあって、アンコールではキュートな表情を見せ、観客が喜ぶシーンが見られた。そんな素直な一面も、これからはもっと見てみたいものだ。

本編最後の「I'll always be wiz you」や大ラスの「最大公約愛」など、豊かな声を響かせ、切々と訴えかける歌声には、彼のヴォーカリストとしての魅力を再確認させられた。また具体的なイメージを広げる直接的な歌詞や、切ないメロディの数々にも、彼の個性はおおいに表れていただろう。ここからさらにその個性を押し拡げ、歌の上手さと同時に個性が際立ってくるような、樹威ならではのソロ・アーティストとしてのスタイルを作り上げていってほしい。

蝴蝶网
hudie.com

Daizy Stripper

月に銃声

DaizyStripper史上最速ナンバーが完成!!

CDを再生した瞬間、思わず「おぉ!」と驚いてしまうことだろう。それほどまでに、DaizyStripperの最新作『月に銃声』7日リリース)は、刺激的。だが、これはあくまでも序章にしか過ぎない。風弥曰く「次の作品を予感させるシングル」というだけに、今後のリリースも気になるところだが、まずは、本作で彼らの進化を味わおうではないか。

Interview : ERI MIZUTANI

――『月に銃声』は、今までになかった作品となっていますね。

風弥：今までのデイジーの中で、いちばん鋭くて、いちばん攻撃性のあるシングルです。

――再生した瞬間、あれ？ 間違えたかな？って思ってしまいましたよ。

まゆ：カップリング含め、全部違うバンドが演奏しているみたいですよね（笑）。

夕霧：信号でいうと、赤・白・黄色みたいな。んっ？ 違った？

なお：信号の色は赤・青・黄色だよ……。

一同：あーあ（爆笑）。

夕霧：そんな感じで、うまいことバラバラな3曲になったんじゃないでしょうか。

風弥：（笑）。とにかく、この1枚でいろいろなことが表現できるバンドっていうのを見せたくて。だから、表題曲の「月に銃声」もダークな一面が覗いているんです。けど、激しい中にもメロディーの綺麗さは健在なので、そこでうちらしさを感じてもらえるんじゃないですかね。しかし、これはテンポが速い。デイジーの中で最も速いんですよ、この曲。

まゆ：だからこそ、ソリッド感やアタック感を保ったまま、いかにしてこのスピードに乗っていくかっていうのが大事なところでもあって。それと、風弥が曲を作る時点でイメージした男らしさ、そのパンチのあるところを意識して弾いていきましたね。

Rei：個人的にはやりやすかったです。俺は音ありきで考えるタイプなんですけど、視野を広げたいと思ったので、安定しているだけではない音作りというか、ベーシストの立ち位置を考えながら作っていきました。そのおかげで、音を全身で受けて弾くことができましたね。あとは、ヴォーカルをいかに聴かせることができるか、そこも考えました。

夕霧：演奏がタイトな分、歌は重くならないよう乗せていったんです。主人公の声にならない叫びを表現したことで、歌い終わったときの疲労感は半端じゃなくて。でも、その甲斐あって、とてもかっこいい曲になったんじゃないかな。

なお：今まで、シングルの1曲目って明るくて爽やかな曲が多かったんですけ

夕霧：みんなには、ぜひカラオケで挑戦してもらいたいよね。その際には、キー下げ、テンポ下げなしでお願いします！

――「雨音のワルツ」は夏の匂いを感じる素敵な1曲ですね。

風弥：デイジーにはバラードがいっぱいありますけど、〝どれも似ているね〟って言われるのは絶対に嫌で。なので、「雨音のワルツ」は個性的なバラードにしようと思い、作っていったんです。雨や紫陽花、お祭りや風鈴といった日本独特の情景を感じさせつつ、しっとりとした大人のバラードに仕上がっていると思います。

――まゆさん作曲の「UNDER THE SUN」は、荒々しくて豪快。こちらは通常盤と初回限定Aに収録されます。

まゆ：感情的な部分というのを意識して作りつつ、ライヴで縦ノリの光景が見たいなと思って仕上げていきました。結果的にデイジーになかった曲になったので良かったかなと。

夕霧：ラップやアッパーなシャウトが入ることで面白くなっていると思うし、タイトルが表す〝陽の力〟を感じてもらえる1曲だと思いますね。

なお：ほんと、この曲ができたことで新しいデイジーが見せられたと思います。ライヴでやったら、今までのノリ方とは違うものが出てくるんじゃないかなって。

風弥：縦ノリの曲だけに、会場が波のようになるのが見たいですね。そのためには、俺らが一体となれるグルーヴを作らないといけないんですけど。

Rei：ライヴでノれないと思ったら、俺のせいだと思って下さい。この曲をレコーディングするとき、エンジニアさんから〝曲を生かすも殺すもベース次第〟って言われたんですよ。それなので、ノれなかったら俺のせいってことで（笑）。

――8月21日には渋谷AXにてワンマンライヴ「SIX BLESS」が行われます。ここでは、本作に収録してある楽曲も演奏していただけるのでしょうか？

夕霧：今のところ、表題曲はやりたいなと思っています。デイジーストリッパーは今年で活動4周年を迎えるんですけど、この4年間で得たものを、今年最初で最

杂志迷
zazhimi.com

girugämesh

Here we go!!

限定追加販売決定!!

2月5日・市川市文化会館にて初のホール公演を行ない、
続いてWORLD TOUR"Here we go!!"を
スタートさせたギルガメッシュ。
ワールドワイドに活動する彼らの半年をパッケージした、
初の単行本発売!!
ご好評にお応えして、限定販売が決定!!

- ●撮り下ろしフォト
- ●最新パーソナル・インタビュー
- ●2月5日・市川市文化会館密着レポート完全版
- ●メンバー直筆によるWORLD TOUR "Here we go!!"回顧録
- ●パリ・ロンドン・ボーフム公演密着レポート完全版
- ●6月26日・Zepp Tokyo公演密着レポート
- ●メンバー・セレクトによる"CHIBA"案内
- ≪DVD≫裏ギルガメッシュSHOXX edition

蝴蝶网
hudie.com

絶賛申込受付中!!

カラーB5版100ページ
DVD付き
定価:3,600円
(税込/送料1冊につき600円)

【受付期間】
●2011年8月21日~(商品がなくなり次第終了)
※予約特典のポストカード・セットは付きません
≪弊社通信販売のみの、期間限定販売商品になります≫

【お申し込み方法】
★郵便振替でのお申し込み:お近くの郵便局に備え付けの郵便振替用紙に必要事項を記入の上、定価に送料を加えた代金(1セット:定価3,600円+送料600円=4,200円)をお振込み下さい。

郵便振替口座番号:00120-2-395900
加入者名:㈱音楽専科社
通信欄:「ギルガメッシュ」

払込人住所氏名:あなたの住所(マンション/アパート名、部屋番号を正確に。引越しされる方は現住所の他に移転先の住所も記入して下さい)、氏名、電話番号を忘れずにご記入下さい。

★ウェブサイト、携帯電話でのお申し込み:PC(パソコン)、携帯電話(一部対応できない機種もあります)からもお申し込みできます。
※お支払いは、お近くのセブンイレブン・ローソン・ファミリーマート各店でできます。
商品は宅配便にてご自宅に届きます。

払込取扱票
00120-2-395900 4200
㈱音楽専科社
通信欄 ギルガメッシュ
ご依頼人 あなたの住所、氏名、電話番号

<PCからのお申し込み>
音楽専科社オフィシャルHP→http://www.ongakusenkasha.co.jp/
または専用アドレス→http://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/girugamesh/index.html
にアクセスの上、お申し込み下さい。
<携帯電話からのお申し込み>
専用アドレス→http://www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/girugamesh/index_mob.html
または右のQRコードにアクセスの上、お申し込み下さい。

杂志迷
zazhimi.com

制作/発行:㈱音楽専科社
〒104-8228東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックス5F TEL:03-3574-0201 FAX:03-3574-8548 http://www.ongakusenkasha.co.jp

—「Future」は、『ナルホド！学べる日本とロシア』というイベントのテーマソングなんですよね。

Яyo：ロシアと日本の友好を深めるという企画があって、イベントの曲が必要だったらしいんです。それで、ロシアでの活動経験もあって、若者から人気があって…ということで選ばれたみたいです。

—自分たちで選曲してリリースする形態の作品とはちょっと違う位置のもの？

愁：これは別モノですよね。

左迅：これはちょっと違うけど、自分たちにとってマイナスになることではないし、使ってもらえるなら喜んで、ということですよね。

—いつ頃出来た曲なんですか。

Яyo："JAPAN TOUR" 前にはデモが出来てましたね。Zepp前にオケを録り終えた気がします。

—原曲はどういうところから出来てきたんですか。

Яyo：どうだったかなぁ。シングルに適したようなアプローチの曲、と思って作ってた曲ですね。

—原曲を聴いた時の印象は？

愁：僕、良いなぁと思いましたね。ライヴでも映えそうだなと思いました。

弐：ギルガメッシュ流の王道の、テンポが速くて疾走感があって、すごいパワーのある曲だなと思って。だからレコーディングする時も、ギターのダビングで埋め尽くすような曲じゃないなと思ったんです。普通にLR（のチャンネルの音）だけで、パワーのある曲に仕上げたいというイメージでしたね。

Яyo：そうだ、バンドだけで引っ張っていけるパワフルな曲はどんな曲かなと思って作ったんでした。同期はほとんど入ってないし、ギターのバッキングと疾走感のあるリズム、伸びやかなメロディというバンドだけの力で、どれだけシングルに合う曲が出来るかなという気持ちでした。

弐：だから結構隙間のある感じだったんで、新鮮でしたね。4人でやってるという感じがあって。

—ヴォーカル・メロディは左迅くんと一緒に作ったんですか。

Яyo：ほとんど鍵盤で作ったままのメロディみたいな感じが逆に新しかったですね。

—それをどんな風に歌おうと？

左迅：サビが伸びやかなメロディで、こういう伸ばし気味のメロディってそんなに得意じゃなかったんですけど、頭の中で声を響かせる部分とかを自分の中で意識して、試行錯誤しながら録っていった感じですかね。聴いてて、より気持ちよく伝わるかをすごく重点的に置いて歌った感じです。

—これだけ同期を入れないとなると、楽器陣のプレイも変わってくるところはあるんでしょうか。

Яyo：今まで（同期で）やってたことを楽器の演奏で補えればいいかなと思いました。だから、金モノ（シンバル）を録る時も、いつもは上のほうに立ててるマイクを、同期で埋めてた部分の音を録るために下げたり、そういう工夫もしましたね。プレイ的にも、細かいスネアロールとか、表打ちの速いビートとか、ハットをオープンで叩いたりとか、普段はあんまりしないことをしました。そういうテクニカルなことをしないと、厚みが出ないと思って。

—いつも以上にドラムが鳴ってる印象は受けましたね。

Яyo：ドラムだけでリズ[illegible]張っていく楽曲ですよね。

愁：僕がデモを聴いた時は、[illegible]同期のありなしというのは意識[illegible]ですね。ただ、「pray」以降[illegible]ガツ行こうかなと思ってた[illegible]り盛りで持っていったら、[illegible]れたという感じですね。

—全体的の曲構成としては[illegible]A/B/サビと、分かりやすく展開[illegible]すね。

Яyo：勢いのある感じに[illegible]て、Aメロでは分かりやす[illegible]Bでちょっと落として、サビで[illegible]いく、シングルの王道の流れですね。

—歌い方も、A～B～サビと変化してますよね。

左迅：Aメロはすごくリズミカルで、リズム感をすごく意識して歌って、Bメロでは優しさとか柔らかさとかそういう部分を出して、サビで解き放て！みたいな感じで。体に響かせて、大海原を進んで行くぞ！みたいな気持ちで歌いましたね。

愁：オホーツク海を？ロシアに向かっ

zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

CHAЯGƎ TO THƎ FЦTЦЯƎ

無限の可能性は、何を生み出すのか…!?

6月26日・Zepp Tokyoのライヴを成功に収めてから、制作活動に集中しているギルガメッシュ。そんな彼らから、思いがけず新曲が届けられた。着うたとして配信中の「Future」だ。これは、"日本とロシアの友好"というグローバルなテーマに相応しい、雄大で勢いのあるナンバーに仕上がっている。一方で、彼らは引き続きまだまだ制作に没頭中。どんな曲が生み出されるのか、もうしばらく楽しみに待っていたい。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

はやりたいなと思ってました。だから、ギターもずっとシンプルだし、それでサビでバン!って行くような感じですね。

愁：Bメロはゆったりした感じがしたので、ベースもゆったり動いて。サビは、ヴォーカルが伸びやかな分だけ隙間があるので、ベースが穴埋めしたいなと思っいました。

――間奏はありますけど、ギター・ソロは今回入ってないですよね。

Яyo：イントロのフレーズが間に来るんですけど、イントロのテーマを覚えさせたいと思ったんです。よくアニメソングにもある、王道の構成ですね。

弐：これはガンガン突き進んでいきたかったんで、ソロは外しましたね。

――その後のCメロでは雰囲気が変わって。

Яyo：Bメロに近いんだけれども、ギター、ベースがごちゃごちゃ動いて、そこから、最後の大サビで解き放て!みたいなイメージです。ここはみんな頭を使ったんじゃないかな。

弐：ドラムも歌も、みんなスレスレのところで、いい感じで絡み合ってますね。

Яyo：これこそ、同期レスだからこそ出来る絡み合い、みたいな。

愁：ひしめき合ってる気がしますね、ラストスパートに向けて。バンド感が出たかなと思います。

――そして大サビで解き放つと。

弐：ロシアに到着したな。

Яyo：ようやくモスクワ空港に着いたなって。

左迅：飛行機じゃねぇよ、船で行ってるんだよ（笑）。

一同：（笑）

――この歌詞は、イベントの主旨を踏まえて書いたんですか？

左迅：ロシアとの友好ソングを作ってくれと言われてから書きました。今日本は全世界の人たちに支えられて頑張ってるんで、そういう想いも歌いたかったし、ロシアって外務省の前にでっかい看板を立てて、日本を応援する言葉を書いてくれてたりするんで、そういうことへの想いとか、そうやって支えてくれてるから、今自分たちが頑張っていられるっていう、決意を歌った曲ですね。

――歌詞を書くにあたって、ロシアとニュースとかも観るようになったんでそういうのが歌詞に反映されたと思います。

――ロシアとの友好という、すごくグローバルな企画に参加してきたのは、世界で活動してきたバンドならではですね。

Яyo：嬉しいですよね。普通だったら出来ないと思うんで、率直に嬉しいです。やってきた甲斐があったなと思います。

愁：ロシアに行ったことのない人が歌うより、説得力はあると思いますね。ロシアでライヴをしたことがある人って、数少ないと思うんで。

――確かに。そして、バンドとしては、今は制作に集中しているところだとか。

Яyo：今日、久々に家を出ました（笑）。作曲期間だったんで。

――目前の目標が具体的に発表できていない状態というのは、どういう感覚ですか。

愁：下手したら、結成間際ぐらいの決まってなさかもしれないんで、新鮮ですね。無限に可能性があると思うんです。まずは、みんなが納得する良い曲を作る、という感じです。

Яyo：とにかく曲を書きまくって、幅をもっと広げて。そこでみんなの考えが一致する曲が出来れば、やればいいかなと思います。ある意味、いつでも動けるんですよ。準備は出来てるという。ただタイミングの問題ですよね。だから今は常にクラウチングスタートの状態ですね（笑）。

――緊張感がありますね。

Яyo：だから、1日たりとも無駄にしないで、精一杯生きようかなと。

弐：プレッシャーもちょっとはありますけど、今はゆったりとした感じで[illegible]せてますね。曲の数もたまって来て[illegible]いろんな人の意見が一致した曲[illegible]いくかという感じです。それまで曲を作って、完璧な状態にしておきた[illegible]ね。

左迅：こういう時間は、やっぱり自[illegible]向き合う良い機会だと思うし、自[illegible]の将来像を考える時間だと思って[illegible]そうやって考える時間がないと、[illegible]こないものもあると思うんで。前に進むために自分と向き合う時間だから、[illegible]事にしたいです。

雑志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

大佑 一周忌記念公演「漆黒の光」

蝴蝶网
nudie.com

2011年7月15日 新木場STUDIO COAST

10年7月15日、圧倒的存在感でシーンに衝撃を与えたカリスマヴォーカリスト・大佑が永眠した。ソロ活動の第一歩を踏み出したこととあって、その知らせに誰もが落胆したものだ。しかし、仲間の手によって制作が止まっていたアルバム『漆黒の光』は今年4月事リリース。そして、同タイトルの一周忌追悼公演が、7月15日・新木場スタジオコーストにて行なわれたのである。

Photography:AYAMI KAWAI Report:ERI MIZUTANI

蜉蝣】

ヨナラ

【the studs】

1.raindrop
2.after this introduction
3.スパイダーネスト

杂志迷
zazhimi.com

佑と黒の隠者達】

リード
流れる、ある独りの男の「悲痛な叫び」にも似たメロディー
涙 5.翻弄 6.葬送

【boogieman】

1.シュレーディンガーの猫
2.d.CHILD
3.PicaSSo
4.奈落に咲く
5.Howling

【ムック】

1.大嫌い
2.絶望
3.娼婦
4.パノラマ
5.咆哮
6.蘭鋳
7.リブラ

2.sweet powder
4.ハーメルン

蝴蝶网
hudie.com

【ギルガメッシュ】

1.I think I can fly
2.夕暮れの謝罪
3.Break Down
4.evolution
5.Never ending story
6.再会

【12012】

1.逃走本能
2.「6」party
3.my room agony
4.浸食
5.サイクロン
6.LOVERS

えた後でのインタビューということもあり、さぞかしメンバーは疲れきっているだろうと思いきや、大佑ときたら『インタビュー、カラオケBOXでやりませんか。俺、まだ歌い足りないんで！』と言ってきたのだ。私は、それが場を和ますためのジョークだと思ったのだが、実際にインタビューが終わっても、『カラオケ行きましょうよ。やっぱり、まだまだ歌い足りないんで』と満面の笑顔で提示してきたのだった。この後、スタッフを引き連れて本当にカラオケに行ったそうだが、彼の歌にかける情熱は相当なものだと感心した。歌うことが大好きで、自分のやることに真っ直ぐだった大佑。だからこそ〝カリスマ〟と呼ばれたのだろう。そんな彼を愛した戦友たちが集まって行なわれた一周忌追悼公演は、実に心温まるものとなった。

オープニングに現れたギルガメッシュは自身の曲を披露する中に蜉蝣の「夕暮れの謝罪」を挟み込み、続いて登場した12012もまず蜉蝣の「逃走本能」からライヴ・スタート。そしてboogiemanは、精一杯の想いで天高く届くようにと歌声を響かせる。次のムックとMERRYは、オーディエンスを喜ばせるセットリストを持ってきていた。だが、それはオーディエンスよりも先に、大佑に楽しんでもらいたいという気持ちが強かったのではないだろうか。どの曲も、〝対・大佑〟という想いが全面から伝わってきて、何だか嬉しかった。

それにしても、大佑はなぜにこうも多くのミュージシャンから愛されたのか。それは、決して周りに流されない強い意志を持っていたからではないだろうか。そんなことやっちゃって大丈夫?というようなことをサラリとこなしてしまう柔軟さに、人は惹かれていったのだと思う。この後に登場した、大佑と黒の隠者達がその良い例だ。これはヴィジュアル・シーンに一石を投じるソロ・プロジェクトだったわけだが、第一歩を踏み出した矢先、残念ながら制作はストップ。しかし、多くの仲間が力を注ぎ、アルバム『漆黒の光』は完成した。ステージには、その仲間で

まず、「グリード」を歌った宮脇渉（12012）は、大佑を彷彿とさせる歌声で観客を魅了。次に出てきたガラ（MERRY）は本作の中で最も表現が難しいと言われる「地下道に流れる、ある独りの男の「悲痛な叫び」にも似たメロディー」を披露。これが、ガラのために作られたのではないかというほどハマっていて、聴き応え充分だった。そして、達瑯（ムック）はしんみりとしたムードを打破すべく、「独裁者の涙」を感情の赴くまま歌い上げてくれた。圧巻だったのは「葬送」。この曲、アルバムではヴォーカル・クレジットは空白になっているため、誰が歌っているかは不明だったが、聴いた瞬間、その気迫に鳥肌が立ったものだ。それもそのはず、声の主は京（DIR EN GREY）。吐き出すように繰り返される〝孤独〟。リアルに痛みが感じられ、思わず涙がこぼれた。

この後にはthe studsが登場。aieがマイクを取った「raindrop」や、ライヴ映像を流し当時を振り返った「スパイダーネスト」など、最後まで男気溢れるステージングを展開。歓声が高まる中、目眩がするほど素晴らしい演奏をしてくれたのは、蜉蝣。ユアナ、kazu、静海の3人が奏でる音と大佑の歌声に誰もが興奮した。しかし、「縄」では敢えて大佑の歌声を消し、観客1人1人の心に残っている歌声で楽しませるという手法を取った。スクリーンに映る彼の元気な姿を見ながら、それぞれに何を思ったことだろう。

きっと、浮かんだ光景は人それぞれ。だが、楽しかった思い出はみな同じだったに違いない。私は、ラストに映し出された大佑の笑顔を見て、〝まだ歌い足りないんです〟と言ったあの日のことを鮮明に思い出していた。歌うことが大好きで、人一倍ピュアだった大佑。もう、その歌声を生で聴くことが出来ないのは残念だけれど、こうして集まった仲間たちがきちんとその意志を引き継いでいる。それだけでも嬉しいことだ。彼の魂はこれから先、たくさんのところで輝いていくのだから——。

rld Tour "Holy Grail" 2011～Japan
～Chateau de Versailles～
011.7.17 SHIBUYA C.C.Lemon Hall

全29公演に及ぶワールド・ツアー"Holy Grail"が、7月17日・渋谷C.C.Lemonホール公演からスタートし
イトルのメジャー2ndアルバム収録曲を軸に繰り広げられたライヴは、実に気高く圧倒的なVersailles
を見せつけたものとなった。そんな一夜の模様をレポートする。

Photography:TAKAAKI HENMI　Report:RINGO AOMORI

Versailles
Philharmonic Quintet

このH、メニューのラスト
れていたのは、16分超の大作「
Decision」だった。楽器陣のみ
部分から様々に変遷する演奏パ
してKAMIJOのヴォーカル
クライマックスへ…。楽曲がラス
し掛かるにつれてメンバーが見せたのは、
歓びとも感動とも達成感ともつか…
いや、そのどれもが入り混じっ
これまでのステージでも見たこと
ような柔らかな表情だった。

6月15日にリリースされたメジャー2ndアルバム「Holy Grail」は、"仮面舞踏会"をテーマにした作品だった。それを引っ提げてのワールド・ツアー、その初日となった7月17日・渋谷C.C.Lemonホール公演は、アルバムのテーマに相応しく、「MASQUERADE」での幕開けとなった。

定刻を10分ほど過ぎた頃、開演を告げる鐘の音が静かに場内に響き、舞踏会場を思わせるステージに松明が灯る。そして、"V"の文字がしつらえられた扉が開きメンバーが順に登場、客席に向けて薔薇が投げ入れられるのを合図にライヴ・スタート。

リズムとリンクして上がるファイアーボールに、オーディエンスのテンションが一気に上がる。KAMIJOは仮面を付けて歌い、華やかなニュー・ギターを手にしたHIZAKIは軽やかにステップを決め、メンバーそれぞれの"舞踏会"を表現。そんな彼らのステージングは、去年9月の同会場での公演よりも、遥かにステージを狭く見せた。

「愛おしいお前たち、会いたかったぜ！今宵、お前たちはヴェルサイユの生贄だ。覚悟は出来ているか!?」とKAMIJOが叫ぶ。HIZAKIの妖しいワウ・フレーズに始まり、YUKIが繰り出すリズムの絡みが煽っていく「Judicial Noir」、TERUの高速ソロ・プレイが堪能できる「Flowery」、再び松明の灯る中でのTERUとMASASHIのユニゾン・プレイが気分をアゲた「Thanatos」、そして会場がオーディエンスの持つ花の明かりに包まれたドラマティック・チューン「DESTINY-The

zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

【set list】
SE
1.MASQUERADE
2.ASCENDEAD MASTER
3.Judicial Noir
4.Flowery
5.Thanatos
6.DESTINY-The Lovers-
7.Love will be born again
8.Desert Apple
SE(Threshold)
9.Vampire
10.Libido
11.DRY ICE SCREAM!!
12.Remember Forever
13.Philia
14.Faith & Decision
<encore Ⅰ>
15.The Red Carpet Day
16.Aristocrat's Symphony
<encore Ⅱ>
17.Sympathia
18.The Revenant Choir

気高き"仮面舞踏会"の幕開け

ずKAMIJOは、一人ステージに残り「Love will be born again」をしっとり聴かせてくれた（希望を言うなら、HIZAKIの生プレイも合わせていつか聴いてみたい）。一旦ステージを去ったKAMIJOと入れ替わりに、HIZAKI・MASASHI・YUKIが登場すれば、続くのは当然「Desert Apple」。裾を大きく広げてクルクルと激しく回りながら、全く乱れぬプレイを聴かせるHIZAKIはやはりさすが。そして、手を高らかに掲げてTERUが加わると「Threshold」へ。これまでのソロ曲「Reminiscence」でのやんちゃな雰囲気ともまた違うTERUを見られたのではないだろうか。

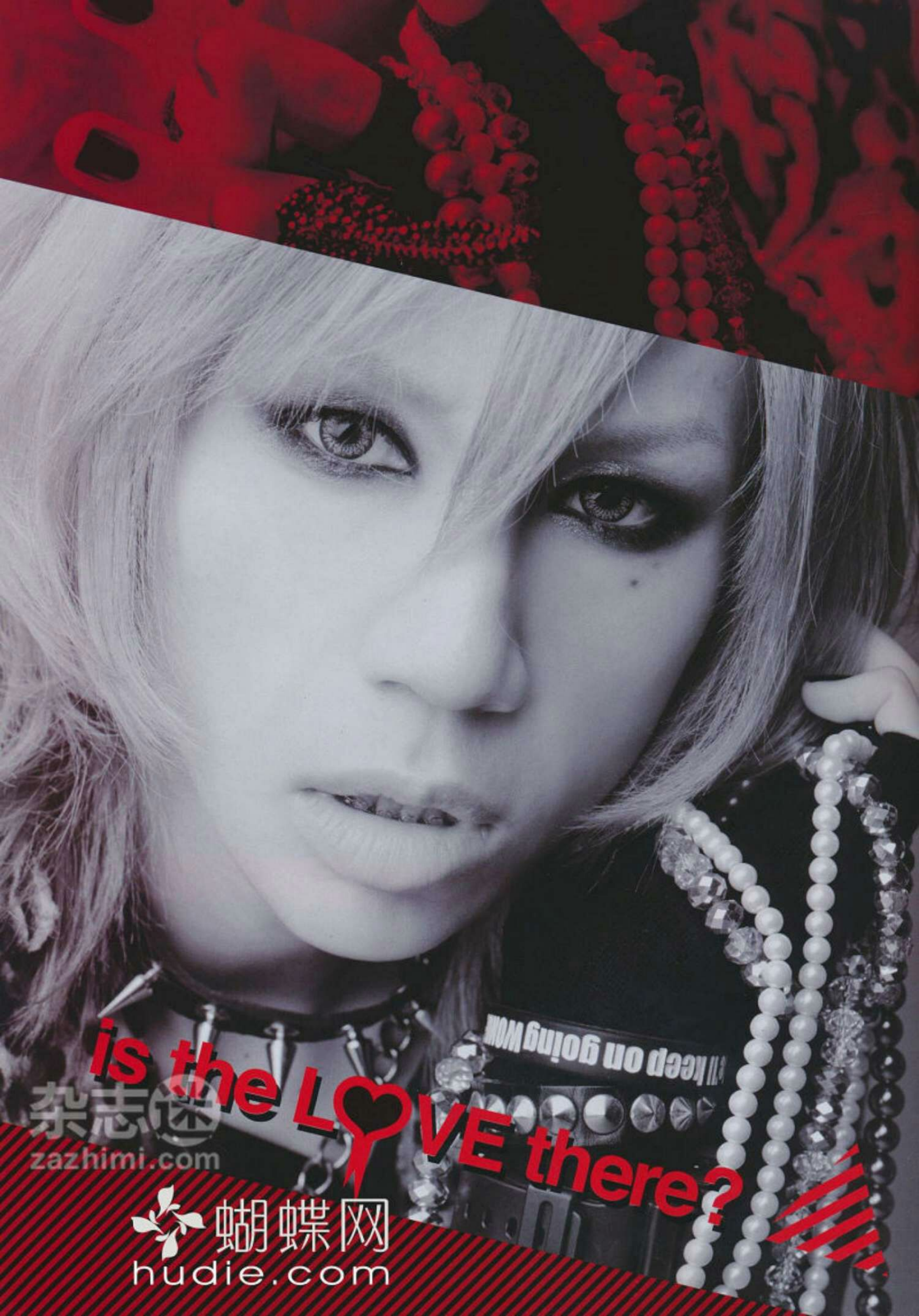
終盤に入ると、前半よりもラフな一面も垣間見せる。KAMIJOが独特のMCで会場を盛り立てる後ろで、その言葉を受けたHIZAKIがMASASHIに顔を近づけていたのには、目ざといオーディエンスから歓声が起こっていた。

そしてやはり、ラストにかけての3曲は、観る者に様々な"想い"を呼び起こさせたに違いない。『その心で感じてほしい。目では見ることの出来ない想いがある。大切な記憶をこの曲で呼び覚ます。一緒に歌ってくれ』との言葉から引き継いだバラード「Remember Forever」は、その曲調から受けるもの以上に、HIZAKIの熱のこもるソロ・プレイにグッときたし、『全ての始まりは信じる気持ちだと思います。信念、その想い…貫いていこうぜ』とKAMIJOがまず煽った「Philia」は、息もつかせぬ疾走感の果てに見せた楽器陣の魂のほとばしるプレイに圧倒させられた。そして本編ラスト「Faith & Decision」で感じた得も言われぬ高揚感…「Holy Grail」がはらむ"想い"とはこんなにも高貴なものだったのか、とすら思えるラストだった。

この夜を皮切りに行なわれるワールド・ツアーは、約4ヶ月28公演に及ぶもの。「Holy Grail」の世界観がより高みに昇った時、ヴェルサイユはさらなる力を備えるだろう。その変化していく様を、どこかで見られることを願って…

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com



杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

いちLM.Cだと感じられる歴史――それが5年前にほしかったもの

愛に導かれ、mayaはLM.Cという名の広大なる宇宙を見つけたのだろう。mayaにとって、LM.Cは
も大切な宝物であり、彼にとっては全てを意味する宇宙とも同義であるという。2012年1月8日に
道館にて行なわれる[~Go To The 5th Anniversary FINAL~★Rock the PARTY★2012]
年を切った今、彼はかく語りき。この長い文字の羅列の中から、あなたは一体何を感じるだろうか?

Photography: SHIGERU TOYAMA(starmine)
Hair&Make-up: CHINATSU TABATA
Interview: YUKI SUGIE

——創刊から20年以上の歴史を誇る本誌にあって、あまり行なわれることのない2万字ロング・インタビュー企画が実現しました。

「もうね、今日は聞かれたことは何でも喋ります（笑）」

——では、まず最新シングル『星の在処。-ホシノアリカ-』についてのお話から、改めて伺ってまいりましょう。この曲について、先月号でmayaくんはこれまでのLM.Cを連れて、ここから未来に行きたいなっていう気持ちが凄く強かった、と語っていました。つまり、LM.Cが今秋始動から5周年を迎えるという事実が、ここには大きく作用していたのですよね？

「うん、そうです。そうなんですけど…実際のところ、どう思います？　ここまでのLM.Cを見て来た上で、この曲に至ったという流れについては」

——いきなりの逆質問ですか（笑）。客観的な意見を述べさせていただくなら、デビューした時のLM.Cについては音的にもイメージ的にも、わりとエキセントリックかつ斬新で、とかく"飛び道具要素"の強い印象があったのですよね。

「あー、はいはい。全てがそういうところはありましたよ」

——ところがです。時を経るにつれ、兆しとしては『LIAR LIAR』の頃からだったでしょうか。より顕著になったのは『88』以降ですけれども、LM.Cの生み出す世界は確実に変わって来たと感じています。もはや、随所にちりばめられている飛び道具的な要素はアクセサリーでしかなく、アーティストとしてはよりピュアなものを追求していく、というスタンスを最も重視するようになって来ていませんか。

「それがきっと、この"5年"ってことなんでしょうね。そして、やっぱり『星の在処。-ホシノアリカ-』には、そこが全て表れてると思うんです」

——全くもって同感ですね。

「理屈から[illegible]、[illegible]の曲も単なる曲のひとつでしかないはずですよ。ビートがあって、メロディがあって、そこに言葉が乗って[illegible]作ってしまえば、ただそれだけのもの[illegible]ないですか。だけど、違うんです。そこを遥かに超えた次元で、今ならこの曲にまつわる全ての現象がLM.Cだって言い切れるんですよ」

杂志迷 zazhimi.com

初期のmayaくんは何について聞いても、〝まぁ、とりあえず出て来たものが全てなんで〟的な、やや場当たり風の応答が多かったではないですか。
「確かに、そうだったかも（笑）」
——その点、『PUNKY♥HEART』の前後からは段々と自分の意志や意思を、作品としてだけでなく、インタビューの場でもかなり言葉で明瞭に伝えてくれるようになったな、と思うのです。
「たぶん、最初の頃はいろんなことがまだよく分かってなかったんだと思いますよ。あれはあれで、素直な気持ちから言ってたことなんです。というのも、我々の場合は曲を作る時に何か会話があるわけじゃないので、それぞれから出て来た音をLM.Cとして仕上げてく、っていう流れが基本ですからね。そこをそのまま普通に言葉にしちゃうと、自然と〝出て来たものが全てなんで〟ってなっちゃう（笑）」
——これだから、会話というものは難しいのですよね。
「いや。というよりも、当時は自分にちゃんとしたソングライターとしての自覚がなかった、っていうことなんですよ。大きいのはたぶんそこだなぁ」
——もちろん、mayaくんはLM.Cを始める以前からソングライティング自体は行なって来ていたわけですよね？ にも関わらず、ある程度の時期まではその自覚がなかったなんて。
「何だろ？ ホントに最初のところの話をしちゃうと、何で自分で曲を作り出したかって言えば、単に他に作る人がいなかったからなんですよ」
——それは、とりもなおさずLM.C始動の経緯にも繋がるお話なのでは？
「結局、前にギタリストとして在籍してたバンドが終わって、そこからどうしようか？ってなったんですよね。根本的には何事に対しても他力本願なとこがあるんで（笑）、前のバンドの時は曲なんて作ったことはなかったんです。ただ、一人になって自分だけじゃ何も出来ない中でも、まだ音楽をやりたいというか、まだまだ青春したいなっていう気持ちだけは強くって。そうなると、そのための道具として曲っていうものが必要になって来るじゃないですか。そこで、必然的に自分で曲を書き始めるようになっただけの話だったんで、何かどうしても伝えた

ちは特になかったんですよ」
——となると、歌詞を書くにも一苦労だったのではないですか。
「別にイヤイヤ書いてたわけではないですけど、試行錯誤はしてましたね。書いた詞をどう歌うかっていうところも含めて。ホントに、一人しかいないから全部自分でやるしかないんですもん（笑）」
——青春を謳歌しようにも、なかなか厳しい状況だったようですね。
「あの頃は、1曲作り終わるたびに〝もう、いっか。〟ってなってましたねぇ。その都度、もう出し切っちゃうから、とりあえずすぐに次は無理！みたいな感じで」
——その後、あるタイミングでAijiくんがmayaくんの曲作りにアドバイスをくれるようになったそうですけれども、その時のことは覚えていますか。
「覚えてます。これは今までどこでも話す機会なかったんで言ってなかったんですけど、最初はAijiさんが〝やれる範囲で手伝ってあげるよ。〟って言って、ちょくちょくアドバイスをくれるようになったり、デモを2人で作るようになったんですよ。そこからしばらくして、けっこう軽いノリで〝じゃあ、俺も一緒にやろうかな。〟ってAijiさんが言った時の、あの朝方の風景は今でも凄い覚えてます」
——風景、ですか。
「その頃は、しょっちゅうAijiさんの家に遊びに行かしてもらってましたからね。それも泊まり込みで。あの、Aijiさんの部屋の風景です」
——長野〜東京間で、今に至るドラマが育まれていたとは感慨深いお話です。
「当時は、Aijiさんと夕飯食べるためだけに長野から出掛けたりしてたからなー。交通費とか、移動時間とか考えると、だいぶ高くつく夕飯でしたけど（笑）」
——そこで、〝じゃあ、俺も一緒にやろうかな。〟とAijiくんが言った時、mayaくんはどう感じました？
「自分としては、ちょっと予想外の言葉でした。だって、Aijiさんにはその時やってたバンドもあったし。もっとも、最初はAijiさんもあくまで〝片手間に〟っていうノリだったんで（笑）、ホントにその時は〝何か面白いことが一緒にやれるんなら、形式とかは別に何でもいいや。〟って思ってました。って考えると、あの一

と思います」
——Aijiくんと曲を作り出すようになって以降、mayaくんの中でソングライターとして変化が出て来たところというのはあったのでしょうか。
「曲作りに関しては、まだそんなになかったです。むしろ、Aijiさんが原曲をデータで送ってくれるようになってからは、Aijiさんのほうが〝2人でやるんならどういうのが面白いかな？〟っていうことを、あれこれ探ってた気がする。だから、LM.Cの歴史としては曲作りっていうところに関して言うと、時が経てば経つほどmayaの曲はラフになってくんですよ」
——反比例するかの如くですか。
「ホントにそうで、Aijiさんの曲は昔のほうがもっとラフで、だんだん緻密な感じになっていきましたよね。具体的には、これも『PUNKY♥HEART』あたりが分[illegible]のかもしれない」
——そこで何が起きたのです？
「ちょうどレ[illegible]は、俺、またアルバムを出すっていう話が出てたんです。でも、そこから[illegible]にそれは出さなくてもい[illegible]すか？〟みたいな話をし[illegible]あったんですよ」
——ええっ？ それは何故に？？
「何て言う[illegible]っちゃうと、作りたくも[illegible]の時に作りたくない、ってい[illegible]
——少し話の整理をしましょう。Aijiくんと一緒に何か面白いこと、を始めよう[illegible]中で『PUNKY♥HEART』の[illegible]スは[illegible]ビュー3年目のことでしたね。mayaくんは、一体何が疑問だったのです？
「ヘンな話、ただ面白いことをやろうっていうところから始まったものが、デビューして以降だんだんと周りのベースも速くなってったりして、ちょっと一時的にいろんなことが分かんなくなっちゃったんでしょうね。何のために自分は音楽をやってるのかとか、何で音楽が必要なのかとか。自分の宇宙にホントに必要なものって何なんだろう？とか、そんなことをずっと考えてた気がします。要はそのへんからですよ、宇宙っていうものに意識が向くようになったのは」
——あの年は、春に初のワールド・ツアーがありましたよね。帰国した際、mayaくんは〝得て来たものが多くて、何か

それでいて、『PUNKY♥HEART』を作り上げるまでには、そんな深い葛藤があったとは。
「『ワールド・ツアー』は、ホントに得ることは多かったんですよ。でも、そこからLM.Cの世界をこれからどうしていけばいいのか？っていうところに対しては、個人的にあまりにも見えないところが多くなってましたね」
——その葛藤の種は、元を辿るといつから存在していたのでしょう？
「それは…充たされちゃったとこが原因かな。気持ち的にも、状況的にも」
——タイミング的に、それらが『88』を出した後のことだと考えると…もろもろ話の辻褄が合いそうです。
「上を見ても下を見てもキリがない中で、『88』を出したあたりで自分なりに凄い幸せを感じちゃった、っていうのはあります。そういった意味では、あそこで少し守りたくなったんですかね」
——裏腹な気持ちが、mayaくんの中で生まれていたのですね。
「例えば、バンドって続けてけば続けてくほど何かが歪みが出て来るんじゃないかっていうイメージがあったんですよ。現に、規模は小さいながらも前のバンドではそういうことを経験してますしね。だから、何となくそのまま普通に続けてった時に、何かの拍子に今のこの幸せな感じがもし崩れちゃうんだったら、それはイヤだなって思ってました」
——いやはや、そういうことでしたか。
「別に何か大きなキッカケがあったとかじゃなく、細かいことの積み重ねでそんな風に思うようになってたんですよね。何とか、そうならない良い方法はないものかって。でも、その方法があの時は分かんなかった。そんな中で無理やり音楽作ってくのは、それこそ何かが歪んじゃいそうに思えたんでしょうね」
——その時期は、ライヴで人前に立つこともシンドかったりしたのでは？？
「ううん、それはなかったです。全然、何事に対してもシンドいっていうのはなかったですから。とはいえ、音楽って作り出してすぐにハイ出来ました！ってなるものじゃないのは確かなわけでね。何なら、歌詞も作詞家の人に任せようかなって考えてた時期もありましたよ」
——『星の在処。-ホシノアリカ-』という、ひとつの境地を拓いた今となっては、

すよりもっと前で、『GIMMICAL☆IMPACT!!』（アルバム）の中に入ってる、『TABOO』っていう曲のレコーディングをした時でしたね。歌入れが終わった時点で、もうそこまで詞の中で特に言いたいことも、書きたいこともあんまりないですってディレクターに話しました」
——さぞかし、周囲はmayaくんの言葉に驚いたことでしょう。
「んー、どうだったろう？ すでに空気的にはそういう話が出て来てもおかしくない状態になってた気がするし、こっちからするとそれは何も後ろ向きな話ではなかったからなぁ。究極的に言っちゃうと、全ては〝それでもやりたいか〟あるいは〝やりたくないのか〟の、どっちかでしかないはずでね。何を決めるにしたって、天秤にかけてきゃいいんですよ。かけた結果、その先の景色を見たいんだったら、今までとは違うやり方をしていったっていいんじゃないの？って、あの時はそう思ってたんです」
——しかし、その後もmayaくんは詞を書き続けましたし、2010年3月にはアルバム『WONDERFUL WONDERHOLIC』も無事発表されました。mayaくんは、寸でのところで踏みとどまったことになりますね。
「簡単に言うと、あのあたりでそれまで自覚できてなかったことを、ようやく自覚できたっていうことなのかもしれない。どっか無責任っていう意味では今も変わんなくて、おそらく人から見るとそう見える時は多々あると思うんです。でも、それも自分としては無責任にしてるつもりではなくて、その都度、事実に対して素直に向き合ってるだけなんですよ」
——あれは、3年前くらい前のことだったでしょうか。Aijiくんが、〝いまだにあの人が何考えてるかって全部はとても分かんないですよ。まぁ、結局そういうとこが面白かったりするんですけど。〟と言っていた、その言葉を今ふと思い出しました。mayaくんのことをもっと深く理解するには、我々もまだまだ時間が必要なようです。
「また、この3年間ってホントにいろいろ目まぐるしかったですからね。日々、状況も[illegible]ん変わってってくから、自分自身[illegible]を把握して理解していくって[illegible]たなって、ここで振り[illegible]ると思います」

maya LM.C

ーーその一方で、mayaくんにはずっと変わっていない点もありますよね。分かりやすい例としては、4thシングル『BOYS & GIRLS』と、最新シングル『星の在処。-ホシノアリカ-』を並べてみると、そこは瞭然です。楽曲としてはそれぞれに異なった特性を持っていますけれど、根源的なメロディセンス、率直で真摯な言葉の選び方、それらには共通している点が多く見受けられます。

「そうですね、まさに。自分でも、あえると不思議な気持ちになります。あの頃、何を思って『BOYS & GIRLS』を生み出したんだろう?って。きっとこれも、LM.Cにとっては時限装置のひとつだったんでしょうね」

ーーその時限装置という言葉は、以前『LET ME CRAZY!!』の取材時に初めてmayaくんの口から出たものだったと記憶しています。

「その曲の中に詰まってる宇宙が、未来で爆発するようにって夢見て作った曲たちのような気がしますね。『BOYS & GIRLS』も、『LET ME CRAZY!!』も、『星の在処。-ホシノアリカ-』も。そこを夢見る力こそが、自分にとっては音楽を生み出してく上でのバイタリティなんだと思います。これって、けっこう凄いことですよね?」

ーー特に、『BOYS & GIRLS』などは時限装置のタイマーが長目にセットされていたことになりますしね。

「ホントですよ。あの曲作ってた当時なんて、歌いかける対象なんかどこにもいなかったのに(笑)」

ーーリリース当時、mayaくんは詞の中にある〈ゆずれないもの〉という言葉に託したものは何か、という質問に対し"どんな時でも自分っていうものを見失わないでいるって、大事だよなと思う。ただまぁ、それが何なのかって考えていくと実は難しい"と答えています。この件については、どう思われますか。

「そんなこと言ってました?! 受け手からすると、本人が分かってないのかよ!っていう話ですよね(笑)。でも、それだけ漠然としてたんだよなぁ。曲を作るたびに"もう作りたくない"だの、散々甘えを言い続けて来ましたけど、そういう過程も全部が必要なものだったんだろうなって、今はそう思えます」

ーーちなみに、そうやってmayaくん

「いや、先輩にはそういうことは言ってないんですよ。誰かっていったら、ディレクターとか、スタッフとか。甘えるだけ甘えて、最後は結局やるのにね(笑)」

ーーここに来て気付いたことは、たくさんありそうです。

「この間の『星の在処。-ホシノアリカ-』を作ってても、改めて分かったことがありましたね。自分は何も、音楽そのものをやりたいわけじゃないんだなって。昔、前のバンドがなくなった時に、音楽をやることでまだ青春したいって思ってた時みたいな感覚で、自分は音楽を楽しいことに利用したいだけなんだって、そういう感覚に戻れたのが凄く良かったです」

ーーもう、迷いはありませんよね。

「それは分かんない(笑)。今はこうなってるけど、明日どうなるか、未来に何が起きるかは予想つかないですからね。とは言いつつも、現状LM.Cの中では自分がシングル曲の作曲担当みたいなところがあるんで、次のLM.Cの世界を切り開いてくのも[illegible]ようなとは思ってます。[illegible]CRAZY!!』を作ったあたりで、[illegible]意識はようやく強まりました。もちろん、この先にはAijiさんの曲[illegible]で生み出すものっていうのがあ[illegible]すしね。先に進んでくための[illegible]は、自分が作んなくちゃいけな[illegible]って、ホントにやっと分かり[illegible]けど、何が変わったっていうわ[illegible]けど、気持ちの面で覚悟でき[illegible]」

ーーそのようなメンタリティの変化は、作品のみならずライヴでのMCなどにも反映されて来[illegible]

「あー、それもある[illegible]」

ーー失礼ながら、初[illegible]のLM.Cのライヴにおける MCの取りとめのなさといったら、なかったですもの。

「確かにそうでしたけど—、そう思ってたんならその時に言ってくれればよかったのに(笑)」

ーーいえ、あの時はこちらも"これがこの人のキャラなんだろうな"と良い方向に解釈しようとしていましたので。

「すいませんね、ホント。どうも自分を過信してるとこがあるんで、当時いきなりヴォーカリストとしてステージに立つことになった時も、"こうあらねばならない"とか、"こういうステージングがか、そんなことは一切考えずに自分の感覚に任せて、流れのままやってたんですよ」

ーーつくづく、そこがmayaくんの凄さですよね。

「あの時期に、あれだけ自由にやれたのは自分にとって大きかったですね。あらかじめ用意したような概念に縛られなかった分ちょっと時間はかかったけど、LM.Cの宇宙を先導してく者としての力は、あの過程があったからこそ身につけ付けられたものだと思ってます」

ーーおまけに…これも完全な昔話にはなりますが、LM.Cがライヴ活動を始めた当初は、ぶっちゃけオーディエンスの90%以上もしくは限りなく100%に近い方たちが、Aijiくんの姿を観に詰めかけていたも同然だったわけですからね。その環境の中で、あれだけ自由奔放・天真爛漫ていたmayaくんの存在は、驚異にも値しましたよ。

「あの状況ね…面白かったなぁ」

ーー飄々としていたあの姿は、決してポーズではなかったわけですよね。

「あれも観てもらったまでです。最初っからあれだけの人たちに観てもらえるなんて、すげー幸せなんじゃね?って思ってました。よく周りから"プレッシャーはないのか"みたいなことも聞かれたけど、リアルになかったんですよ。今だったら"普通ならそう感じることもあるかもね"くらいには思えますけど(笑)、あの時は"プレッシャー? こんなのラッキー以外の何ものでもないのに"って思ってましたもん」

ーー乱暴な言い方をすると、始めはAijiくんのオマケ的な存在として世に認識されていたmayaくんが、やがてLM.Cのフロントマンとして確固たる支持を得ていった経緯は、実にドラマティックであったと思います。

「ちょっと泣けてくる話ですよね(笑)」

ーーちょっと、どころではないですよ。

「まぁね、仮に同じことをまた今からもう一回やれって言われたら、それは無理かもしれない。そういう意味じゃ、過去の自分に勇気づけられるとこって意外と多いんです。5年前も今も、自分がミスターLM.Cであるっていう意識そのものは変わんないし、相変わらず自分のことを過信し続けてるとこも変わんないけど、時間の積み重ねと共に過去やってた

ーーところで、mayaくんの言う"自らへの過信"とは、音楽を始める前から元来備わっていたものだったのですか?

「よくある、小さい頃は内気で友達もいなかったけど、音楽を始めたことで自分は変われました的なとこはなかったですよ(笑)。たぶん、普通の子でした。今に通ずる点としては、小学生の頃からクラスで演劇をやる時なんかは、自分で全部脚本を書いて、キャスティングもして、当然自分が主人公!みたいなことは、やってましたけどね」

ーー普通の子が聞いて呆れますよ。凄いリーダーシップですし、言い方を変えれば強烈なワンマン体制ではないですか。

「そうなんですよ。こっちとしては、純粋にこうしたら面白いだろうっていうモードでやってたんですけど、ある時ふと考えたら"こういうのって、周りからしたらすげー迷惑なんじゃないかな"と思って、そういう風にみんなを率先するのはヤメたことがありました。あのまま空気読まずに突っ走ってたら、学校の中で相当ヤなヤツになってただろうし」

ーーmayaくんは、賢いお子様だったのですね。

「でも、そうやって自分を制御しちゃうと何となく消化不良にはなりますよ。前のバンドやってた時なんかは、リーダーでもないし、曲も作んないし、歌詞も書かないし、歌ってもないんだけど、どっかで"自分にはものを表現しようとするバイタリティがあったはずなのに、今はないのかな?"って、ずっと思ってたりしてましたもんね。自分のホントの居場所はここじゃないんだろうなとか、自分が本当に輝けるのはどこなんだろうって、そんな思いでいたんですよ」

ーーLM.Cの始動にあたっては、何か運命的なものを感じる点も多かったのですが、mayaくんにとっては必然的なことだったのかもしれませんね。

「心おきなく自分の内にあるものを爆発させられるっていう意味では、そうだと思います。だけど正直なことを言えば、こう見えて、まだ少し気を遣っちゃうとこも残ってるんですよね」

ーー気になる一言です。もしや、いまだ先輩に対して気を遣っているのですか?

「そういうんではないです。後輩だからこれは気後れして言えないとか、そんなんじゃないですね。じゃあ、何に対して誰かを目の前にすると、つい"自分がこう言ったとして、そのことでその人がハッピーじゃなくなったらヤだな"って、わりと頻繁に思ってしまう自分がいるというか」

ーー先程まで、わたしは自由奔放だの天真爛漫だのとmayaくんのことを評して来ましたが、そういうところは意外なほど繊細なのですね。

「自分では、そういうヘンな気遣いってあんまり良いことじゃないなって思うんですけどね。もっとバサッて、潔くなってもいいのにって。たぶんそこは、小学校の時の空気を読んで率先するのをやめた、例の件を引きずってるんです。むやみやたらと自分勝手に振る舞うことに憧れつつ、それだけじゃオトナの社会では生きてけないような気がしてる(笑)」

ーーmayaくんは、きっとちゃんとした育てられ方をして来たのだと思いますよ。自分に対する自信と我だけを前に出すことは出来ないというのは、きちんといろいろなことをわきまえているから、なのではないですか?

「良くも悪くも、ってことなんですかね。常に"君は間違ってないよ"っていう言葉をかけられながらも、肝心なとこでの躾けは厳しい家でしたからね。そうやって育てられて来た結果として、今こうなってるっていうのは実際あるかも。そうだよな…やっぱり家族の影響はどうしたって大きいです」

ーー親御さんからmayaくんに向けられて来た、"君は間違ってないよ"というその言葉。今に至っては、mayaくんが歌詞を通してそれと似たことを受け手に向け投げ掛けているわけですから、これはとても興味深いことです。

「そう[illegible]なん[illegible]。そこもそうなって[illegible]これまで両親とか[illegible]ことを、ちょっと遠回し[illegible]に率直に表現したりしなが[illegible]発信し直してるだけな[illegible]うことは、自分でも少[illegible]た」

ーー自分が[illegible]の昔[illegible]われて嬉しかったこと、[illegible]たことを、みんなにも分けてあ[illegible]いという想いがそこにはあると。

「共鳴する部分があ[illegible]たら良いな、っていう願望があるんでしょうね。そこから

蝴蝶网 hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

えてたんです。自分って、あんまりみんなのことを〝ファンが〜〟っていう言い方をしないなって。何でだろう?って、おフロ入りながらね」

―答えは出ましたか。

「なんか、ファンっていう呼び方だと切り離したイメージが強いんでしょうね。距離感がある感じになっちゃう」

―では、どんな名称が最適ですか。

「んーと、長くなっちゃうけど〝応援してくれてる人たち〟?　こっちのほうが、みんなからしたら遠ざけられる風に感じちゃうのかな(笑)」

―それ以前に、いちいち長くて言いにくいです(笑)。

「でもね、だからって〝ファン〟っていうのは違うんだよなぁ。勝手な自分の先入観なのかもしれないけど、アーティストとファンっていうのはステージの上と下みたいな感じで、上下関係っぽくなって来ちゃうでしょ。僕らとみんなの関係は、もはやそんなんじゃないと思ってるんです」

―『星の在処。―ホシノアリカ―』の歌詞には、〈似た者同志の君を連れ出して〜〉という一節もあります。それに、この曲を作っている途中、mayaくんは〝みんなで作ってる感じ〟が欲しいと思っていた、とシングル取材の際に発言していましたっけ。

「だから、何か良い名称ねーかな?って最近ずっと思ってるんですよねぇ」

―ファンクラブ〝Team☆LM.C〟の会員の方は、チーマーという名称になっているそうですけれども。

「それもね、自分で名付けたくせにチーマーって呼んだこと、今までの人[illegible]回くらいしかないんですよ。なん[illegible]に気恥ずかしくなっちゃう(笑)」

―これは困りましたね。

「どうなんだろう。ファンとか、〝応援してくれてる人たち〟とか、それ以外に[illegible]いて言うなら、〝仲間〟っていう言[illegible]いちばんしっくり来るのかな。もしくは、ひとまとめでLM.Cでもいいんで[illegible]よく言うでしょ?　5人バンド[illegible]たちは6人目だとか。LM.C的に[illegible]と、〝君たちは3人目のメンバーだ[illegible]てことになります。少なっ!(笑)」

―人数の問題ではないですよ(笑)。

「こういう話をすると、LM.Cっていう宇宙の外にいる人たちからは、〝あぁ、

ね。でも、それはそれで構わないです。みんなと並んで一緒に歩いてるっていう、この感覚はここからもっと加速して行きそうな予感がしてるから、別に傍からは何を言われても平気」

―今のLM.Cとオーディエンスがいかに近い距離感にあるか?という点については、5月29日の日比谷野音公演を例に挙げると分かりやすそうです。「EDO FUNK」と「SUPER DUPER GALAXY」にて、何十人という単位のお客さんたちがステージ上に上げられ踊っていた様は、何とも壮観でした。

「前から、あれはいつかやりたかったことではあったんですよね。ようやく、ここに来てそういう場面に似合う曲も出来たし、それを成功させられるだけの関係性もみんなと築けてきたなと思ったんで、そろそろタイミング的に今なんじゃないかなと」

―では、切り出したのはmayaくんだったのですね。

「先輩は最初、〝そこまでの人数上げちゃって、みんなちゃんとノリノリでやってくれんの!?〟って心配してたんですよ。でも、最後には〝オマエがやりたいんなら、いいんじゃない〟ってなってくれたし、あとは物理的な面でステージまわりを作ってくれてる仲間たちが協力してくれたのも、凄く大きかったです」

―それは、ステージセットを組む上でのお話ですよね?

「[illegible]ねぇ。どうしても、震災や余震の影響で高さ制限があったりしたんで、事前に計画してた通りのステージセットを組むのは難しかったはずなんです。でも、そういう中でも仲間が〝絶対やろうよ!〟って言ってくれて、ありがたいことにああいうステージが実現しました」

―LM.Cは果報者です。

「幸せですよ。そういえば、あのライヴの後に観に来てくれた同級生が、〝「あれはLM.Cじゃなきゃ出来ないことだよね」ってお客さんたちが帰り道で言ってたよ〟って教えてくれたんです(笑)。それも嬉しかったな。アタシは選ばれなくてステージに行けなかったのに、とかそんなんじゃなくみんなでハッピーになれたって素晴らしいことですよね」

―異論はございません。

「ここからもっと、LM.Cの宇宙をどんどん拡げていかないとね。でも、その

―何がありました?

「例えばね。これは、さっきの人に対して気を遣っちゃうとこがあるっていう話とは逆になるんですけど、最近はあんまりいろんなことを気にせず発言したりするんですよ。LM.Cを好きでいてくれる仲間に対して。その時のみんなの反応を見てると、〝あぁ、まだこの関係性はこの階層にあるんだな〟って思うことがあるんです。ちょっと言葉が足りなかったりするだけで、そんなにも揺らいじゃうんだなっていうことを、ここに来て感じちゃったというか」

―それも、この間の野音の時のことを指したお話ですか?　あの日の武道館公演を発表する前のMCは、確かに一部で物議を醸していたようですね。

「それもそうだし、ブログやツイッターの発言にしてもそうなんですよ。客観的に見れば、こっちの発言の仕方に問題があることが多々あるっていうのは分かってるんです。ただ、こっちの感覚から言わせてもらえれば、そこは敢えてやってるようなところもあるっていうかね」

―それは、mayaくんなりのコミュニケーション術なわけですか。

「だと思いますよ。〝こう言ったら、こういうリアクションが返ってくるんだろうな〟って分かった上で、みんなの反応を見てるんですよ。そして、まだこの段階にあるってことは、まだまだ行けるな〟って確認してるとこはありますよね」

―好きな女の子にちょっかいを出してイジメたり、恋人の気持ちを試すような駆け引きを仕掛けたり。要は、それと似たような感覚なんですかね!?

「分かりやすく説明すると、そういうことになるのかなぁ(笑)。なんかね、こっちからするとみんなが可愛くてしょうがないんですよ。まだまだ、こうやっていちいち相手にしてくれんだなって思ったら、嬉しいじゃないですか」

―うわー。さらに平たく言うと、みんなの気を引きたいが故のことであると(笑)。

「うん、たぶんそう。こっちの甘えって言っちゃえば、それまでですけど。でも、そこで気付けることっていうのもいろいろあるんですよ。LM.Cの宇宙を描いてく物語の中では、重要な場面のひとつなんじゃないかなってワタシは感じてます。だって、2年前でも、3年前でも、

やホント、みんな可愛いです。正直、愛しくてしょうがない。ちょっと前だったら、こんなことさえ言いたくなかったし、あんまり自分で認めたいとも思ってなかったのに。不思議なもんですよねぇ」

―愛されると、愛を返したくなる。構図としては、わりとシンプルであるような気も致しますけれどもね。

「あぁ、そういうことか。まぁでも、ひとくちに愛って言っても、いろいろありますよ。〝眩し愛〟って分かりますぅ?」

―愛しているからこそ、ここまで辛辣で鋭いことが言えるのよ。誰もここまでは言えないでしょ!的なヤツですかね。

「それです、それ(笑)。あとは、〝依存愛〟ね。これはポピュラーかな。それと、本命じゃないけど好きっていう〝浮気愛〟。とりあえず、そのへんが代表的なところなんじゃないかと思います。あと、よくあるのが〝わたしのことなんてキライですよね?〟とか〝わたしのことキライですか?〟っていうのなんですけど、これに対してはここで言っておきますよ。どんなコでも、こっちからキライになることなんてないです」

―断言しましたね。

「眩されようが、依存されようが、他と並べて片手間に愛されようが、それでも好きでいてくれてるっていうのが全てだと思うんですよ。どんなかたちであるせよ、LM.Cっていう宇宙に何かを感じてくれてる、気に入ってくれてる。今はもう、それだけでこっちとしてはハッピーだし、充分なんです」

―多少、歪んでいようとそこに愛があれば良いということなのですね。

「そうそう。結局はそこに愛はあるのかいってことです。先月の『SHOXX』でも言った気はするけど、ひとつ屋根の下的精神って最も重要だと思いますよ。何んなら、ここんとこの全ての話はその一言で片付いちゃうくらい(笑)」

―青春。宇宙。そして、愛。mayaくんから出て来るキーワードは、どれも眩しすぎます。

「宇宙の次は愛かよ!?って、感じる人もいるだろうなぁ。言葉の並びが、あまりにベタっちゃベタでソレっぽすぎますもんね(笑)。でも、残念ながらこの愛に対しての概念こそ未来永劫、変わんないですよ。我々がここからハッピーになってくためには、音楽を作ってく上でも、

―その真理を、デビュー5周年を迎えようとしている今この時期までに体得できたことが、LM.Cにとっては何よりの光明となったのではないですか。

「見つけちゃいましたねぇ、しっかりと。これも全ては、仲間たちのおかげですよ。ファンだけじゃなく、スタッフとか、もちろんAijiさん、ライヴやる時のメンバーたち、さらに自分のおかげでもあるっていう(笑)。これって、最高じゃないですか?」

―そんな最高な今があるということは、その先にも輝かしき未来があるはずです。現状、そこについてmayaくんはどんなヴィジョンを持っています?

「もう、そこに向けても動き出してますよ。ここからの未来に向けた新しい曲は、ちょうど今作ってるとこですから。今度、秋に『☆★Best the LM.C★☆2006-2011 SINGLES』っていうベスト盤が出るんですね。そこに、その未発表新曲を入れるつもりなんです」

―そちらは、どんな曲に仕上がりそうですか?

「まだ分かんないなー。今日も帰ってからまた続きの作業をするんで、最終的にどうなるかっていうのはちょっと分かんないです。でも、自然と導かれるように出来ていってる感覚はありますよ。絶対に良いものになってくことは間違いないんで、そこは自分でもワクワクしてるし、凄い楽しみなんです」

―ここまで5年の歴史と、最新の音が両方一度に楽しめる『☆★Best the LM.C★☆2006-2011 SINGLES』ですか。ずいぶんと贅沢なつくりですよね。

「パブリックイメージとして、ロック・ミュージシャンはベスト・アルバムを出したがらない傾向ってありません?　〝レコード会社が勝手に出しただけだ〟とか、〝メンバー側は、特に選曲には携わってない〟とか」

―mayaくん、詳しいですね。その手のコメント[illegible]当に多いですよ(苦笑)。

「その点、LM.Cの場合は一切違うっていうことは言っておきます。個人的には、も[illegible]くらい前からベストを出したくてしょうがなかったくらいだし(笑)」

―またその頃では曲もそこまで出揃っていなかったのでは!?

「そうですよ。〝[illegible]って、たったって何のベストを出[illegible]?〟っていう頃から(笑)、

蝴蝶网
hudie.com
杂志迷
zazhimi.com

maya LM.C

ベスト盤出すのは自分にとって、ちょっとした夢でしたから。ようやく出せるようになったのが嬉しくて嬉しくて」

——中には、その『☆★Best the LM.C★☆2006-2011 SINGLES』から、LM.Cの宇宙へ飛び込んで来てくれる新しい仲間たちもいらっしゃるかもしれませんよ。

「名前だけは知ってるけど曲はあんまり聴いたことないとか、何曲かネットでクリップは観たことあるけどCDは持ってないとか、そういうまだちゃんと出会えてない人たちにとっての、良い手引きになっていってくれたらいいなあと思いますね。でも、だからってただ過去の曲を集めてハイどうぞ、じゃイヤだったんですよ。新曲も録りたかったし、そのクリップもこれから撮ることになってますからね。そう考えたら、これは単なるベスト盤ってわけじゃないんです。今ここで出す必然性を持った、ひとつのオリジナルな作品として自分は捉えてます」

——これまでのLM.Cを存分に知っているみなさんにも、ぜひ期待して待っていてほしいところですね。

「ところが、このベストを出すのもみんなからすると心配みたいですよ。5周年で、武道館の前で、ベスト。しかも、野音であんな思わせぶりな言い方をしやがってたじゃないですか、あのヴォーカルが！…って自分のことですけど（笑）」

——では、現状あらぬ憶測をしては心を傷めているみなさんに、ここでmayaくんから一言お願いします。

「いやー、それは嬉しいですよ。いきなり無責任に一生一緒だから安心してくれとか、そんなことは言いたくないです。いつ何がどうなるか分かんない世の中で、気安く約束なんて出来ません。でもね、ホントはそんな中でもずっと一緒にいたいんだけど…っていう気持ちが、あいう場面で余計なこと言わせたり、思わせぶりな態度にさせるんですよ。なんか、寂しいんだろうな」

——今が最高だとか幸せだとか、そう感じていながら一方では寂しいと来ますか…まさかそれって、ある種の"幸せすぎて怖い"症候群と近くないですか？

「あっ、それそれ！ 恋愛で言うところのそれですよ」

「それはもう、愛されたいです。今もすげーリア充（笑）だと思うし、幸せだけど、もっと愛されたい！」

——再び失礼を承知で申し上げますが…mayaくんって、とても手のかかるメンドくさい人だったんですね（苦笑）。

「あれっ、今気付きました？ 相当なモンですよ（笑）」

——さて。ここからは話題を変えて、2012年1月8日に日本武道館で行なわれることになった『★Rock the PARTY★2012』についてのお話も、伺ってまいりましょう。

「武道館ですか。世の中いろんなアーティストがいますけど、我々がやろうとしてる武道館ほど、愛と夢に溢れた武道館はないんじゃないかなって思いますよ。何十人だろうが、何万人の前だろうが、LM.Cの宇宙はそこにいる全員がハッピーじゃなかったら意味がないんです。LM.Cは、メンバー15人なり4人で集まってテッペン目指すぞー！っていうバンドとは、明らかに違いますからね。我々とちょっとでも人生が交わったことのある人たちには、この武道館に全員来てほしいです」

——5年前の段階で、いつかLM.Cとして武道館をやれればいいな、と思ったことはありました？

「最初はなかったです。ここに至るまでにも、ちょいちょい周りから話には出て来てたんだけど、その時点ではまだバンドが進んでく流れの中で、普通に目指す武道館、としての話でしかなかったし。やったら親は喜ぶだろうけど、くらいの感覚？ それだと、我々が今やろうとしてる武道館とは違ったんです」

——では、mayaくんの中で今やろうとしている、武道館が始まったのは、いつのことでした？

「それ、聞いちゃうんですね（笑）。そこの始まりには、実はとある出来事がありまして。でもそれは、まだちょっと話したくないなー。実は武道館で話そうと思ってるんです」

——そこを何とか、大枠だけでも先出し願えませんか。

「状況的に言うと、あれはデビュー・シングルに入れた『mR.century』っていう曲のレコーディングをしてた日の出来事でしたよ。そこで初めて意識したんです。

——それは先輩も知っていることです？

「というか、先輩がらみの話ではありますす。A--jiさんは、まず覚えてないだろうな。まあ、そんなもったいぶるような話じゃないような気もするし、実際に話したら"えっ、その程度のこと？"って思われるかもしれないけど、一応この話の続きは武道館でするつもりです」

——分かりました。なお、今回の武道館決定の報に対してmayaくんのご家族は、今どんな反応をされています？

「ジワジワ来てるみたいですよ。この間、長野に帰って話した時は、あからさまに喜んでるっていう感じとは違って、ちょっと押し殺してるようなとこがありましたね。でも、もしサプライズとか用意してたらどうしよう？ 本番中に、"maya、よくやった。おめでとう！"みたいな幕とか突然垂らされたら、さすがにウザいっすよね（笑）」

——あはは（笑）。

「ウチの親は親バカとされる部類だし、ずっと応援もして来てくれてましたけど、たぶん"コイツ、どうなるんだろうな"とは思ってたはずなんでね。今ここで武道館に立った姿を見せられるっていうのは、最高の親孝行になりそうです。ホントもう、今から楽しみですよ」

——来年の1月8日、mayaくんとしてはあの大きなステージの上で、どんなライヴが出来たら理想ですか。

「LM.Cって相変わらずだね、って言われたら嬉しいでしょうね。昔よりちゃんと歌えるようになってるとか（笑）、いろいろ変化はあるにせよ、根っこの部分では変わってないとこってあるはずなんでね。そこ、どう思います？」

——最も変わっていないのは、ピュアネスの部分ではないですかね。むしろ、このところはそこに拍車が掛かっているような印象さえあります。

「ああ、そういうことは最初の頃にもよく言われたからな。今もそれを感じてもらえるっていうのは、嬉しい限りです」

——何しろ、LM.Cは複雑な状況下で、敢えて始まったバンド。でしたからね。そこに深いほどの純粋さを感じたのは、当然のことだったと思います。

「今思うと、結局『BOYS & GIRLS』に繋がるのはそこかもしれないな。自分たちが信じる何か…それは未来っていうも[illegible]

続けて来られたっていうか。LM.Cをやらないっていう選択肢もあったのに、それでも始めたあの時のことを思うと不思議だし、感慨深いです」

——それは、野音のMCで珍しくmayaくんがしみじみと話していた、A--jiくんと電話をした時の話ですね。

「野音の時は細かいことまでは言わなかったですけど、あれ、朝だったんですよ。A--jiさんから電話が来て、急遽いろんな予定が白紙になったって聞かされて、その上で"どうするかはオマエが決めていいよ"って言われたんですよね。今となっては、普段ラーメン屋行ってメニュー選ぶだけで20分くらいかかる先輩だし、店選びをする時も"どこでもオマエ決めていいよ"って言うような先輩だから（笑）、あの時もきっとそんなノリで俺に決めさせたんだろうなって思うんですけど、当時はねえ…。それを俺が決めていいんですか？って思いましたよね。A--jiさん、自分じゃ決めたくなかったんだと思うんですよ。決められなかった、とも言えそうだけど」

——そうでしょうか？ 推測ではありますけれども、たぶんA--jiくんはmayaくんがどう返してくるか、分かっていたのではないです？

「どうだろう？ ああ、ラーメン屋でも"オマエ、あっち行くんだろ"みたいなのはあるからな」

——普段の会話やインタビューの中でも、たまに見受けられますよね。mayaくんに委ねているようで…

「仕向けてると（笑）」

——いえ。彼は、mayaくんのことを信じているのだと思いますよ。

「そうかー。ストーリーとしてはそれ、美しいですね。そういやあの時、A--jiさん電話越しでちょっと泣いてたと思うんだよな。こっちから"やりましょうよ！"って言った時」

——良い話ではないですか。

「あの時のmayaはもっともらしいことを言ってましたよ。先のことなんて、何にも分かんないくせにね」

——そんなmayaくんと、A--jiくんの関係。これについては、この5年間で変化して来たところはあります？

「距離感とか関係性、そういうのはあんまり変わってないと思います。でも、先[illegible]

「曲の締切を守らないとか（笑）、[illegible]う面で。いろいろコイツには言[illegible]しょうがないんだな、っていう部分については最近は諦めてもらってます」

——少し話は逸れますが、5年前[illegible]で初めてLM.Cへ取材を行な[illegible]A--jiくんが"この間、真顔[illegible]に聞かれたんですよ。「ストレスって何ですか？ どういう感じなんですか？」[illegible]凄くないですか？"と言ってい[illegible]ありました。mayaくんは、[illegible]全なるストレスフリー体質なのですか？

「だと思いますよ。何となくストレスっていう言葉の意味とかイメージは分かるようになったけど、自分でそこに陥ることはないし、万が一そうなりそうになったら避けますよね」

——賢明です。

「脳科学的に言うと、人間って染色体レベルでポジティヴな人／ネガティヴな人／普通の人に分かれるらしいんですよ。でも、自分はきっとポジティヴなほうの人ではないんですよね。普通なんだけど、ポジティヴでありたいって思ってるだけの人なんだろうと思います」

——その根拠は？

「あんまり怒りとか、悲しみとかは激しく感じないにせよ、瞬間的な感情の揺れはあるから。だけど、そこであんまり気持ち的に留まったりしないんですよ。そこは思い込みも必要で、言ったモン勝ちみたいなところがあるんです。言霊の利用法、ってやつですよね。なりたい自分に、自分を仕向けてくっていう」

——そういえば、mayaくんは時折、"mayaは〜"と自分のことを別人格かのように話すことがありますものね。喩えるなら、あれは矢沢永吉さんが"矢沢は〜"と語るあの独特な論法と近いのかもしれません。"maya"とは、おそらく"こうありたい自分"の象徴なのではないですか？

「それは、自分でもある時気付きました。ほとんど[illegible]ですけど、"maya"に対しては理想の自分をすんなりとイメージ出来るんですよ。何か成し遂げたいと思ったら、[illegible]で思い込むっていうのも[illegible]の方法ですからね」

——思い込みという名の、夢見る力。LM.Cは、それを現実へと変えてきたアーティストだと思います。

「[illegible]

杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网 hudie.com

9 GOATS BLACK OUT

inkblot is.....

昨年5月から活動休止に入り、今年1月の東名阪ワンマン『Melancholy pool』で、再びその姿を現した9GOATS BLACK OUT。そしてこの夏『Rorschach inkblot』なる作品をリリースした。精神分析で用いられるロールシャッハテストから端を発したこのタイトルが示すように、まず心にこの作品がどう響くか、素直に耳を傾けてみてほしい。この作品に込められた想いは、今後の活動で明らかにされていくだろう。

Interview:MIYUKI

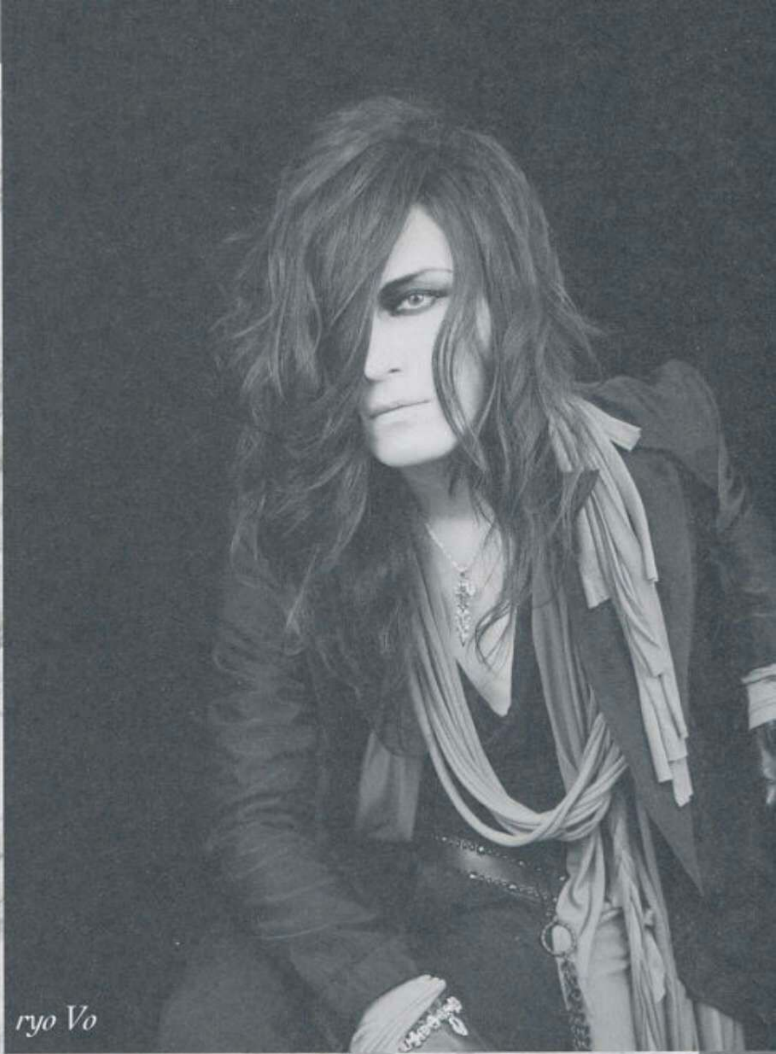
杂志迷
zazhimi.com

hudie.com

——「Rorschach Inkblot」というタイトルは、どういうところから？
ryo：今回は、歌モノじゃない曲をセレクトして、明確にこれがメッセージですって言い切ってない歌詞とか歌の作り方をしてるんですね。だから、制作者側が答えを言って、それを受け止めてもらうんじゃなくて、受け手側の感じ方次第で楽曲の表情とかが変わるような2曲にしたいなと思ったんです。
——曲そのものがロールシャッハテストみたいに、人によって見え方が違ってくるものだと。
ryo：そうです、あの感じですね。"あなたにはこのインクの染みが何に見えますか？"という風に聴かせて、この楽曲がどんな風に聴こえるかという提示の仕方ですね。
——そのテーマは曲を作った時から考えてたんですか。

はあるんですけど、活動再開のいちばん最初に出す時は、明確に言い切らない形の歌と歌詞で、歌モノじゃない感じで、今まで9GOATS BLACK OUTがやったことのないアプローチにしたいと思ってましたね。
——答えを言ってしまうのと、聴き手にどう聴こえるか提示するのとでは、作品の作り方に違いは出てくるんですか。
ryo：俺が書く歌の作り方では、歌の中の人物の感情がどう動いてるのかを重視することが多いんですけど、今回は人をあんまり特定させないように書いたんです。例えば主語がないとか、相手を断定しないとか、そういうところは今までと違うのかな。もっと言うと、現実感のないものにしたかったんですね。今までは、"ツラいけど、この現実があるよね"みたいな言い方だったのが、夢の中そのものの世界を描写しようかなというのは

ryo：メロディもそうですね。メロをつける時も、歌を歌い上げるんじゃなくて、声を楽曲の一部の存在させて、地に足をつけない不安定な感じの歌を楽曲の中で存在させて、どこか不思議な感覚みたいなのにしたいなと思ってました。
——「missing」は、具体的にはどういうところから出来てきたんですか。
uta：5拍子です。変拍子の曲を作りたいというところからです。何の構想もなくて、とりあえず変拍子で行こうって。
——5拍子の曲を作ることで、今までと違うものが引き出されたりしました？
uta：5拍子も大変なんですけど、あのコード感はすばらしいですよ。
ryo：自画自賛（笑）。
uta：あれはもう出てこないかもしれないですよ。
——どうやって出て来たんですか。
uta：もうずっと弾いてるしかないで


ryo Vo

意識が働かせた不思議な感覚

このコードが良かったなって1個1個探していったんです。だからものすごく時間はかかりましたね。
——5拍子に対して、リズムはどう組み立てていこうと？
hati：リズムの組み方とかはわりとシンプルになったのかなと思います。分かりやすいようにしようと思いましたイントロ以外は繰り返さないで、同じフレーズを弾かないとか、いろいろ試行錯誤した結果、あの形に収まりました。活動休止してるんだから、今までとちょっと違ったことをやろうとか、いろいろ挑戦してみようという、自分の中の課題はありましたね。
——これまでの制作に比べて、時間的、精神的な余裕はあったんですか。
ryo：どうかな？
hati：のんびりしすぎて、ちょっとマズいかなって思いましたよね（笑）。
ryo：でも焦りはなかったですね。いつまでに作らなきゃいけないという制約はないんで。だから、こういう歌になったんだと思いますね。
——だから、と言うと？
ryo：時間がなくて、早く上げなきゃってなると、今までの手法で試すけど、時間があったから、今までのアプローチじゃないものを作ろうと思ったんだと思うんですよ。
——ではギターのフレーズに関しては、どういう点を意識しましたか。
uta：このギターは、淡々と聴かせたいと思ったんで、激しいところ以外はアルペジオしか弾いてないんですよ。そういう曲は初めてなんですごいなって思いますよ。こんな曲、なかなかないと思います。
——歌詞は、整然とした構成に合わせて、すごく規則性がありますね。
ryo：5拍子って一般的なリズムじゃないじゃないですか。でも、歌を注視して聴いてみると、結構シンプルに聴けるようなところを意識してるんです。その流れで、リフレイン・フレーズを必ず使おうというのはありました。楽曲が提示したものに対する俺のリアクションが、そういう形（規則性のある歌詞）で

いって、あんまり大きく場面を変えない歌詞を書いたのは意図的ですけど、1〜2〜3番になってるのは、今気づきました。
hati：春／夏／秋って分かりやすいと言われたらそうなのかもしれないですけど、この歌詞はいちばんわけ分かんないですよね。
ryo：手法は分かりやすいんだけど、本質が全く分からないようになってるから、だから気持ち悪いんですよ。気持ち悪いと言うか、不思議な感じにしたいと思ってたんですよ。分かりにくい、難しい言葉ばっかり使ってるわけじゃないのに、何を言いたいのか簡単に汲み取れないようなものにしたいというのは無意識的に働いたんだと思います。
——その不思議さみたいなところを感じてほしかった？
ryo：たぶん欲求はなかったんだと思います。ただ、自分たちがやったことのないものをやろうとした結果だと思います。活動休止してるんで、次はこの曲を聴いて、こう受け取ってほしいとか、その先のこういうものを感じ取ってほしいとか、そういうのがなかったんですね。
——活動休止してる時に作ったことが、楽曲にすごく反映されているようですね。
ryo：そうかもしれないですね。
hati：今気づきました（笑）。
uta：俺も、時間があったから、今までなかったものを作ろう、作ろうとしてたし、そのとおりですね。
ryo：各々が深ーいところに行ったんじゃないですか。
uta：そうだね。深いところ行ったね。
——「秘密と孤独」は、utaくんからの発信なんですか。
uta：1フレーズだけ。最初の何秒かな…バンドインする前のアコギの部分があるじゃないですか。あそこまでで俺はhatiに投げたんです。1フレーズだけだけど、良いフレーズが出来たから、とりあえずリズムとかつけてみてよって。そこから激しい部分は、1人で作っていった感じですね。
hati：ビックリしました。任せた！ってきたので（笑）。でも、すぐイメー

zazhimi.com
蝴蝶
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

は感じました

ryo：アコギの初めのカッティングとか、シーケンスと生ドラムを組み合わせたビートとか、今まで9GOATSのやってきたものの集大成でもあり、もう一つ先に進んだ印象を受けるオケだったんです。「missing」もそうなんですけど、完成度が1ランク上の状態で来たと思ったし、切り口が違うというのと、楽曲のクオリティが違うんで、この曲にかける意気込みみたいなのはちょっと違うなと思いました。

——「憂鬱と孤独」のほうは、また歌の印象も強く出てますよね。

ryo：キャッチーでポップな歌モノをつけようと思えばつけられるベーシックだったんですけど、そういう風にしなかったのは、たぶん病んでたからだと思います、精神状態が（苦笑）。デモの状態でも、映像が見えるとか、色が浮かぶ

——楽器陣二人でそのイメージをきっちり作り上げていったんですか？

hati：でも、そんな話は一回もしたことないですけどね（笑）。

uta：正直ね。

hati：一言も喋んないんで。

uta：ウチらは楽器なんで、楽器で会話してるんです。

——今、ものすごいドヤ顔してました。

一同：（笑）

ryo：言ってやったぜ、みたいな（笑）。確かに、楽器がすごく歌ってて、その〝歌〟がもっと明瞭に聴こえるようになったんで、敢えて俺が歌い上げる必要はないと感じたのは確かです。

——その音に対して、何を歌うか限定されてしまうことはないんですか。

ryo：場合によりますね。この曲は歌詞がわりと早めに出てきた感じで、歌唱で表情を作っていくタイプの歌詞の書き方をしました。限定はされたかなぁ。たぶん二人が乗せてほしいものとは違うものが乗ってるんです。別の話をhatiはしてて。明るくしてやろうとか、軽快にしてやろうとかというような楽器のアプローチなのに、俺はすごくウエットな感じで攻めたので。でも、バンドのアンサンブルは絡み合ってなんぼだと思うんです。

——イメージ的には、ウエットな感じだったと。

hati：原曲を聴いた時はすごく悲しかったんですけど、俺のイメージ的には、ツラいけど強がって頑張ってるみたいな、そういうイメージが先行した感じでしたね。悲しいけど、リズムだけ聴いたらノリノリになれるみたいな。ベースだけになるところのイメージは、悲劇のヒロインだって自分で客観視して見てるみたいな、そういうイメージがあって。イメージ先行でいった曲ですね。

——「Melancholy pool」のライヴの時におっしゃっていたメッセージは、〝憂鬱でも、それでも強く生きるんだ〟ということでしたが、これは逆に憂鬱に浸るような感覚のものですよね。

ryo：時間的には、楽曲制作があって「Melancholy pool」があるという流れなので。昔の（写真の）アルバムを今見て、こういう形だったんだと事実関係を確認するような感覚でいてもらったほうが、誤解はないと思いますね。

——「Melancholy pool」「Rorschach inkblot」と来て、これからの活動は？

ryo：今の9GOATS BLACK OUTの制作に対する一つの形が出来たので、これからいろいろ進んでいくと思うし、今このバンドが何を言わんとしてるかもどんどん進んでいくと思います。

——その内容は、今後の活動で明らかになっていくと。

ryo：入り口をこれだけ霧に包んだので、どうやって姿を現していこうかなというのを[illegible]から計画していきます。

zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

ealkbの挑戦。意欲作『AGAINST』到着!!

かい風が強くなってる世の中だけど、みんなで立ち向かっていきましょう！

気強い風が吹きつける日があったとしても、少し先に見える虹の橋を渡ったところには、きっと希望に満ちた明るい光が射しているはず。日に発表されるミニ・アルバム『AGAINST』の中に、jealkbはそんな思いを込めたのだそうだ。5つの曲に託された、真摯なメッセージと、どりのサウンド。それらは、10月15日から始まる『jealkb LIVE HOUSE TOUR 2011［霧薔薇ノ月夜］』でも全国に拡散していくことだろう。

Interview:YUKI SUGIE

——今回のミニ・アルバム『AGAINST』で、jealkbはより多彩な表現方法を手に入れたようですね。

haderu：今回は、冒険をしてみたかったんですよ。限られた曲数の中だからこそ、それぞれの曲の中でいろんなことにチャレンジできるような、面白いミニ・アルバムにしたいと思ってたんです。

elsa：だから、今回は曲作りもそれぞれ異なるコンセプトを持ったうえで作っていきました。5曲なら、5色のものを入れるようにしたかったんです。

——最初に出来たのはどの曲でしたか。

elsa：「jealize」ですね。ラップを取り入れたミクスチャーな曲が欲しいなと思って、まずはそのラップ部分から手をつけていきました。ラップは始めから、hidekiにやってもらおうと思ってたんですよ。

hideki：まぁ、俺はもともと生まれも育ちもゾッチですからね～。東京生まれヒップホップ育ち、ってやつ（笑）。

elsa：嘘つけ！

haderu：東京生まれどころか、高知の田舎育ちじゃん。しかも、悪そうな奴には大体アタマ下げてたんだろ（笑）。

edie：あははは（笑）。

hideki：だって、それがいちばん波風立たなくていいじゃないですか。……って、そんな話じゃないですよね!?

——結局、今まではあまりラップに造詣の深くなかったhidekiさんが、今回どのようにこの曲と向き合っていったのか、というところが気になります。

hideki：ほんと、ラップなんて個人的には全くハマったことなかったんですよ。せいぜい、J-POPに混じってるようなラップが流れてるのを聴いたことがある程度だったんで、とにかく大変でしたね。でも、そういう新しい課題をメンバーが与えてくれたっていうことがすごく嬉しかったですね。

haderu：去年シングルで出した「super special summer」のときのラップは、短かったし速さで誤魔化してたところがあったもんね。ある意味、ここでラップって難しいんだって気付いただけでも

杂志迷
zazhimi.com

dunch

elsa

haderu

hideki

ediee

kbというバンドそのものを投影したものでもありそうですよね。

elsa：実際、この曲には各メンバーみんなの声も入れてあるんですよ。サビはedieeがギターを弾きながら歌うとか、誰がここでこう出て、みたいなこともあらかじめ決めながら作ってました。

haderu：歌詞を書いていくうえでも、そこは意識してましたね。端々にメンバー全員の名前も出てきたり、出てこなかったり。

dunch：あれ、俺の名前って入ってたっけ??

――dunchさんのことを思わせるくだりはあるのですが、名詞としては……見当たりません。また、オチに使われてしまっているようです（苦笑）。

haderu：そこがね、jeal-kbにおけるdunchならではのポジションってことなんですよ。

――考えようによっては、最も美味しい位置ではないですか。

dunch：いやもう、そう思っていただければ何よりです（笑）。

haderu：でもね、この詞のほんとの主役はじつを言うとjeal-kbというよりも、ジュアラーなんですよ。今までもジュアラーに向けて作った歌はいっぱいあるけど、初めてジュアラーを題材にした詞を書きました。

――jeal-kbとジュアラーの未来へ向けた、素敵な1曲だと思います。

haderu：いつか武道館でやりたいねっていう気持ちで、ここには〈九段下で暴れますか〉っていう歌詞も入れたんですよ。ここには、これからjeal-kbが何処へ向かおうとしてるのか、っていう志がこもってるんです。

ediee：楽しみですね、武道館でこの曲を演奏できる日が。

hideki：間違いなく、最高に感動するだろうなぁ。

――さて。話は少し前後しますが、今作には1曲目にエレクトロ要素の強い斬新で大胆な「AGAINST」という楽曲も入っております。こちらも、聴いていて大変興味深かったです。

レディ・ガガの曲を聴いて、ふと"エレクトロをjeal-kbでやったら、どうなるんだろう?"って思ったところが始まりになった曲でした。

ediee：同期の音がガシガシ入ってはいるんですけど、ギターもそれに負けないくらいガンガン弾かせてもらいました。けっこう攻めて暴れてますね（笑）。

――音のインパクトの強さにも驚きましたが、この曲については詞にも唸らされました。震災以降、人に救いや癒しを与えるような曲や、生きる意味を問う曲は世の中にたくさん出てきましたが、"この問題"に斬り込むことができたアーティストは、ほとんどいません。さすが、jeal-kbです。よくぞここまで、やってくださいました！ 天晴れです。

haderu：多分ね、こういうことを曲にしてる人は他にもいるんだと思うんですよ。でも、世の中に出る前にきっとツブされちゃってるんでしょう（笑）。

――そこも由々しき問題ですよね。

haderu：今、俺の親友の山本太郎があいうことになってるじゃないですか。何も間違ったことなんて、言ってないのに。それっておかしいなと思ったし、震災以降やっぱり原子力発電所っていうものに対してどう考えますか?っていうところは、皆が考えなきゃいけない問題だと思ったんで、今回こういう詞を書いたんです。

――本当によく思い切りましたよね、いろいろなリスクもあったでしょうに。

haderu：確かに、レコード会社の人たちはこの詞を見てザワザワしてましたよ（笑）。歌詞を部分的に変えてくれ、とも言われたし。まさに、"Atomic"って言ってるところがあるじゃないですか。だけど、そこは敢えて入れちゃいました。

――男気を感じます。よく、オトナたちを説得できましたね。

haderu：そこは、俺としても干されるのはイヤだったんで考えましたよ。曲を流せないところもでてくるよっていう条件は、飲みましたから。自分のやれる範囲で、なんとかメッセージを伝える手段っていうのを、この曲の中では模索しましたりの考え方であり問題提起のかたちです。

――この件については人によっていろいろな意見があると思うのですが、それを考えるひとつの切っ掛けとしても、是非たくさんの方に聴いていただきたいですよね。

haderu：うん、そうですね。ちなみに、今回の5曲はすべて震災後に作り出したものだったんですよ。だから、どの曲の詞も震災後の影響を俺なりに受けながら書いてたものになってます。

――なるほど。クールで粋なスカビートが響く「虚無感狂想曲」にしても、ストレートなバンドサウンドが力強く疾走する「shilhouette」にしても、その観点で聴いていくとより味わい深いです。

hideki：曲としても、それぞれに新鮮な要素が入ってるし、聴いていて面白いと思いますよ。

――このアルバムのラストを締めくくっている「虹の橋」も、純粋に胸に響く曲になっていますしね。壮大さで深みもありつつ、聴いているとポジティヴな気持ちになれるところが素敵です。

elsa：バラードのようでもあるし、それだけじゃない部分もあるし、っていう存在感の曲にしたかったんですよ。

haderu：これも、今までのjeal-kbには無かったタイプの曲ですね。頑張って起き上がろうとしてる人の、後押しをできるような曲にできた[illegible]ないかと思います。

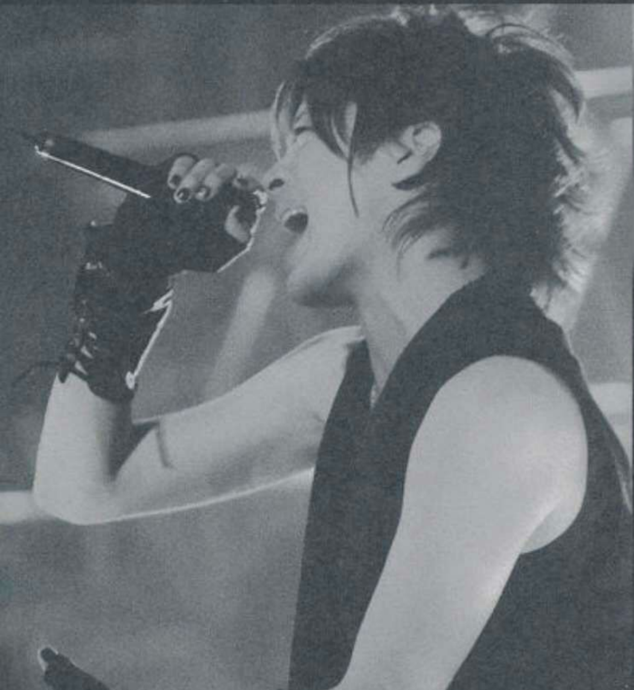
ediee：これは、虹の橋を渡ればきっと何かがあるよっていう希望の[illegible]に、ギターソロでもみんなの心に[illegible]るような気持ちでチョーキング[illegible]

dunch：この5曲の中で[illegible]「s[illegible]」がいちばん推してただけあ[illegible]ほんとに良い曲になってると思[illegible]

――今作のリリース後には、ツアー「[illegible]薔薇ノ月夜」も控えています。また、皆さんの勇姿をみせつけて[illegible]

haderu：「AGAINST」っていうアルバムタイトルには、向かい風が強くなってる世の中だけど、みんなで立ち向かっていきましょう、っていう意味を込めたんです。今度のツアーでも、その気持ちを持ってみんなのところに行くつもりです！

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com



蝴蝶网
hudie.com

BREAKERZ

出しリミットギリギリまで突っ走った極上の3時間

BREAKERZ デビュー4周年記念ライブ"WISH 03"
2011.7.22(FRI)日本武道館

杂志
zazhimi.com

7月22日に、[BREAKERZデビュー4周年記念ライブ"WISH 03"]を日本武道館で行ったBREAKERZ。詳しい内容は本編をご覧になっていただくとして、5年目へ突入した彼らは、9月21日に5thアルバム『GO』を発売。その作品を手に全国ツアーも行うことが決定している。まだまだ、刺激的なコールを出し続けているBREAKERZだけに、その動きをしっかり追い続けていてもらいたい。

Report:TOMONORI NAGASAWA

01. CLIMBER×CLIMBER
02. BIG BANG!
03. 激情
04. NEXT LEVEL
05. Everlasting Luv
06. BAMBINO ～バンビーノ～
07. GO
08. 月夜の悪戯の魔法 ～ギターバトル～
09. LAST † PRAY
10. BUNNY LOVE
11. 初恋トランポリン
12. 絶対! I LOVE YOU
13. REAL LOVE 2010
14. DEAR LIAR
15. 灼熱
16. GRAND FINALE

-ENCORE 1-
17. ありがとう ～Beautiful day～
18. それは優しい気持ち
19. 光

-ENCORE 2-
20. SUMMER PARTY
21. DESTROY CRASHER
22. NO SEX NO LIFE
23. IN THE SKY

に1stアルバム『BREAKERZ』を発売してのことだった。その後、「ういっしゅ」を連発するDAIGOのキャラクターが、ブラウン管をとおして大いなる話題を産み、その人気がBREAKERZの支持へと繋がっていったのは、みなさんもご存じのことだろう。

もともとライヴ活動に比重を置いていたBREAKERZだけに、DAIGO人気がきっかけとはいえ、躍動性を持った楽曲の数々は、耳にしたファンの心を瞬時に捉え、バンドの支持も一気に上昇。デビュー2周年を記念して7月に行った日本武道館公演『WISH』を、大成功に収めていった。しかも彼らは、翌年も、デビュー月である7月に、日本武道館でワンマン公演『WISH 02』を敢行。継続して同地での公演を成功に収め、バンドとして確かな支持を得ていることを、その成果をもって証明してくれた。そして今年もBREAKERZは、日本武道館を舞台に、「デビュー4周年記念ライブ」という名目のもと、恒例となった〈BEST OF BREAKERZ〉を満喫できる公演『WISH 03』を行った。

日本武道館公演といえば、毎回、アニメーション映像とのコラボ・スタイルで幕を開けている。彼らが今回選んだアニメ作品は、DAIGO自身がCMにも出演している『カードファイト!! ヴァンガード』とのコラボレーション!!

映像では、アニメ作品の主人公である先導アイチがヴァンガードファイトを行う中、窮地に立たされていく……。そのときに逆転勝利を賭けて提示したのが3枚のカード。"大地の精霊・力のギタリストSHINPEI"とコールし、カードを投げつけると同時に、舞台上にSHINPEIが登場。"月の精霊・さすらいのギタリストAKIHIDE"とコールすると、AKIHIDEは、ゴンドラに乗って降臨。"太陽の精霊・光のヴォーカリストDAIGO"とコールするや、花道中央のステージからDAIGOがせり上がりながら姿を現した。その華麗な登場を受けて演奏したのが、アニメ『カードファイト!! ヴァンガード』のCMソ

冒頭からドラマ性を持った流れを提示してきたBREAKERZのメンバーによる攻めの姿勢で一気に魅了。会場を包み込んだ約8000人の観客たちも、瞬時に理性のストッパーを外し、ステージの3人と一緒に興奮の波を描き出していった。

この日は、数多くのシングル曲たちはもちろん、4枚のアルバムと2枚のミニアルバムの中からも、まんべんなく楽曲をチョイス。アクセル全開、フルスロットルで駆け上がってゆく「Everlasting Luv」を演奏したあとに、セクシーな女性ダンサー2人を従え、妖しくダンサブルにせまった「BAMBINO ～バンビーノ～」と、両A面シングル曲を立て続けに披露する場面もあれば、9月21日に発売する5thアルバム『GO』の表題歌でもある、新曲「GO」をいち早く披露。切ないピアノの音色に乗せ、哀愁味たっぷりにDAIGOが唄いつつも、転調後、緩やかなウネリの中へと会場を導いていけば、その心地良い興奮を受け、「月夜の悪戯の魔法」で朧な月夜を映し出す幻想的な空間へと誘っていった。

雷鳴の轟きを得て、AKIHIDEとSHINPEIが、感情の慟哭とも言うべきギター・ソロを掛けあえば、むせび泣く想いを祈りに変えるように、十字架に縛られたDAIGOが、空中高く吊り下げられながら「LAST † PRAY」を祈るように唄いあげていく場面も展開。

「BUNNY LOVE」では、セクシーなバニーガールに導かれ、妖しげな不思議の国へ堕ちていけば、「REAL LOVE 2010」では、SMの女王様たちにしばかれ、恍惚を得る姿までDAIGOは赤裸々なまでに見せてくれた。

本編最後の「GRAND FINALE」で会場中が一体化しながら合唱した、感動の風景。アンコールで披露したアコースティックな演奏や、Wアンコールで描いた熱狂の絵図など、3時間に渡って、4年間の集大成となる姿を熱く提示したBREAKERZの3人。確かな足跡が、5年目の活動の中、どのように花開く種になるのかとても楽しみだ。

杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网 hudie.com

SHOCK WAVE アポロ Vol.52

Live at 高田馬場AREA 2011.7.18

毎月18日に高田馬場AREAを舞台に開催している「SHOCK WAVEアポロ」。夏真っ盛りな7月18日のイベントの舞台を彩ったのは、キッド・【空ーくぅー】・ジグラット・BLOOD・POPCORE・REALies・Royzの計7バンド。今月も、あの日のライヴの模様をお伝えしよう。

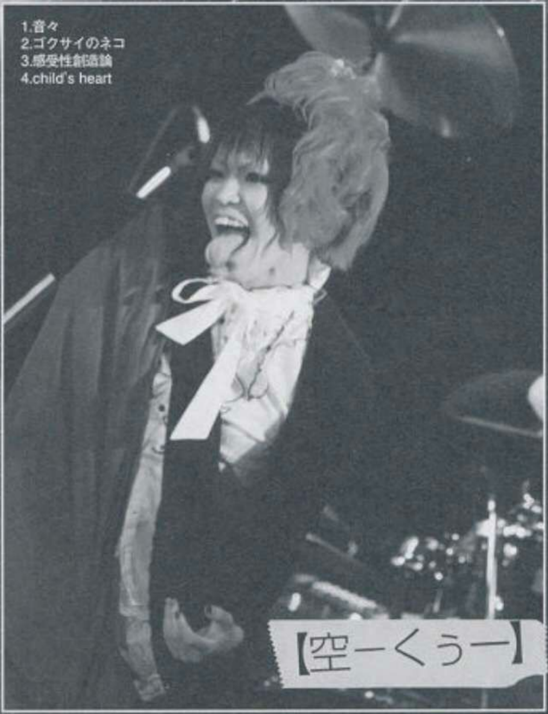
Photography:MASAKAZU KOBAYASHI（SHOXX）
Report:TOMONORI NAGASAWA

キッド

1.Tokyo Rainy
2.ケミカル　3.syrup
4.夜感サーカス
5.スタッカート

ジグラット

銀の雨
メトロ
「極」
究「Q」



【空ーくぅー】

1.音々
2.ゴクサイのネコ
3.感受性創造論
4.child's heart

幕開けと同時に流れたのは、妖艶な香り漂わせるマイナー調のロッカビート歌「Tokyo Rainy」。キッドが持つ魅力を、一発目から深く印象付けてゆく。その独自性に、まずは惹かれた。"ともに歩もうよ、絶頂へ!"。ブラス系同期音とシンクロしながら、艶っぽいダンスビートを突きつけた「ケミカル」。心の湖を刹那の色に染め上げた、ミッド曲「syrup」。終盤は、「夜感サーカス」「スタッカート」と、歌を活かした熱狂ソングを届けながら、観客たちを飛び跳ね続けさせたキッド。短時間でバンドの魅力をたっぷり味わえた気分だ。

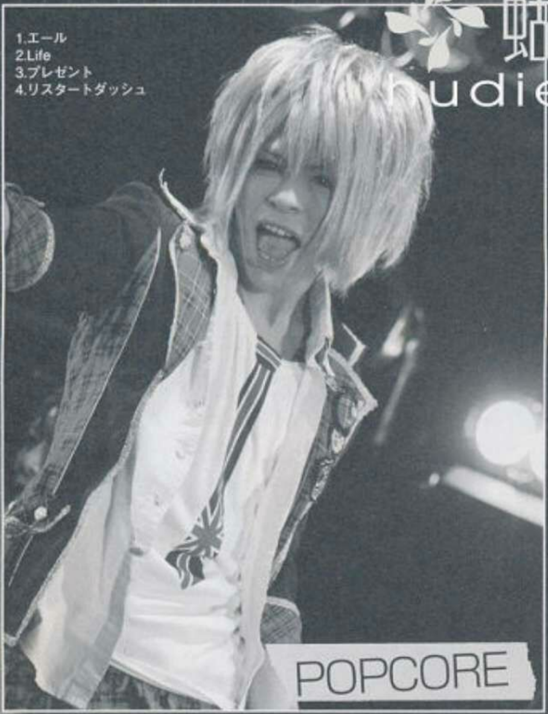
空へこの身が溶け込みそう。そんな穏やかな空気描き出した「音々」から幕を開けた【空ーくぅー】のステージ。「♪ねぇねぇ（音々）♪」という歌詞とタイトルのシンクロにも、彼らの洒落たセンスを覚えてゆく。心地良いゆったりムードのギアを、一気にシフトアップ! 駆け上がるよう開放的な風を呼び起こした、「ゴクサイのネコ」を通した温かい空気。続く「感受性創造論」では興奮の上昇気流を描き出し、ラストは「child's heart」で、会場中を熱狂の中へ導いていった。歌を軸にした姿勢を終始貫いてゆく。だから、音楽へ夢中になれる。

イカついスタイルやヴィジュアルとは裏腹に、和心満載な耽美メロウ作「銀の雨」を、疾走する演奏の上で哀愁味たっぷりに唄いあげていったジグラット。続く「メトロ」では一転、鋭利なギターのリフをグサグサと突きたてるよう、猛々しい煽りムードへ突入! 会場中の人たちを一気に騒ぎぶり出した。祭りムードを満載、炸裂したデジビートを背景に、ヒステリカルな和リフ・メロな演奏を叩きつけた「極」。最期は、激烈なダンスロック・ナンバー「究「Q」」を演奏。会場中の人たちを、ジグラット流祭りライブの輪の中へと導いていった。

冒頭からミステリーモ・カオスな轟音暴れまくる「counting Rhymes」を叩きつけたBLOOD。客席の一・二列目は、ヘドバンや左右大移動しまくる観客たちによって、[illegible]祭りな様相を呈している。ブラストビートが炸裂、「Bathory」

杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com



……ながら、狂熱な空間へと彩ってゆく。ラスト「Elizabeth」を含め、熱狂轟音の渦に陥れ続けたライヴだった。

「エール」へ触れた瞬間、歌や楽曲がスーッと胸に飛び込んできた。POPCOREと名乗るだけあって、ポップでメロディックな楽曲を軸に据えている姿勢が嬉しい。もちろん、興奮求めゆくライヴという場だけに、しっかり歪みを上げた演奏で、体感的なノリも作りあげてゆく。ポップメロ・パンクな軽快ビート・ナンバー「Life」でも、心地好さを与えながら、感情を晴やかな空間へ連れていってくれた。後半演奏曲も含め、90年代V系ポップパンクな音楽性にも通じる真っ直ぐなポップ歌を笑顔満載で届けてゆく彼らの登場は、嬉しい限りだ。

キャッチー・アップビートな「NuAGE」を奏で、冒頭から会場中の人たちを熱く揺らしていった、大阪在住バンドのREALies。ライヴ上は煽りの姿勢を強めているが、楽曲自体がポップな要素を備えているからだろう、ダウナーな色を持った「D.O.P.E」でさえ、つかみ良く楽曲が胸に飛び込んできた。軽快な振りを交えた派手やかダンスロック曲「曖昧カテゴLieズ」を奏で、観客たちの身体を揺さぶり一緒に踊り出せば、キラキラ輝き放つ攻メロ歌「ヒカルセカイ」で、一緒に上がり。ラストは、タオル振りまわし一体化していった。

怒号上げた演奏とは裏腹に、歌はどこか切なくもメロウな表情を抱いている。Royzが冒頭に記した「α」が導いた表情だ。とても胸に突き刺さる痛メロウな雰囲気なのに、演奏はグサグサ刃を向け斬り付けてくる。熱狂の風呼び起こすタオル曲「ever:r」でも、軸に増えているのは、胸をくすぐる美メロ泣メロな魅力。騒ぎながらも歌が強烈に残るのも、メロディーの良さがあるからこそ。唸りを上げた轟音ビートに乗せ、会場中を大きく揺らしていった「クロアゲハ」、感情掻き立てゆくヘヴィビート歌「SIGN」。ラストの「[AREA]」で描いた狂乱の宴を含め、彼らの姿に、大きく飛躍しそうな嬉しい予感を覚えていた。

杂志迷
zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX VOICE!!

LOST ASH

アルバムの謎を紐解く鍵となるか!?
「LIAR」「CLOSE TO YOU」リリース!!

杂志迷
zazhimi.com

渋谷WOMBでのワンマンライヴをソールドアウトさせ、自らが掲げた『DEAD or ALIVE』プロジェクトを成功に収めたLOST ASH。11月30日のアルバム『BLAZE IN HEART』の発売に先がけ、デジタルシングルを2ヶ月連続でリリースする。既に配信中の「LIAR」と9月7日配信の「CLOSE TO YOU」で、彼らの持つ対極の魅力を感じてほしい。12月14日渋谷DUOでのワンマンライヴに向け、彼らは再びスタートを切っている。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

蝴蝶 hudie.cn

Daiki(Vo)

Show(Gt)

Sai(Ba)

Dye(Dr)

杂志迷 zazhimi.com

…意識して制作したんですか。

Daiki：「DEAD or ALIVE」プロジェクトが成功してアルバムを出すことが決まったんですけど、リリースする時期が、夏頃に予定してたのが冬ぐらいになったんです。それで、少しでも早くアルバムの曲たちを聴いてもらいたいという思いを込めて、着うたという形で、リリースすることにしました。

――アルバム収録曲の中からこの2曲を選んだのは?

Daiki：アルバムで初めて聴いてほしい曲も他にあったし、とにかくライヴで瞬発的に盛り上がれる曲をいちばん最初に聴かせたくて「LIAR」を選んで、次はメンバーみんなで話し合って「CLOSE TO YOU」に決まりましたね。デジタルサウンドっぽい「LIAR」と、バンドサウンドっぽい色を出してる「CLOSE TO YOU」で、俺たちの魅力を見せられるんじゃないかと思います。

――「LIAR」は、最初からデジタルサウンドを盛り込んだものにしようと思ってたんですか。

Dye：LOST ASHらしさをわかりやすく出したいと考えながら作りましたね。でも、レコーディングをしながらだんだん出来ていった曲なんです。

――各々のプレイも、レコーディングしながら決まっていったんですね。

Show：レコーディングのその場で"ガラッと変えちゃって。"とか言われたり、本当に全然わからない状態で進んでいった感じでしたね。

Sai：ライヴで盛り上がる曲みたいなイメージがあって、体が自然にノれるような、弾むようなラインを考えながら、その場その場でみんなで話し合って作っ

ました?

Daiki：テンポ感がすごく速い曲なので、Aメロ、Bメロ、サビと構成が変わっていくところで、いかにお客さんをより引っ張っていけるかを考えました。ヴォーカルとしては、歌詞をすごく重要視してます。今までは汚い言葉とかをあまり使ってこなかったんですけど、これは嘘つきという意味のタイトルなんで、嘘に振り回されるような、イヤな世の中に対するストレスをぶつけた歌詞をストレートに書いてみました。

――世の中に対して何か言いたいことがあった?

Daiki：子どもから大人になるときって、いちばん悩むと思うんですね。大人は本音と建前があって、そういうのに子どもが悩まされるし、自分も悩んでたことがあって。そのときのストレスみたいなものを思い切り吐き出したいという原動力がこの歌詞につながったんですよね。だからライヴでは、ストレスを思い切り発散してるところを見てもらえたら、面白く楽しめるんじゃないかと思います。

――ライヴで聴くのが楽しみな曲ですね。

Daiki：ライヴで盛り上げるメインの曲になっていくと思うので、ぜひ聴いてほしいですね。

――一方「CLOSE TO YOU」は、バンドのノリが全面に出てますね。

Dye：いきなりギターのリフから始まって、イントロからトバしていくような、わかりやすいストレートな感じを意識して作りました。

――やはりギターが光ってますよね。

Show：ベースとドラムが土台となって支えてくれてるんで、ギターはそこに色をつける飾りみたいな立ち位置ですよ

表れてるんで、ぜひ聴いてほしいです。

Sai：ベースも、バンドサウンドでゴリゴリ押していくイメージで、それを意識して疾走感溢れるようなプレイとか音にしてます。

――この歌詞は2人で書いたんですか。

Daiki：僕がこのテーマでサラッと書いたものを、Dye君がリアレンジしてくれた感じですね。

Dye：この曲に関しては、恋愛系で、男が女を求めてみたいな歌詞を書いてくれという発注をして書いてくれたのに、もっとこうしたらいいんじゃないかって感じで若干変えたりして。

Daiki：初めて共作みたいな感じになりました。

――曲を書いたときに、そういう恋愛の内容をイメージしてたんですか。

Dye：自分の経験とかが反映して、曲調に出ることがあるので（照笑）。

Daiki：誰とは言わないんですけど（笑）、ある人の長い片思いを描きたくて、"あなたに近づきたくて"という想いをタイトルにしました。幸せになるより、届きそうで届かないぐらいのほうがパワーって出ると思うんですよ。手に入れたいんだけど、届かないっていう歯がゆさとか切なさをうまく反映させて、曲と歌詞をうまくリンクするように書きました。

――LOST ASHの魅力の幅が楽しめる2曲になりましたね。

Dye：そこに、一本ちゃんと筋が通ったところがないといけないと思ってるんで、統一感はあるんですけど、アレンジ面で広いところが出せたんじゃないかと思います。

――その筋が通っているところというのは、バンドのコンセプトである……。

Sai：今日、初エモ（笑）。

一同：（笑）

Dye：エモーショナルなところですね。そこは貫きたかったし、感情を発散させるという意識は常に持ってますね。

――この2曲はアルバム収録曲ということですけど、シングルっぽい印象がありますよね。

Dye：そこは常に意識していて、ちゃんと一個一個独立して歩けるような曲でアルバムを作りたかったんです。

Daiki：昔から、アルバムを出すときはそうしたいねって4人で話してましたから。そういう気持ちが出てるんだと思います。

――そして、アルバム発売に向けて新たなプロジェクトが始まりますが、これはアルバムタイトルにちなんで、いろんなものを燃やす企画になってるんですね。

一同：（笑）

Daiki：放火魔ではないので。

Dye：ツアーとかリリース記念の主催とかもあるんですけど、ニコニコ生放送とか、ブログとか。

――ブログも燃やすんですね。

一同：（笑）

Dye：アクセス数をメンバー間で競おうかと。

――炎上させた人が勝ちだと。

Daiki：そうです（笑）。ASHって"灰"なので、灰になるまで100曲耐久ライヴをやろうとか。

――2周年記念のワンマンに向けて、盛りだくさんですね。

Daiki：「DEAD or ALIVE」プロジェクトのときは、ストイックな署名活動とかだったんですけど、それを一緒に乗り越えてくれたファンの皆さんと、今度は

ました

――これをやりながら、アルバムを作っていくんですか。

Daiki：「DEAD or ALIVE」プロジェクトをやりながらアルバムは作ってたんで、もうほとんど出来てるんです。そこで感じたこととかも取り入れながら、歌詞を変えたところもあったし。もしアルバムを出せなくなったら、金銭的なものは4人で持とうって、そういう枷を自分たちに課しながらやっていたんです。

――では、盛り沢山な下半期への意気込みを。

Sai：もともと皆の心に火をつけたいというコンセプトがあったので、これは自然発生的なプロジェクトでもあるんですけど、音楽を聴いてくれる人たちの心に火をつけて、最終的に12月14日にみんなで燃え尽きたいと思います。

Show：上半期の感謝の気持ちを込めて、下半期は楽しくやっていきたいです。プロジェクトもたくさんあるので、目を離さないでほしいなと思います。自信作のアルバムなので、期待して待っていてください。

Daiki：「DEAD or ALIVE」プロジェクトでは、震災があったり、いろんな苦難があった中、みなさんの協力でアルバムのリリースが決まりました。いろんな想いが詰まったアルバムをより多くの人に聴いてもらって、ライヴで盛り上がれたらと思います。

Dye：下半期もたくさんのプロジェクトを掲げたので、これで新しく出会えるお客さんもいっぱいいると思うし、そういう人たちを引っ張っていって、アルバムをたくさんの人に聴いてもらえるように頑張っていきたいです。

SHOXX VOICE!!

犬神サーカス団

杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网 hudie.com

犬神明（以下、明）：桜は、毎年咲いて、毎年死んで…みたいな、そういう植物で、死と再生を繰り返している感じですよね。この曲のテーマも"人間の進化"なんです。何回も生まれてきて、何回も死んで…という歴史を繰り返しながら人間が進化しているところから、桜をイメージしてみました。

――また「桜散る中」というタイトルと曲調に意外性があって。

明：そのほうが桜とサウンドを結びつけた時に、すごく鮮烈なものが見えたんですよね。ハードな曲調でも、桜というキーワードが乗ると、イメージがそこになっちゃうんですよね。桜というのは非常に強い言葉だなと思って。何でもそのイメージに持っていくパワーのある言葉なんで、パワーのある曲とぶつかり合って、新しいイメージが見えたと思います。

――サウンド全体の仕上がりとしては、ストレートですよね。

犬神情次2号（以下、情次）：かなりストレートだと思います。ただ、ちょっと古めのイメージを僕が持ったんで、あんまりストレートだと、そこに乗っかりすぎておかしくはならないか、とかは考えましたね。そこだけはちょっと気をつけました。いろいろ試したら、ストレートなのがいちばん気持ちよかったですね。

犬神ジン（以下、ジン）：ベースは、ここしばらく何作品か、本当に何も考えないでストレートにやるのが続いてたんで、逆にちょっと考えてみようと思いました。Bメロで動いて、サビでランニングする、よくあるパターンなんですけど、それすらやってなかったので。ここ最近ではいちばんプランを練って臨んだ曲がたまたまシングルになって、僕は嬉しいですね。

――ドラムは何か考えました？

明：何も考えてなかったですね（苦笑）。ただストレートに聴かせたいので、小技に走るよりはグルーヴで持っていきたいと思いました。こういうテンポの曲は勢いがないとダメじゃないですか。だからフレーズに凝るより、突っ走るようなリズムがいいなと思いましたね。

――歌を歌う時はどんなイメージで？

犬神凶子（以下、凶子）：今、明兄さん

て、よく意味が分かってたので、やりやすかったですね。安易に坂口安吾をパクったわけじゃないでしょ？みたいな。その辺を聴いてもらえたらいいなと思いました。歌に関しては普通に、いつもどおりに。ただ展開部分がちょっとあったので、そこを活かした感じで歌ってます。

情次：ギター・ソロ前かな。

凶子：その辺は、どうやったらいいかちょっと相談しましたね。

明：歌い回し、乗せ方を含めて、チェックがてら、相談したんですけど。

凶子：今回は震災でライヴが延期になってしまったり、わりと時間があったんで、いつも以上にいろいろ試せたりしたんで、上手くいったと思います。

――この歌詞の主体は誰なんですか。

明：地球上に生まれてしまった人間のひとりですよね。人間じゃなくてもいいんですけどね、生物と言うか。

――"進化"と言うと、発展的で前向きなものと感じることが多いと思うんですが、それを否定的に見てますよね。

明：話していいですか？　散々話したことなんですけど。

一同：（笑）

明：ほやという生物がいますよね。ほや貝を食べたことってあります？

――苦手なんで食べたことはないですが、知っています。

明：ほや貝と言うから、貝の仲間かと思いますけど、あれは原索動物といって、脊索動物の前の形で、地球上の背骨を持ってる動物の先祖に当たるものなんですよ。そういうものは、脳があって背骨があって、そこに中枢神経が通って、手を動かすんです。ところがほやは子どもの頃は脳を持ってるんですけど、大人になると脳をなくしちゃうんです。でも背骨はちゃんとあって、ただ脳がない。最近、ほやのDNAを調べたら、脳があってもいいようにプログラミングはされてることが分かったんです。そこであれ？と思ったんですね。我々のような生き物の前の原型で、脳のない時代の生き物ですよ。それに誰が脳が作られるようなプログラムを施したんだろうって。もしかしたら誰かが手を施して、我々はその通りにた

"桜"に写す人間の進化

8月24日に、犬神サーカス団が今年初のCD『桜散る中』をリリースする。この真夏に桜？と思ったそこのあなた。この歌詞は生き物の進化に対する、犬神明の疑問が込められているの。それを知ったが最後、あなたも考えてしまうこと間違いなし。発売後は、これまた今年初となる東名阪ワンマン・ツアーを10月にはミニ・アルバム発売も控えており、彼らの精力的な動はまだまだ続いていく。

Interview:MIYUKI MURA

と、ちょっと夢がないじゃないですか。

――ああ、確かに。

明：100メートルを9秒台で走れるようになりました、と言っても、元々それは人間に備わってた能力だという捉え方をすると、じゃあ努力しなくてもいいかって、無意味な感じがしますよね。そこで思った曲ですね。

凶子：その話を、半年ぐらい前からずっとしてるんですよ（苦笑）。

――それぐらい言いたいことだったんですね。

明：ショックだったことですね。

ジン：ジャケットも、ほやの絵です。

明：ほやの写真をトレースして、そこに脳をくっつけたんです。

ジン：このインタビューが出ないと、何でこのジャケット？ってなりますよ。

情次：ちょっとした謎解きみたいな感じになるね。曲は直球だけど、すごくヒネってるということですね。

――なるほど。そしてカップリングの「あなたがもしも」は、究極的なラヴソングですよね。

明：そうですよね。僕は女性じゃないから分かんないですけど、こういう感覚ってあるんじゃないかなと。

凶子：憶測と言うよりは、男子の願望？

ジン：たぶん、男の人がイメージするところの、こう思っててほしいという女の人なんですよね。と、僕は思いましたね。

――ここまで想ってほしい、みたいな理想が表れてるんでしょうか。

明：なるほどね～。

情次：ちょっと怖さがありますよね、ここまでいくとね。そういう狂気的な面が出てますよね。

凶子：そういうのを女子に歌わせたいというのは、昔の歌謡曲のアイドルみたいな考え方ですよね。昔のアイドルって、男の作詞家・作曲家がいて、自分たちの願望を何も知らない女の子に歌わせて、ちょっと萌えると言うか。そういう感覚がウチらのバンドにはあって。その流れの曲かなと思いました。

明：前、凶子さんが言いましたけど、"やらされてる感がアイドルには重要"なんだと。

本の歌謡界にはあるじゃないですか。我々が結成当時から考えたのはそういうことなので、ちょっと究極の形で、今回も入ってると思いますね。

――そこまで理解してしまってる凶子さんは、どういう心持ちで歌うんですか。

凶子：明兄さんの本質は分からないので、そこはやっぱり"やらされてる感"でしょうね。歌い方としてはわりとツルッと、歌は普通に歌ってるほうですね。

明：クセは出してないよね。

凶子：敢えていつものクセは抜いてるんですよ。女の感情で歌うと押しつけがましくなるんで、そうじゃなくしたかったんです。歌詞がわりと直球だし、男の人が書いてるというところの良さがあるので。だから、わりとあっさり歌ったほうがいいのかなと思ったんです。少女っぽさを残したいというのは常に思いますね。それは、犬神のコンセプトとして最初の頃にあったと思うし、もちろん年はとってしまうんですけど（苦笑）、そこは重要ポイントかな。未だに"凶子ちゃん"ってみんなが呼ぶのは、その感じだと思うんです。年下の子もみんな"凶子ちゃん"って呼ぶし。たぶん40歳過ぎても"凶子ちゃん"って呼ばれると思うし。

――凶子さんの少女性みたいなのが上手く歌にも出せたと。確かにこれは女の子が歌わないと成立しないと思いますね。これを男性が歌うと……

ジン：ちょっと気持ち悪いですよね。

一同：（苦笑）

――さて、発売後には久々の東名阪ワンマン・ツアーですね。

ジン：今年入って初のワンマンですね。

情次：間が空いたのにちっちゃい会場っていうね（苦笑）。取れなかったんです。

――震災の影響の振替公演で、どこもスケジュールが埋まってるんですよね。

凶子：でも、近くで観てもらえるからいいかなって。

明：楽しいライヴをお届けします。

――今後の活動としては？

ジン：次は10月にミニ・アルバムが出ます。『桜散る中』は先行シングル的な意味合いになりますね。

zazhimi.com
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Interview:NAOKO TAKEICHI

ヴィデオグラマァ

第3セクター【検証版】

8月11日にリリースされた『第3セクター【検証版】』を引っさげ、再びヴィデオグラマァがSHOXXに登場だ。今回も正式メンバーのヴォーカル・佑哉と、リーダーでベースの儺俐と、ヴィデオグラマァの音には欠かすことの出来ないサポートドラムの悠介、ギター・ハルイの4人で参戦。今回は、『第3セクター【検証版】』の制作秘話をじっくりと聴きつつ、前回の初登場インタビューでは書ききれなかった、相当個性的なキャラクターもしっかり記していこうと思います。

佑哉：すいません……今日もサポートメンバー含め4人で来ちゃいました。

——って言いながら徐々に正式メンバーに引き込んでいるのでは（笑）？

悠介：あ！　これ作戦だったんですね！

ハルイ：すごい手が込んでますね（笑）。

——ね（笑）。ところで正式メンバーでリーダーの儺俐くんの姿が見えないけど。

佑哉：すいません……リーダー忘れ物したらしく遅れてます！　きっともうすぐ息を切らしながら入ってくると思います。でも、来てもきっと10分くらいは遅刻した反省でテンパって、使い物にならないと思います（笑）。

——あははは。それ想像つくわ（笑）。

儺俐：（バタン！！おもいっきりドアを開ける）すみません！　すみません、すみません。あの、家を出てから忘れ物をしたことに気づきまして、（機関銃のように喋り倒しています／笑）

——まぁ、家に居るときに気づけば忘れ物にならないからな（笑）。

佑哉：テンパってますから（笑）。

儺俐：あ、はいそうですね。そして、取りに帰っていて遅くなってしまいました。あの、その忘れ物というのはですね、8月4日の主催ライヴのインビテーション話させて頂こうと思いまして、重要な物を忘れてしまったと思い、大至急家に戻っていた訳でして（↑早口を通り越して理解不能）。

——残念ながらこのSHOXX8月21日売りだから終わってるな、それ……。

儺俐：あ……………（かたまる）。

一同：かたまった（笑）。

佑哉：あははは。せっかく遅刻してまで取りに行ったのにね（笑）。

儺俐：あ、でも自分負けません！　これ見て下さい！（10年前のSHOXXを自分の鞄から取り出す）今日はどんなインタビューにしようかと思って、これ見て勉強し直してきたんです！

一同：（爆笑）。

——懐かしいなこれ（笑）。しかも10年前の本がこんなに綺麗なんて！

佑哉：リーダーすごい物持ちいいんですよ。本とかCDとか全部取ってあるんで、ボソッと"あれ聴きたい"って言うと、次の日家から持って来てくれるんですよ。

儺俐：倉庫です。1回押し入れの底が抜けたことありますから（サラっと）。

——さらりと言ってるけど、それ結構な惨事だから（笑）。で、今日はどんなインタビューにするの？

zazhimi.com

一同：ダメだなぁ（笑）。
――じゃぁ、8月11日にリリースされた『第3セクター【検証版】』の話でもしましょうか。今回の2曲は違うバンドかと思うくらい印象の違う2曲だね。
佑哉：はい。そうなんですよ。
儺俐：自分たちは、前回もお話させて頂いたように、過去曲でもいろんなロックバンドの作品をオマージュさせて頂いているのですが、今回の1曲目の「離号棟」は、メタリカの「バッテリー」のサビをオマージュしたフレーズを取り込んだ1曲となっております。はい。
――メタリカのフレーズをオマージュしているとはいえ、インダストリアルでもないもんね、バリバリのメタルだし。
儺俐：そうなんです。なんかこぉ、グシャッとしたことをしたかったんです。メタルと思いきや、インダストリアルと思いきや、ひょっこり加藤和彦（※サディスティック・ミカ・バンド等、伝説的シンガーソングライター）メロディーが隠れてるっていう。
佑哉：綺麗にまとめようとかそういう意識は一切無く、壊しにいこうっていう感覚で録りましたね。
儺俐：例えるなら後期のSOFT BALLET的な感じの音というか。今回エンジニアさんについて頂いているんですが、SOFT BALLETのマニュピレータさんだった方で、インダストリアルな仕上がりになってます。
ハルイ：エンジニアさんがすごく面白い方で、ニュアンスを伝えるのが上手なんですよ。そ[illegible]ってすごくレコーディングが楽しかった[illegible]ね。上半身裸になってレコーディングさせられましたからね（笑）。
悠介：僕はドラムなので1番最初にレコーディングしたから、さらりと終わってしまったんですが。
――ハルイくんタイプだったんじゃ？
ハルイ：え!? えぇぇぇぇぇ（ジュンジュワ～／笑）。
佑哉：あははは。でも、いろいろと物に例えてニュアンスを説明されてたんですけど、それがすごく解りやすいんですよ。
儺俐：そうなんですよ。たとえば、"ファンタオレンジのオレンジが強い感じで！"とか。
悠介：すごく感覚的なことなんですけど、

蝴蝶网
hudie.com

い表現だったりするんですよね。
佑哉：ヴォーカルに関しても同じくで、"もう充分いいテイク録れてるから、冥土の土産に、これでもか！ってのをもう一発録っとこ"って言われて録った最後のテイクを使っているんです。さすがだなと思いましたね。もうちゃんとしたテイクが録れているんだっていうまったく安心しきった状態で、何も考えずおもいっきり叫んでますからね。やっぱ歌は頭で唄うモノじゃないんだなって思いました。
――なるほどね。ところで、「離号棟」って何？ 何について書かれたモノ？
儺俐：これはまさにヴィジュアルシーンのことを書いた歌詞なんです。ちょっと批判的なことを書いていたりするのですが、それはただの批判ではなく、自分はこのように（自ら持ち込んだ10年前のSHOXXを立てて見せながら）、10年前のSHOXXをいまだに大事に持っているくらいに、とにかくヴィジュアルシーンを愛していますし、もはやオタクに近い感覚がある訳ですが、そんな中、自分もそこに身を置き音楽をやらせて頂いて思うのは、だんだんと個性がなくなってしまっているのではないかというところを悲しく思っているのです。昔のヴィジュアルシーンの方がそれぞれ個性的だった気がして。同じバンドが2つと居なかったですからね。そこが面白かったのに……（↑熱く語ってます）
――まぁたしかに、それを批判と言ってしまうと語弊があるかもしれないけど、実際にそうだからね。流行ものに流されてしまっている傾向は否めないから。
儺俐：そうです、そうなんです！ 決して馬鹿にしてる訳ではなく、ヴィジュアル系オタクだからこそ、そこが残念で。もっと全体が個性を大事にすべきじゃないかってことを書いたんです。タイトルの「離号棟」の意味ですが、そこまで深い意味はないのですが、ヴィジュアルシーンのお客さんって女性が多いじゃないですか。
佑哉：響きによっては"滅亡と"に聞こえるワードにしてあるんです。そこに真意があるというか。

ね、"滅亡と"って。納得。繋がった。一方、カップリングの「ハミングウエイ」はガッツリと唄モノだよね。こっちこそ加藤和彦さんの匂いが強い気がするよ。
ハルイ：この曲をもらったとき最初にイメージしたのは、浜崎あゆみと小林旭だったんです。鍵盤の可愛い音色の打込みの感じが浜崎あゆみ的で、小林旭の雰囲気をギターソロに込めました（笑）。
儺俐：楽曲に関しては、牧歌的なイメージで作りましたね。ニューミュージック的な印象といいますか。
悠介：牧歌的なイメージはすごく伝わってきたので、夏の草原をイメージしながらのんびりとしたドラムを叩きましたね。
儺俐：歌詞に関しては、佑哉くんの自伝を書くつもりで書いたので、詳しい内容の方は、いつか佑哉くんがパーソナルインタビューをさせて頂けるようになったらじっくり語ってもらえたらと思います。
佑哉：っていうか、自伝を人が書くってすごくないですか？ 自伝なのに（笑）。
――たしかに（笑）。そこはちゃんとノンフィクションなの？
佑哉：（ノンフィクション）の部分もありつつ、リーダーの勝手な解釈もありつつで（笑）。
儺俐：批判の歌からかなりピースな内容になっています。大まかに説明すると、"生きていればいいことあるさ"っていう前向きな内容なんです。
佑哉：こっちは優しく唄いましたね。
――すごく声がいい。唄モノってすごく地声の個性が露になるからね。改めて佑哉くんの声の良さを実感したよ。
佑哉：ありがとうございます。何曲かある唄モノの中でもすごく優しい1曲でもあると思います。下地に80年代90年代初頭のニュー・ウェイヴの匂いもするので心地よく聴いてもらえると思います。あ、そして余談ですが、さっきヴィジュアル的に色っぽさが足りないって言われたので、脇ら辺からフェロモンを出していこうと思いますので、まずはぜひ、今作を手にとって聴いて頂ければと思います。
一同：次回はアルバムのインタビューでお会いしたいと思います（笑）。

（問）http://videoglamour.jp/

zazhimi.com

LLING ME

年6月18日。高田馬場
Aのステージに突如と
現れ、圧倒的なライヴパ
ーマンスとその実力を見
けたMEJIBRAY。絶対
存在感を放つヴォーカ
と、メタル仕込みの熱い
ーをぶちかますMiAと
妖艶なヴィジュアルと
を放ちながらも最高の
ーヴでMEJIBRAYの
を守るベースの恋一と、
一切発しないドラムの
ら届いた1stマキシシ
ル「KILLING ME」。そ
秘話に迫ってみよう。

:NAOKO TAKEICHI

MEJIBRAY

hudie.com

杂志迷
zazhimi.com

――今回は8月24日リリースの1stマキシシングル「KILLING ME」について聞いていきたいと思います。表題曲の「KILLING ME」はタイトルの印象とは対照的にサビで一気に開けるヘヴィロックだよね。

綴：そうですね。タイトルがサビの肝になっている曲でもあって、そこは耳に残るキャッチーな部分でもあると思います。

MiA：〝殺してくれ〟っていうワードをあんなに開けたサビに乗せてるのはすごく斬新だと思います。そこを何度も繰り返すところのキャッチーさも絶妙だと思うんです。

綴：好きなんですよ、ああいう開け具合。そこまではとことんヘヴィに攻めて、一気に世界観が変わるっていう。そこにハマる言葉の響きとしても、僕の描く世界に合っていたんです。

――たしかにハマりはすごくいいよね。「KILLING ME」って。でも、実はそこには最初驚いたんだよね。2曲目の「剥落」はかなり重めのドロドロとした世界観だけど、その印象に近い曲かと勝手に想像したから。

綴：タイトルのイメージからはそういう曲を想像しますよね。「剥落」はチューニングも低くしてある独特の世界観でもありますからね。そこことは違った攻撃性のある1曲になってます。

MiA：ギターに関しては、とにかく速く激しく誰に真似出来ないようなプレイを目指しましたね。とにかくパンチのあるギターにしたかったんです。

一風：かなり弾きまくったもんね（笑）。「KILLING ME」っていうタイトルが乗ったときには、〝ギタッ！〟と思いましたからね。

――リズム隊的には？

メト：……………。

恋一：ギター隊から、ドラムもとにかく派手にしてっていうリクエストがあったので、派手に叩いたって言ってます。リズムに関しては、メロディを重視するモノにしたかったので、あまり凝ったことをしないで、メロが引き立つように考えてシンプルに作ったリズムでしたね。

――たしかに、リズム隊的には、派手やかだけど複雑じゃないストレートさが魅力があるよね。

綴：何曲かあるMEJIBRAYの曲の中でも、この曲は1番MEJIBRAYらしいと言える曲になりましたね。

――なるほど。綴くんの歌詞は、その時の素直な感情を吐き出してるモノだって言ってたけど、〝KILLING ME〟って……。

綴：まさに（笑）、〝殺してくれ！〟っていう心情だったんです。その感情を僕なりに吐き出したって感じの歌詞ですね。

――そして「剥落」。個人的にこの曲かなり好き。イントロのド頭のツインは、2人の個性が充分に伝わってくる奥深さを感じたからね。あのオープニング感最高。

一風：ありがとうございます（笑）。そこまで褒めてもらえると嬉しいです！

MiA：かなりマニアックですね（笑）。

一風：でも、あの引きずるような重いギターのリフから出来上がっていった曲だったんです。で、MiAとハモってみたらめちゃめちゃ気持ちよかったんです。

MiA：最高でしたよね！ もぉ～ワクワクが止まりませんでしたから！

――あははは。メタル小僧め（笑）。でも、そこに加わってくるツーバスも最高。メトちゃん、そうそれ！ みたいな。

メト：……………。

恋一：メト的には足より手が派手なドラムの方が好きだそうで、最初はそこまで踏んでなかったらしいんですけど、ギター隊からのリクエストでたくさん踏んだらしいです。リクエスト以上にたくさん踏んだらしいですよ。サービスしたって言ってます（笑）。

――恋一くん、いつも通訳ありがとう（笑）。ベース的には？

恋一：そんなに凝ったことはしてないんですけど、耳をこらして聞いてもらうと、随所で細かいことやってるんで、そこを

一風

蝴蝶网 hudie.com

聴いてもらえたら嬉しいなと思いますね。

——そうそう。その細かいこだわりのフレーズがまたカッコイイからね、そこはじっくりと聴いてほしいとこだよね。歌に関しては、語りもかなり印象的で。

緞：そうですね。もう感情のままです。ライヴでこの曲をやるときは違う世界が見えるんですよ。

一風：簡単に言うとキチガってます（狂っている）。

緞：完全にサウンドに入り込んでしまって、自分の感情が曲に溶け込んじゃうんです。なので、音源ではサウンドが荒れ狂ってて、自分はかなり平常心で歌っているんですけど、ライヴでは真逆だったりするんです。その違いもぜひ見てほしいですね。歌詩を書き始めたのが震災直後だったこともあって、買いだめや買い占めのニュースを見て、（東京は焦らなくても大丈夫なのに）人間ってなんて汚くて愚かなんだろうって思ったことがあったんです。でも、買いだめされて物が無くなっていたから自分は買わなかっただけで、もしかしてそこに物があったら自分も買いだめしていたのかな？　とか考えたら、所詮自分も人間で汚い生き物なんだって思ったりもして。こういう危機が目の前に迫ったときこそ、人間の本性って露になるなっていう意味で、理性が剥がれ落ちる様を意味して「剥落」というタイトルを付けたんです。

——なるほどね。こういう語り的な曲も

MiA

売のシングル「カルマ－瓦礫のマンティコーラース－」の1曲目のタイトル曲「カルマ－瓦礫のマンティコーラース－」がそうですね。こういう曲もバンドの個性だと思ってます。

——3曲目の「APOCALYPSE」は曲の長さが2分ないデス系の楽曲ですが。

恋一：この曲はレコーディングも1本勝負的な感じで挑みました。とにかくこの曲からは俺たちの勢いを感じてもらえたら嬉しいですね。

メト：……………………。

恋一：テンポを聴いた段階で泣きそうになったって言ってます（笑）。たしかに、この曲ものすごく速いですからね。250くらいなんじゃないかな（笑）。

メト：……………………。

恋一：レコーディングのときは死ぬかと思ったけど、今ではすっかり体に馴染んだらしく、ライヴでは1番気持ちよく叩けているそうですよ（笑）。サビとか特に気持ちいいみたいです。

——なるほど。ライヴで壊れるメトちゃんを見てみたいね。そして、ギターのこだわりどころは？

MiA：とにかくギターはゴリゴリにしたかったんで、音にこだわってゴリゴリ感をおもいっきり出してみたんです。ベッタリした質感の音が欲しかったんで、音色には特にこだわりましたね。

一風：こういう激しい曲こそ、怪しいアルペジオが乗ってたらカッコイイよなと思って頑張りました。ちょっと不協和音的なところがこの曲の魅力でもあると思います。

——歌自体も楽器的な見せ方だよね。完全にデス声で。

緞：そうですね。歌に関してもこの曲は勢いですね。この歌詩は、「剥落」の中で書いていた自分の中の感情が一旦落ちついたときに、更にそこにもう一度自分の気持ちを戻してみたんです。「剥落」を書いたときは、とにかく腹立たしくて仕方なかったので、眼に映るものすべてが汚く見えてしまっていた。少し自分の気持ちを落ちつかせてからもう一度そこに立ち返って歌詩にしてみたんです。

メト

杂志迷 zazhimi.com

恋一

——「剥落」は問いかけ的な歌詩でもあったけど、「APOCALYPSE」は単語の羅列が多かったりもするから、そこから意味を吸い上げるのは少し難しいよね。

緞：確かに。この歌詩は説明がないと理解しがたいかもしれないですね。実は、この歌詩は、自分を悪魔に置き換えた状態で書いているんです。真意は哀しい歌詩なんです。

MIA：今回のシングルも3曲まったく違ったMEJIBRAYを感じてもらえると思うので、ぜひ聴いてもらえたら嬉しいです！

——今度の予定は？

緞：9月11日に池袋BlackHoleでワンマンライヴ『Scene-1 Armageddon-No mouth Slivers-』を予定してますので、ぜひ見に来てほしいなと思います。

恋一：10月末から3周連続で、2回の3マンと1回の2マンを予定していたりもするので、この先も是非、よろしくお願いします。とにかく、カッコイイと思えることを全力でやっていきたいと思いますので。

MIA：高田馬場AREAでの初ライヴの反響も、前回初登場でSHOXXさんに出していただいた反響もあったんです。最近あんまりこういうバンドいなかったから嬉しいって言う声が多くて嬉しいです。これからも頑張っていきたなと思っていますので、よろしくお願いします。

（問）WHITE SIDE GROUP　〒160-0023東京都新宿区西新宿8-5-2　フィヨーレ西新宿102　http://www.mejibray.com/　info@mejibray.com

SHOXX VOICE!!

NightingeiL

綺麗な言葉ですが、変態具合は尋常ではないです。

作品を出すごとに良い曲が出来上がっていると満足げに語る、ギターのカイエ。その言葉どおり、NightingeiLの新作「Dark Word」（8月24日リリース）は実に刺激的な作品に仕上がった。今回のインタビュー

Interview:ERI MIZUTANI

——今回、制作の際に最もこだわった点というと?

紺：音の分厚さですね。それにより、今まで以上に攻撃的に聴こえるのではないかなと思います。

——「Dark Word」では、それが顕著に出ています。この曲、攻撃的でありながら聴きやすさもあるのですが、そこは最初から意識したことなのでしょうか?

カイエ：気のせいじゃないですか（笑）。

紺：多分、聴きやすかったっていうのはヴォーカル面が大きいんじゃないですかね。どちらかというとJ-POP寄りというか。オケに対しての歌のレベルを上げているので、単純に聴きやすくなったと思うんですよ。

——それゆえ、新たな一歩を踏み出したように感じられました。

カイエ：でも、ポンと浮かんだものをそのまま出しただけなんですけどね。

紺：そういうカイエの発想に慣れているっていうのもあるんですけど（笑）、イメージは自分の中でもすぐに沸きました。歌詞を書いていくとき、曲の持つサビの疾走感っていうのは崩したくなかったんです。だから、サビのワードアプローチはわかりやすい言葉を並べ、他のセクションで曲の核心に迫るみたいな。

——タイトルから想像するに、もっとサビとかドロドロした歌詞が乗るものだと思っていたので驚きましたよ。

紺：やっぱり、裏切りは大事です（笑）。綺麗な言葉ですが、変態具合は尋常ではないです（笑）。

——意外性があって良かったです。

ハクヤ：俺、この曲好きですね。ノリでいけるっていうのもあるんですけど、やっぱり疾走感が良くて。

ムクイ：そんな疾走感の中にもどっしりとした部分があり、全体を通して緩急が付いているところが聴きどころだと思うんです。ただ速いっていうだけじゃないのが、良いところですね。

——また、「EVENT」ではガラリと雰囲気を変えて。

紺：これは、誰しもが気持ちいいと思えるリズムなんじゃないですか。

——疾走感が目立つ「Dark Word」から、この曲に続くというのが面白くて。

ハクヤ：最初は、イントロに出てくるフレーズをずっと持ってこようと思ったん

ムクイ：俺は難しいことは何もしてないんですよね。低音をしっかり支えました。ただ、ああいったリズムの曲は他にもあると思うので、そこでどうやってNightingeiLっぽさが出るかっていうのを意識して弾いていきました。

カイエ：その際、俺からは特にアドバイスは出さず。けっこう投げっ放しでしたね（笑）。

——ご自身の録りに関してはいかがでしょう。歌詞の世界観などは意識されたのでしょうか?

カイエ：そこは意識してないですね。これは毎回のことなんですけど、なぜか不思議と感覚が寄るんですよ。だから、そこまで歌詞の世界観は気にせず、自分の音を作り上げていきました。最終的にはうまいことNightingeiLらしさが出たと思いますね。

紺：あとは、タイトルの意味を理解して聴いてもらえたら嬉しいかな。この物語の主人公にとっては人生最後の一大イベントなので。

——ラストの「こくはく」も、意外性がありました。

紺：以前、会場と通販限定で「自白」というCDを出したんですけど、その中に入っている「告白」のアレンジ違いとなっています。

カイエ：この曲に関しては、詳しく語るよりも聴いてもらうのがいちばんだと思います。

——さて、今後は6ヶ月連続ワンマンライヴが控えておりますが、こちらは一体、どのような感じで展開されていくのでしょう?

カイエ：6ヶ月、全て異なるコンセプトを用意してやっていきます。既に第1回目は終わり、なかなか面白いことができたと思っています。

——ちなみに、どのような趣向でライヴを行ったのか教えていただけます?

紺：攻撃的な刺激がコンセプトでもあったので、メンバー全員軍服を着てライヴをやりました。そうやって視覚的にこだわることで、アグレッシブなステージングが見せられたんじゃないかなと。

カイエ：初っ端から攻めの姿勢で挑むことができたので、今後もその勢いを保ちながらライヴを展開していきたいですね。毎回違った色を出しているので、どの月

zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

SHOXX LIVE!!

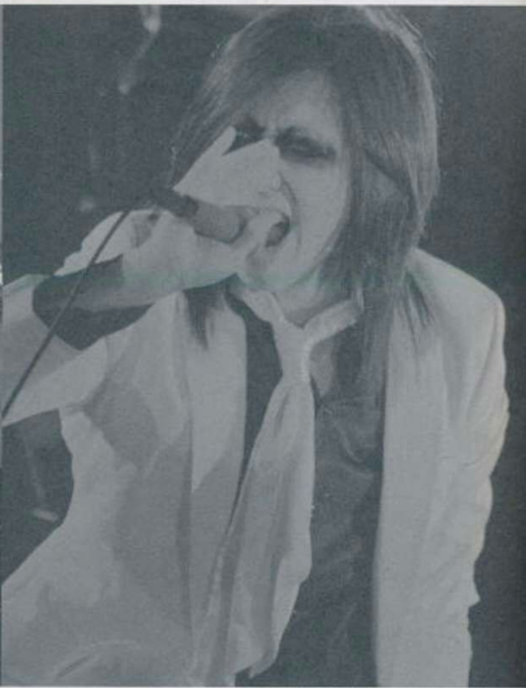
5月に発売したミニ・アルバム『ア・カペラ』を手に、6月よりスタートした全国ツアー『message from the blindman』。そのツアー・ファイナル「a cappella」の会場となったのが、7月16日・高田馬場AREA。アヲイらしい、轟圧な音のウネリに終始絶頂を抱き続けていたこの日の模様を、臨場感満載でお伝えしよう。また、10月22日にはOSAKA MUSEで7周年記念ワンマン『crows after growing』が決定している。入場者全員に『プレミアム LIVE DVD』が配布されるそうなので、こちらもチェックしてほしい。

アヲイ

『message from the blindman』TOUR FINAL「a cappe

2011.7.16 高田馬場ARE

Report:TOMONORI NAGASA
Potography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHO



ちとが刺激のやり取りを交わす場。お互いに感情を剥き出しにしながら対峙をしあうことで生まれる一体感をどれだけ描き出せるかで、その日のライヴの良し悪しが決まっていく。昨今のぬるいMCや、なんとなく煽れば格好がつく暴れたいだけのライヴに辟易していた身にとって、この日のアヲイのステージングは、一切MCを入れることなく、剥き出しな感情（楽曲）の剛速球を次々投げ込む彼らの意気込みを、無我夢中の笑顔で受け止められるものだった。

オトギの叫び声を合図に、放熱する轟音と化した楽曲を全身全霊を込めて投げ込み始めたアヲイのメンバーたち。冒頭を飾った「鈴虫」の演奏が、場内中へ一気に広がり出すと同時に、観客たちも一斉に大きく身体揺さぶりながらメンバーたちへ想いをぶつけ出した。よく言われる“冒頭からクライマックス状態”という熱狂と興奮の絵図は、2時間に渡ったステージ中ずっと続いていた。

「blind」「メランコリィ」「水鏡」と、鋼のリフ/ビートを激烈に刻みながら、興奮/高揚のスイッチを連打し続けいく、轟音のラプソディーを叩きつけてきた序盤戦。

「明日」「絶世、闇の中で」「beaty」「サイレン」と、奈落の底へと導きながら、闇から光を求め叫ぶ嘆きの感情を、カオスな音の洪水の中へ映し出した2ndブロック。

気と嘆きのシンフォニアと言いたくなる激烈な煽り演奏と、ともに口ずさみたくなる刹那のメロディーを兼ね備えた楽曲たちを次々と演奏。体感的な興奮を与えながらも、しっかり胸に歌を響かせていくスタイルこそ、アヲイの音楽スタイルの真骨頂だ。

本編最終ブロックとなった「abelcain」「哀しい歌」「darling」「声」「コトダマ」では、これまでに描き出した流れを総括していくように、闇の底で嘆いていた感情が希望という光に向け一気に走り出す。最後には心は開放され、歓喜の興奮として昇華。そんな人生の悲喜ともいうべき姿を、彼らは緩急つけた楽曲たちを軸に、一つの物語を轟音の連なりの中へと語るように描き出していった。いや、アヲイの場合、アンコールで演奏した「ララバイ」「モノクロ」「sunnyday」という歓喜の歌物作の連打までを含め、すべての楽曲たちを、“闇から光へ、”“嘆きから希望へ、”という壮大な1つの物語として組曲的に描き出していたと言ったほうが正しいだろう。最後の最後に演奏した「ラストレター」が、それまでに描き続けてきた物語を総括する想いだったかのように。

“届いたか～！　生きていけるか～！”。アヲイが導き出した〈嘆きとカオスのシンフォニー〉は、忘れ得ぬ嬉しい痛みを記しながら、拭い取れない興奮と高揚をしっかり胸に刻んでくれた。

<セットリスト>

1. 鈴虫
2. blind
3. メランコリィ
4. 水鏡
5. 明日
6. 絶世、闇の中で
7. beauty
8. サイレン
9. jellyfish
10. カルト
11. bedroom
12. ここで閉ざして
13. abelcain
14. 哀しい歌
15. darling
16. 声
17. コトダマ

-ENCORE-

18. ララバイ
19. モノクロ
20. sunnyday
21. ラストレター

杂志迷 zazhimi.com

前、活動休止を発表した渋谷O-WESTに、NEGAとして彼らは帰った。その間にはPERESTROIKAの活動があり、その経験を踏まえ、した上で迎えた6周年である。7年目となるこれからは、この1年を返すべく、怒濤の活動が控えている。NEGAとなって、いったい何が変わったのか。本当の姿を見せるのはこれからである。

NEGA

蝴蝶网 hudie.com

融合と再生

「PEREUNION～再会の夜～」

2011.7.26 SHIBUYA O-WEST

Report:MIYUKI MURAYAMA

SHOXX LIVE!!

1.壁
2.idle
3.muddy cult
4.FABLE IN THE COLD BED
5.VORTICAL[E]MOTION
6.HEART
7.NIGHTMARE
8.Piano Solo
9.魂泪は紅い血に
10.reminiscence
11.Nameless alice
12.HATE HATE HATE
13.Another Eyes of reminiscence
14.in hole
15.DIS.
-ENCORE 1-
16.NEGATIVISION
17.MINDLESS
18.WEIGHT OF THE LIFE
-ENCORE 2-
19.LOVER
20.17歳の孤独
21.壁

のっけからまるでライヴの終盤戦のような熱さを見せたこの夜。一年ぶりとなったライヴだけに、オーディエンスはいっきに加速し、メンバーと真剣勝負を繰り広げ始めた。続々と攻撃的な曲が続くと、「FABLE IN THE COLD BED」では儿が積極的にあおり、さらにオーディエンスに火をつけていく。儿はｖｏｍｍｉｔｔｅｒに相応しく、吐き出すように声をあげ、「HEART」ではまるで祈るような叫びをとどろかせた。

勢いに押されているうちに、ライヴは中盤戦へさしかかる。「NIGHTMARE」では、歌詞とリンクしたシュールな映像が次々と映し出されると、その世界観を表した。一転して、怪しげな空気感を味あわせると、そのままピアノソロへ。静寂の中、優が一心にピアノを奏で、重々しい響きが会場中に響き渡る。続いてピアノだけで、「魂泪は紅い血に」をじっくりと聴かせると、それまでの喧噪と興奮がまるで嘘だったかのように、オーディエンスは静まり返り、集中してその音に、歌に耳を傾けていた。

アカペラから始まって、バンドのサウンドが加わり、静から動へと鮮やかに変化をつけた「reminiscence」。そこへ楽器陣3人によるセッションが始まると、会後半戦への準備は整った。

躍動感いっぱいの「nameless alice」から、「HATE HATE HATE」へと続けば、再び熱気に包まれるフロア。儿はオーディエンスの間へ突っ込んでいくように、身を投げ出す。そのままの勢いで、儿は叫び続け、それに応えるようにオーディエンスはひたすら叫び返し、会場中に叫びが充満する。それはそこにいるのがいたたまれなくなるような、痛々しい空気感だった。

ダブルアンコールでは、本編では見られなかった明るい、暖かい光景も見せたかと思うと、最後は「壁」で、明日を生きるために心の中の壁を壊そうと、再び会場全員で声をあげる。ネガティブな感情から前向きな力を生み出し、全力で生きる姿を、オーディエンスの目に映し出してみせた。

全ての演奏を終えると、ヨーロッパツアーやシングルのリリース、さらには来年のアルバムリリースと、ここから立て続けの活動予定が発表された。NEGAとして新たなスタートを切った彼らが、これから生み出していく音楽に期待したい。楽曲に込められた感情の激しさをあますことなく吐き出した叫びに、心の底からの何かを込めて聴き手に伝えること

SHOXX INFO!!

Administrator

1st ALBUM『CROSS』リリース&WINTER CIRCUIT

先月もこのコーナーでご紹介させていただいた、Administratorの1st ALBUM『CROSS』が、遂に完成した。シングル曲『shining！』・『Promise』の他、新曲10曲が収録されている。そして、初回生産限定盤（CD＋DVD）には、『trust』のCLIPとメイキング、2011年5月6日高田馬場AREAライヴ・ダイジェストを収録。通常盤（CD）には、「Heart is...」・「声色」・「Ace」（いずれも2011年5月6日高田馬場AREAライヴ音源）が収録される。現時点でのベスト盤とも言える今作。Administratorの魅力がギュっと詰まった一枚に仕上がっている。

●1st ALBUM『CROSS』2011年10月5日リリース
・初回生産限定盤　CD：12曲入り＋DVD　CLIP他　¥3,800円（Tax in）
・通常盤　CD：15曲入り　¥3,150円（Tax in）

●Administrator　WINTER CIRCUIT 2011
・11/25（金）名古屋 ell.FITS ALL
OPEN 17:00 / START 17:30
（問）enter brain：☎052-760-2477
・11/26（土）心斎橋 CLUB DROP
OPEN 16:00 / START 16:30　（問）心斎橋CLUB DROP：☎06-6213-9101
・12/10（土）　原宿 ASTRO HALL　※ONEMAN
OPEN 16:00 / START 16:30
（問）SOGO TOKYO：☎03-3405-9999

チケット一般発売：2011年10月8日（土）
チケット料金：全立見¥3.500（税込・ドリンク代別）

Official Website：http://administrator-web.com
Official MySpace：http://www.myspace.com/admofficial

baroque

7年ぶりの復活ライヴに1万人が熱狂！

2001年の結成から2年3ヶ月という速さで日本武道館公演を成功させながら、人気絶頂の2004年末に解散したbaroque。その後らが約7年の時を経て、7月17日・横浜赤レンガ倉庫特設ステージにて復活ライヴを敢行した。

オフィシャル・サイト上に、今回の復活ライヴが完全無料であることが6月9日に告知されるやいなや、ファンのみならずとも大変な話題となっていた。当然、当日も入場整理券を求めるファンが長蛇の列を成し、午後5時の開演時にもなると、整理券不要のフリーエリアを含めて、集まったオーディエンスは約1万人!!　人で埋め尽くされた観覧エリアを見渡し満足げな表情を見せるメンバーも、ヒット曲・代表曲を押さえたメニューで応えていく。

アンコール含めて全14曲を演奏した後、怜（Vo）からは『また、こうやって集まれたらいいね』との言葉が。今後の具体的なスケジュールに関しては、現時点では発表されていないが、今後の動向にも注目していきたい。

（写真＝河井彩美）

元Kagrra、の一志さんが、7月18日に永眠されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

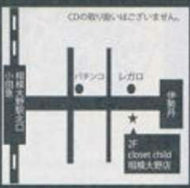
SHOXX編集部

TAIJI（沢田泰司）さんが、7月17日に永眠されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

SHOXX編集部

SHOXX主催の定期ライヴイベント『SHOCK WAVE アポロ』の姉妹イベントが
SHOXX presents
SHOCK WAVE マーキュリ
Vo
開催決定!!
2011年9月29日（木）
HOLIDAY SHINJUKU
チケット：前売2,500円/当日3,000円（共にドリンク代別途）
開場17:30/開演18:00
新進気鋭のアーティストから、今注目を集めるあのアーティストまでが続々登場!!
注目の豪華強力ラインナップはWEB、携帯サイトでチェック!!
【チケット発売】
9月3日（土）より、チケットぴあ、ローソンチケット、HOLIDAY店頭にて発売
※入場順はチケットぴあ→ローソンチケット→店頭となります
【お問い合わせ】HOLIDAY SHINJUKU：03-5292-0591
音楽専科社WEB SITE
http://www.ongakusenkasha.co.jp
音楽専科社公式ケータイサイト「音楽せ
http://mobile.ongakusenka.com

新宿店	原宿店	池袋店	横浜店 移転しました	相模大野店
				
◆closet child 新宿店 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12 YSビル1F (TEL 03-3365-6316) < OPEN :11:00~20:00 >	◆closet child 原宿店 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-7-6 COXY176ビル101 (TEL 03-3403-4108) < OPEN :11:00~20:00 >	◆closet child 池袋店 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-5 七福久ビル5F (TEL 03-3983-5322) < OPEN :12:00~21:00 >	◆closet child 横浜店 〒220-0005 神奈川県横浜市西区南幸2-8-9 ブライト横浜7F < OPEN :12:00~21:00 >	◆closet child 相模大野店 〒228-0803 神奈川県相模原市南区相模大野3-15NKビル2F (TEL 0427-47-1840) < OPEN :12:00~21:00 >

…ュアル系 貴重盤CD
…ーティストグッズ
…ロリータブランド古着
…ゼットチャイルド

…の影響により休業中であった横浜CDショップが再オープン!!

CD/お洋服/ヴィヴィアンウエストウッド/ファッションドールの総合ショップとしてリニューアルオープンいたします!!
リニューアルオープン記念としてお洋服の新着＆良品放出、ヴィヴィアンウエストウッドの新着300点放出を行います!!
更にサマーバーゲン第2弾としてセール品大量補充＆再値下げを同時開催!!

…買大強化中 …取

closet child

期間限定買取査定額大幅アップ 9.1-9.30
キャンペーン 20%UP 対象アーティストのアイテムは査定額20%UP

蝴蝶网 hdyw.com

R指定 アヲイ vistlip ViViD Versailles 己龍 ケミカルピクチャーズ
ゴールデンボンバー 人格ラヂオ BugLug BORN lynch. Royz

…超高価買取中!!

…ギルガメッシュ-/(DVD-R)SPECIAL DVD/3,000円 買取
…R 2010 "TOKYO MUZICAL HOTEL" 【初回限定DELUXE EDITION】2DVD/3,600円 買取
…き群生/ 2,000円 買取
…（通常盤）CD /1,800円 買取

…
…円

ViViD
Take-off
CD
4200円

更に詳しい買取表はウェブで!!

●新興宗教楽団NoGoD/現実［完全限定プレス盤］CD+DVD/1,600円 買取
●BugLug/SUPER NOVA 初回盤 CD+DVD/1,440円 買取
●lynch./greedy dead souls/3,600円 買取

己龍
明鏡止水［初回限定盤］［初回限定盤］
CD+DVD
2400円

ゴールデンボンバー
愛は地球を薬喰う
DVD
7200円

DIR EN GREY
DUM SPIRO SPERO[通常盤]
(2011/8/3発売) 2DVD
1500円

Plastic Tree
ammonite［初回限定盤］
CD+DVD
1600円

摩天楼オペラ
INDIES BEST COLLECTION
CD+DVD
1500円

ツアーグッズ・ファンクラブグッズ
物販写真・ツアーTシャツ
コラボアクセサリー・写真集等

アーティスト グッズ 買取大強化中!!

ガゼット・シド
PlasticTree
ナイトメア・DIR EN GREY
Gackt・雅等大歓迎!!

…包材全て無料! ご不要なCD/DVD/アーティストグッズ/お洋服等お買取させていただきます。 **梱包用段ボールお届け致します!!買取/対象ブランドの詳細はWEBで!!**

STEP2 STEP3 STEP4 STEP5

…品を梱包　佐川急便にて着払いで発送　到着後、約５日で査定完了　査定結果のご連絡　振込にてお支払い

買取対象ブランドは下記HPをご覧下さい。
遠方/数量の多いお客様には宅配での買取をお勧めしております。段ボール等に梱包し、
必要事項（氏名・住所・電話番号、メールアドレス・生年月日・銀行名
支店名・口座番号・口座名義人名（フリガナ・雑誌名）を記入した用紙と身分証のコピーを同封し、
下記住所までご発送下さい。
※宅配買取システムの詳細は弊社ＨＰを必ず参照下さい。

※必ず佐川急便をご利用下さい。送料無料!!

宅配買取受付窓口
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12 YSビル1Ｆ TEL:03-3365-6316

…買取一覧表はHPでご確認いただけます!! 毎月２万点以上のヴィジュアル系の商品買取実績!!

…オンラインショップ

総アイテム8000点以上日本一の取り扱い量!
クローゼットチャイルドのCD/レア盤/グッズ等が携帯電話&PC&スマートフォンにて
購入いただけます!!
http://www.closetchild-cd.jp/

ゴシックロリータブランド古着オンラインショップ

h.NAOTO / Moi-meme-Moitie / alice auaa / BPN / ALGONQUINS / Angelic Pretty
BABY,THE STARS SHINE BRIGHT / Emily Temple cute / MILK
人気ゴシック・ロリータブランドのユーズドオンラインショップ!!
入手困難な予約完売品/今期物
定番物までを随時800アイテム取り揃えたゴスロリ専門オンラインショップ!!
http://closetchild.ocnk.net

…古着オンラインショップ

FUGA BUFFALO BOBS JACKROSE Roen TORNADO MART VANQUISH Xfrm Diavlo
毎週約200点出品!! お兄系/109-2系ブランド古着専門オンラインショップ!!
http://m-closetchild.ocnk.net

Vivienne Westwood 専門オンラインショップ

80年代の貴重なヴィンテージアイテム～入手困難なオープライター等のレア物
人気のアクセサリー等の定番アイテムのリーズナブルなユーズドアイテム、
更に市場価格より最大7割引きの財布などの新作新品等を随時300点以上出品中!!
http://www.rakuten.co.jp/ainahaina/

蝴蝶网
hudie.com

EXPECT RUSH

エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

FUTURISM・BOYZ

Royz

FUTURISM・BOYZ(フューチャリズム・ボーイズ)

【メンバー】CO-(Vo)/ユキヒロ(Gt)/BB(Ba)/俊(Dr & Prog.)
【結成日】2011年8月1日
【主な活動場所】大阪・東京
【アイテム】2011年9月28日Mini Album『New period』
【問い合わせ】株式会社UNDER CODE PRODUCTION
〒553-0005 大阪市福島区野田2-7-2中村ビル3F
http://www.under-code.jp

杂志迷
zazhimi.com

Royz(ロイズ)

【メンバー】昴(Vo)/杙凪(Gt)/和樹(Gt)/公大(Ba)/智也(Dr)
【結成日】2009年9月28日
【主な活動場所】大阪・東京
【アイテム】2010年4月29日1st Double A Side Single「春ノ夜ノ夢-恋花火」
2010年10月6日2nd Maxi Single「AREA」
2011年4月9日3rd Maxi Single「eve:r」/2011年8月17日4th Maxi Single「c
【お問い合わせ】〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町4-5-1F
株式会社ビーフォレスト
http://royz.pya.jp/

EXPECT RUSH
エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

FUTURISM・BOYZ

未来へ向かう人たちへのメッセージ

次々に新たなバンドが生まれる中でも、他とはちょっと異なるヴィジュアル、サウンド、そして魂を持った新人バンド、FUTURISM・BOYZが本誌初登場。9月28日に初音源となるミニアルバム『New period』をKISAKIプロデュースのもとリリース。10、11月には東名阪で主催イベントツアーが控えている。「世界一音を楽しむバンド」としての本領は、ぜひそのライヴで直接目にしてほしい。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

——FUTURISM・BOYZとして出したいサウンドは、ミクスチャーがポイントになってるんですか。

僕：音楽というより、僕らの素直なところを見てほしいんですよね。僕らの持ってるもの、みたいなのを見せたいんです。僕らが素直に音楽を作ったら、お客さんも素直に楽しんでくれるんじゃないかと思うんで。

——意識的にいろんな音楽を取り入れようとは思ってない?

僕：ダンス系の曲とかラップとかR&Bとか、いろいろ入れていこうと思うんですけど、いろいろな音楽が混ざってるというよりは、"FUTURISM・BOYZっぽいな"って一貫して聴いてもらえるようになりたいですね。

ユキヒロ：やっぱりいちばん重要視するのはメロディーラインですね。それとリズム。曲によってノリが違うので、それで曲の高揚感が出るのかと思います。

——全体的に、ロックバンドというより、ヒップホップとかの印象が強いんですけど、ヴィジュアルシーンの中で何か新しいものをやりたいと思ってるんですか。

CO—：それは思いますね。この音楽はFUTURISM・BOYZだっていう、新しい音楽論を建てたいと思ってます。

——バンド名はどういうところから?

僕：ヴィジュアル系って僕的にはカッコいいと思うんですけど、僕らはそういうカッコよさじゃないんです。僕らはカッコつけられないんですよ。素が生粋の関西人ですし。だから、僕らの素直な部分を見てほしくて。僕らが素直に伝えたいことは、ちょうど地震があったりもして再確認したんですけど、みんなで未来を見ていこうっていうことなんです。僕らが素直に頑張っている姿をお客さんに見てもらって、よき未来をみんなで見ていきたくて、FUTUREというのを考えたんです。そこから、今まであったものを一旦忘れて未来に進んでいこうよということで、FUTURISM（未来主義）、もっと俺らっぽくしたくてBOYZをつけました。

——BB君はステージネームも変えたんですよね。気分も変わってます?

BB：全然違いますね。BBはBAD BOYの略なんです。最初は悪ふざけでBBって言ってたんですけど、気に入ってしまったんですね。そういうパンチのある名前に負けてはいけないと思って、そういう意識はめっちゃあります。

——バンド名だけでなく、歌詞でも未来へ向かうメッセージを込めてるんですか。

CO—：未来へ向かう人たちへのメッセージですね。未来へ目指すものがある人へ贈るメッセージ。それを綺麗な言葉で飾らず伝えたいです。歌詞は人間味があふれてますね。

——先ほどから、"素直に"という言葉が何度も出てますが、素をさらけ出すのとは違う?

僕：僕らは音楽が好きなんですよ。ライヴも好きなんですよ。僕らは本当に音楽が楽しくてステージに立ってるんですよ。そういう素を見せたいです。「世界一音を楽しむバンド」にしたいんですけど、僕らの内面から出る楽しさをお客さんに見せて、お客さんも一緒に楽しんでもらいたいんですね。まず僕らが素になって、いろいろなことを伝えていかなあかんかなと思ってます。

——最初の音源となるミニアルバム『New period』は、自分たちがやりたいことを詰め込んだ作品になるんですか。

CO—：やりたいことと、僕たちをわかってもらえるように作りたいですね。

僕：自分らがやりたいことと、お客さんが聴いて楽しめる部分が、どの曲にも詰まってると思うんですよ。

ユキヒロ：6曲全部メロディーは聴きやすくなってますね。いろんな要素が入ってるんですけど、やっぱりヴ[illegible]いちばん上にいるのが基本です[illegible]

——ライヴはどういう雰囲気[illegible]りそうですか。

CO—：ライヴを見て、うわ、す[illegible]てなる[illegible]になりたいんで[illegible]くすっ[illegible]楽しんで[illegible]、それ[illegible]だけで[illegible]いですね。

僕：魂を見せたいです。魂が[illegible]感も見せられるし、音も楽し[illegible]見せられるし[illegible]うもんや[illegible]ですよ。精神[illegible]と思うんですけど。そこを僕らは見せられる自信はあ[illegible]んで、僕らが死[illegible]で音楽をやる[illegible]えたいです。お客さんもそれを[illegible]して私も頑張らなあかんなとか、そういうのを感じてもらえたらめちゃめちゃ嬉しいです。

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Royz

若手急先鋒、期待の5人が初登場

己龍の全国単独巡業「夢幻鳳影
オープニングアクトとして参
たことで、一気に注目を集めた
ド、Royz。メロディーを重視して
るというだけあって、どの曲も
みやすい。8月17日にリリース
たマキシシングル『α』では新境
ともいえる楽曲に挑戦し、幅の広
を見せてくれた。本誌初登場とな
今回は、バンド結成のいきさつか
現在に至るまでを訊いた。

Interview:ERI MIZUTANI

昴(Vo)

――Royzを立ち上げたのは、和稀さんと、智也さんだそうで。

智也：元々、俺ら2人は一緒にバンドをやっていたんですけど、そのバンドが解散してしまい、次どうしようと思ったとき、音楽の趣味がいちばん似ていた者同士でまたやろうかって(笑)。

和稀：とりあえず、良いメロディーのバンドがしたいよねって。

――でも、メロディー重視ともなると、メンバー集めも大変だったのでは?

和稀：どちらかというと、重たいサウンドをメインでやりたいっていう人のほうが多かったですからね。でも、そんな中で見つけた今のメンバーは、最初からやりたいことが一致していたんですよ。

公大：俺が今までやっていたバンドって、激しいサウンドを重視していたんです。だけど、俺としてはメロディーを聴かせるバンドがやりたかったので、和稀が提示してきたバンドコンセプトに惹かれ、自ら連絡を取りました。

和稀：それで、とりあえず3人でスタジオに入ろうってことになったんですけど、俺ときたら、当日寝過ごして行けなかったという。

公大：こっちはベース片手に緊張しながらスタジオに行ったっていうのに。ほんと、騙されたのかと思いました(笑)。

智也：で、俺のところに連絡がきて。なので、最初は2人で会ったんですよ。

――逆に、「何であいつ来ないんだよ!」って話で盛り上がったのでは?

智也：あははは(笑)。それだったら良かったんですけど、お互いに緊張してしまって何も喋れなかったんですよ。いやぁ、あのときは気まずかった。

和稀：そうなの? いやー、ごめんごめん。土下座だね、俺(笑)。そして、その後に声をかけたのが、昴です。

――メロディー重視のバンドなだけに、ヴォーカル選びは慎重にしないといけませんね。

和稀：何はともあれ、きっちりと綺麗に歌ってくれる人が良かったんですよね。

公大：って言ってますけど、うちら、ヴォーカル決めるより先にライヴの日程を決めちゃってたんで、実は相当焦っていたんですよ。

和稀：そうそう。そうでもしないと決められない!って(笑)。

昴：僕、歌うのは好きだったんですけど、それまでまともにバンド活動なんてしたことなかったんです。だから、最初に声をかけられたときはできませんって断ったんですよ。そしたら、公大さんが「絶対にメジャーにつれていくから!」って口説いてきたんですよ(笑)。で、そこまで言われたらってことで会うことになり、自分の歌声を披露しました。

――そこで、大喝采と!

昴：ところが、みんなシーンとなってしまい。あれだけ熱心に誘ってきた公大さんまでもが「誰か褒めてあげてよ……」という始末。その瞬間、終わったと思いましたね。ところが、次に会ったときに新しい曲を渡されて「レコーディングは2週間後だからね」って。

――ええ~(笑)?

昴：自分でも驚きました(笑)。で、その後、何とかライヴもこなし、杙凪が加入するんですけど、これが不思議な縁で。彼と会ったのはライヴのときなんです。楽屋の入り口でたまたま目が合ったっていうのが始まりでした。

杙凪：そのとき、このバンドは売れるって思って加入を決めました。

――漫画のような展開です(笑)。

杙凪：自分のバンドの解散が決っていたっていうのもあるんですけど、何か惹かれるものがあったんですよね。(笑)。それで、智也とセッションする機会があったときに「ギター入れる気とかないんですか?」って聞いて。

智也：前から5人編成にしたいっていう気持ちはあったので、そう言ってもらえて嬉しかったですね。

昴：彼が加入したことで刺激を受けた部分もあるし、ここから本当の意味でバンドがスタートした感じがします。

――メロディーを大事にするというバンドコンセプトは、最新作『α』でもしっかりと提示されていますね。

昴：ありがとうございます。あとは、今までの壁を打ち破るような作品にしたいという気持ちもあったので、表題曲の『α』は新境地とも言える曲に仕上げてみました。今回、3タイプでリリースされるので、ぜひ多くの人に聴いてもらいたいですね。

和稀(Gt)

杙凪(Gt)

智也(Dr)

公大(Ba)

杂志迷
zazhimi.com

一筆入魂 ザ・ミッション!!

最近良くも悪くも政府・政治が話題になりますね。日本の将来は大丈夫なのでしょうか。
そこで社会派SHOXX編集部(え!?)は考えました。
『新内閣発足！ 大臣3人で組閣せよ!』と。あ、でも政治、全然関係ないんですけどね(え!?)。
れで日本が安泰になるなんてことは絶対になく、透けて見えてくるのはアーティストのみなさんの人間関係とアタマの中。
だがしかし、本誌的にはこれがいいのです！

イジメ大好き大臣：ちょろ...
タトゥー大臣：葉月さん

…ギルガメッシュ)

下ネタ大臣 左迅
勤違い筋トレ大臣 弐
バカ大臣 SATOち

左迅（ギルガメッシュ）

適当大臣：まぉや
ピアス大臣：極
頑固大臣：麗
あいじ

Aiji（LM.C）

「長野大好き大臣」
「自分大好き大臣」
「宇宙大好大臣」
全部、オレ。

maya（LM.C）

…レーンア応援大臣。
…風弥(DaizyStripper)
…懐かしいポップコーンを作ってみたい大臣。
…れる(ダウト)
…なりのトトロの猫バス…
…ユウ(KレミⅢ)

…DaizyStripper)

・思い煩して世話焼き大臣
Shun 兄さま(Dual Seven)
・フフフ大臣
手翔殿(umber girl)
・ぼんやり大臣
TOMO(FEST VAINQUEUR)
ひらがなはまゆ…

まゆ（DaizyStripper）

(ゆうぎりめ)
ポジティ部大臣
幸樹さん(ダウト)
優男大臣
HIRO君(ex. Wizard)
KISS魔大臣
なおちゃん(…)

夕霧（DaizyStripper）

ねぼう大臣 ミヤさん
カスタネットでオオス大臣 …
・木戸大臣 トシ(…)

Яyo（ギルガメッシュ）

酒豪大臣：葉月さん
関西大臣：KISAKIさん
色大臣：Seekさん

愁（ギルガメッシュ）

…ラーゲン大臣
…[NEU] ヒィロ♡
…リスマ大臣
…op Ash社長
…ミチルさん♡
…バカ大臣
…龍 九条さん♡

…遊（ν [NEU]）

ギターロック大臣
夢時さん(Lc5)
ピンク界No.1大臣
華遊乎さん(…)
熱き永遠の少年大臣
夕兆さん(…)

タクミ（ν [NEU]）

おぱ大臣 未散さん
目玉大臣
愛狂います。えみるくん
アルコール大臣
ν[NEU] Яel

みつ（ν [NEU]）

・薔薇撒き大臣
KAMIJYO大臣
(Versailles)
・海賊船船長大臣
ムーちゃ・グラシアス大臣
(Aucy)
・スマイル担当副大臣
Yusuke 副大臣
(HERO)

風弥（DaizyStripper）

天然きょう大臣
・Rei長男
(DaizyStripper)
・ハク次男
(ユナイト)
・瑠伊三男
(vistlip)

Rei（DaizyStripper）

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

無茶苦茶大臣…尽
おバカ大臣…ゆうた
てきとー姫…ゆうすけ

SARSHI (HERO)

考えるのダルイ
(ﾟ∀ﾟ)chu☆!!

JIN (HERO)

大食い大臣
未散 大臣
適当大臣
タクミ大臣
歌下手大臣
ヒィロ大臣

Яel (ν [NEU])

キラリン☆大臣
社長大臣
美肌大臣
俺。

ヒィロ (ν [N

KANATA総理
KANATA総理
yu-taさん 面白大臣
HIZAKI 熱い大臣
REIYA パクリ大臣

KANATA (凛)

MIZUKIng
国王
やさしさ大臣
REIYA
KANATA
アイロン大将

MIZUKI (凛)

RIKU (凛)

バナナ大臣 yu-ta
絡み大臣 夕霧さん
暴走大臣 尽

Yusuke (HERO)

スベり大臣 KANA

yu-ta (HER

→ 犬神明
→ 犬神ジン
→ 犬神凶子
犬神情次2号

犬神情次2号 (犬神サーカス団)

おもしろ大臣
犬神情次2号
・犬大臣
犬神ジン
・とんま大臣
犬神明
犬神凶子

犬神凶子 (犬神サーカス団)

REIYA総理。
天才大臣 KISAKIさん☆
KANATA。
デコリン大臣
☆RIKUさん

REIYA (凛)

KISAKI (凛

ZOROたぴ
◎KIDZ大臣・龍寺
◎はんにゃ大臣・龍寺
♡ 鬼 龍寺
TAPI

たつひ (ZORO)

オレのおせわ大臣
◦たつひさん
KFCが好き大臣
◦りゅうじさん
日本の大臣
◦たつひさん
ZORO 龍寺

龍寺 (ZORO)

・通販大臣!
犬神凶子
・グルメ大臣!
犬神ジン
・野球観戦大臣!
犬神情次2号
犬神明

犬神明 (犬神サーカス団)

環境大臣
→ 犬神凶子
文部大臣
→ 犬神情次
農林大臣
→ 犬神明

犬神ジン (犬神サー

ニヤニヤさせてくれる姫
アスカ
ヘラヘラさせてくれる大臣
アスカ
ニコニコさせてくれる姫
アスカ

緩菜 (DOG inThePWO)

・運転大臣.ひかる.
・スタバ大臣.ひかる.
・荷造り大臣.ひかる.
本気で、居て欲しい。(笑)

メイ (DOG inThePWO)

飲み方大臣
↓
春くん
飲み方大臣
↓
緩菜くん
みずき。

ミズキ (DOG inThePWO)

ジュンチャンの世話係大臣
・イケメン
いっしょにねる大臣
・一聖
バンドを辞めた(?)
・DOG

準々 (DOG inThePWO)

春 (DOG inThe

◦俺様大臣
Dr. KAJI
◦隠れお笑い大臣
Vo 郁磨
◦家系大臣
Gt キリ

KAJI (アンド)

お笑い大臣
けん!
かわいい大臣
けん!
かっこいい大臣
けん!

けん (アンド)

山形大臣 ぺこ
さくらんぼ大臣 ぺこ
スイカ大臣 ぺこ

PECO (アンド)

すべり大臣
Ba. けん
夢見る大臣
Ba. けん
ヘドバン大臣
Ba. けん

キリ (アンド)

◦メガネ大臣
★KAJI★
◦お茶大臣
けん★
★郁磨★

郁磨 (アンド

杂志迷
zazhimi.com
蝴蝶网
hudie.com

http://www.brand-x.jp http://www.brand-x.jp http://www.brand-x.jp http://www.brand-x.jp http://www.brand-x.jp http://www.brand-x.jp

【Royz】/【α】
大好評発売中！
・初回盤A CD/DV¥2,625
・初回盤B CD/DV¥1,890
・通常盤CD¥1,575
イベント開催決定！
2011年9月3日

NEGA
11/30発売【DELUGE】
・Type-A¥4,200
・Type-B¥2,100
・type-C¥1,680
インストアイベント開催予定！

Kra
最新アルバム、10/26発売！
★ナロとトルテ
・【初回限定盤】¥3,990
・【通常盤】¥3,150
◆オリジナル特典等交渉中！

-トリコロール
発売中!!M-CDs+DVD¥2,100
◆オリ特付！
インストアイベント開催！
8月28日(日)PM7:00～
トーク&握手&サイン会！

exist†trace
【5tracks New CD】
・【初回盤DVD付】¥2,500
・【通常盤】¥1,995
オリジナル予約特典の詳細はwebで

Mix Speaker's,Inc.
-RAINBOW CIRCUS-
9/28 発売！
LIVE DVD¥6,090
イベント開催決定！
2011年9月30日(金)
PM7:00～
トーク&サイン&握手会

DIAURA
【DICTATOR】
・【初回A】¥2,940・【初回B】¥2,940
大好評発売中！
オリジナル予約特典、
イベントの詳細はwebにて！

NightingeiL
待望のNewシングルリリース！
8/24発売『Dark Word』¥1,575
オリジナル特典付！
インストアイベント開催予定！
詳細はWeb siteにて！

amber gris
-pomander-
NOW ON SALE
[限定盤]CD/DV¥3,650
[通常盤]¥3,150
◆オリジナル特典付！
◆インストアイベント開催！webにて！

摩天楼オペラ 待望のNEWシングル！
-タイトル未定-
☆10/19発売CD+DVD「初回限定盤」¥1,500
☆10/19発売CD「通常盤」¥1,050
★オリジナル予約特典考案中！
★インストアイベント開催に向けて交渉中！

ZORO
【POLICE】
★2タイプ9/21発売！
・初回限定盤¥1,785・通常盤¥1,575
オリジナル予約特典など、考案中！

THE KIDDIE
【美しきREDRUM】
▼9/28【初回限定盤A】¥1,575
▼9/28【初回限定盤B】¥1,575
▼9/28【通常盤】¥1,260

DELUHI
【VANDALISM】
NOW ON SALE!!
有終のベスト&フル・アルバム!!
新録未発表曲「砂の泉」収録！

☆2か月連続リリース決定！
★2011/8/31発売
・SPEED TO NIGHT【初回盤】CD/DV¥1,890円
・SPEED TO NIGHT【通常盤】CD¥1,260円
★2011/9/21発売
・CHULIP HOLIC【初回盤】CD/DV¥1,890円
・CHULIP HOLIC【通常盤】CD¥1,260円
※オリジナル予約特典などはwebにて！

-月に錆声-
9/7 ON SALE!
初回限定盤A ¥1,680
初回限定盤B ¥500
通常盤¥1,365
オリジナル予約特典付
DaizyStripper

Kaya
「QUEEN」
▼発売中！ CD+VD【TypeA】¥3,675
▼発売中！ CD【TypeB】¥3,150
待望のNEWアルバム！
◆オリジナル予約特典付！

愛狂います。
[皇帝ペンギン]
初回限定盤¥2,415
通常盤¥1,890
8/28イベント開催！

人格ラヂオ
移籍第一弾シングルリリース！
【タイトル未定】
9/28発売 M-CDs/VD¥1,890
◆インストアイベント等、考案中！
※内容はwebにて！

the GazettE
【TOXIC】
◆完全生産限定盤¥4,990
◆通常盤¥3,150
オリジナル予約特典考案中！

花少年バディーズ
電撃ボンジュール
アタリハズレ
江戸ハマヤマン
9/28発売 DVD¥5,460
◆インストアイベント等、
モーレツに交渉中!!

【RED EMOTION～希望～】
「初回限定盤A」¥2,100
「初回限定盤B」¥1,890
「通常盤」¥1,050
▼インストアイベント開催決定！
・8月20日(土)・PM6:00～
・トーク&握手&6SHOT撮影会！
※オリジナル予約特典などの
詳細はwebにて！

SCREW
▼待望のNEWシングル！
9/21大発売！「BRAINSTORM」
★初回A DVD付CD/VD ¥1,890
★初回B CD/Booklet ¥1,890
★通常CD¥1,575
▼インストアイベント開催決定！
・10月22日(土)・PM5:00・PM7:00
・詳細はwebにて！
▼オリジナル予約特典付

◆◆◆送料改定のお知らせ◆◆◆
送料全国一律500円⇒400円
日頃の感謝の意を込めて、従来の送料より100円値下げ致します。送料はプライスダウンさせて頂きますが、現状と同様にヤマト運輸を利用し、変わらぬ配送サービスにて、お荷物をお届け致します！
※2010年3月31日までにご注文致しましたオーダーに関しましては上記の価格は適用されません。

Brand X

R指定
【毒盛る】

蝴蝶灰 hudie.com
各タイプにオリジナル特典有
・第1部PM5:00～(B-type対象)
・第2部PM7:00～(A-type対象)
他、詳細はwebにて！

現在、店内にて破格値コーナーを設置！
様々なアイテムが¥100、¥300、¥500、¥700と
4つの価格帯にて大奉仕中！
お近くにお寄りの際は是非ご覧下さい！

C4
★8/24発売『-DAISYCUTTER-』
★7 songs CD¥2,000
もちろん！オリジナル予約特典付！
◆インストアイベント開催決定！
・2011年9月24日(土)PM6:00～
・Specialな内容で企画中！
・※人数制限あり！ご予約はお早めに！

【爪牙】
10/5発売!!
初回限定盤
CD/VD¥1,980
通常盤
CD¥1,260
オリジナル特典
&
イベント開催を
交渉中！

アンド
[BLAZE]
9/14発売!!
遂にメジャーシーンへ殴りこみ！
・A-type CD+VD¥1,890
・B-typeCD¥1,575
オリジナル予約特典付！
インストアイベント開催決定！
・2011年10月15日(土)PM6:00～

凛
NEWシングル！大好評発売中！
【Independent "MAZE"】
・初回限定盤 A 2CD¥3,675
・初回限定盤 B 2CD¥3,675
オリジナル予約特典付！
インストアイベント開催決定！
・2011年9月10日(土)PM7:00～

BORN
【ニューシングルが発売♪】
【Psycho Diva】
★9/14発売 初回盤CD/DVD ¥2,625
★9/14発売 通常盤CD ¥1,575
インストアイベント開催決定！
2011年10月9日(日)PM6:30～
◆オリジナル予約特典考案中！

ケミカル ピクチャーズ
【トガリムネエソ】10/19発売！
★【初回限定盤】¥1,890
★【通常盤】¥1,575
※各タイプにオリジナル予約特典付！
インストアイベント開催決定！
詳細はwebにて！

AYABIE
【流星】
8/24発売
★初回限定A盤¥1,890
★初回限定B盤¥1,890
★通常盤¥1,260
◆インストアイベント開催決定！
・日程などの詳細はwebにて！
◆オリジナル予約特典付き！

PICK UP ITEM
…FOREST
【…鳴ク虚像ノ恋詩】
…SALE CD¥2,500
…ストカード付！

Brand X webshop

通信販売をご希望の方へ

通信販売をご利用の際は必ずお読みください!!
当店の通信販売は①代金引換(着払い)と②先にご送金して頂く方法の2通りがございます。下記の注文方法をご覧の上、どちらかをお選びください！！また、どちらの方法でも「クロネコヤマトの宅急便」によるお届けになります。一度お受けしました商品のキャンセルは固くお断りしております。

①代金引換(着払い)とにかく早く商品がほしい人！！
TEL・FAXまたは、葉書にて希望の商品・あなたの住所・氏名・電話番号をお知らせ下されば、すぐに商品をお送り致します。(FAX/ハガキの場合は第2希望まで明記してください。)※予約の場合は、商品が入荷次第発送致します。
▼
商品到着時に商品代金＋送料(全国どこでも¥700)を配達員にお支払い下さい。商品の到着は、ご注文から1日～2日です。※予約は商品が当店に入荷してから1日～2日でお届け致します。

②先にご送金して頂く方法 なるべく安くほしい人！！
TELにて在庫の確認をして下さい。そして先に送金することをお申し付け下さい。
※予約の場合は入金確認の受付になりますので発売日までにこちらに到着するようにご送金下さい。
▼
現金書留・郵便為替
商品名、数量を明記の上、商品代金＋送料(¥400)をお送り下さい。
※予約の場合も同じです。

郵便振替
商品名を通信欄に明記の上、商品代金＋送料(¥400)を下記の口座にお振り込み下さい。
※予約の場合も同じです。
口座名：(株)ブランドエックス
口座番号：00130-9-147670
※振込手数料は、お客様のご負担となりますので、ご注意下さい。

銀行振込(webshopご利用の方のみ)
当方から送信される受注確認メールをご確認の上、下記口座に指定金額をお振り込み下さい。
銀行名：イーバンク銀行 タンゴ支店
口座種類：普通
口座番号：7009021
口座名：(株)ブランドエックス
※振込手数料は、お客様のご負担となりますので、ご注意下さい。
▼
入金確認後、1日～2日で商品をお届け致します。
※予約の場合は、商品が当店に入荷後、1日～2日でお届け致します。

ブランドエックス
http://www.brand-x.jp
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-2-5 池袋サンシャインプラザB1F
TEL. 03-3980-6780 am11:30-pm8:30 年中無休

通信販売をご利用のお客様で来店イベントに参加ご希望の方は、必ずご予約時に当店スタッフまで「イベント参加希望」とお申し付け下さい。

葵 from 彩冷えるの ヒナタごっこ 第65回

遅い蝉時雨。東京で蝉の鳴き声を今年初めて聞いたのは7月も終わりの頃。平年ですともう少し早い頃から蝉が鳴き出して「嗚呼、もう夏だな～」なんて蝉の声から夏の始まりを感じるものだったのですが、今年は蝉の登場がやけに遅く感じてしまいました。

その理由として「地震や放射能の影響か?」とか色んな憶測が飛び交う中、どうやら今年の春頃の気温が平年よりも最大1.3℃ほど低く、その寒さが蝉の足を引っ張っていたのではないかと言われているそうです。確かに3、4月は肌寒い日が続いたけど、6月半ばからは猛暑が続き、その早めの暑さから蝉も早く登場するかな～なんて思いがちだったのですが、その早めの暑さに合わせて蝉の登場の時期が早まることはないそうです。

夏が苦手な僕からすると、蝉の鳴き声を聞くだけでなんか気温と体温が上がる気がして、あまりウェルカムなものではないのですが、でも季節を感じ取れる風流なものとして、蝉の鳴き声はやはり必須なのかなって思います。

蝉が短い命を燃やして奏でる音。そりゃ暑い、いや熱い訳です。

その蝉の鳴き声と同じように、今年は梅雨時期に「かたつむり」を一度も見なかったな～と思うのですが、先日レギュラーラジオでこのことに触れたら、リスナーの方から戴いたメッセージでは「かたつむりを見かけたよ」と言う方が多く、かたつむり見てないの僕だけなのかな～なんて思っていたら、そのメッセージを送ってくれた大半の方が都心ではない所にお住まいの方でした。東京ではあまりお目見えしてくれなかったのか、もしくは東京という土地柄に最初からかたつむりはあまり存在していないのか。でも、上京してから何度もかたつむりと遭遇してる記憶はあるんだけどな。記憶って結構曖昧なところあるからね。

「想い出補正」っていう機能がどうやら僕らの頭に中にはあるみたいで、どうも想い出になればなるほど、記憶というのは変化していく気がします。

例えば数年前住んでいた家の近くの定食屋さんが本当に好みの味で、頻繁に通っていたって記憶のもと、久しぶりに食べに行ったら意外とそこまで美味しくなかったり。学生の頃、凄く好きだったクラスメイトの女の子の写真を久しぶりに卒業アルバムを開いて見てみたら、意外とそうでもなかったり。

想い出っていうのは不思議なものです。記憶が変化していくのか、もしくは僕らの心が変わっていって、当時とは変わってしまっているのか。どちらにしても僕らが生きていく上で記憶というものは不可欠。

その記憶能力、僕は本当に弱いんです。僕は左利きなのですが、左利きって右利きより右脳が発達すると言われ、逆に右利きは左利きより左脳が発達すると言われています。ちなみに右脳は閃き、左脳は記憶能力を司るものと言われ、左利きの僕は右利きの方々より記憶能力が弱いんだと言い聞かせていますが、これはきっと言い訳に過ぎない。

景色だったり人の顔だったりは覚えられるのに文字や言葉、人の名前を覚えるのはとっても苦手。かと言って右利きより閃きが優れているかと言われれば、胸を張って言いきれるほどの閃きは今のところない。

冒頭の蝉の話も記憶の話も右脳左脳の話もそうですが全ては「思い込み」の範疇なのかな。「こうに違いない」という思い込みから考えることはとっても狭い世界になってしまう。「こうに違いないけれど、他の可能性はないだろうか」そうやって、どこかに疑いを持ちながらも色んなことを考えていける柔軟な頭があればいいなって僕も思うのですが、これは大人になればなるほど難しくなる。

どうぞこのコラムを読んで下さる皆さんも柔軟な頭と心を持って、日々変化が激しいこの時代を生き抜いて欲しいと思います。やって色んなことを考えるのって意外と しろいしね。例えば「このコラムって本 葵が書いているのかな」とかね（笑）。 てますよ!!!

そういう「当たり前」なことが本当に たり前」なのかを考えていくと、おもし ことってたくさんあると思いますよ。

もうすぐ夏も終わりに向かいます。「 秋の区切り」っていったいどこなんだろ 月何日からなんだろ。暦通りなのかな。 が何度になったら、紅葉がどのくらい たら…なんて色んなことを考えていくの しいですよ★

今年もいよいよ後半戦に突入します。 い毎日を探していきましょう。

できれば早く秋が来て欲しい。長袖が 着れるくらいの気温になって欲しいな。

あ

ムック ミヤの 魔よけ

お題7：地デジカ

編集部解説]
[illegible]24日に[illegible]ラジオ[illegible]ご切り替わりました。[illegible]いうことで[illegible]地デジ化推進の[illegible]者（?）＝[illegible]テジカを[illegible]ていただきました！[illegible]の地デジ[illegible]は済んでいるのでしょうか…?

著者近影

L.M.Cの YouTubeで検索してみた。

第二回目のお題【怖い映

[ルール説明]
あるキーワードを決めてYouTubeで検索→トップの映像から、関連映像を検索し続け→30分以内にいかに衝撃映像に出逢えるか、奇跡をひたすら待つ企画…!?

Ⓐｉｊｉ：今回のお題、夏っぽいほうがいいよね。例えば…【怖い話】とか。
㋮ネージャー：【世界一怖い映像】で検索しましょう。
ⓜａｙａ：この「怖い映像集」にしましょうよ。コメントに"ラムちゃんが怖い"ってあるやつ。（と鑑賞）
一同：…!!（笑）"ラムちゃん"ってこれかぁ（笑）。
ⓜこの映像、オチあるんですか?
（7分ほどで静かに終了していく映像）
一同：……え……（苦笑）。
㋮戻しましょう。昔、「妖怪テケテケ」ってあったよね? 上半身だけで走るお化け…。
Ⓐじゃあそれ観ようよ。（と鑑賞）
一同：（実写の"テケテケ"に）えぇ!?
Ⓐどうやって撮ってんの!?
編集：でも、いわゆる怪談的なものって検索結果に出てこないんですかね。
ⓜいや、ありますよ。ツアー中、観てましたもん。
Ⓐじゃあ【怪奇映像】で検索してみる?
㋮「最強怪奇映像～投稿ビデオに映った顔」っていうのがある。（と鑑賞）
編とあるTV番組の映像のようですね。
一同：（映された心霊映像に）おぉぉぉぉぉ!!!!!（驚愕）
Ⓐ登場が貞子ばりだよ!「心霊恐怖動画 一人の時は見ない方が…」ってのも行ってみる?（と鑑賞）
一同：（ビル近くに見えた映像に）あぁぁ その映像のオチに）
Ⓐ…へ?
ⓜ…やっちゃったよ…（苦笑）。
Ⓐでも、このテの映像は怖いもの見たさで うよね。
（その後、話題は心霊現象～金縛り～ぬら 妖怪と変遷）
ⓜ好きな妖怪っています?
Ⓐから傘お化け。あれが小学生の時に プラモデルとか…
ⓜプラモデル!? それ、ツイッターにも書 （笑）。何を組み立てるんですか?
Ⓐ普通に傘をこう…（照笑）。
編組み立てて、どうしてたんですか?
Ⓐ眺めてる。
一同：……（失笑）
Ⓐ世界観が好きだったの。心霊とかは怖 てちょっと違うじゃん。キャッチーなも のかな。ま、"キャッチーなもの"ってい 楽にも通じるっていうね（笑）。
編今回、最終的な映像に辿り着かないです
Ⓐここで、"凄い映像"を募集してくって、
ⓜYouTube上のものを教えてもらうんで いですか?

というわけで、オススメ映像をお持ちorご存知の方、編集部までお送り下さい！

本日のおやつ：
"TadashiYANAGI"のケーキ（Aijiオススメの店で、マネージャーがセレクト）

zazhimi.com
hudie.com

第十五回　BAN

少女-ロリキタ-23区 THE コラム

「夏の私について」

毎年溶けるところから始まっていま

い溶けていたかと言うとヨーグルト
蔵庫から出します。30分後蓋を開け
さい…

んな私でしたが今年の夏はひと味も
違います！

標はツアーもワンマンもあるので、

い！」

調に目標を達成しております。これ
を楽しめる男の仲間入りなのか！
一人、部屋の中で浮かれています。

良いところを考えて見ましょう。

楽しみ方は夜です

声、アスファルトが焼けた後の匂い、
やってくる静けさ…。これは夏の醍
。なんて素敵なんでしょうか。心が
ね。もうシャルウィーダンスです。

ところ。

他にはLive！　夏こそLiveの季節！　この夏、少女-ロリ÷タ-23区のLiveを楽しむ絶好のチャンスはここしかない!!
夏こそ暴れて暴れて暴れまくって！　すべてのストレスを発散しちゃおうじゃないか！
夏はLive!!　これに限るバンドマン人生その1!!　もうこれは気合いMAXでピークを越えたエンジンのようになりそうだぞ!!

こんな素敵な夏の夜に今年もツアーやワンマン楽しみな事ばかりです！

新しい曲も出るぞ!!
よし！今年の夏も頑張るぞ!!

そんなはぐれメタルのコラムでした（完全に溶けています）

ば

ンミ團マコトの♪ 少年マコトピア

第90回　ツアー。の巻

たちの夏が終る…。とはいっても絶
中でございます。

す所あと10日ほどですが、ツアーで
り、締めくくりは1泊2日のファンク
と、この10日間は非常に濃い日々で

、そんな今回のツアー、現段階では
半分終ってる感じですが、やっぱり
っております！

このツアーから演奏している新曲が

露した時から手応えはあったけど、
盛り上がるとは!!って感じで、今と
セットリストに欠かせない曲になり

じワンマンが楽しみですね！

ンドと絡んだり、そんなバンドさん
の皆様に初めて僕らのライブに触れ
る機会があるイベントライヴってと
やね。

は短かったりもするけど、ワンマン
ない、いやそれ以上の気持ちをぶつ
す！

て移動も多いけど、それも含めてツ
おもうし、全然苦にならないので、
アー好きだなって思えたな。

もっともっといろんなとこへ行けたらいいね。

みんな、いつもありがとう。

ツアーで初めて会ったみんな、今後ともよろしく。

そんな、2011夏。

残りのイベントツアー、そしてワンマン、一緒に笑おう♪

zazhimi.com

第41回

夢のぐるぐね大回転

アーティストがつなぐ、リレー連載☆

佑聖（THE KIDDIE）『好きな国BEST3!!』➡ 瑠伊（vistlip）

どうも AYABIEのKENZOこと、愛する兄者ゾっくんからバトンを頂きや、SHOXXでおなじみの（?）THE KIDDIE佑聖でいす。

で!!　お題はなんじゃ？

「好きな国BEST3!!」

ほほー!!　地理に弱い俺にこんなお題をくれるとは!!

そうだなー。やっぱりTHE KIDDIE佑聖と言われて連想するのは、夏、海、おにぎり、あとみんな知らなかったと思うんだけどギターが好きです。

つーことで青い海、輝く太陽、どこまでも広がる空、これらを満たしている地が好きです。

すなわち

No.3
タヒチ島
形がひょうたん島みたいでかわいい。
スコールの後の虹を見ながらはしゃぎたいゾ。

No.2
パラオ
最近テレビで観て無性に行きたくてしょうがないとこ。
綺麗なおねーさん達とクルージングしてははしゃぎたいゾ。

そしてNo.1に輝いたのは!!

No.1
沖縄
人生で２回行くチャンスがあったのですが、行けなかった…３度目の正直ってことで次こそ行きたい!!　行ったら 最高の仲間と時間を気にせず、はしゃぎまくりたいゾ!!

以上好きな国…なのか？　BEST3でした。
まあ全部行ったことないんだけどね!!

最近の僕らは絶賛ツアー真っ最中です。来月はTHE KIDDIEのNEW SINGLE「美しきREDRUM」が発売されるので皆さん是非聴いてくださいね★

さてさて次にバトンを回すのは、そんな俺と普段から一緒にはしゃいでくれる最高のともらち、vistlipのルイス（瑠伊）だ!!　そんな彼、実はその昔一回だけ一緒にステージに立った事があるんだな。みんな知ってた？

お[illegible]
「[illegible]」
[illegible]
[illegible]

読んでくれてありが
[illegible]!!

佑聖でした。

じゃらば。

蝴蝶网 hudie.com

THE KIDDIE 佑聖 絶頂モンスターハイゲイン ☆ 第27回

ひぃぃぃぃぃぃぃぃぃはー!!
佑聖だぜ。

え？　今月号には俺のコラムが２つあるって？

そんなことあるわけ…ほんまやー!!
ってことで今月は２カ所に登場させていただいてます。

みなさん良い夏休み過ごしていますか？

俺ね 夏休みっていう言葉がすっげー大好きなんだよね。なんか夏休みって言葉はどんな言葉よりドキドキワクワクする。この先一生夏休みなんてないんだろうなーって思うと切ない!!

そんなナツヤスミストから俺流夏休みを紹介しよう。

まず映画サマーウォーズを見るべし!!
この季節ベスト。夏休みが大好きになること間違い無し!!　夏休みに対しての「やる気」に満ちあふれるでしょう。

カブトムシを取りにいくべし!!
前日の夜仕掛けを作りに行って、がんばって早起きして仕掛けた場所を見に行く。かかってるか、かかってないか、ちょっとしたギャンブルですよ!!　かかってた時の感動と言ったらもう…サマーウォーズを見たときレベルだぜ。

海に行くべし!!
夏と言ったらさー、海だろ!!　海に行かないで夏を感じられると思うか!?　え？　は？

宿題は最後まで残しておくべし!!
宿題なんて最後の１日でやるもんだろ？　そんなこと忘れて夏休みは楽しまなきゃね★
初日にやっちゃうって人もいるけど、夏休みは始まった瞬間から君のターンだ。始まった瞬間から夏休みのこと以外忘れるのだ!!

これで君は夏休みを制した（･。･）

夏を制する者だけが恋を制するって西川さんも歌ってたよね。

そう!!

良い恋をするためには夏を制するのだ!!

よしおっけい。

さて先月の問題

タイム	にあって	時間にない
マカロニ	にあって	グラタンに無い
タトゥー	にあって	刺青に無い
メリット	にあって	シャンプーに無い

答えは文字の中に実は漢字が入ってるのです。タイムだったら「仏」、マカロニたったら「加」的な。

今月の問題!!

「宴（うたげ）」にあって「花見」にない。
「市営」にあって「県営」にない。
「コニカ」にあって「コダック」にない。

これなんだ？

はばないすさまーばけいしょーん。

じゃらば。

ギルガメッシュ
CRAZY=CHAIN

第15回■愁■

いまね、SHOXXの先月号を見て皆さんのコラムを読んでみたんです。

マジメな話をしている人
バンドの現在の状況を綴っている人
マニアックな絵を描いてる人

何を書けばおもしろいだろうか。
とりあえずブログの『なう』で聴いてみよう。

…

ふむ。色々みんなが答えてくれたよ。

「初恋の話が聞きたい」

「つけ麺がお好きみたいなので、つけ麺の起源を調べて下さい」

「一発ギャグ」

など色々ありましたが、初めてピアスをあけた時の話をします。
ピアスあいてる子はみんな何歳にどんな想いであけましたか?
僕のファーストピアスは確か中3かな。
左耳のタブタブのとこにプスッと。
あれは痛かったですね〜。
何より貫通する瞬間のプチって音が恐怖でした。
ほんで、高校はいってから空前の拡張ブーム。

当時

「何G（ゲージ）なの?」

「俺、0G!」

っていう会話を頻繁に廊下で聞きました。
僕もそこらへんのミーハーな高校生だったんで10Gまで拡張してバランスが悪かったんで更に2つあけて今では髪の毛であまり見えませんが左耳に3つあいています。
そして次に海外のパンクバンドの影響で眉尻にあけました。
これは何回も失敗しました。
今でも失敗の痕が残っちゃってますが日本人はホリが深くないので失敗しやすいみたいです。

それから僕は鼻にあけました。
これはなんとなくです。
そして1番痛かったです。
涙は出るは、目の前が真っ白になるは大変でした。

50年ぐらい前の日本ではありえない光景でしょうね。
ピアスを当たり前にあけまくってる若者が溢れてるのは。
海外ではTATTOO（入れ墨）もあたりまえにファッションの一部としてみんないれまくっています。
日本でもいつかそうなるのでしょうか?
僕がジジイになった時に

「最近の若者は…」

って言ってそうです。
常識や固定観念にとらわれすぎると将来大変そうです。

「普通はさぁ…」

「それ、常識だけど?」

って言葉、俺は嫌いです。

さぁいよいよ出口が見えないコラムにな
ました。
でも、コラムだからってキレイにまとめ
もいいよね?

えっ？普通のコラムはまとまりがあるだ

それ、誰が決めたルールだよ?

Moran Hitomiの「瞳孔反射」

第41回 『臓器提供の有無』

数か月ほど前から、俺の財布の中にひっそりと眠っているもの。それは、臓器提供意思表示カード。その名の通り、自分の臓器をそれを必要としている「誰か」に提供する意思表示のために必要なカードである。ただ俺のそれは、未だに著名欄が空欄のままなのだ。

このカードを見た事がない人はたくさんいると思う。大きさはテレホンカードくらいで、材質は意外なほど普通の薄っぺらい紙である。表は緑色で、臓器提供意思表示カードとでかでかと記してあり、可愛らしい天使が大きなハートに囲まれている。そして裏面には、
（1、2、3、いずれかの番号を丸で囲んでください。）
1、私は、脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも、移植の為に臓器を提供します。
2、私は、心臓が停止した死後に限り、移植の為に臓器を提供します。
3、私は臓器を提供しません。
（1または2を選んだ方で、提供したくない臓器があれば×をつけてください。）
心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球
と記されており、そして最後に、著名年月日、本人著名欄、家族著名欄と続いている。

このカードの1または2に○をつけ、著名し、肌身離さず持ち歩いていれば、万が一自分が死ぬ事になったとき、移植手術を望む方に臓器提供できる可能性が生まれるわけである。

前にもどこかで話したかもしれないが、俺はどうせ死ぬなら野生の肉食獣に食われて死にたいと思っている。それぐらい、死後の肉体には興味も執着もない。じゃあなぜさっさとこのカードにサインしてしまわないのか。

理由の一つは、恥ずかしながら、痛みが心配だからである。死後の世界なんて誰にもわからないわけで、脳死したら痛みを感じないのか、心臓が止まったら痛みを感じないのか、なんて体験したことがある人はいないわけで。もちろん医学的にありえないことはわかっている。でも怖いのだ。脳死状態で体にメスをいれられ臓器を引っぱりだされる…もしもまだ痛みを感じる事ができたなら…。考えるだけでも恐ろしい。痛いのは嫌いだ。

もう一つの理由は、臓器提供する「誰か」を選べないから。別にイケメンがいいとか、可愛い女の子がいいとか、そんなバカなことを言っているんじゃない。ケガや病気に苦しんで、生きたくても生き難い誰かのために臓器を提供できればそれでいい。ただ、今まで散々人や動物を傷つけてきた奴や、金にものを言わせて臓器提供の順番を割り込んだ奴、要するに俺的に「助けたい」と思えない様な人間にだって移植を受けるチャンスはあるわけで、俺はそんな人の体の一部にはなりたくないんだ。正直、金で順番繰り上げたりなんて、現実にあるのかどうか知りもしないけど、ドラマや映画なんかでそういうの見た気がするんだよ。でもさ、ありそうじゃん、そういうのって…。他にもさ、動物虐待とか、性犯罪とか、俺が許せないような事をしてきた奴に移植されでもしたら、俺の臓器も浮かばれない。というか絶対嫌だ。

そんな我ながら幼稚な理由ではあるが、俺の臓器提供意思表示カードは未だ無記名のまま財布の中で眠っているのである。ちなみに、臓器提供される相手を選ぶこともできないし、知ることすらできないのだが、自分の
の提供を優先することはできるらしい
の親族が移植希望登録済で、かつ自分
優先の意思表示をしていれば、親族に
て臓器提供することができるという
もちろん医学的な条件が合えばの話だ
自分の家族が臓器移植を必要としてい
らに自分がタイミングよく死んでしま
てことは滅多にないとは思うけれど、
能性のためだけにでも、やっぱりカー
つ必要はあると思うんだよね。

世のため人のため、なんて思って
綺麗事なんて言えないけどさ。自分の
本当に自分のために生きてきてしまっ
好きなように生きて、好きなように人
歌しているから。だから最後くらいは
空っぽの肉体だけでも何かの役に立
なぁと思うんだよね。それに誰かの体
分の一部が生きていくのも悪くないか
思うし、その人が動物を大切にしたり
に良い行いをしてくれるなら、全然い
けどね。ほんとなんとなくの、自己満
ど、そのくらいの気持ちでもいいのか

これを読んで、もし興味を持った人
なら、近くのコンビニに脚を運んでみ
いよ。ローソンとかセブンとかファミ
メジャーなコンビニには大抵置いてあ
いだから。書くか書かないかは、本当
次第だからさ。慎重にね。

Mix Speaker's, Inc. seekの凡人水族園

第百十三

TSAロックの罠で、二時間成田電話タライ回し地獄を味わった僕は、開かずのトランクを眺め呆然と立ち尽くしていた。再度成田インフォメーションに電話し「もう同じ話を何度したのだろう」と考えながら物腰柔らかい係の方に事の次第を語る。「それは本当に申し訳ありません」と告げる女性。そしてまた案内される別の電話番号。既に人間不信に陥っている僕は一つの仮説を立て始めた。「ひょっとしたら、今まで電話してきた窓口は実は全部同じ事務所で、係の人は隣同士に座っているのでは。[illegible]を笑みながら別会社を演じ、僕を心身共に疲労させこの事件を闇に葬ろうとしているのでは」疑念の鬼に取り憑かれながら、最後に[illegible]いた番号へ電話をかけた。十数回のコー[illegible]に出た人は初老の機械が喋っている[illegible]様な[illegible]繋がった瞬間はやっとこの[illegible]から解放されると感動すら覚えた僕だった[illegible]泣けど怒れど機械化された男性は「申し訳ございません。当社では責任を負いかねます」と繰り返すだけだった。最後に「泣き寝入りなんですね。だったらはっきりと泣き寝入りだと言って下さいよ。僕はもう疲れました。これから布団に潜って泣き寝入ります」と呪詛のような怨み言を述べたが彼は「申し訳ございません。当社では責任を負いかねます」と言葉を繰り返した。

翌日。目を腫らした僕は、電話で調べた近所の「ロックセンター」という場所を探していた。あっさり「開けられるんじゃない」というおっさんの言葉にまた涙腺を緩ませながら飛んできたのである。探せど探せど其れらしき場所が無いので、立ち話をしている八百屋の[illegible]に場所を尋ねると、あっさり「ウチで[illegible]いう言葉が返ってきた。看板を見上げる[illegible]で書かれた「ロックセンター」の文字が。おっさんの姿は無かったが、オバハンの電話により現れたおっさんは、ボロボロのスウェットに身を包み、明らかに夕飯を食べ終えた風で爪楊枝をくわえていた。野菜に囲まれながら鍵穴を弄くるおっさんは「大変だったねぇ。これアメリカ産かぁ。開くかなぁ」等と、電話の時とは話が違っていたが、僕にはこのおっさんの腕と動かす指先しか信じられるものが残っていなかった。もう既に適当にガチャガチャ動かしているとしか思えないおっさんの手が止まった瞬間、ガチャッと音を立てトランクが両サイドに分かれた。おっさんはこちらを見上げ「開いたねぇ」と呟きニヤリと口の端を上げた。其処には青のりの詰まった汚い歯がヌラヌラと光っていた。日本の職人の腕は世界に誇れるのである。八百屋のおっさんありがとう。ほいで歯磨け。

今月はこの辺で。しいくでした。バイバイ。

杂志部落 zazhibuluo.com
蝴蝶网 hudie.com

麺は固め!!

第159回　by 竹入隆行

いよいよ来月、9月21日タケバン4thアルバム「情
ェイク」が発売されます！　皆様宜しくお願
す。
はレコーディング終了と発売の狭間で、忙しく
せて頂いていますが、東京にはいますのでちょ
こライヴを観に行きます。
様が沢山いらっしゃっている事にこしたことな
ですが、個人的にはちょっとお客様が少ないほ
きです（笑）。

ろな場所で音を聴けるし、飲み物を買いに行っ
イレに行くのも容易ですから（そもそもライ
スは飲み屋ですから…）。
昔からそんな考え方はあったのですが…最近
会場を小さく小さくとする傾向が強くなってき
します…。
気やライヴハウス過多でノルマやら小屋貸し代
員を想定し計算しやがる…）やチャージバッ
しくなったせいもめっちゃあるんでしょうけ

と同じような楽しみ方のお客様、それ以上にお
や車椅子の方や…なんて全てのお客様に楽し
くには、とにかく満員が全て！と考えるのは
と俺は思います。

ルでお客様のノリ方も全然違いますしね…。

は少し変わりますが…
D OUT!」

なら1度は！　なんて憧れるひとつの目標ではあ
ですが、それはあくまでも「思いがけず…」で
?
てやるのは本末転倒です。だって、要は「売り
」ですからね…。
に供給が追いつかない訳ですから、商売人なら
やし、もし食べ物やったら人が死んでしまいま
…。まぁ、極端ですけど…（笑）。

nk you SOLD OUT!」
にしますけど…
は
y SOLD OUT!」
ね…
、前々からすっきりしない問題です…。
、ライヴハウス業界、どうか誠実であれ！です。
だ…！

うしろの正面 ―ただしづら―

第146回
by 長谷川 正
/Plastic Tree

皆様こんちくわ。さて…八月のプラはフェスからのスタートでした。

といっても、これを書いてる時点ではまだこれからなのですが（笑）…いい夏の思い出になっているとよいですな。先月の氣志團との対バンも楽しかったなあ！　彼らのステージもさすがって感じだったし、ちょっと意外な組み合わせだった事も含めて、すごく印象に残るライヴになりました。そんな音楽的活動をしながらのとある日、埼玉県は行田市に古墳を見に行って来ました！　しかも幾つもの古墳が群れをなす、その名も「さきたま古墳公園」‼　その全貌はというと…博物館があったり、古墳の墳丘を間近で見る事が出来たり、しまいには墳丘に登れたりと、もはや古墳にまつわるフルコース‼（笑）公園としてもすごく綺麗に整備されていて、とても居心地の良い場所でした。たまにはこうして文明社会から離れて古代に思いを馳せるのも、なかなかよいものですよ。そういった大人の遠足話をはさんでの、再び音楽ネタへ（笑）。…久しぶりにベースを買ってしまいました！　ざっくり説明すると、ピストルズのシドやら、ラモーンズのディーディーやらが使っていたのと同じ年代の同しようなベースです。まあ、はっきりいって…実用性はもちろんあるにしても、若干趣味的に衝動買いしてしまった感じのほうが強いです（笑）。プラでのメインは白黒さんで変わりなく…ですが、このパンクアイコン的なベースもどこかでお目にかかる機会があると思います（笑）。

という事で、まだ若干暑い日も続くかと思うので、どうか皆さん体調には気をつけて！　ではでは、今月もマリモーランドからお届けしました…さよーなり！！　ヘイホーレッツゴー‼

heidi.

第28回：桐

『ハイジのアルプス日記』

こんにちはードラムの桐です。前号ではベースのコーちゃんが「もうすぐ初海外行ってくるぜ！」な話をしていましたね。

そんなわけで、行ってきましたアメリカ！…初海外ライヴめっちゃ気持ちよかったよ。熱いリアクションだった現地のファンのみんなありがとう。やっぱり音楽を楽しむのに国境は関係無いですね。

そして海外のご飯はもちろん美味しかったんだけど、日本に帰ってきてやっぱり日本食っていいなって思いましたね。ほんの　くらいだったんだけど、だんだん醤油と　だし的なものがめちゃくちゃ恋しくなってましたもん。

今回はアメリカだったんだけど、また機会があるなら色んな国にも行ってみたいな。それでは、もうすぐ夏も終わっちゃいますがみなさん素敵な夏になりますようにー。ではでは桐でした。

SHOCK WAVE アポロ Vol.54
011年9月18日（日）高田馬場AREA
演★ Virgil＊ヴィデオグラマァ＊コドモドラゴン＊TRIGAHH＊他
18日は、本誌イベント『SHOCK WAVE アポロ』の日♪
、多彩な顔ぶれのバンドが競演！ 9月のアポロもお見逃し無く♪
ットは、ローソンチケット（Lコード予約 http://l-tike.com）
EA店頭にて、絶賛発売中♪　※バンド予約は一切ありません。
細は
音楽専科社 HP[http://www.ongakusenkasha.co.jp/]
携帯サイト：音楽せんか？[http://mobile.ongakusenka.com/]
（問）高田馬場AREA ☎03-3361-1069

大島暁美のロックンロール日記

×月×日

知り合いからの電話で、「TAIJIがサイパンで警察に捕まって、自殺未遂」というニュースを知った。ほどなくして、ネットのニュースに詳細が載り始める。ずいぶん会ってなかったけど、TAIちゃんにいったい何が……と心配しているうちに、別の知り合いから「深刻な状態らしい」という電話がある。Twitterには TAIJIを心配する声があふれ、多くのファンが彼の回復を祈った。でも、そんな声も届かず、彼は逝ってしまった。あまりに波乱万丈すぎる一生だった。

TAIJIとよく会っていたのは、彼がXのメンバーだった頃。全国ツアーに同行した時は毎晩一緒に飲んでいたし、取材やPV撮影やなんやかんやでしょっちゅう顔を合わせてた。何回かHIDEちゃんのうちに遊びに行ったとき、いつもTAIJIがいたのも記憶に残っている。

そんな彼のいちばんの思い出というと、単行本のロックンロール日記にも書いたのだけど、インタビュー中に寝てしまったこと。今までのライター人生の中で、メンバー全員の取材中についコクっとなってしまった人とか、徹夜明けでテレビの収録にのぞみ、あまりの照明のまぶしさに一瞬気を失った（本人談）人はいたけど、一対一のインタビュー中に寝てしまったのはTAIちゃんだけ。その日は取材日で、彼は新宿のホテルに缶詰めになって、一日中取材を受けていた。わたしの取材はその日の最後で、ずいぶん遅い時間からのスタートだった。わたしの前に取材した某雑誌の編集者が、疲れてるTAIJIに「飲みながら、取材してもいいよ」と言ったらしく、彼は最初からちょっと酔っていた。しかも、部屋の照明がやたら暗くて、入ったときからイヤーな予感。すでにウイスキーの水割りを飲んでた彼は、「飲みながらでもいい？」といい、「少し明るくしようよ」という編集者の提案にも「まぶしいから、このままでいいよ」といって、そのままの状態で取材がスタートした。そして、彼は次々とグラスを空けていく……。普段は饒舌なTAIJIがだんだんと口数少なくなっていき、とうとう最後は何も答えず、静かな寝息が聞こえてきてしまった。

いやぁ～、これにはホントにまいったね。まさかたたき起こして取材を続けるわけにもいかず、「続きはまたにしますか」といって、編集者さんとすごすごとホテルを退散した。その翌日のお昼頃、TAIちゃんから電話がかかってきた。「俺、途中から記憶がないんだけど、取材ってちゃんと終わったの？」と尋ねるから、「TAIちゃんが寝ちゃったから、途中で引きあげたんだよ～」といったら、平謝り。「俺はもう一本取材があるからって言ったんだけど、××さん（前のインタビュアー）が『関係ないから、飲んじゃえ』って勧めるんだよ～」と言い訳して、「今度、ビールをおごるから許して」ということで話は丸く収まった（笑）。

結局、数日後に再取材をすることになり、そのときは時間より前に来て、直立不動でわたしと編集者さんを迎え、「この間はすいませんでした！」と最敬礼で謝ってくれた。もちろん、ビールの約束も果たしてくれたんだけど、その場所にHIDEちゃんやPATAちゃんもなだれ込んできて、結局はいつもの飲み会になってしまったけどね。たしか、HIDEちゃんが「TAIJI、でかした。飲む口実を作ってくれて」って言ってて、それからしばらくTAIちゃんは取材をするたびに、「今日は飲む口実を、作らないようにするからね」なんて言って謝ってた。

ラウドネス～D.T.Rをやめてからは、報道されるニュースでしかTAIJIの動向を知ることはなかったけど、一度、「俺、また頑張るよ」って電話がかかってきたことがあった。つらい時期のことを直接知らないせいか、思い出の中にいるTAIちゃんはいつも笑顔だ。こんなお別れはとても悲しいけれど、今は彼が天国でまたベースを弾いていることを祈りたい。TAIちゃん、お疲れ様。RIP（※編集部注：安らかに眠れの意）。

×月×日

TAIJIの悲報から、約一週間後。一志くんの悲報が、飛び込んできた。デビューしてから2年くらいは、レギュラーで取材をしていたので、ほぼ毎月Kagrra,のメンバーには会っていた。印象に残っているのは、一志くんが写真集で初の小説を発表して、憧れの大槻ケンヂと対談をしたときのこと。取材が終わり、大槻くんが帰った後にいろいろなことをお喋りしたんだけど、「これからは、文章を書くことにも力を入れていきたい」と抱負を語っていた。彼の妖怪や怪談に対する探究心はとても深かったし、独特の歌詞の世界もオリジナリティがあって興味深かった。志半ばで旅立ってしまったのは残念だけれど、彼もきっと空の上で華麗に舞っているのだと思いたい。RIP。

×月×日

jealkbの取材。前回の取材のとき、うちの最寄りの地下鉄のホームで、dunchくんにバッタリ会って、同伴出勤（笑）したことはこの日記にも書いたよね。「まさか今日は、会わないよね」と思って地下鉄に乗ったら、隣の入り口付近に背の高い不審な男性が立っている。あちゃ～、また会っちゃった。結局、今回も同伴出勤（笑）。haderuくんに「一緒に歩くのが恥ずかしかったら、気をつかわずに置いてきちゃっていいんですよ」に言われたけど、dunchくん、普段も取材のときと同じく独特のテンポ感で面白いこと言うから、めっちゃ楽しいんですもの～。

×月×日

HOT WAVE LIVEが終わった後に、Hitomiくんとちらっと飲みに行く。Moranの取材はずいぶんしてるけど、ちゃんと話をするのはFatima以来。Viju☆Love☆NightでDJをやってくれたとき、「俺は、エクスタシーとフリーウィルで育ったようなもの」と話してたので、その頃の思い出話をいっぱい聞いちゃった。LADIES ROOMを何回か見たことがあるという話とか、懐かしトーク全開で楽しかったよ！

×月×日

Versailles・MASASHIくんのパーソナル・インタビュー。「僕、あんまりしゃべることないですよ」って言ってたのは、どこの誰!?　取材を始めた途端に、立て板に水の勢いで、流暢に話してくれた。一緒にいた編集者さんに、「今日の取材は、楽でしたね。あまり質問しなくてもよかったから」と、笑われてしまったくらい。寡黙なイメージのMASASHIくんだけど、「やるときゃやる！」のね（笑）。Jasmine Youくんとの思い出話を聞いたときには、なんだかジーンとき

ちゃった。同じ名古屋出身だし、10代の頃
り合いだから、「Youくんのために、Youく
に弾いてる気持ちです」って言葉が、すごく
た。今月8月9日は、Youくんの三回忌……。

×月×日

THE KIDDIEの取材。真っ黒に日焼けした
が、取材の間中、ずっと腕の皮をむいてた。
たの？」と聞いたら、「はい！」という元気の
佑聖くんってTHE KIDDIEでいちばんの夏男
バーを誘って海に行ったこともあるって言っ
ね。でも、海に行った翌日が写真撮影で、日
すのに、ヘアメイクさんが相当大変だったら
んか、小学生みたいに無邪気だな、佑聖くん

×月×日

ニュー・シングル「Heart of Gold」
Alice Nineに取材。今回は2曲が虎氏作曲の
くんよくしゃべる、しゃべる（笑）。おかげ
ビューも順調に進んだんだけど、やっぱり
につれて恒例の愚だ愚だ（←変換したら、
字が出てきたので、このまま使用……笑）ト
だいたい愚だ愚だになるのはNaoくんが口
沙我くんがダメダメ・トークの蟻地獄に
……というのが典型的なパターンなのだが、
まさにそのパターン！

取材時間は過ぎていたし、聞かなくてはい
とはほとんど聞いていたので、愚だ愚だの
ないと判断した時点で、「はい、今日の取材
強制終了！」と言って、録音機材のスイッチ
してしまった。これには、みんなも大ウケ
の強制終了って、新しいよね！」と将くんは
ていた……とHPの日記に書いたら、読者の
だ愚だトークって、いいですよね！」「Alic
てます！」と、大ウケ。今度、Alice Nine
だトーク特集でも、やろうかな。なにしろ、
困らないからね！（笑）。

http://ameblo.jp/gogob

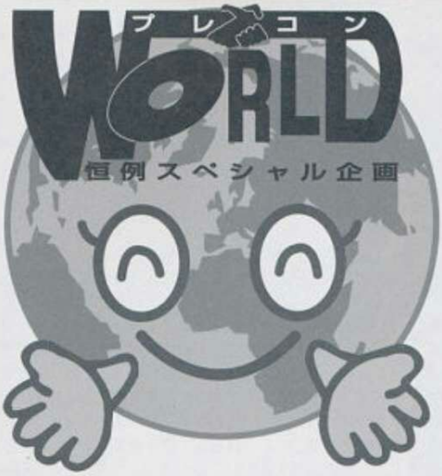
Bijuたん漫画blog

Go! Go!! Biju たん

毎週日曜日更新！
バンギャ猫Bijuたんと
仲間たちが繰り広げる
楽しいバンギャライフ!!

漫画／白夜

hudie.com



どうもこんにちは。学生のみなさんは、夏休みももうそろそろ終わるころでしょうか？　宿題は終わりましたか？　ぺろちゃんは、夏休み初日に宿題のすべてを一気に片付け、残りの休みを思いっきり満喫するタイプでした♪　性格的に、やらなきゃいけない事が残っていると、どうも心がモヤモヤして、何事も心から楽しめなくなってしまうようでして。今も、10日後が締め切りのフリーペーパーの原稿に着手出来ていないのが気がかりで…。早く書こう!!　さてさて、そんなわけで、今月の画伯さんの紹介です！　今月は…DのTsunehito君ですよ～☆

1 ナイトメア

サイン入りフォトを５名様に（誰のが欲しいか書いてネ）
※現物にはサインが入ります。

2 Alice Nine

サイン入りフォトを５名様に（誰のが欲しいか書いてネ）
※現物にはサインが入ります。

3 イヴ(ViViD)

サイン入りフォトを２名様に
※現物にはサインが入ります。

史(少女-ロリヰタ-23区)

ン入りフォトを２名様に
物にはサインが入ります。

aya(LM.C)

ン入りフォトを1名様に
物にはサインが入ります。

zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

⑩ v [NEU]

サイン入りフォトを3名様に
※現物にはサインが入ります。

⑧ HERO

サイン入りチェキフォルダを1名様に

⑥ 凛

サイン入りうちわを1名様に
サイン入りポスターを2名様に

⑪ DOG inTheパラレルワールドオーケストラ

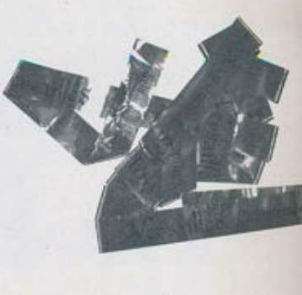
サイン入りフォトを1名様に(誰のが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります。

⑨ MEJIBRAY

サイン入りフォトを5名様に(誰のが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります。

⑦ Versailles

バンドロゴ入り銀テープ(渋谷C.C.Lemonホールに
1名様に



プレコンWORLDアンケート用紙 VOL.224

住所	〒 TEL ( )			
氏名	フリガナ	年齢		男・女

★A. よかった記事の番号を良かった順に3つあげてください。

1	2	3

理由

★B. 好きなアーティスト・バンドは？
( )( )( )

★C. 最近気になっているアーティスト・バンドは？
( )( )( )

★D. 今月号に対する意見・不満・または希望企画を聞かせて下さい。

★E. 希望プレゼントの番号(P136～137)

番

イラスト:Tsunehito(D)

アンケートのお願い

●アンケートに答えて、用紙を切り取り、はがきに貼って送ってね。コピー
●宛先は〒104-8228 銀座6－2－3 Daiwa銀座アネックス
音楽専科社 SHOXX 編集部 プレコン WORLD 係まで。
●締め切り：2011年9月21日当日消印有効
当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆今月の記事一覧（アンケート）

①ナイトメア ②the GazettE ③Alice Nine ④葵 ⑤イヴ(ViViD) ⑥総史(少女-
区) ⑦仙台貨物 ⑧AYABIE ⑨キラキラ☆サマー☆タイフーン!!Tour 2011 ⑩HERO
KIDDIE ⑫BORN ⑬凛 ⑭樹威 ⑮DaizyStripper ⑯ギルガメッシュ ⑰「
⑱Versailles ⑲maya(LM.C) ⑳9GOATS BLACK OUT ㉑jealkb ㉒BR
㉓SHOCK WAVE アポロ ㉔LOST ASH ㉕犬神サーカス団 ㉖ヴィデオ
㉗MEJIBRAY ㉘NightingeiL ㉙アヲイ ㉚NEGA ㉛FUTURISM-BOYZ ㉜R
[NEU] ㉞ゾロ ㉟アンド ㊱DOG inTheパラレルワールドオーケストラ ㊲早耳情報
魂!! ザ・ミッション ㊴アーティストBOX ㊵ロックンロール日記

Vol.225予告

月21日全国一斉発売!

のナイトメア特集、いかがだったでしょうか？　各メンバー今の想い】がギュッと詰まった、ロング・パーソナル・インビューは必見ですよ！　私自身、個々のインタビューを読んで、ぞれに思う所があり……。ナイトメアでやってみたい、新た画をいくつか思いつき、彼らの事務所に提案させてもらいま！　そして、その中から、さっそく一つの企画が来月号で実る事になりましたぁ～♪（パチパチ)。Ni～yaパーソナル。内まだ内緒ですが…絶対、素敵な写真&インタビューになるハ　また、みなさんもず～っと待ち望んでいるであろう、あの2対談企画もオファー中なので（ニヤリ)、楽しみにしていて下ね。(S)

源のサンプルを渡したい”と連絡があり編集部に来てくれた6月10日のこと。すでに出来上がっていたシングル『羅紗桜』って来た彼と、これまでとは違った方向での話もでき、改め鮮な気持ちになったのを覚えています。“今、『gozen』みたいンセプト・アルバムを作ってるんです”“連載、タイトルを少えて続けましょう”“今なら○○先生（作家）との対談もお願きるかも！”などなど、彼から出て来る言葉はワクワクするな未来のことばかり。次号で取材をするために、連絡しようっていた矢先の出来事でした。

になりたい”と常々言っていた彼。だけど鬼とは、人のネガティ想いが変形に変化したもの。願わくば彼を鬼にすることのなうに、彼の歌や言葉に想いを馳せていたい。

くんの御親族・関係者の皆様・ファンの方々にお悔やみ申しです。(A)

kbのミニ・アルバム『AGAINST』の取材。彼らのインタビューみがなく、とにかく軽やか。原稿になっていない部分でも、、ツッコミ、のりツッコミが飛び交っています（笑)。いつイターさんと爆笑しながら話に引きこまれてしまうのですが、し話の本筋からはほとんどブレることなく取材は進むのです。な話術にただただ感心。トーク力ってすごいなぁ。

[NEU] は“夏”をテーマにインタビュー。意外とメンバー間知らないことは多いようで、「マジで？」なんて驚きながら、わいと盛り上がっていました。よし、こういうインタビュー意みたいなので、またやってもらおうかな（笑)。(T)

表紙&巻頭特集は
X　Vol.225

e GazettE

よアルバム『TOXIC』リリース!!

ックナンバーを希望の方は、定価に送料（1冊＝¥140、2冊＝¥220、3冊以上は全て¥450）を加えて、たは小為替で、〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3　Daiwa銀座アネックスビル5F音楽専科社経理XXバックナンバーVol.○」（○の中に号数を入れる）係まで申し込んで下さい（ただし、付録ポスターい場合もあります。ご了承ください)。
くの書店でVol.225（9月21日発売）を買いそびれないようにするには、書店へ予約しておくと便利です。

バック・ナンバーのご案内

Vol.217
11年3月号 ¥1200

■Alice Nine巻頭&表紙18ページ特集■the GazettE 8ページBook in Book封入!!■シド■ナイトメア■ミヤ(ムック)■葵from彩冷える■ギルガメッシュ■一志(Kagrra,)■LUNA SEA■Kra■SuG■ViViD■THE KIDDIE■DOG inTheパラレルワールドオーケストラ■Kanon×TOKIO HOTEL■D'espairs Ray■12012■heidi.■Sadie

Vol.212
10年10月号 ¥980

■Alice Nine巻頭&表紙14ページ特集■the GazettE■シド■柩&咲人(ナイトメア)■Kagrra,■Lc5■葵 from 彩冷える■LM.C■ヴィドール■SuG■THE KIDDIE■ViViD■ギルガメッシュ■少女-ロリヰタ-23区■heidi.

Vol.218
11年4月号 ¥980

■咲人(ナイトメア)巻頭&表紙16ページ特集■シド■the GazettE■SuG■AYABIE■Kagrra,■ViViD■Over The Edge'10スペシャル対談■ギルガメッシュ■Moran■Mix Speaker's,Inc.■ヴィドール■jealkb■DOG inTheパラレルワールドオーケストラ■ダウト

Vol.213
10年11月号 ¥1250

■創刊20周年特別号■the GazettE巻頭&表紙18ページ特集■ムック8ページブックinブック封入■シド■ナイトメア■Alice Nine■Plastic Tree■Kagrra,■Versailles■LM.C■SuG■ViViD■heidi.■ギルガメッシュ■THE KIDDIE

Vol.219
11年5月号 ¥1200

■Plastic Tree巻頭&表紙12ページ特集■RUKI&戒(the GazettE)パーソナル・インタビュー■YOMI&Ni~ya(ナイトメア)■LM.C■ムック■武瑠(SuG)■怜我(ViViD)■Kagrra,■葵■Kra■ドレミ團■Sadie■SCREW■PENICILLIN■BREAKERZ

Vol.214
10年12月号 ¥980

■SuG巻頭&表紙16ページ特集■LM.C8ページ Book in Book封入!!■ナイトメア■Alice Nine■イガグリ千葉(仙台貨物)■Kagrra,■Lc5■THE KIDDIE■ヴィドール■Sadie■ViViD■Kanon×Kanon■BREAKERZ■jealkb■D'espairsRay

Vol.220
11年6月号 ¥980

■ナイトメア巻頭&表紙24ページ特集■the GazettE最新シングル最速インタビュー■有村竜太朗(Plastic Tree)■ムック■LM.C■SuG■Ko-ki(ViViD)■THE KIDDIE■少女-ロリヰタ-23区■真緒(Sadie)■ギルガメッシュ■DaizyStripper■Versailles■樹威■DOG inThePWO

Vol.215
11年1月号 ¥1200

■the GazettE巻頭&表紙18ページ特集■ViViD 8ページBook in Book封入!!■シド■Over The Edgeスペシャルセッション■ナイトメア■ムック■Plastic Tree■Alice Nine■AYABIE■THE KIDDIE■Lc5

.223
月号 ¥980

■the GazettE巻頭&表紙28ページ特集■ナイトメア・田峰フォーラム・レポート■YOMI&RUKAインタビュー■LM.C撮り下ろし特集■ViViD■Plastic Tree■ムック■DEATHBIE■メガマソ■ダウト■THE 東京 HIGH BLACK■"Peace & Smile Carnival 2011"スペシャル対談■マコト(ドレミ團)■ギルガメッシュ■Mix Speaker's,Inc.

Vol.222
11年8月号 ¥980

■SuG×ViViD巻頭&表紙18ページ特集■the GazettE横浜2デイズ・レポート■仙台貨物撮り下ろし特集■ムック■ViViD■AYABIE■LM.C■Lc5■kanon×kanon■v[NEU]■lynch.■Versailles■Moran■イベント「治[illegible]」[illegible]対

Vol.221
11年7月号 ¥980

■the GazettE巻頭&表紙22ページ特集■Alice Nine最新シングル・インタビュー&レポート■SuG■Kra■イガグリ千葉(仙台貨物)復活■零乃(ViViD)■葵■12012■ギルガメッシュ■HERO■ダウト■heidi.■人格ラヂオ■アンド■DOG inThePWO

Vol.216
11年2月号 ¥1200

■ViViD巻頭&表紙16ページ特集■YOMI(ナイトメア)■沙我(Alice Nine)■Plastic Tree■LM.C■D■ギルガメッシュ■D'espairs Ray■陰陽座■AYABIE■Mix Speaker's,Inc.■ゾロ■DaizyStripper■アンド■HERO■Waive■NoGoD■東京ミカエル。

zazhi.com
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

不良品種

花少年バディーズ

単独公演ワーツー2011秋
『Boys Ride Bicycle -幸福の十六文キック-』

9/4チケット発売開始!!

10/08(土) 札幌COLONY　10/10(月祝) 仙台HOOK
10/15(土) 宇都宮KENT -番外編『Back up the ビリー』-　10/16(日) 宇都宮KENT
10/21(金) 名古屋ell.FITS ALL　10/22(土) 大阪RUIDO　10/23(日) 博多Drum S

ワーツーFINAL -ハピネス仮面とチャリンコ侍-

11/05(土) 新宿BLAZE

オマケ公演 11/07(月) 浦和Narciss -番外編『アキのりみねむラ2011』-

LIVE DVD

電撃ボンジュール
-アタリハズレ江戸ハマヤマン-

9/28(水)BLOOM!!

HMBH-1074 ¥5,200(税込) 全15曲収録 発売元／販売元：Happinet
2011年6月15日に開催された花少年バディーズの赤坂BLITZライブを収録!
3月に発売されたミニアルバムの楽曲を中心に、バディーズ初心者も、上級者も楽しめる充実の1枚。

杂志迷
zazhimi.com

からのー このツアーにてしばらく活動休憩いたします♨

baddies.jp Happinet BadeggBox

蝴蝶网
hudie.com

ν[NEU]

まったり座談会『夏』
夏にまつわるゆる〜いトーク

杂志迷
zazhimi.com

ーデビュー記念の東名阪ツアーをはじめ、充実した夏を過ごしているν[NEU]。そんな彼らに夏にまつわるいろんな話を訊いてみたところ、夏が好きなのか、苦手なのか、いろんな話が出るわ出るわ、皆さん自由におおいに語ってくださいました。今年の夏は、9月2日に赤坂BLITZで盛り上がってしめくくることになるはずだけれど、来年の夏は野外ライヴで、皆で夏祭りを楽しめるかも!?

Interview：MIYUKI MURAYAMA

——夏の過ごし方としては、インドア派かアウトドア派か、どちらですか。
タクミ：僕は断然アウトドア派ですね。家にこもっていられないんです。商店街巡りとかします。探検するのが好きで。
みつ：釣りも好きです。
——釣りは夏がいいの？
タクミ：夏のほうが安全なんだよね。波の高さが変わるんですよ。冬は波が高くなっちゃうんで。
一同：ふ〜ん（あんまり興味なし）。
——（苦笑）他の4人は？
華遊：インドアで、夜行性ですね。暑いから昼間は寝てようかなって。
みつ：でも、夏のイベントは楽しいよね。花火とか海とか。
ヒィロ：普段は寝てるんですけど、そういうイベントのときは朝からフルに活動しますね。
Яe-：俺は意外と昼間から行動するタイプですね。けっこう早起きしちゃうから。気がついたら酔っ払って寝てるんですけどね。最近は汗をかくのが趣味で、サウナばっかり行ってます。サウナスーツ着て、日焼け止め塗って、自転車に乗って、ちょっと遠いところのサウナに行くんです。それでサウナに入って汗かいて、服に着替えて帰ってくるんです。
——華遊君は外に出ないんですか。
華遊：お祭りとかも行きたいんですけど、この髪（ピンクの髪）ってからまれるんですよね。
一同：（笑）

行くならどっち？「海派？　山派？」

——では、出かけるなら海派？　山派？
みつ：海でしょ。
ヒィロ：え、山じゃない？
タクミ：うん、山。
——え？　タクミ君は釣りが好きなんですよね。
タクミ：最近、山派になってるんです。登山ですよ。富士山に挑みたいんです。
Яe-：今年登るって言ってたもんね。誕生日に登るんでしょ。
タクミ：誕生日に登る予定が、ゲネプロが入っちゃった。
一同：（笑）
みつ：山って、何するの？
一同：（笑）
みつ：バンドやる前は、海に行かなかった？
華遊：行った。
Яe-：僕、昔はヤンチャしてて、海が似合う男でした。毎日のように、原付に上半身裸で海まで行ってました。それで焼けるんですよ。地元は恥ずかしいからTシャツはおって、途中のガソリンスタンドで脱いで。
——すごい格好ですね。
みつ：海はいいですよね。夜とかめちゃめちゃいいですよ。
華遊：海にいる自分が好きみたいなのってありますよね。海と僕、みたいな。
——山より絵になりますね。
ヒィロ：僕、両方好きかも。
みつ：いや、俺は海。学生の頃、高尾山登山ってやらなかった？　あれから何を学ぶんだろうって思ってました。
華遊：学ぶ学ぶ。
——何か学ぶことがあるそうですよ。
華遊：社交的になりますね。山を下りるときにウキウキしちゃって、知らない人にも話しかけちゃいますね。
みつ：それ、華遊君だけじゃない？
一同：（笑）

暑い時期に食べたくなる物

——暑いときに食べたくなるものは？
ヒィロ：逆に鍋とか食べたくなりますね。
Яe-：夏に鍋やるの？
ヒィロ：やるやる。窓ガーッと開けて、扇風機ガーッと回して鍋をグツグツ煮て。
みつ：出ました、リーダーの擬音。リーダーがしゃべるとき、ガーッとかギーッとか、音しか言わないからね（笑）。
一同：（笑）
ヒィロ：スタミナをつけたくなりますね。野菜とか豚肉とか鶏肉とか、ちゃんとしたものを食べたくなります。
みつ：俺はだんぜん麺類ですね。
タクミ：あ、わかる。
みつ：米が大好きなんで、普段は米しか食わないんですけど、夏は、冷やし中華とか素麺、そば、冷たい麺類を食べます。
Яe-：俺、辛いのが食べたくなるね。汗をかきたくなるんですよ。
華遊：去年北海道に行ったときに皆でジンギスカンを食べたんですけど、それが

蝴蝶网
hudie.com

——がっつり系ですね
みつ：夏だからスイカとかないよね。
タクミ：スイカ嫌いですね。あれは野菜ですよ。
みつ：タクミは野菜嫌いだからね。でも、夏と言ったらスイカでしょ。昔は、スイカを桶に入れて冷やして、ってあったでしょ？　物干し台のあるベランダでスイカ食べるとか。
ヒィロ：それ、昭和だよ。
みつ：イメージです、イメージ（照笑）。あとは、お祭りの出店だね。屋台とは別に、長机とか置いてあるところ。
ヒィロ：もつ鍋とかあるところでしょ。
みつ：イカとか。あそこで酒とかいいね。
Яe-：海鮮系が絶対美味しいよね。
——そこでビールとか？
Яe-：俺、ビールはあんまり飲まないんですよね。それより夏は、キンキンに冷やした白ワインとか。めちゃめちゃ美味いですよ。
みつ：みんなビール飲まないよね。あ、華遊君は飲むか。
華遊：今日はロックに行きたいっていうときはビールですね。僕の中のロックなイメージって、ひたすら生中なんですよ。

夏休みの思い出

——では、夏休みの思い出を。
ヒィロ：基本、千葉から出なかったですね。千葉の山の中に大慶園っていうところがあるんです。でっかいゲーセンとバッティングセンターとかがあって。千葉と埼玉と茨城のヤンキーが集まるんです。そこに連れて行ってもらってましたね。
みつ：何かもっとないの？（笑）　夏と言ったら恋愛でしょ。
ヒィロ：グループデートとか？
Яe-：俺、いっぱい行ったよ、水族館とか行くのすごく好きでした。
みつ：（爆笑）
——みつ君、笑い過ぎ（苦笑）。
みつ：似合わないじゃないですか。でも、ギャル男になる前だよね。
Яe-：もっと前。すごく純粋だったよね。素朴な感じだった。初めて恋したのが高校生の夏でしたね。ファーストキスも高2の夏でした。
一同：おお〜！
みつ：結構遅いね。

しかやりませんって。不器用だったんだよね、そのときの俺。
みつ：何それ、高倉健みたいなの。
一同：（笑）
みつ：俺は肝試しとかしましたね。30人ぐらいでペアを作って、お墓に行くわけですよ。好きな子同士が組み合わせにならなかったときは、わざとゆっくり歩いて次のペアを待ったりするんだよね。
ヒィロ：ちょっとついていけない。わかんない（苦笑）。
——タクミ君の夏の思い出は？
タクミ：合宿しかないね。学校で、島に連れて行かれて、3日間監禁されるんです（笑）。
みつ：タクミはあんまり感受性がないんで、景色を見てきれいとか思わないんですよ。だから花火とかも見ないよね。
タクミ：花火の良さが全然わからないです。
Яe-：音がいいよね。
みつ：見てる人たち皆で一体感があるのがいいよね。
華遊：わかる、感動するよね。
タクミ：そうかな……。あれ、正直さ、同じのが上がってない？
——違うと思いますよ（苦笑）。華遊君の夏の思い出は？
華遊：夏休みは、髪を染めたりしましたね。僕は髪を青とかにしてましたよ。GLAYさんの30万人ライヴにも行きましたね。北海道の野外であって。バイトでお金ためて、飛行機のチケットとかも自分で買って。
ヒィロ：それ、夏って感じするね。
華遊：そういうイベントができるバンドになりたいですね。
——今年の夏はどんな夏になりそう？
みつ：ワンマンツアーもありますからね。
Яe-：華遊君がGLAYさんのライヴに行きましたって言ってるみたいに、"夏休みの思い出は？"って聞かれたとき、"NEUのライヴ行って楽しかったです"って答えられるような子を増やしていきたいですね。
ヒィロ：来年の夏は、野外ライヴしたいですね。
華遊：夏祭り的なものにしたいよね。
ヒィロ：それができるぐらいデカくなりたいです。

杂志迷
zazhimi.com

he crazy policemen!!

12月、メンバーの脱退によりしばらくの活動休止が余儀なくされたZOROが、いよいよ動き出す!!　龍寺とたつひによるユニット形なった彼らは、9月21日にシングル「POLICE」をリリース、さらに1日には渋谷WOMBにてワンマン・ライヴも敢行する。ここに至るの二人のココロと、より純度を増した"ZORO"への想いを語ってた。

Interview:YUKA SUGIE

――年末の活動休止から半年…再び動き出すにあたっては、それ相応の決意が必要だったりもしたんじゃないかなと。

龍寺：いや、自分たち的には、そういうものはあんまりなくて。

たつひ：うん、そうですね。

繊細だからすぐには動けないだろうなと思ってたから、俺はその間、たつひのテンションを上げる素材を探しつつ。

たつひ：僕は、しばらく普通の人として過ごしてましたからね（笑）。

――そうでしたか。で、龍寺さんはど

すけど、ZOROの未来像とか、何パターンかの戦略とか…楽曲に関しては、たつひが昔作ってたデモがたくさんあったので、それに歌を入れ直したりしましたね。

――すると、次第にたつひさんのテンションも上がってきたと。

のことをよく分かってもらえてるんだな、って思いました。

――とはいえ、龍寺さんもヘコんだりしなかったんですか？

龍寺：2日間だけヘコみました。活動休止を発表したのが12月29日だったんですね。

龍寺：そうなんです。1日ぐらいになって、やるしかないな、みたいな感じになっちゃったんで。

――もちろん、29日の時点で〝ZOROとしての活動は続ける〟とは言っていましたが、まだまだやりたいことが、やれることが溢れているということですよね。

龍寺：まさに。その部分では困らなかったというか。

――変な意味ではなく、2人になって身軽になった、とも言えますか？

龍寺：考え方として、それはありますね。

――迷いはなかったですか。

たつひ：なかったです。逆に、2人のほうが好き放題できるかなって。

――シングル『POLICE』は、まさにその通りとなったわけですが…エレクトロな、テクノな方向に突き抜けているなと。

たつひ：僕たちがやりたい音楽はこれだよね、って。

龍寺：特に深い話し合いもなかったしね。

――しかし、なぜ〝POLICE〟なのかという謎があるわけです。

杂志迷 zazhimi.com
hudie.com

突然言われたんです。

龍寺：アメリカの警官が、ふと俺の頭の中を支配したんですよ。その瞬間、たぶん言ったんです。〝「POLICE」みたいな曲、よろしく〟って。

——たつひさん、聞き返さなかったんですか？

たつひ：聞き返さなかったですね。「POLICE」カッコイイじゃんって、僕も思ったんで。

——…驚きのシンクロ率っ。

たつひ：そういうの、よくあるよね。最近はホント、キーワードをすごく言ってくるんですよ。この前も、急に電話がかかってきたと思ったら…〝次、スラム街だから〟とだけ言って、電話が切れて。

——イタ電かと思いますよ⁉

龍寺：…その時に浮かんだことを、すぐに伝えたくて。曲作りの仕方が変わったんですよ。〝こういう曲を作っていこう〟っていう打ち合わせはしないで、キーワードに沿った楽曲を作っていくので。

たつひ：僕的には、そういうほうが逆に作りやすいし。効率は上がってます。

——感覚派というか、超右脳派な2人なんでしょうね。

——話を戻すと…「POLICE」の〝もう一人〟という言葉も、気になるんですよ。

龍寺：今回、僕が言葉を引っ張ってきた大元は、新しいアーティスト写真のヴィジュアルなんですよ。ダルそうで、不真面目な警官のイメージがあって。でも、夜はDJユニットとして夜の街で自分を解き放つ…それが、〝もう一人の自分〟なんです。自分の中の二面性を描きたかったんですよね。たまには〝もう一人の自分〟を出しちゃってもいいんじゃない？って。

——ちなみに、お互いの二面性、知っていたりもしますか？

たつひ：…龍寺くんは、二面性あるよね。

龍寺：まぁ…確かに。人と喋ってる時と喋ってない時の差が、すごく激しいからね。

たつひ：そうだね。

龍寺：仕事の時は体育会系でスパルタだけど、仕事じゃない時は適当だったりするし。あと、俺、オトメになるよね。

たつひ：物買う時とか、悩むもんね。

龍寺：そう！ でも、変な方向に話が転がって盛り上がってる時に、落ち着かせるための冷めた一言を言ったりとか。た

打になったりするし。

——そういう2人の姿勢がよく表われているのが、〝攻める事しか考えていない〟というフレーズですよね。

龍寺：まさに、そうです。ホント、今は攻めることしか考えてないですからね。

——センチでメロウな「more」には、…それもまた、生々しいなと思いますし。未来を模索するような言葉も見えますが

龍寺：2月にたつひに会ったときに、俺がメロディを持っていったんですけど…デモ段階から、こういう感じの歌詞だったんですよね。唯一、日本語で。やっぱり…不安はあったんでしょうね。前に進んではいたけど、12月29日のことはすぐ忘れられるようなことじゃなかったし。その時の感情は、すごく入ったかな。

——龍寺さんの歌詞って、独特な言い回しや表現が多いように思いますけど…だいぶ素直に綴られていますしね。

龍寺：…ふ純粋だと思います。たぶん、1回リセットしたかったのかなとは思う。

たつひ：僕が歌詞をちゃんと読んだのは、レコーディングの時だったんですけど…龍寺が〝これは僕たちのことだよ〟って。いちばん最後にミックスしたんですけど、

龍寺：うん（笑）でも、自分にはメロディ重視の曲作りしか出来ないから、より表情を豊かにしてくれるたつひに、俺は感謝してます。

たつひ：え（照）。…最初はもっとバンドっぽい音だったんですけど、ちょっと浮くかもと思って、他の2曲に寄せたんですよね。この曲だけ生ドラムなんですけど、ウマく混ざったかなとは思います。

——そういう自由度がとことん暴発したのが、「109」な気はしますね。

たつひ：かなり初期のころにあった曲なんですけど…昔僕たちがよく行ってた洋服屋さんでかかってそうな音楽を作ろう、って言って作ったんです。

龍寺：ちなみに、タイトルは〝ドッグ〟って読むんですよ。

——もしかして…歌詞の中で〝装飾〟と思いきや〝草食〟という言葉をはめているのも、何かしらの思惑があってのことですか。

龍寺：初期段階は、〝装飾〟だったんですよ。

たつひ：でも、〝ライターさんとか、絶対食いついてくるよね〟って言って、変えたんだよね。

人兄弟の長男の…です。身長は109cmです。周りのオトナたちは、産まれたての末っ子を肉食的に溺愛する一方で、自分には草食的な愛しか与えないので…こういう歌詞になるんです。

——すごーくやさぐれてますもんね。

たつひ：僕、このやさぐれ感が大好きですよ。

龍寺：やさぐれ感…確かに（笑）。俺たち、バタフライナイフだからね。持ち手は2つだけど、刃はひとつっていう。

——その刃、ますます研ぎ澄まされちゃいましたね。10月1日には、渋谷WOMBでワンマン・ライヴが開催されますが…タイトルはなんと、〝死刑〟だとか。

龍寺：やっぱり、みんな食いつくだろうなと（笑）。〝POLICE〟から派生して、ライヴしたいな…じゃあ、死刑！って。

——極端っ。

龍寺：たつひがキャッキャしてたもんね。

——止める人もいないし。

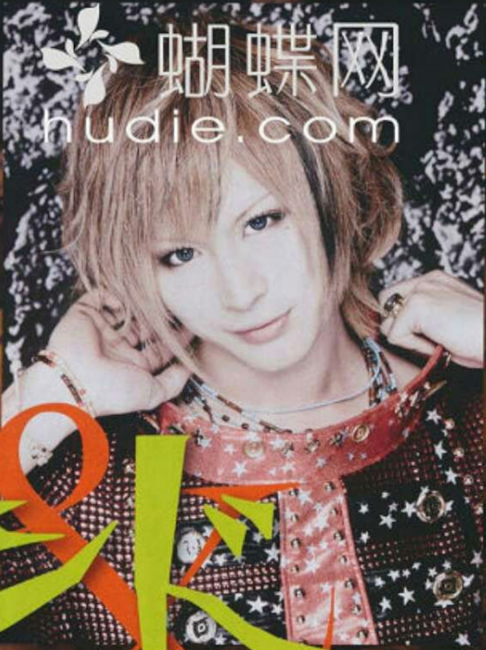
たつひ：そうですね。でも、2人だからこそ出来ることをやりたいですからね。

龍寺：ライヴだけどショウを目指して作りたいなと思っているので。楽しみにしていてください。

攻めるしかない!!

蝴蝶网 hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com



アンド

-ECCENTRIC AGENT-

ジャー第一弾シングル『BLAZE』リリース!!

引き金を引いた先を見せられたと思う

6月に行われたワンマンライヴのファイナル公演でメジャー宣言をしたアンド。
退屈なメジャーシーンを変えるべく、彼らが取った行動とは、
新作『BLAZE』にて世の中に衝撃を与えること。
今まで以上に過激になっていくアンドの世界観に、
エージェントたちは度肝を抜かれることだろう。秋には、
六大都市単独巡業任務［殴り込み］TOURも決定。心して取りかかるように！

杂志迷
zazhimi.com

Interview:ERI MIZUTANI

蝴蝶网
hudie.com

――まずは、メジャー任務への率直な感想を、お1人ずつお願いします。

KAJI：やっぱり、フィールドが変わるわけだから、今までの自分のスタンスじゃ通用しない部分も出てくると思うんです。なので、今後はよりいっそう努力をしていくことを心に決めました。そうでないと、殴り込みと謳っている意味がないんで（笑）、そこに見合った力を付けていくことが当面の目標ですね。

けん：メジャー任務でも、根本的なスタンスは変えずに自分らしさを出していけたらなと。ベースプレイにしろ、作曲面にしろ、今までの自分を越えていきたいと思っています。それができて初めて、かっこよくなるのかなと。

[illegible]ジャー任務は、中身を濃く[illegible]いきつつも、よりハッキリとアンド[illegible]ものを出していくためのツールな[illegible]いなって。新曲を聴いてもらえ[illegible]と思うんですけど、変わることを求めてやっているわけではなく、今まで[illegible]ていたことプラス、今までやりたくてもできなかったことを形にしているんだなって感じてもらえると思うんですよ。なので、プレッシャーを感じるよりも、これから何ができるんだろうっていう前向きな気持ちしかないですね。とにかく、今はすごくワクワクしています。

キリ：自分としては、メジャー任務宣言してからも特に変わりはなくて。ただ、そこで活動する以上、アンドの曲をよりたくさんの人に聴いてもらえるのだなと思うと嬉しさを感じますね。俺らを知らなかった人が、俺らの世界観に触れてどう思ってくれるんだろうっていうのを想像するだけでとても楽しみ。だから、今後の皆のリアクションが気になります。

郁磨：俺もみんなと同じ気持ちです。俺って、節目のライヴをやると、何で自分はバンドをやっているんだろうって思うんですよ。今回は、ツアーファイナルでメジャーにいくことを発表できた。変化を求めてメジャーというステージを選んだわけではないんですけど、色々な人にこの4年間やってきたことを知ってもらえるチャン

うし、殴り込みに行くからにはそれなりの意識を持ってやっていきたいですね。

――その割には、メジャー任務宣言したとき大泣きでしたけど。

郁磨：……それは錯覚です（笑）。

――さて、9月14日には待望のニューシングル『BLAZE』がリリースされます。そういえば、メジャー任務が発表されたのは、新宿BLAZEというライヴハウス。これは、曲と何か関係が？

郁磨：新曲では、自分たちの信念を描きたいと思っていたんです。そこから色々と言葉をチョイスしていったんですけど、そうした中、BLAZEという単語に辿り着いて。くしくも、俺たちがメジャー任務を宣言した会場と同じであり、あの日、強い信念を発表しただけに、その思いを忘れないよう、タイトルに込めました。

――なるほど。だからといって、落ち着いていないのがすごい。メジャー1stシングルなのに、今まで以上に暴れていますからね。

けん：アンドってこういうバンドなんですよ（笑）。まずここで、自分を越えないといけないという気持ちが大きかったし、とにかく衝撃を与えたいなと思ったんですね。俺たちが今までやってきた音楽で、どうしたら世の中の人に衝撃を与えられるかというのをキーワードにして曲を作っていきました。

――この曲、ドラマーの体力を試している感じがします（笑）。

KAJI：最初にデモを聴いたとき、これはないだろって思いましたから（笑）。それほど、速い曲なんですけど、俺の得意とするところでもあるので、だったらスーパープレイを聴かせてやろうじゃないかという思いで叩いていきましたね。

けん：そこに合わせてベースを構築していったんですけど、刻みが大変でした。これはギターをメインにしたかったので、自分の音は奥の方で頑張っているんだよって感じが出せればいいなと。色々なギミックも入っているので、そこも注意して聴いてもらいたいです。

PECO：もうライヴでもやっているんですけど、既にアレンジが変わっているん

なに変化するとはビックリですよ

PECO：発売は9月ですからね（笑）。でも、そうやって変わっていくのっていいことだなって。やっぱり、新曲を出して、はい終わりっていうのは嫌なので。そこでいかにして変われるかっていうのは重要だと思うし、そうやって良い感じに変えられることができる曲って本当に良いものなんじゃないかなと思います。

キリ：破壊力満点なだけに、ここから切り開いていくっていうのが感じられる曲だと思いますね。また、激しい部分から一転して緩やかになる部分では、ドラマティックな感じがして面白いかな。こうして簡単に終わらないところがアンドらしいと思うし、ひとつのストーリーとして聴きごたえ充分な曲だと思います。

――その中で、キリさんがこだわりを置いたところというと？

キリ：刻みですかね。今までにない感じに仕上がっているので。あとは、激しさの中で見せる一体感、ここも重要ですね。

郁磨：対比がかっこいいんですよ。シャウトが全体を通して出てくるので、そこでロックさを感じてもらいながらも、歌メロの部分では切なく聴かすという。そのギャップ感をハッキリと見せたかったので、どちらもとことんやってやりました。シャウトで言うなら、「砕～cross border～」のときより激しくして。

――そう思うと、『TRIGGER』を制作して良かったですね。そこで学んだことがこの曲にはよく表れていますから。

郁磨：継承していますよね。引き金を引いた先、それがここで見せられたと思います。

――そして、「another face」では、PECOさんが作詞作曲を手掛けられていますが。

PECO：アンドにありそうでなかった曲というか。ライヴでやる際、雰囲気で暗くできる曲っていうのが欲しかったので、アタマの同期とかも暗くしてみました。

――全体的に、もどかしさが漂っていますよね。

PECO：あぁ、そうですね。歌詞も完全に完結するわけではないので。

――そういったモヤモヤ感を、みなさん

までPECOの世界観を生かすことなので、残り10パーセントで俺のやりたいことを入れていったんですけど、狙いどおり、ずっしりとした芯の通った曲になったと思います。

PECO：リズム隊の2人は、俺がやりたいことを最大限に表現してくれたので、どちらか一方が良いというよりかは、お互いが混ざったときが最高にかっこいいなと思いますね。

――大人の雰囲気が出ています。

KAJI：そうですか、俺が大人ですか。

――そういうところが、子どもです（笑）。

PECO：ははは（笑）。ギターは敢えてきっちりとはしていないんですよ。よく聴いてみるとわかるんですけど、ノイズが鳴っていたり、ちゃんと止まっていなかったりしますからね。

キリ：このドロっとした感じを出すためにはそうすることも必要かなと。あとは、どうシンプルに聴かせるかっていうのが自分なりのテーマでした。詰め込みすぎていない分、それぞれの音が見えやすくなっていると思います。

郁磨：歌に関しては、歌詞が持つ感情的な部分を引き出して歌ってほしいと言われていたので、俺が感じたもどかしさ、負の想いを露にしていきました。わざと美しさを出さないことで、伝わるところがあるんじゃないかなと。これは空間を感じながら聴いてもらいたいですね。

――また、Bタイプに収録される「Dear Liar」は、前の2曲とはまるで違って。

けん：「BLAZE」ありきで作った曲なので、今までの良さはもちろんのこと、バンドの成長を感じてもらえると思います。

郁磨：まずは、この作品で衝撃を与え、この後に始まる「殴り込み」ツアーでは、アンドが掲げる攻撃的な姿勢を、これでもかというぐらいに見せていきたいですね。

――相当な気合いじゃないですか。

郁磨：ええ。ファイナルとなる赤坂BLITZでは、来てくれる全員を巻き込んでヤバいライヴにしたいと考えているので。今まで以上に血走った様子を見せてやりますよ。

杂志迷
zazhimi.com

春 Vo

DOG inThe PWO

パラレルワールドオーケストラ

What do you do TONIGHT?

綴菜（Dr）が加入し、新たに5人編成となったDOG inTheパラレルワールドオーケストラが、8月9月と2ヶ月にわたりシングルをリリースすることが決定!! まずは8月31日にリリースとなる「SPEED TO NIGHT」は、"今"をとことん大事にする彼らの強い意志が描かれている。新たに"5人でしか出来ないこと"を追求する彼らへのインタビュー!! 9月からは東名阪ワンマン・ツアー「犬NIGHTカーニバル」開催も決定!!

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)
Hair & Make-up:AZUSA KOBAYASHI
Interview:TAKAYUKI MURAKAMI
Location Thanks:パセラリゾーツ銀座店(☎0120-759-418)

――まずは、綴菜さんが正式メンバーに決まった経緯を、お願いします。

春：僕らは4人だけで活動していこうと決めていたわけではなくて、ずっとドラマーを探していたんです。なかなか良い人が見つからない中で、綴菜がポンと現れて。元々知り合いだったこともあって、"どう？"と聞いたら"いいよ"ということに決まりました（笑）。

綴菜：DOG inTheパラレルワールドオーケストラ（以下DOG）は、ヘンな人たちの集まりだな…っていう印象を持ってました（笑）。でも、曲がすごく好きで、よく聴いていたので、話をもらった時はやりたいなと思いました。みんなと会って話してみると、すぐに溶け込めたし、これからいろいろ楽しいことが起こる予感があってワクワクしています。

準々：会った時にまず、可愛いなと思いました（笑）。一緒にスタジオに入った時も楽しかったし、すごく気持ちのいい

メイ：僕の中には、ドラマーの理想像があるんですけど、綴菜はそのものの人です。ルックスもドラムの腕前も人柄も、もう全ての面が理想的で、加入が決まった時は本当に嬉しかったです。

ミズキ：まずは、ドラマーとしてすごい人だなと思いました。その後、内面を知ってみると、すごく気さくな人だし、すぐDOGにも打ち解けてくれて。いい兄ちゃんが一人増えた感じがして、今はすごく嬉しいです（笑）。

――シックリきたんですね。8月31日に、新体制での第一弾シングル「SPEED TO NIGHT」がリリースされます。

準々：1stアルバムの「ONE」が完成した頃から、その後のリリース予定は決まってて、8月と9月のシングルは、こういうものにしたいっていう構想が僕の中ではあったんです。「SPEED TONIGHT」は、DOGの中でいちばん速くて、いちばん悪そうな曲を目指して作りました（笑）。

準々 Gt

か。"未来"ではなくて、"今どうするか"を書こうと決めていました。僕の中では「SPEED TONIGHT」と、前作の「Fun!Fun!Tomorrow!!」はセットなんです。実を言うと「Fun!Fun!Tomorrow!!」で綴菜はすでにドラムを叩いてて、その時点で5人になることは視野の中に入っていたので。4人でやっていたことが5人でも出来ることを証明するのが「Fun!Fun!Tomorrow!!」で、4人では出来なかったことを「SPEED TONIGHT」で5人で披露する、という流れが僕の中にあったんです。そういうことも踏まえて歌詞を書きました。

ミズキ：この曲は、とにかくテンポが速いし、しかも自分は若干走り癖があるので、この上に走ったらもう大変なことになると思って（笑）。心を落ち着かせつつ、勢いのあるギターを弾くことを心掛けました。それが今回の課題で、苦労もしましたけど、また新しいところにいくことが出来て良かったです。

メイ：準々からデモをもらった時に、今

hudie.com
杂志迷 zazhimi.com

メイ Ba

ミズキ Gt

緩菜 Dr

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

望があって。ここまで忙しくて、ツラいリフは初めてだったのに、リフ以外のパートも、すごく忙しくしてしまって（笑）。もう過去最高にベースが忙しくて、激しい曲になっています（笑）。

緩菜：この曲は、とにかく勢いや疾走感を出すことを意識しました。ただ単純に速いだけの曲は、聴いてて面白くないじゃないですか。速い中に、ゆったりした要素があることで、より疾走感が際立つな…というのがあるし、そういうことを踏まえた結果、狙いどおりのドラムになったかなと思っています。

準々：今回はテンポが速いことが心配だったので、レコーディング前にちゃんと練習しました（笑）。でも、最初に弾こうと思っていたギター・ソロが弾けなかったんです。それで、先に他の曲を録って、忘れたフリでいいかなと思っていたら、〝どうするの？〟と言われて（笑）。だから、（最初と違う）ロックっぽいソロを弾いたら、それは違うと言われて。〝あと2回録ってダメだったら諦めした（笑）。

春：最近は、歌録りがすごく速いんですよ。前は、いろんなところが気になって何度も歌っていましたけど、最近はそのまま〝ボン！〟と歌って、〝気になるところ、ありますか？〟みたいな感じになっています。ここに来て、周りの人たちに歌が聴けるようになったと言われるけど、自分では分からなくて。聴いてくれた人の声を聞きたいなと思っています。

準々：カップリングの「Magical Magic」は、なぜこういう曲が出来たのか覚えてない…（笑）。たぶん、〝今までのDOGになかった曲調のものをやりたいな〟という想いがあったんだと思います。シャッフル・ビートの曲はやってないからいいかなと思って作った結果、新しい顔を見せられて満足しています。通常盤に入っている「ドリームシャワー」は、9月に出すシングルの表題曲をにらんで作ったんですけど、これはカップリングのほうがいいなと思って、今回入れることにしました。

”未来“よりも”今“を描こう

春：「Magical Magic」は、恋って魔法だね…みたいな歌詞です（照笑）。

——顔、真っ赤ですよ！（笑）

春：恥ずかしい…（笑）。いや、最近マジメな恋愛とか本当の愛って、何だろう…とか思うんです。例えば、結婚して長

楽しいから恋愛するんだろうと最近思うわけです。それを、〝シンデレラ〟とか〝眠り姫〟といったオブラートで包んで書きました。「ドリームシャワー」は、綴菜と初めてライヴをした日に大阪で書きました。その日は雨が降ってて、〝そうい

しました。ホテルが綴菜と同じ部屋だったんですけど、綴菜は横で寝てて。綴菜の寝顔を見たり、ちょっと散歩に行ったりした後、一気に書き上げました。

——あ、あのぉ、この曲の〝キミ〟というのは綴菜さんのことでは…。

準々：えっ、そうなの？

一同：気にしなくていいから！（笑）

メイ：「Magical Magic」のベースは超歪んでて、汚い音なんです。ビートを立たせるために、敢えてそういう方向でいくことにしました。そうすると演奏が難

すごく気に入っています。自分の味をうまく入れられた感じがあるので、今回のシングルは、いいベースが録れたと手応えがあって納得しています。

ミズキ：「Magical Magic」みたいな曲をやるのは初めてだったので、かなり思考錯誤しました。でも、そういう中でアームを使ったり、歪みを落とした音で弾いたり、新しいことに挑戦できて楽しかったです。「ドリームシャワー」は、シンプルにして他の曲と差をつけたいな…っていうのがあったので、逆にストレートなギターを弾いています。

綴菜：「Magical Magic」のドラムは、準々と連絡を取りながらフレーズとかを考えていったんですけど、結構時間がかかりましたね。それに、ハネたビートはちょっと苦手なので上手く録れるかなと心配だったんですけど、わりとスンナリいって良かったです。今回の中では、「ドリームシャワー」がいちばん苦労しました。この曲はキメがすごく多いんですけど、それが全然決まらなくて。録りながら泣きそうになりました（笑）。でも、いい勉強になったなと思います。

準々：カップリングのギターは、本番を弾いてる最中に、どんどんフレーズが省力化されました（笑）。今回はそういうことが多くて、いつもと違って隙間を活かした音像になっているので、そこも味わってもらえれば…と思います。

——「SPEED TO NIGHT」も聴き逃せない1枚になりましたね。

準々：なりました。このシングルを聴かないヤツは肥えだめです（笑）。

メイ：〝肥えだめ〟って、人じゃないし（笑）。

——とにかく聴けと（笑）。「SPEED TO NIGHT」の後、9月にもシングル・リリースがあり、東名阪ワンマン・ツアーと、DOGの進撃は続きますね。

春：9月のツアーは、5人になったDOGが狙いに狙ったライヴをすることになります。毎回セットリストを変えて、違うテイストのライヴをしようと思ってるんです。全部観ても飽きさせない自信があるし、綴菜が加入してDOGは確実にパワーアップしているので。今までてい

愛狂います。× AUBE × α【:alph

通信販売完全限定 SHOXX オリジナルCD

スペシャ
サイン付
激レア生写

蝴蝶网
hudie.com

2011年8月20日 土曜日より予約開始!

SHOXX 通販限定発売！サイン付き激レア生写

【商品体裁】CD　ブックレート8ページ(オールカラー)撮りおろし写真
【価格】1,500円(税込) 別途送料600円 【予約受付期間·商品発送期間】
●受付期間2011年8月23日 土曜日より受付開始～2011年9月24日消印分にて予約〆切
●商品発送2011年9月下旬

【お申し込み方法】
※お支払いは、お近くのセブンイレブン·ローソン·ファミリーマート各店で出来ます。商品は宅配便にてご自宅に届きます。

★郵便振替てのお申し込み:お近くの郵便局に備え付けの郵便振替用紙に必須事項を記入の上、
定価に送料を加えた代金(1セット:定価1,500円+送料600円=2,100円)をお振り込み下さい。
郵便振替口座番号:0018-9-603494
加入者名:㈱音楽専科社
通信欄:「愛狂います。× AUBE × α【:alpha】CD」
振込人住所氏名:あなたの住所(マンション/アパート名、部屋番号を正確に。引越しされる方は
現住所の他に移転先の住所も記入して下さい)、氏名。電話番号を忘れずにご記入下さい。

口座番号	00180-9-603494
加入者名	㈱音楽専科社
通信欄	愛狂います。× AUBE × α【:a
ご依頼人住所氏名	(郵便番号　　) あなたの住所・氏名・電話番号 (電話番号　　)

杂志
zazhi.com

販売:㈱音楽専科社 〒104-8228東京都中央区銀座6-2-3 ダヴィンチ銀座アネックス5F TEL:03-3574-0201 FAX:03-3574-8548 http://www.ongakusenkasya.co.jp

2ヶ月連続リリース決定！！

1st single「追いかける 人」 2011年11月2日発売 EMD-002

2nd single「逃げる 人」 2011年12月7日発売 EMD-003

杂志迷
zazhimi.com

ELE-MUSIC

ドメスティック Official Site / http://www.domestic-site.in/

Total Information / ELE-MUSIC (http://ele-music.com/)

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

ねぇねぇ、「ドメスティック」って知ってるー？

Live schedule

2011.09.12 CLUB 3STAR IMAIKE
2011.09.16 心斎橋 FANJ twice

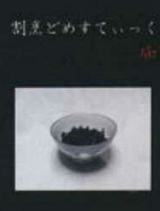
2011.10.05 池袋 BlackHole
2011.10.06 名古屋 MUSIC FARM
2011.10.08 HOLIDAY NAGOYA
2011.10.09 心斎橋 FANJ twice
2011.10.20 名古屋 ELL.SIZE
2011.10.21 渋谷 STAR LOUNGE

2011.11.04 神戸 KING CROSS
2011.11.05 心斎橋 FAN J twice
2011.11.06 京都 FAN J
2011.11.07 名古屋 CLUB UPSET
2011.11.12 浜松 FORCE
2011.11.26 目黒鹿鳴館
2011.11.28 仙台 Hook

New Mini Album「割烹どめすてぃっく ディナー」
2011年8月3日発売 御会計 2,415円(税込)

御品書
壱品目、店長 or リストラ候補
弐品目、溺愛シミュレーション
参品目、ゆうひ de ダンス
四品目、リプレイ外し
伍品目、ハレトキドキ涙
六品目、激情ストイック（お土産トラック）
EMD-001

1st Mini Album「割烹どめすてぃっく 昼食」
※ライブ会場限定版 御会計 2,100円(税込)



御品書
壱品目、ラスト・ザ・店長候
弐品目、栄ラブストーリー
参品目、サヨナラ裏事情
四品目、青春浪漫チック
伍品目、バトル・オブ・冬
六品目、ロリィタの女
DTCD-101

zazhimi.com

tle HEARTS. 3rd Anniversary Special Event Live

MY little HEARTS Vol.3
Special Edition

11.04 FRI Zepp Sendai

OPEN/16:00 START/17:00【チケット料金】前売 1F オールスタンディング・2F 指定席：¥4,800（消費税込み）ドリンク代別途
当日 1F オールスタンディング・2F 指定席：¥5,800（消費税込み）ドリンク代別途
※3 歳以上有料、3 歳未満入場不可【問い合わせ先】キョードー東北 022-217-7788

11.06 SUN STUDIO COAST

OPEN/15:00 START/16:00【チケット料金】前売 / スタンディング：¥4,800（消費税込み）当日 / スタンディング：¥5,800（消費税込み）
※3歳以上有料､3歳未満入場不可【問い合わせ先】ディスクガレージ 03-5436-9600

NIGHTMARE/AYABIE/Sadie
vistlip/D/THE KIDDIE/他。

【第二弾先行販売】8 月 22 日 (月)10:00 ～ 9 月 4 日 (日)23:00【PC/mb】http://eplus.jp/mlh3-fly2/
各出演者 HP 先行 (追加先着受付)9 月 21 日 (水)12:00 ～ 9 月 23 日 (金)23:00【PC/mb】http://eplus.jp/mlh3-web2/

【一般発売日】2011 年 9 月 25 日 (日)

10.14 FRI 渋谷O-EAST

OPEN/16:00 START/16:30【チケット料金】前売：¥4,000（消費税込み）当日：¥5,000（消費税込み） ドリンク代別途
※3歳以上有料､3歳未満入場不可【問い合わせ先】チッタワークス 044-276-8841
【チケット発売所】チケットぴあ：0570-02-9999(P コード：147-404)/ ローソンチケット：0570-084-003（L コード：77945）
イープラス：http://eplus.jp little HEARTS.：022-264-8003

10.16 SUN 仙台CLUB JUNK BOX

OPEN/16:30 START/17:00【チケット料金】前売：¥4,000（消費税込み）当日：¥5,000（消費税込み）ドリンク代別途
※3 歳以上有料、3 歳未満入場不可【問い合わせ先】キョードー東北 022-217-7788
【チケット発売所】チケットぴあ：0570-02-9972(P コード：147-733)/ ローソンチケット：0570-084-002（L コード：23157）
イープラス：http://eplus.jp little HEARTS.：022-264-8003

idi. / THE KIDDIE /DOGinThe パラレルワールドオーケストラ
x Speaker's.Inc. / v【NEU】（東京公演のみ） / ユナイト（東京公演のみ） / MEJIBRAY（東京公演のみ） / MoNoLith（仙台公演のみ）

】2011 年 8 月 27 日 (土)

【総合問い合わせ】チッタワークス 044-276-8841（平日 12:00 ～ 13:00 / 16:00 ～ 19:00）

---

tle HEARTS. Official website http://littlehearts.jp/

杂志迷 zazhimi.com
蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

little HEARTS.

http://littlehearts.jp

〒980-8546 宮城県仙台市青葉区一番町3-1
仙台フォーラス7F
営業時間 OPEN 10:00 / CLOSE 20:30
TEL 022-264-8003 ※年中無休

8/24 Release MEJIBRAY
NEW RELEASE SINGLE 「KILLING ME」
¥1,575 [CD] 01.KILLING ME 02. 刺靨 03.APOCALYPSE

9/7 Release Alice Nine
NEW RELEASE SINGLE 『Heart of Gold』

9/7 Release NIGHTMARE
NEW RELEASE SINGLE 『SLEEPER』

9/7 Release THE KIDDIE
NEW RELEASE LIVE DVD
THE KIDDIE Happy Spring Tour 2011
「kid's now」 TOUR FINAL

8/24 AYABIE
SINGLE 『流星』
初回 A ／初回 B 各 ¥1,890 ／通常盤 ¥1,260

8/24 NightingeiL
SINGLE
『Dark Word』
¥1,575
アーティストフォト集合

8/24 HERO
SINGLE 『25 億秒の使い方』
初回盤A／初回盤B 各 ¥1,988 ／通常盤 ¥1,260

8/24 SOMATIC GUARDIAN
SINGLE 『LOVE & PEACE』
TYPE-A ／ TYPE-B 各 ¥1,575

8/31 Jackman
SINGLE 『Burning Crash』

8/31 凛
FULL ALBUM 『independent 「MAZE」』
TYPE-A ／ TYPE-B 各 ¥3,675

8/31 DOG inThe パラレルワールドオーケストラ
SINGLE 『SPEED TO NIGHT』
初回盤 ¥1,890 ／通常盤 ¥1,260

9/7 イロクイ。
LIVE DVD
『鋼鉄の空と涙と夢とプライドと君』
¥4,500

9/7 Cu[be]
SINGLE 「Twilight ST★R」 ¥1,575

9/14 BORN
SINGLE 『Psycho』
初回盤 ¥2,625 ／通常盤

9/14 SCAPEGOAT
SINGLE 「EVERGREEN」 ¥1,890

9/28 FUTURISM・BOYZ
MINI ALBUM 『New period』
TYPE-A ／ TYPE-B 各 ¥2,625

10/5 Called≠Plan

11/30 NEGA
SINGLE 『DELUGE』
豪華盤TYPE-A ¥4,200 通常盤TYPE-B ¥2,100
通常盤TYPE-C ¥1,680

INSTORE EVENT

INSTORE EVENT little HEARTS.で開催されるインストアイベントのご案内。

トークの部の定員数が増えました。
70名から**90名**になりました。
その他の握手会等のチケットは無制限発券です。

チケット発券方法
商品の発売日の10時から発券です。
引き取り順に先着順でお配り致します。

インストアイベント開催スペース
90名様集客の広い店内で開催致します。
イスに座ってゆっくりお楽しみ下さいませ。

通信販売のお客様
事前に商品をご注文下さい
チケットの確保は発売日の10
電話受付を開始しま

教えて!! バンギャルちゃん事情

直撃!! お客様にインタビューしちゃいます (^o^)/

お名前	今日予約した商品
みなみちゃん	ゴールデンボンバー『女々しくて／眠たくて』
最近ワクワクした出来事…	リトルハーツ付近おすすめスポット
ユナイトの LIVE	FORUS 向かい ル・カフェ・ドトール
おすすめバンド!!	
ユナイト・ゴールデンボンバー・V-last	

みなみちゃん、ゆきちゃん
あゆちゃん、くるちゃん

ありがとうございました♪来月号はあなたかもー(^o^)

アクセス方法■JR仙台駅より徒歩15分■地下鉄広瀬通駅西4出口より徒歩1分

little HEARTS.携
でもインストア
情報やSTAFF
ご覧頂けま

little HEARTS.ON LINE STORE!!

インストアイベン
参加チケット。
特典もお付け致し

little HEARTS. 通信販売受付中

little HEARTS. の HP からご注文下さい。
little HEARTS.：http://littlehearts.jp/
通信販売ページ：http://www.littlehearts-shop.jp/

★ご注文方法★ 当サイトへの会員登録（無料）後、すぐにご注文いただけます。

★各お支払方法の選択★
①代金引換
商品到着時に商品と引換
②現金書留
お支払確認後、商品発送

★お支払方法及び商品発送料★
①代金引換：¥700
送料+代引手数料(¥300)
②現金書留：¥400
送料全国一律

★携帯電話からのご注文★
・お名前・住所・電話番号・ご希望
・お支払い方法・ご希望配達時間
をご記入の上、info@littleheart
までお問い合わせ下さい。

杂志迷 zazhimi.com

蝴蝶网
hudie.com
zazhimi.com

zazhimi.com
蝴蝶风
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

9.4(sun)
Zepp Fukuoka
OPEN 16:00 / START 17:00
info. キョードー西日本　092-714-0159

9.9(fri)
Zepp Nagoya
OPEN 17:30 / START 18:30
info. サンデーフォークプロモーション　052-320-9100

9.10(sat)
Zepp Osaka
OPEN 16:00 / START 17:00
info. キョードーインフォメーション　06-7732-8888

9.17(sat)
Zepp Sapporo
OPEN 16:00 / START 17:00
info. WESS　011-614-9999

9.19(mon)
Zepp Sendai
OPEN 16:00 / START 17:00
info. キョードー東北　022-217-7788

10.1(sat)
Zepp Tokyo
OPEN 16:00 / START 17:00
info. ディスクガレージ　03-5436-9600

10.2(sun)
Zepp Tokyo
OPEN 16:00 / START 17:00
info. ディスクガレージ　03-5436-9600

【チケット料金】1F スタンディング ¥5,500.-(tax in) ドリンク代別 2F 指定席 ¥5,500.-(tax in) ドリンク代別【チケット一般発売日】2011 年 8 月 6 日（土）

ジェムケリー CM ソング
New Single SLEEPER 2011.9.7(wed) Release

【type A】CD+DVD ¥1,890(tax in) YICQ-10084/B
‹CD› 1.SLEEPER 2.Star Spangled Breaker
‹DVD› SLEEPER Video Clip

【type B】CD+DVD ¥1,890(tax in) YICQ-10085/B
‹CD› 1.SLEEPER 2.Star Spangled Breaker
‹DVD› Star Spangled Breaker Video Clip

【type C】CD only ¥1,260(tax in) YICQ-10086
‹CD› 1.SLEEPER 2.Star Spangled Breaker 3. アイリス

Nightmare Official website [http://www.nightmare-web.com/]　Nightmare Official mobilesite [http://m.nightmare-web.com/]

zazhimi.com

Printed in Japan
雑誌04537-10
特別定価980円
本体933円
株式会社 プロスト
凸版印刷株式会社
4910045371019
00933